



NetScaler MPX

Machine translated content

Disclaimer

このコンテンツの正式なバージョンは英語で提供されています。Cloud Software Group ドキュメントのコンテンツの一部は、お客様の利便性のみを目的として機械翻訳されています。Cloud Software Group は機械翻訳されたコンテンツを管理していないため、誤り、不正確な情報、不適切な用語が含まれる場合があります。英語の原文から他言語への翻訳について、精度、信頼性、適合性、正確性、またはお使用の Cloud Software Group 製品またはサービスと機械翻訳されたコンテンツとの整合性に関する保証、該当するライセンス契約書またはサービス利用規約、あるいは Cloud Software Group とのその他すべての契約に基づき提供される保証、および製品またはサービスのドキュメントとの一致に関する保証は、明示的か黙示的かを問わず、かかるドキュメントの機械翻訳された範囲には適用されないものとします。機械翻訳されたコンテンツの使用に起因する損害または問題について、Cloud Software Group は責任を負わないものとします。

Contents

一般的なハードウェアコンポーネント	4
データシート	23
NetScaler MPX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス	23
ハードウェアプラットフォーム	25
NetScaler MPX 5500	25
NetScaler MPX 5550 および MPX 5650	27
NetScaler MPX 5900	28
NetScaler MPX 7500 および MPX 9500	30
NetScaler MPX 8005、MPX 8015、MPX 8200、MPX 8400、MPX 8600、MPX 8800	32
NetScaler MPX 8900	35
NetScaler MPX 8900 FIPS 認定アプライアンス	37
NetScaler MPX 9100	40
NetScaler MPX 9100 FIPS	42
NetScaler MPX 9700、MPX 10500、MPX 12500、MPX 15500	44
NetScaler MPX 11500、MPX 13500、MPX 14500、MPX 16500、MPX 18500、MPX 20500	47
NetScaler MPX 11500	49
NetScaler MPX 14000	51
NetScaler MPX 14000-40C	53
NetScaler MPX 14000-40G	55
NetScaler MPX 14000-40S	57
NetScaler MPX 14000 FIPS	59
NetScaler MPX 15000	61
NetScaler MPX 15000-50G	63

NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンス	66
NetScaler MPX 16000	69
NetScaler MPX 17500、MPX 19500、および MPX 21500	72
NetScaler MPX 17550、MPX 19550、MPX 20550、MPX 21550	74
NetScaler MPX 22000	76
NetScaler MPX 24100	79
NetScaler MPX 25000A	81
NetScaler MPX 25100T	83
NetScaler MPX 25000TA	85
NetScaler MPX 25000-40G	87
NetScaler MPX 26000	89
NetScaler MPX 26000-50S	91
NetScaler MPX 26000-100G	93
NetScaler T1010	96
NetScaler T1100	97
NetScaler T1120	99
NetScaler T1200	101
NetScaler T1300	102
NetScaler T1310	104
フィールド交換可能ユニット	106
安全性、注意事項、警告、その他の情報	123
台湾 BSMI RoHS ステートメント	128
FCC コンプライアンスステートメント	130
インストールの準備	131

ハードウェアをインストールします	133
初期構成	142
NetScaler MPX アプライアンスの管理ポートをライトアウト	155
IPMI ツールを使用して LOM パスワードの長さを設定します	156
LOM ポートのネットワーク設定を構成する	158
LOM GUI に証明書とキーをインストールする	162
アプライアンスの MAC アドレス、シリアル番号、ホストプロパティの取得	168
LOM ポートを使用して電源制御操作を実行する	169
BMC 構成を工場出荷時のデフォルトに戻す	171
BIOS POST コードを使用してエラーを検出する	171
NetScaler MPX アプライアンス上の LOM ファームウェアのアップグレード	172
LOM GUI で RADIUS 認証を有効にする	173
NetScaler ADC アプライアンスでの RACP トポロジ	175
LOM での Active Directory 設定	176
BMC ホスト名を変更する	179
MPX 16000 プラットフォームのハードウェアヘルス属性	181
MPX 9100 プラットフォームのハードウェアヘルス属性	185
ハードウェアのヘルス属性	190
NetScaler MPX アプライアンスでの Fortville NIC ファームウェアのアップグレード	202
NetScaler からデータを消去する	205
NetScaler MPX アプライアンスのファイルシステム整合性を確認する方法	209
既存の NetScaler ADC アプライアンスの構成を別の NetScaler ADC アプライアンスに移行する	212
トラブルシューティング	215
ハードウェアに関するよくある質問	217

一般的なハードウェアコンポーネント

January 25, 2024

各プラットフォームには、フロントパネルと背面パネルのハードウェアコンポーネントがあります。ほとんどのアプライアンスのフロントパネルには、LCD ディスプレイと RS232 シリアルコンソールポートがあります。ポートの数、タイプ、および位置は、銅線イーサネット、銅線および光ファイバ 1G SFP、銅線 10G Base-T、10G SFP+、40G QSFP+、50G QSFP28、および 100G QSFP28 のトランシーバのハードウェアプラットフォームによって異なります。背面パネルからは、現場で交換可能なユニット（電源装置とソリッドステートドライブ）にアクセスできます。

LCD ディスプレイと LED ステータスインジケータ

注:

このセクションは MPX 9100 および MPX 16000 には適用されません。

各アプライアンスの前面にある LCD ディスプレイには、アプライアンスの現在の動作ステータスに関するメッセージが表示されます。これらのメッセージは、アプライアンスが起動して正常に動作しているかどうかを伝えます。アプライアンスが正常に動作していない場合は、LCD にトラブルシューティングメッセージが表示されます。

LCD には、ライブ統計、診断情報、およびアクティブなアラートが表示されます。LCD のサイズにより、表示は 16 文字の 2 行に制限されています。その結果、表示された情報は一連の画面を通して流れます。各画面には、特定の機能に関する情報が表示されます。

LCD には LED バックライトがあります。通常、バックライトは着実に光ります。アクティブなアラートがある場合、そのアラートは急速に点滅します。アラート情報が LCD 画面サイズを超えると、各表示画面の先頭でバックライトが点滅します。アプライアンスのシャットダウン後、バックライトは 1 分間点灯したままになり、その後自動的に消灯します。

システムステータス LED

MPX 22000 および MPX 24000 アプライアンスの背面パネルでは、システムステータス LED がアプライアンスの全体的なステータスを示します。次の表に、システムステータス LED のインジケータを示します。

注: システムステータス LED は、一部の NetScaler ADC アプライアンスでのみ使用できます。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	電源無し
緑	アプライアンスに電力が供給されています。
赤	アプライアンスがエラーを検出しました。

ポート LED は、リンクが確立され、トラフィックがポートを通過しているかどうかを示します。次の表に、各ポートの LED インジケータを示します。ポートタイプごとに 2 つの LED インジケータがあります。

注: このセクションはすべてのアプライアンスに適用されます。

LED port-status indicators

ポートタイプ	LED カラー	LED が示す状態
50Gbps	オフ	リンクが確立されていません。
	オレンジで点滅	リンクに問題があることを示します
	緑に点灯	アクティブなトラフィックがない有効なリンクを示します。
	緑で点滅	アクティブなトラフィックを持つ有効なリンクを示します。

ポートタイプ	LED	LED	LED カラー	LED が示す状態
10 Gbps	上	速度	オフ	接続なし。
			青または緑に点灯	10 ギガビット/秒のトラフィックレート。
	下		リンク/アクティビティ	オフ
			緑に点灯	リンクは確立されませんが、ポートを通過するトラフィックはありません。
1G SFP (1 Gbps)	左	リンク/アクティビティ	オフ	リンクなし。
			緑に点灯	
	右		緑で点滅	トラフィックはポートを通過しています。
		速度	黄	1 ギガビット/秒のトラフィックレート。

ポートタイプ	LED	LED	LED カラー	LED が示す状態
イーサネット (RJ45)	左 (MPX 5900 プラ ットフォームでは 右)	速度	オフ	接続なし、または 10 メガビット/秒 (Mbps) のトラフィ ックレート。 トラフィックの速度 は 100Mbps。
		右 (MPX 5900 プラ ットフォームでは 左)	リンク/アクティビ ティ	緑 黄 オフ
マネジメント (RJ45)	左	速度	オフ	緑で点滅 接続なし、または 10 メガビット/秒 (Mbps) のトラフィ ックレート。 緑 黄
		右	リンク/アクティビ ティ	オフ 黄色に点灯

各電源装置の 2 色の LED インジケータは、電源装置の状態を示します。

3Y 電源装置

3Y 電源は、次のプラットフォームで使用されています。

- 450W AC/DC
 - MPX 8005/8010/8015
 - MPX 8200/8400/8600/8800
- 850 W AC

- MPX 16000
- 1000W AC/DC
 - MPX 14000
 - MPX 25000
 - T1300
 - MPX 15000
 - MPX 15000-50G
 - MPX 26000
 - MPX 26000-100G
- 1200W AC/DC
 - MPX 26000-50S

3Y 電源装置の **LED** 動作

電源装置	450W AC	450W DC	850 W AC	1000W AC	1000W DC	1200W AC
LED の動作	YM-2451CAR	YM-2451DBR	YSEF0850EM	YM-2102NA01R	YM-2102JA01R	YM-2122CA01R
電源装置に電力が供給されない	オフ	オフ	オフ	オフ	オフ	オフ
この電源装置に電力がありません	赤に点滅	赤に点滅	琥珀色	赤に点滅	赤に点滅	赤に点滅
電源はスタンバイモードです	緑に点滅	青で点滅	緑に点滅	緑に点滅	緑に点滅	緑に点滅
電源は機能している	緑	青	緑	緑	緑	緑
電源装置の障害	赤	赤	琥珀色	赤	赤	赤
警告 (OVP/u-VP/OCP/OTP/ファン)	-	-	オレンジに点滅	-	赤/緑に点滅	-

注

次のレガシープラットフォームは 300W 3Y 電源を使用します: 5850/5750/5650/5550/5500/5600。

ACBEL 電源装置

ACBel 電源は以下のプラットフォームで使用されます。電源のモデル番号はプラットフォームごとに追加されま
す。

- 450W AC
 - MPX 5900/8900 (R1BA2451B)
- 450W DC
 - MPX 5900/8900 (R1BD2451A)
- 450W AC
 - 9100 (R1BA2451D)

MPX 9100 ケーブル 450 W 電源 LED の動作

電源装置	450 ワット AC (100–240 VAC)
LED の動作	
電源装置に電力が供給されない	オフ
この電源装置に電力がありません	オレンジ
電源はスタンバイモードです	緑に点滅
電源は機能している	緑
電源装置の障害	オレンジ
電源障害警告 (OVP/UVP/OCP/OTP/ファン)	オレンジ色に点滅

MPX 5900/8900 ケーブル 450 W 電源 LED の動作

電源装置	450 ワット AC (100–240 VAC)	450 W DC (-40 VDC から -72 VDC)
LED の動作		
電源装置に電力が供給されない	オフ	オフ

電源装置	450 ワット AC (100–240 VAC)	450 W DC (-40 VDC から -72 VDC)
この電源装置に電力がありません	赤	琥珀色
電源はスタンバイモードです	緑に点滅	青で点滅
電源は機能している	緑	青
電源装置の障害	赤	琥珀色
電源障害警告 (OVP/UVP/OCP/OTP/ファン)	赤/緑に点滅	オレンジに点滅

注

AC 電源装置は緑の LED を使用し、DC 電源装置では青色の LED を使用します。

ジッピー電源

Zippy 電源は、次のプラットフォームで使用されています。

- 960W AC/DC
 - MPX 11515/11520/11530/11540/11542
 - MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500

ジッピー **960 W** 電源装置の **LED** 動作

電源装置	960W AC	960W DC
LED の動作	G1W2-5960V3V Rev.5	DG1W-3960 V
電源装置に電力が供給されない	オフ	オフ
この電源装置に電力がありません	連続ビープ音	連続ビープ音
電源はスタンバイモードです	-	-
電源は機能している (電源オン)	緑	緑
電源装置の障害	-	-
警告 (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)	-	-

注

電源ユニットオン-緑

電源ユニットオフ-色なし

モジュール LED には、オン、オフ (OFF) 以外の機能はありません。ケーブルまたはモジュールを取り外した場合、ブープ音が連続する。

フレックス電源

Flex 電源装置は、次のプラットフォームで使用されます。

- 750W AC/DC
 - MPX 24000
 - MPX 22000
 - T1200

フレックス (750 W) 電源装置の LED 動作

電源装置	750W AC	750W 直流
LED の動作	F750E-XX A00	
電源装置に電力が供給されない	オフ	オフ
この電源装置に電力がありません	LED が消灯する	LED が消灯する
電源はスタンバイモードです	-	-
電源は機能している (電源オン)	緑	緑
電源装置の障害	-	-
警告 (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)	-	-

注

電源ユニットオン-緑

電源ユニットオフ-色なし

モジュール LED には、オン、オフ (OFF) 以外の機能はありません。ケーブルまたはモジュールを取り外した場合、ブープ音が連続する。

ポート

ポートは、アプライアンスを外部デバイスに接続するために使用されます。NetScaler ADC アプライアンスは、次のポートをサポートします。

- RS232 シリアル・ポート
- 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート
- 1 GB の銅線および光ファイバ SFP ポート
- 10 GB ファイバ SFP+
- 25 GB SFP 28
- 40G QSFP+
- 50 GB QSFP28
- 100 GB QSFP28

すべての NetScaler ADC アプライアンスには、これらのポートの一部またはすべての組み合わせがあります。カードは、プラットフォームによって縦または横になります。カードあたりのポート数はプラットフォームによって異なります。耐障害性を高めるには、独立したカードにリンク集約グループ (LAG) を作成します。通常、次のサンプル図に示すように、カードは 2U アプライアンスでは縦型、1U アプライアンスでは水平型です。



LAG の詳細については、「[リンクアグリゲーションの設定](#)」を参照してください。アプライアンスで使用可能なポートの種類と数の詳細については、そのプラットフォームについて説明しているセクションを参照してください。

注:

NetScaler ADC アプライアンスは、受信側スケーリング (RSS) 機能を使用して、トラフィックを最適に分散して処理します。RSS の実装は、5 タプル (TCP/IP プロトコル、送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、送信元ポート、宛先ポート) に基づいて、キュー間でパケットを分散する **Toeplitz** ハッシュに基づいています。

RS232 シリアルポート

RS232 シリアル・コンソール・ポートは、アプライアンスとコンピュータ間の接続を提供し、アプライアンスに直接アクセスして初期構成とトラブルシューティングを行うことができます。

すべてのハードウェアプラットフォームには、コンピュータとアプライアンスの接続に使用する適切なシリアル・ケーブルが付属しています。コンピュータをアプライアンスに接続する手順については、「[ハードウェアの取り付け](#)」を参照してください。

銅線イーサネットポート

アプライアンスの多くのモデルにインストールされている銅線イーサネットポートは、標準の RJ45 ポートです。

アプライアンスにインストールできる銅線イーサネットポートには、次の 2 種類があります。

- 10/100BASE-T ポート

10/100BASE-T ポートの最大伝送速度は 100 メガビット/秒 (Mbps) です。

ほとんどのプラットフォームには、少なくとも 1 つの 10/100BASE-T ポートがあります。

- 10/100/1000BASE-T ポート

10/100/1000BASE-T ポートの最大伝送速度は 1 ギガビット/秒で、他のタイプの銅線イーサネットポートの 10 倍高速です。

ほとんどのプラットフォームには、少なくとも 1 つの 10/100/1000Base-T ポートがあります。

これらのポートのいずれかをネットワークに接続するには、標準イーサネットケーブルの一方の端をポートに差し込みます。もう一方の端を適切なネットワークコネクタに接続します。

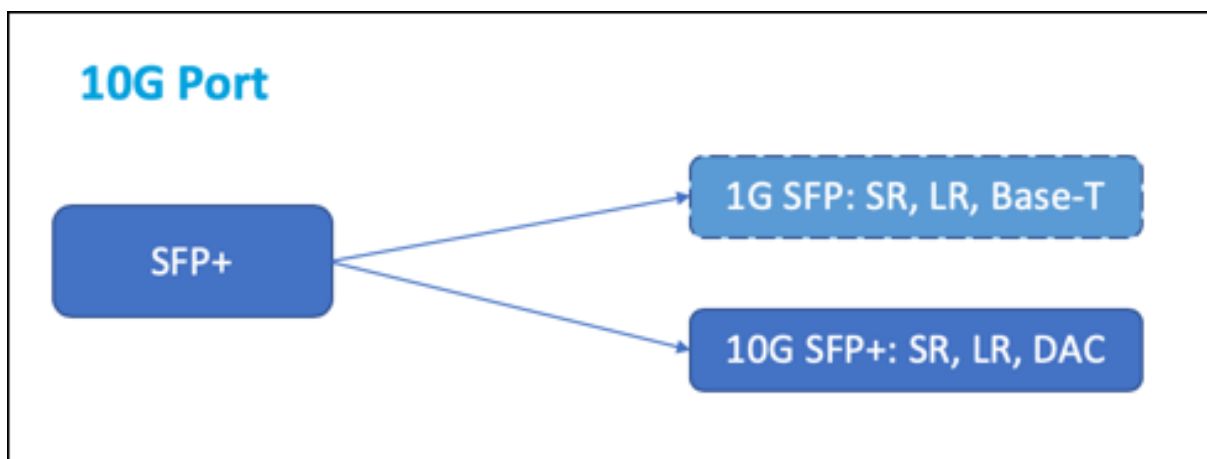
管理ポート

管理ポートは、標準の銅線イーサネットポート (RJ45) です。これらは、システム管理機能のためにアプライアンスへの直接アクセスに使用されます。

1G SFP および 10G SFP+ ポート

1G SFP ポートは、1 Gbps の速度で動作できます。銅線イーサネットポートとして動作するための銅線 1G SFP トランシーバ、または光ファイバポートとして動作するためのファイバ 1G SFP トランシーバのいずれかを受け入れます。

10G SFP+ モジュールはデュアルスピードに対応しており、モデルの接続先ピアスイッチに応じて、1 Gbps と 10 Gbps の両方をサポートします。ポートに接続するには、光ファイバケーブルが必要です。光ファイバケーブルのもう一方の端が 1G SFP ポートに接続されている場合、10G SFP+ ポートは 1 G 速度に自動的にネゴシエートします。



ポートの互換性:

一部のアプライアンスでは、10G スロットは銅線 1G トランシーバをサポートしており、10 Gbps スロットでは最大 1 Gbps で動作できます。

注:

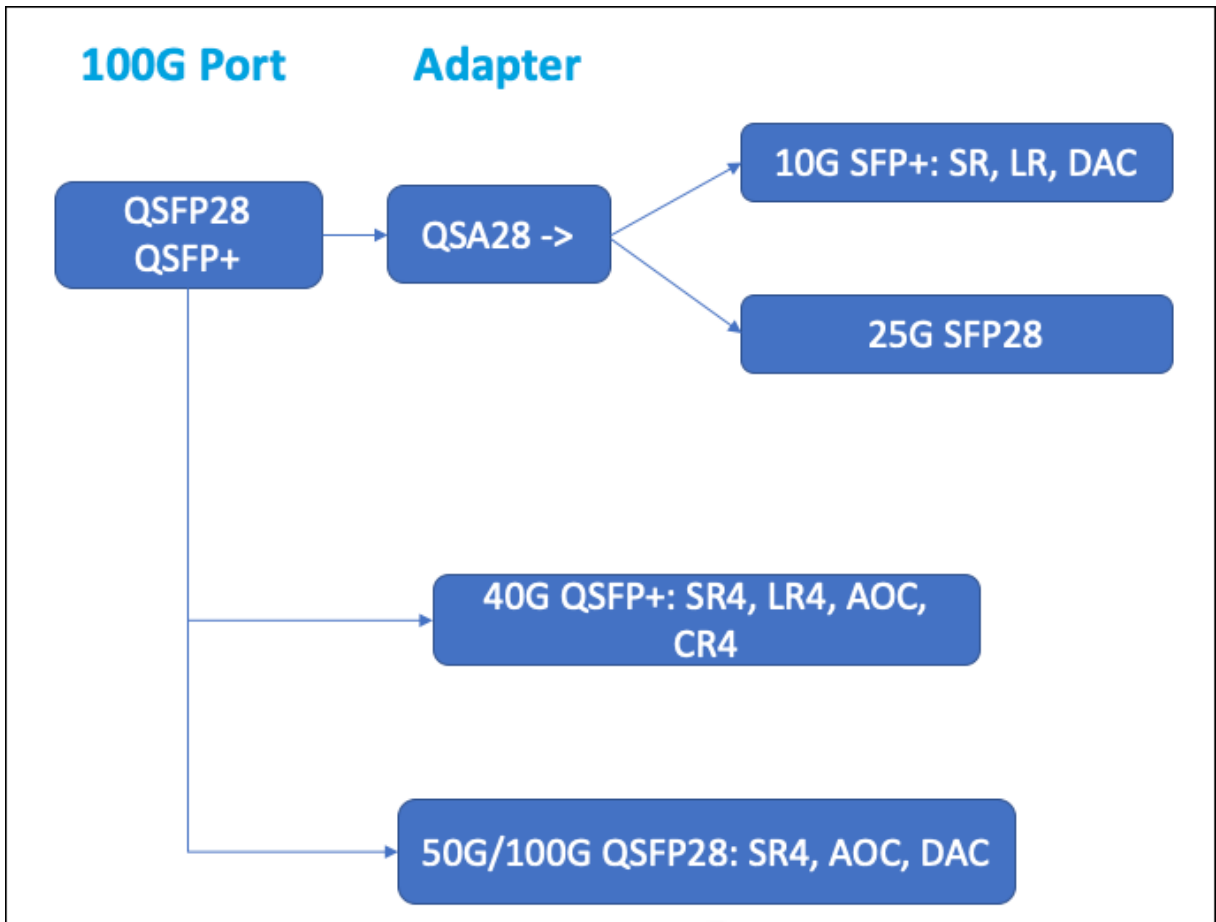
- 一部のプラットフォームには、銅線トランシーバをサポートしない 10G スロットがあります。サポートの詳細については、アカウント担当者にお問い合わせください。
- ファイバ 1G トランシーバを 10G スロットに挿入することはできません。
- 10G トランシーバを 1G スロットに挿入することはできません。

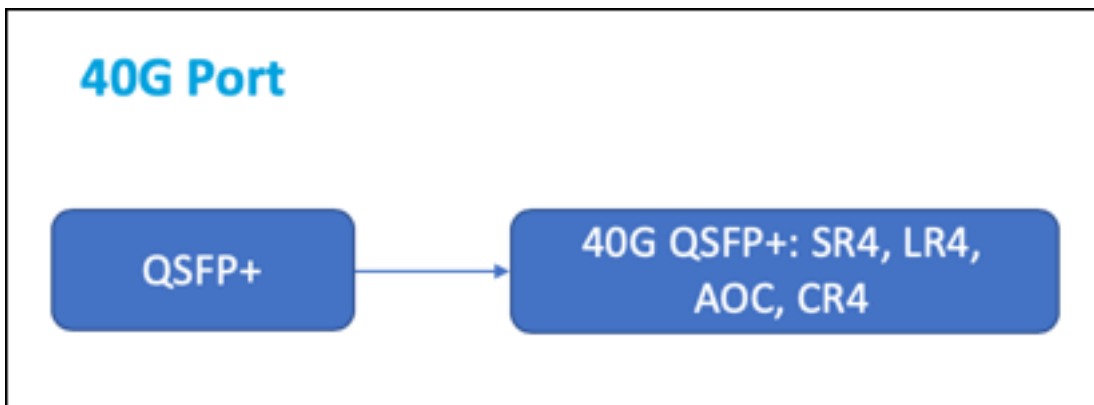
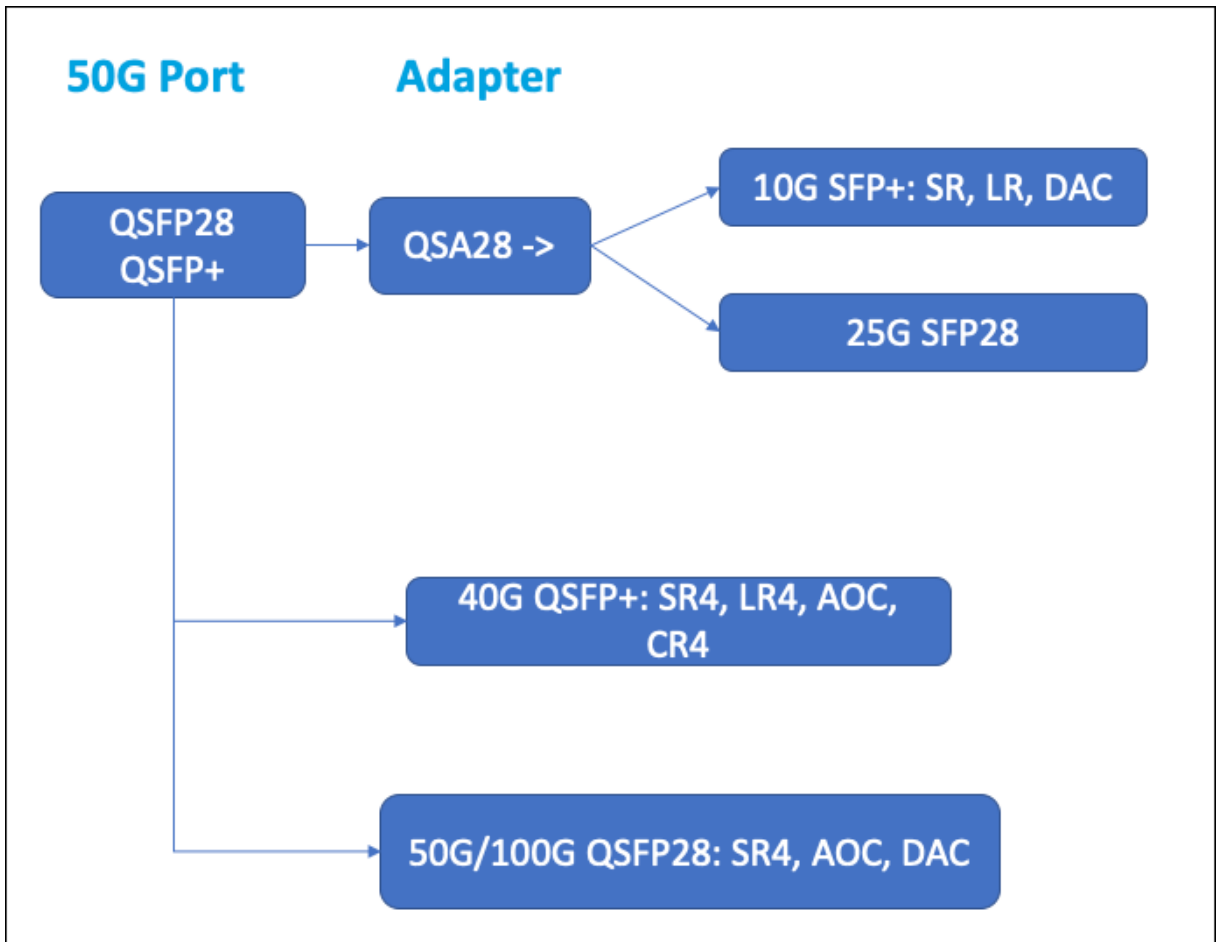
25G、40G、50G、および 100G ポート

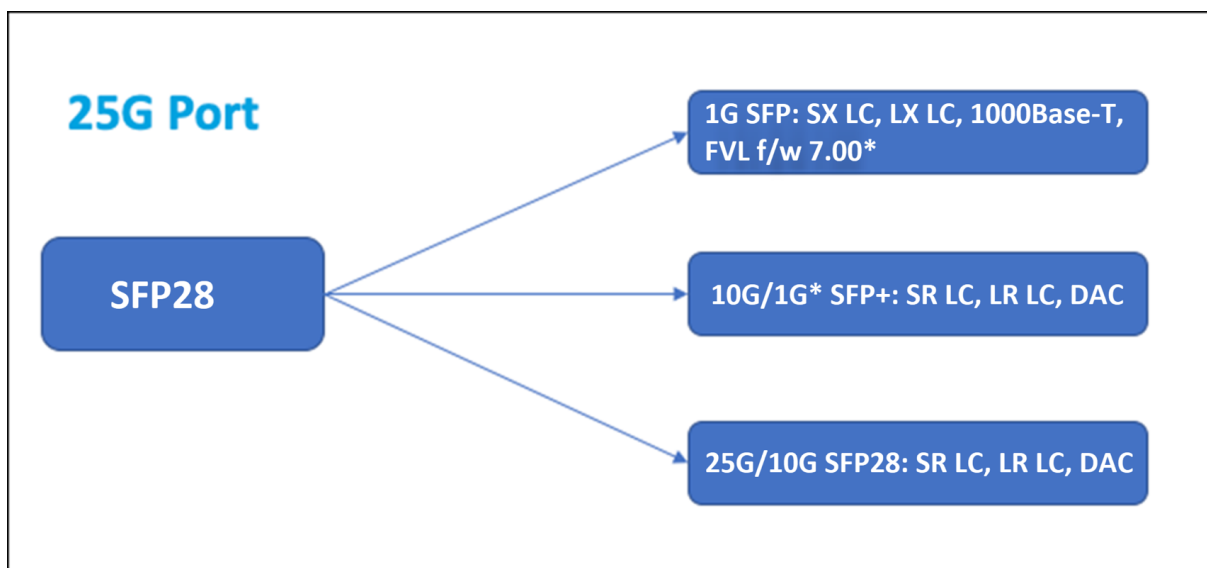
100G ポートは、10G、25G、40G、50G、100G の 5 速度をサポートできる。100G ポートでは 1G 速度はサポートされない。50G ポートと 100G ポートは同じトランシーバを使用する。40G QSFP+ は 40Gbps までの速度で動作できる高速ポートである。ポートではなく、アプライアンスが速度を決定します。

QSFP28 インターフェイスで直接使用できるのは 50G/100G (QSFP28) トランシーバだけです。10G (SFP+) および 25G (SFP28) トランシーバを使用するには、QSFP28 インターフェイスで QSA28 アダプタを使用します。ピアが 40G の場合は、50G/100G ポートに 40G QSFP+ トランシーバを使用してください。

次の図は、トランシーバの互換性を示しています。







1G プラグ可能なメディア

1G トランシーバについては、次の情報が提供されます。

- 摘要: 部品の価格表の摘要。
- 送信波長: 公称伝送波長。
- ケーブル/ファイバーの種類: ファイバー特性は達成可能な最大伝送距離に影響します。マルチモードファイバ (MMF) で 10G では、さまざまな分散コンポーネントが支配的になります。詳しくは、<http://www.thefoa.org/tech/ref/basic/fiber.html>を参照してください。
- 標準リーチ: 最大送信距離。
- 適用可能なプラットフォーム: 一部のシャーシは、異なるメディアオプションで使用できます。該当するデータシートを使用して、特定のシャーシタイプがメディアをサポートしていることを確認します。

銅 1G SFP 距離仕様

説明: NetScaler 1G SFP イーサネット銅線 (100 m) -4 パック

トランスミッタ波長 (nm): 該当なし

ケーブルタイプ: カテゴリ 5 (猫 5) 銅ケーブル。

典型的なリーチ (m): 100 m

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5900/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 14000

- MPX 22000
- MPX 24000

短いリーチファイバ **1G SFP** 距離仕様

説明: NetScaler 1G SFP イーサネット SX (300 m) -4 パック

トランスミッター波長 **(nm)**:850 nm (公称値)

ファイバーの種類: 50/125um MMF、2000MHZ-km (OM3)

典型的なリーチ (メートル): 550m

ファイバーの種類: 50/125um MMF、500MHz-km (OM2)

典型的なリーチ **(m)**: 550m

ファイバーの種類: 50/125um MMF、400mHZ-km

典型的なリーチ **(m)**: 550m

ファイバーの種類: 62.5/125um MMF、200mHZ-km (OM1)

典型的なリーチ **(m)**: 300m

ファイバーの種類: 62.5/125um MMF、160MHZ-km

典型的なリーチ **(m)**: 300m

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5900/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 22000
- MPX 24000

短いリーチファイバ **1G SFP** 距離仕様

説明: NetScaler 1G SFP イーサネット短距離 (300 m) -シングル

トランスミッター波長 **(nm)**:850 nm (公称値)

ファイバーの種類: 50/125um MMF、2000MHZ-km (OM3)

典型的なリーチ (メートル): 550m

ファイバーの種類: 50/125um MMF、500MHz-km (OM2)

典型的なリーチ **(m)**: 550m

ファイバーの種類: 50/125um MMF、400mHZ-km

典型的なリーチ **(m)**: 550m

ファイバーの種類: 62.5/125um MMF、200mHZ-km (OM1)

典型的なリーチ **(m)**: 275 m

ファイバーの種類: 62.5/125um MMF、160MHZ-km

典型的なリーチ **(m)**: 220m

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5900/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 22000
- MPX 24000

長いリーチファイバ **1G SFP** 距離仕様

説明: NetScaler 1G SFP イーサネット LX-シングル

トランスミッタ波長 **(nm)**:1310 nm (公称値)

ファイバータイプ: 9/125um SMF

典型的なリーチ **(m)**: 10 km

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5900/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 22000
- MPX 24000

長いリーチファイバ **1G SFP** 距離仕様

説明: NetScaler 1G SFP イーサネットロングレンジ (10 km) -シングル

トランスミッタ波長 **(nm)**:1310 nm (公称値)

ファイバータイプ: 9/125um SMF

典型的なリーチ **(m)**: 10 km

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5900/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 9700/10500/12500/15500
- MPX 22000
- MPX 24000

10 GE プラグ可能なメディア

10G トランシーバについては、次の情報が提供されます。

- 摘要: 部品の価格表の摘要。
- 送信波長: 公称伝送波長。
- ケーブル/ファイバーの種類: ファイバー特性は達成可能な最大伝送距離に影響します。マルチモードファイバ (MMF) で 10G では、さまざまな分散成分が支配的になります。詳しくは、<http://www.thefoa.org/tech/ref/basic/fiber.html>を参照してください。
- 標準リーチ: 最大送信距離。
- 適用可能なプラットフォーム: 一部のシャーシは、異なるメディアオプションで使用できます。該当するデータシートを使用して、特定のシャーシタイプがメディアをサポートしていることを確認します。

ショートリーチファイバ **10G SFP+** 距離仕様

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5900/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800/8900
- MPX 9100
- MPX 22000
- MPX 24000
- MPX 25000T
- MPX 25100 40G、MPX 25160 40G
- MPX 14000
- MPX 14000-40G
- MPX 14000-40S
- MPX 14000 FIPS
- MPX 15000
- MPX 15000-50G (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 16000 (100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 26000 (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 26000-50S (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 26000-100G (100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)

説明	トランスミッタ波長 (nm)	ファイバーの種類	典型的なリーチ (m)
NetScaler 10G SFP+、イーサネット短距離 (300 m) -シングル	850 nm (公称)	50/125um MMF、2000mHz-km (OM3)	300 m

説明	トランスミッタ波長 (nm)	ファイバーの種類	典型的なリーチ (m)
		50/125um MMF、 500MHZ-km (OM2)	82 m
		50/125um MMF、 400MHZ-km	66 m
		62.5/125um MMF、 200mHZ-km (OM1)	33 m
		62.5/125um MMF、 160MHZ-km	26 m

長リーチファイバ **10G SFP+** 距離仕様

説明: NetScaler 10G SFP+ イーサネットロングレンジ (10 km) -シングル

トランスミッタ波長 (**nm**):1310 nm (公称値)

ファイバータイプ: 9/125um SMF

典型的なリーチ (**m**): 10 km

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5900/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800/8900
- MPX 9100
- MPX 22000
- MPX 24000
- MPX 25000T
- MPX 25000-40G
- MPX 14000
- MPX 14000-40G
- MPX 14000-40S
- MPX 14000 FIPS
- MPX 15000
- MPX 15000-50G (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 16000 (100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 26000 (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 26000-50S (50G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)
- MPX 26000-100G (100G ポートを 10G トランシーバに接続するにはアダプタが必要)

Citrix 直接接続 (DAC) 銅線 TwinAX 10G SFP+ パッシブケーブルの仕様

説明: NetScaler 1 m DAC SFP+ ケーブルで最大 1m の距離まで対応

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5901/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 8905/8910/8920/8930
- MPX 9100
- MPX 16000
- MPX 22000
- MPX 24000
- MPX 14000
- MPX 14000-40G
- MPX 14000-40S
- MPX 14000 FIPS
- MPX 25000TA
- MPX 25000A
- MPX 25000T
- MPX 25000-40G

説明: NetScaler 3 m DAC SFP+ ケーブル (最大 3 m 距離)

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 5901/5905/5910
- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 8905/8910/8920/8930
- MPX 9100
- MPX 16000
- MPX 22000
- MPX 24000
- MPX 14000
- MPX 14000-40G
- MPX 14000-40S
- MPX 14000 FIPS
- MPX 25000TA
- MPX 25000A
- MPX 25000T
- MPX 25000-40G

説明: NetScaler 5 m DAC SFP+ ケーブル (最大 5 m 距離)

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800
- MPX 9100
- MPX 14000
- MPX 14000-40G
- MPX 14000-40S
- MPX 14000 FIPS
- MPX 16000
- MPX 17500/19500/21500
- MPX 22000
- MPX 24000
- MPX 25000TA
- MPX 25000A
- MPX 25000T
- MPX 25000-40G

Cisco 40G QSFP+ ブレークアウトケーブルの仕様

Cisco 部品番号: L45593-D178-C30

説明: 40GBASE-CR4 QSFP+ 4 10GBASE-CU SFP+ 直接接続ブレークアウトケーブルアセンブリ、3メートルパッチ

適用可能なプラットフォーム:

- MPX 14000-40G
- MPX 14000-40C
- MPX 14000-40S
- MPX 14000 FIPS
- MPX 16000
- MPX 22000
- MPX 24000
- MPX 25000T
- MPX 25000-40G
- MPX 25000TA
- MPX 25000A

注:

- ピアスイッチは 40G である必要があります。NetScaler ADC アプライアンスの 4x10G ポートを接続します。逆はサポートされていません。つまり、NetScaler ADC アプライアンスでは 40G、ピアスイッチでは 4x10G はサポートされていません。

- これらのケーブルを入手するには、Cisco のパートナー担当者にお問い合わせください。

データシート

January 25, 2024

データシートは www.netscaler.com で入手できます。[プラットフォーム]>[フォームファクター]>[ハードウェア]に移動します。

NetScaler MPX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス

January 25, 2024

次の表に、すべての NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームとこれらのプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの互換性マトリックスを示します。ベースプラットフォームが一覧表示されます。各プラットフォームのモデルについては、[データシートをご覧ください](#)。

注: セキュリティ修正プログラム (CVE-2019-19781) を含むビルドの詳細については、<https://support.citrix.com/article/CTX267027>を参照してください。

重要: 各ハードウェアプラットフォームおよびソフトウェアリリースでサポートされる最初のビルドを次の表に示します。ビルド番号の後に「**only**」という単語がない限り、以降のビルドはすべてサポートされます。その場合、指定したビルドだけがそのプラットフォームでサポートされます。

ハードウェアプラットフォーム/ソフトウェアリリース	11.1	12.1	13.0	13.1	14.1
MPX 5500	11.1-47.14	12.1-48.13	13.0-36.27	13.1-4.x	X
メガピクセル数 5550	11.1-47.14	12.1-48.13	13.0-36.27	13.1-4.x	14.1-4.x
MPX 5900	11.1-56.15	12.1-48.13	13.0-36.27	13.1-4.x	14.1-4.x
MPX 7500	11.1-47.14	12.1-48.13	13.0-36.27	13.1-4.x	X
最大 8000	11.1-47.14	12.1-48.13	13.0-36.27	13.1-4.x	14.1-4.x
MPX 8900	11.1-56.15	12.1-48.13	13.0-36.27	13.1-4.x	14.1-4.x

ハードウェア

プラットフォーム

ソフトウェア

リリース 11.1 12.1 13.0 13.1 14.1

MPX 8900 FIPS X 12.1-55.X FIPS X 13.1-37.x FIPS X

認定証明書

#4043

MPX 9100 X X X 13.1-21.x 14.1-4.x

MPX 9100 FIPS X X X 13.1-37.x FIPS X

(認定取得中)

MPX 9700 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x X

MPX 11500 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x X

MPX 14000 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 14000-40C 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 14000-40G 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 14000-40S 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 14000 FIPS 11.1-51.21 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 15000-25G 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 15000-50G 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 15000-50G FIPS 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 15000-50G FIPS 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 15000-50G FIPS 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 15000-50G FIPS 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 15000-50G FIPS 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

FIPS 認定証明書

#4043

MPX 16000 X X X 13.1-37.x 14.1-4.x

MPX 22000 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 24100 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 25100-40G 11.1-47.14 12.1-48.13 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 26100 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 26100-50S 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

MPX 26100-50S 11.1-60.13 12.1-50.31 13.0-36.27 13.1-4.x 14.1-4.x

26100-50S

ハードウェア

プラットフォーム

ソフトウェア

リリース	11.1	12.1	13.0	13.1	14.1
MPX 26000-100G	11.1-56.15	12.1-50.31	13.0-36.27	13.1-4.x	14.1-4.x

ハードウェアプラットフォーム

January 25, 2024

さまざまな NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームは、さまざまな機能、通信ポート、および処理能力を提供します。すべての MPX プラットフォームにはマルチコアプロセッサが搭載されています。

NetScaler ハードウェアプラットフォームは、シングル 10 コアプロセッサ MPX 9100 から、大容量 MPX 2 個の 16 コアプロセッサ MPX 16000 まで多岐にわたります。さまざまな NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームは、同じタイプのコンポーネントを使用する点で似ていますが、モデルによってハードウェア機能が異なります。すべての NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームは、NetScaler ADC ソフトウェアをサポートしています。すべての NetScaler ADC アプライアンスには、前面から背面へのエアフローがあります。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細については、「[ハードウェアソフトウェアリリースマトリックス](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 5500

January 25, 2024

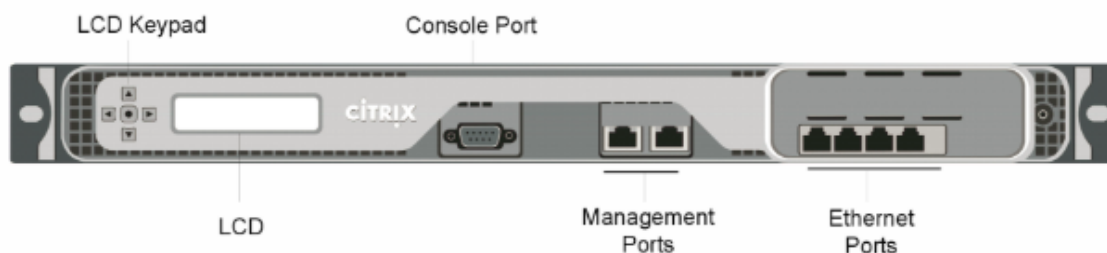
注:

このプラットフォームは寿命を迎えました。

NetScaler MPX 5500 は、1U アプライアンスで、1 つのデュアルコアプロセッサと 4 GB のメモリを備えています。

次の図は、MPX 5500 の前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 5500、フロントパネル



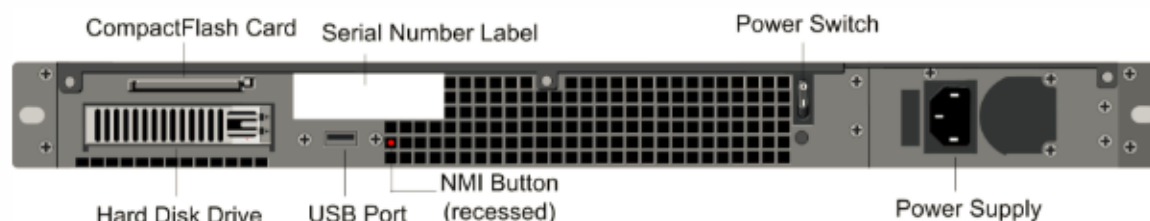
MPX 5500 には、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート。左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートを使用して、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続できます。
- 4 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート。左から右に 1/1、1/2、1/3、および 1/4 の番号が付けられます。

注: すべてのアプライアンスのネットワークポート番号は、スラッシュで区切られた 2 つの数字で構成されています。最初の番号は、ポートアダプタの-slot番号です。2 番目の数字はインターフェイスのポート番号です。アプライアンスのポートには、1 で始まる順に番号が付けられます。

次の図は、MPX 5500 の背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 5500、背面パネル



MPX 5500 の背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- NetScaler ADC ソフトウェアの格納に使用される 4 GB リムーバブルコンパクトフラッシュカード。
- 電源スイッチ。PSU を取り外すかのように、MPX 5500 の電源を切ります。スイッチを 5 秒間押して、電源を切ります。
- ユーザーデータを格納するために使用されるリムーバブルハードディスクドライブ (HDD)。2012 年 2 月より前に出荷されたアプライアンスは、ユーザーデータを HDD に保存します。2012 年 2 月以降に出荷されたアプライアンスでは、HDD にソリッドステートドライブが置き換えられます。どちらのタイプのドライブも同じ機能を持ち、同じソフトウェアリリースをサポートします。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

- NMI (マスク不可割り込み) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成します。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- 300 ワット、110~220 ボルトの定格電源装置。電源ファンは、電源装置の内部温度が特定の値に達したときにのみオンになるように設計されています。背面パネルのファンがオンになるのが見えません。あなたが見ることができるのは、回転モーターを保持するファンの固定部分です。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

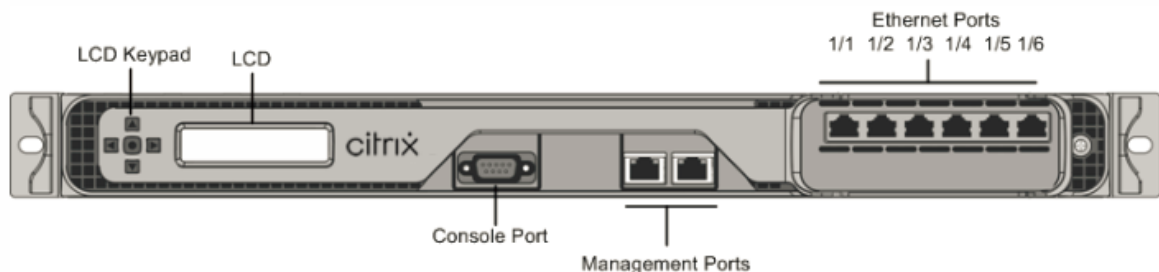
NetScaler MPX 5550 および MPX 5650

January 25, 2024

NetScaler ADC モデルの MPX 5550 および MPX 5650 は 1U アプライアンスです。各モデルには、クアッドコアプロセッサが 1 つと 8 GB のメモリが搭載されています。

次の図は、MPX 5550/5650 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 5550/5650、フロントパネル

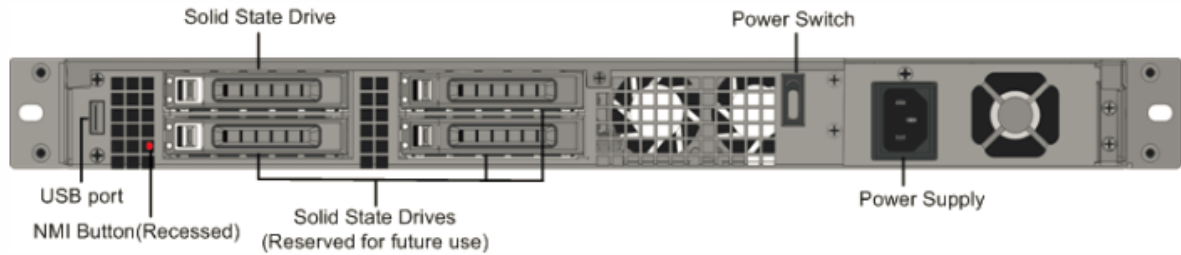


モデルに応じて、アプライアンスには次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。管理ポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 6 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート (1/1、1/2、1/3、1/4、1/5、および 1/6) を左から右に番号付けします。

次の図に、MPX 5550/5650 アプライアンスの背面パネルを示します。

図 2: NetScaler MPX 5550/5650 アプライアンス、バックパネル



MPX 5550/5650 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 160 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD)。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押し、電源を切ります。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請により、NetScaler ADC コアダンプを生成するために使用されます。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- 300 ワット、110~220 ボルトの単一電源。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 5900

January 25, 2024

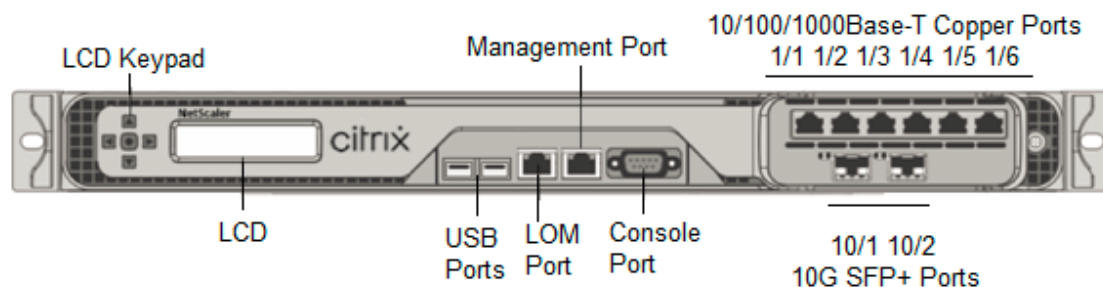
NetScaler MPX 5900 アプライアンスは、1U アプライアンスです。このプラットフォームは、シングル 8 コアプロセッサと 16 GB のメモリを備えています。アプライアンスには、合計 8 つのネットワークポートが用意されています。

- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート
- 2 つの 10G/1G SFP+ イーサネットポート

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細については、「[ハードウェアソフトウェアリリースマトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 5900 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 5900、フロントパネル

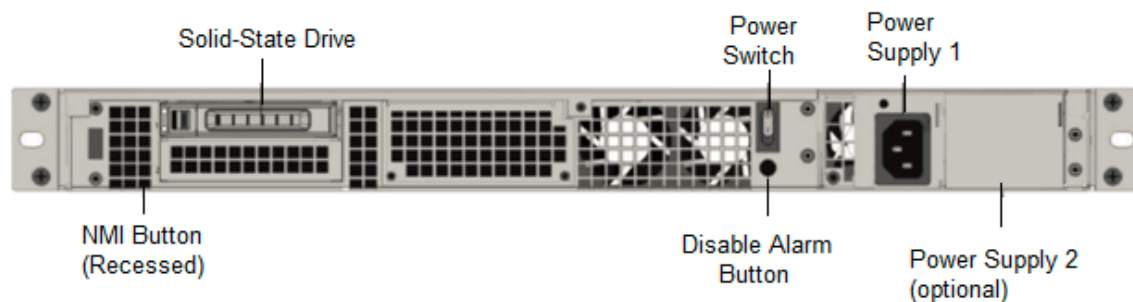


NetScaler MPX 5900 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート 1 個、番号が 0/1。このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート。左から右に 1/1 ~1/6 の番号が付けられています。
- 10 G/1G SFP+ イーサネットポート 2 個、左から右に 10/1 ~10/2 の番号が付けられています。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

次の図は、MPX 5900 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 5900、背面パネル



MPX 5900 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 240 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD)
 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押し、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。

- OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して強制的に電源を切ります。
- 1 つの電源装置、450 ワット、100 ~240 VAC（冗長性の第 2 の電源装置は、お客様がインストール可能なオプションです）。最大消費電力は 180-190 ワット以下で、標準的な消費電力は 150-160 ワットです。各電源装置には、次のように、そのステータスを示す LED があります。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。2 つの電源装置のいずれかが入力電力を失う（2 台目の電源装置がオプション）、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI（マスク不可）割り込み（NMI）ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しくは、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 7500 および MPX 9500

January 25, 2024

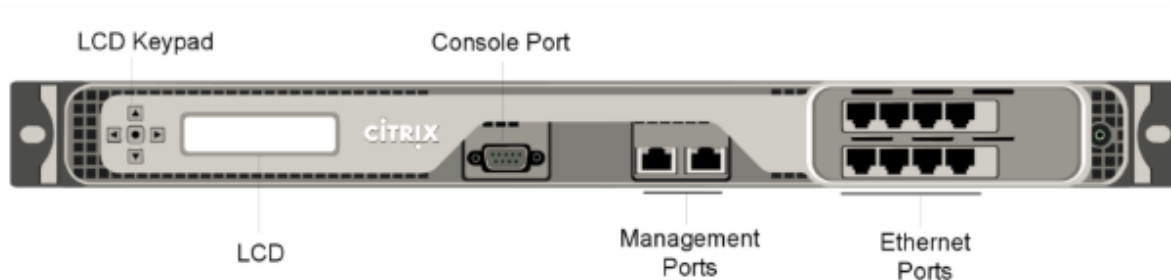
注:

このプラットフォームは寿命を迎えました。

NetScaler MPX 7500/9500 は 1U アプライアンスで、それぞれにクアッドコアプロセッサと 8 GB のメモリを搭載しています。MPX 7500/9500 アプライアンスには、8 x 10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポートと 4x1G SFP + 4x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポートの 2 つのポート構成が用意されています。

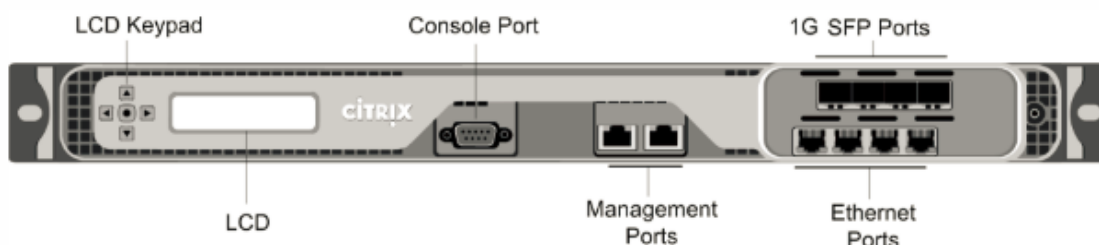
次の図に、MPX 7500/9500（8x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート）アプライアンスの前面パネルを示します。

図 1: NetScaler MPX 7500/9500（8x10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート）、フロントパネル



次の図に、MPX 7500/9500 (4x1G SFP + 4x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート) アプライアンスの前面パネルを示します。

図 2: NetScaler MPX 7500/9500 (4x1G SFP + 4x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート)、フロントパネル

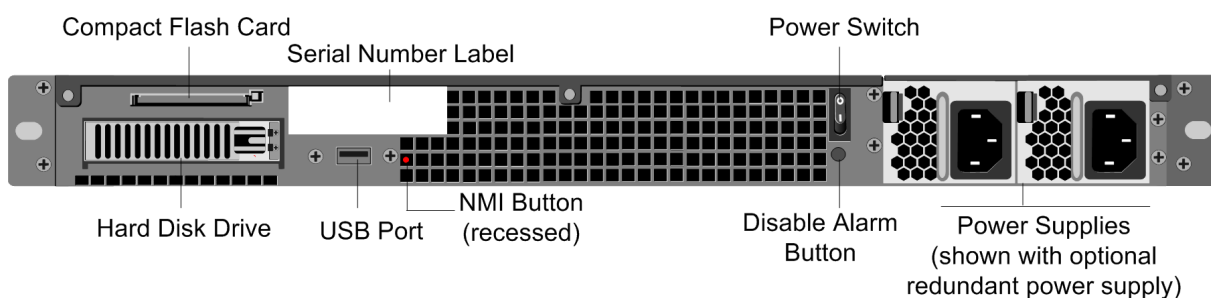


モデルに応じて、アプライアンスには次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート。左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート
 - MPX 7500/9500 (8x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート) 8つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート 1、1/2、1/3、1/3、および 1/4 の番号が付いた 4つのポートは、左から右に向かって一番上の列に表示されます。左から右に、1/5、1/6、1/7、および 1/8 という番号が付いた 4つのポート。
 - MPX 7500/9500 (4x1G SFP + 4x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート) 1/1、1/2、1/3、および 1/4 の番号が付いた 1ギガビット銅線またはファイバ 1G SFP ポート 4個の左から右へ順に表示されます。4つの 10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート (RJ45) には、左から右に 1/5、1/6、1/7、および 1/8 の番号が付けられています。

次の図は、MPX 7500/9500 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 3: NetScaler MPX 7500/9500、背面パネル



MPX

7500/9500 の背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- NetScaler ADC ソフトウェアの保存に使用される、4 GB リムーバブルコンパクトフラッシュカード。
- 電源スイッチ。PSU を取り外すかのように、MPX 7500/9500 の電源を切ります。スイッチを 5 秒間押して、電源を切ります。
- ユーザーデータを格納するために使用されるリムーバブルハードディスクドライブ (HDD)。2012 年 2 月より前に出荷されたアプライアンスは、ユーザーデータを HDD に保存します。2012 年 2 月以降に出荷されたアプライアンスでは、HDD にソリッドステートドライブが置き換えられます。どちらのタイプのドライブも同じ機能を持ち、同じソフトウェアリリースをサポートします。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成するマスク不可割り込み (NMI) ボタン。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。

次の条件のいずれかに当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。

- MPX 7500/9500 を 1 つの電源コンセントにのみ接続している。
- 1 つの電源装置が故障しており、MPX 7500/9500 を修理するまで動作を続けたい場合。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 8005、MPX 8015、MPX 8200、MPX 8400、MPX 8600、MPX 8800

January 25, 2024

Citrix

ADC モデルの MPX 8005、MPX 8015、MPX 8200、MPX 8400、

MPX 8600、MPX 8800 は 1U アプライアンスである。各モデルには、クアッドコアプロセッサが 1 つと 32 GB のメモリが搭載されています。

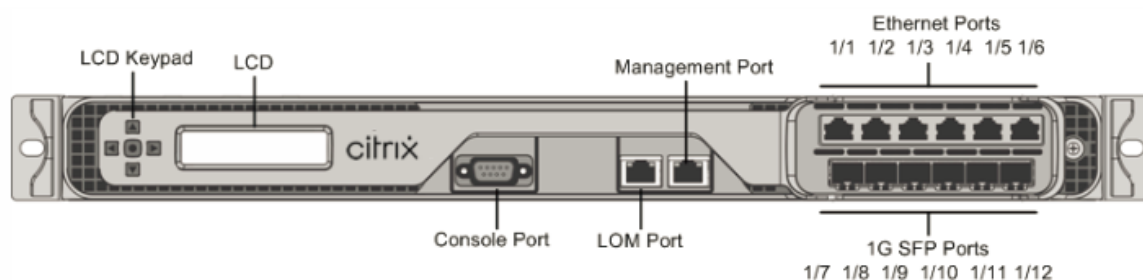
MPX

8005/8015/8200/8400/8600/8800 アプライアンスは、次の 2 つのポート構成で使用できます。

- 6 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポートと 1 G SFP ポート 6 個 (6x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート + 6x1G SFP)
- 6 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポートと 10 G SFP+ ポート 2 個 (6x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート + 2x10G SFP+)

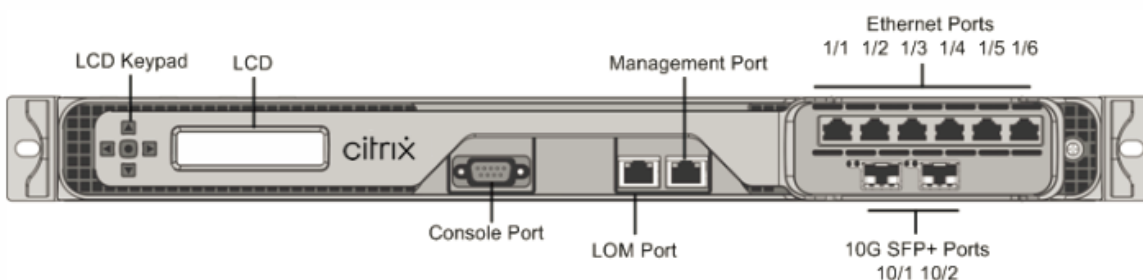
次の図は、MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 (6x10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート + 6x1G SFP) アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 (6x10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート + 6x1G SFP)、フロントパネル



次の図は、MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 (6x10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート + 2x10G SFP+) アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 (6x10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート + 2x10G SFP+)、フロントパネル



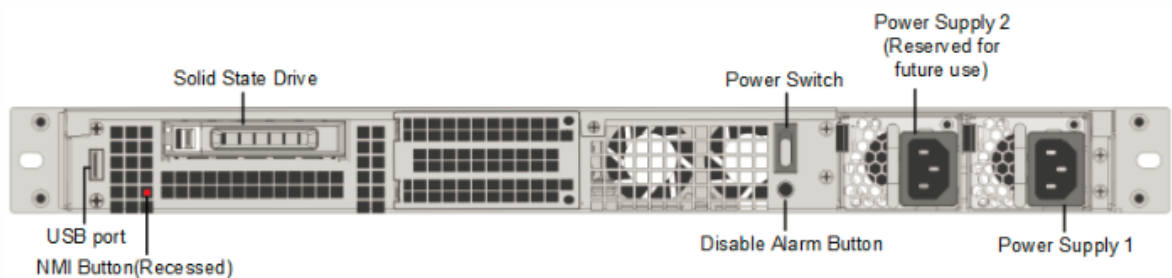
モデルに応じて、アプライアンスには次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45) 1 つ。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。

- 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45) 1 個、番号が 0/1。管理ポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート
 - MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 (6x10/100/1000Base-T 銅線イーサネットポート + 6x1G SFP)。10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート (RJ45) 6 個 (RJ45) には 1/1、1/2、1/2、1/3、1/4、1/5、および 1/6 の番号が付いており、1 ギガビット銅線またはファイバ 1G SFP ポートに 6 個の 1/7、1/8、1/8、1/9、1/9、1/10、1/11、および 1/12 の番号が付けられています。
 - MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 (6x10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート + 2x10G SFP+)。6 つの 10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート (RJ45) に 1/1、1/2、1/3、1/4、1/5、および 1/6 の番号が付いており、最下列には左から右に 10/1 および 10/2 の番号が付いた 10 ギガビット SFP+ ポートが 2 つあります。

次の図は、MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 3: NetScaler MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 アプライアンス、背面パネル



MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 256 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD) 1 台。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

注: 以前の MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 アプライアンスには、将来使用するために 3 つの追加 SSD スロットがありました。現在の NetScaler ADC MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 アプライアンスには、将来使用するための追加の SSD スロットはありません。

- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押し、電源を切ります。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請により、NetScaler ADC コアダンプを生成するために使用されます。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。

- アラームボタンを無効にする。これは機能しません。このボタンは、2 台目の電源装置を取り付けた場合にのみ機能します。

次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。

- アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- 単一電源、定格 450 ワット、110~220 ボルト。最大消費電力は 250 ワット、標準消費電力は 185 ワットです。

注: MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800 アプライアンスは、デュアル電源をサポートしますが、1 つの電源装置を搭載しています。NetScaler の営業担当者に連絡して、2 つ目の電源を注文してください。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成の実行について詳しくは、「[NetScaler 初期構成](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 8900

January 25, 2024

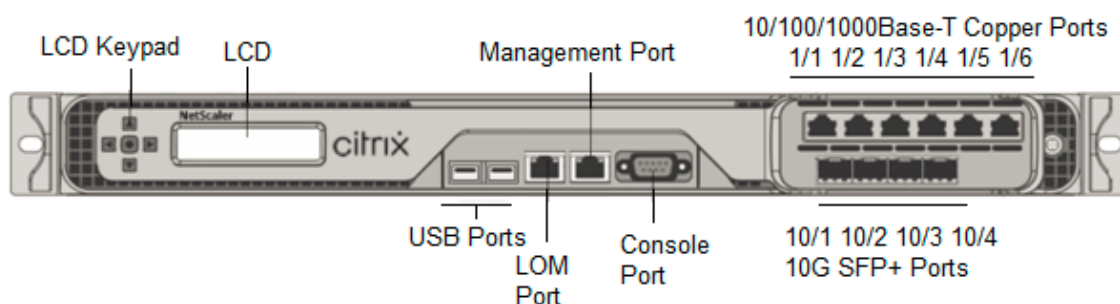
NetScaler MPX 8900 アプライアンスは 1U アプライアンスです。このプラットフォームは、シングル 8 コアプロセッサと 32 GB のメモリを備えています。アプライアンスは合計 10 個のネットワーク・ポートを提供します。

- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート
- 4 個の 10G/1G SFP+ イーサネットポート

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細については、「[ハードウェアとソフトウェアのリリースマトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 8900 シリーズ・アプライアンスのフロント・パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 8900、フロントパネル



NetScaler MPX 8900 シリーズアプライアンスには、次のポートがあります。

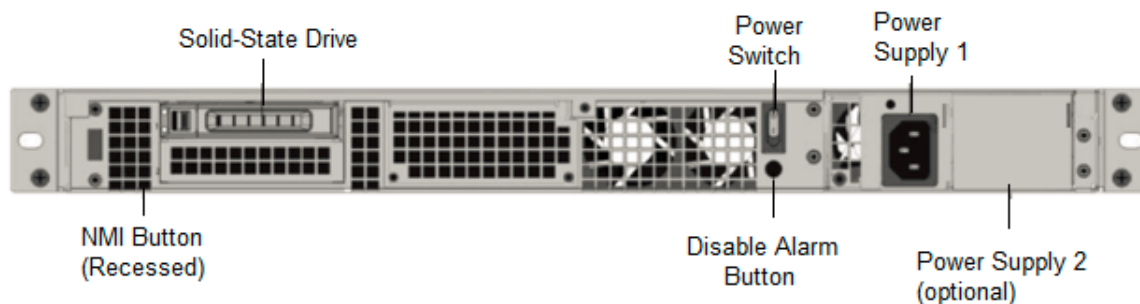
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート 1 個、番号が 0/1。このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート。左から右に 1/1 ~1/6 の番号が付けられています。
- 10 G/1G SFP+ イーサネットポート 4 個、左から右に 10/1 ~10/4 の番号が付けられています。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

次の表に、管理ポートおよび LOM ポートの LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	接続なし、または 10 Mbps の速度
黄色に点滅	Active
緑に点滅	100 Mbps スピード
琥珀色	1 Gbps スピード

次の図は、MPX 8900 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 8900、背面パネル



MPX 8900 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 240 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD)
 - 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押し、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。

- OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押しして強制的に電源を切ります。
- 1 つの電源装置、450 ワット、100 ~240 VAC（冗長性の第 2 の電源装置は、お客様がインストール可能なオプションです）。最大消費電力は 196 ワットで、標準消費電力は 163 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。2 つの電源装置のいずれかが入力電力を失う（2 台目の電源装置がオプション）、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI（マスク不可）割り込み（NMI）ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI のリモートコントロールメニューでネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 8900 FIPS 認定アプライアンス

January 25, 2024

NetScaler MPX 8900 FIPS 認定アプライアンスは、1U アプライアンスです。このプラットフォームは、シングル 8 コアプロセッサと 32 GB のメモリを備えています。

注: アプライアンスのすべての側面に FIPS 改ざんシールが表示されます。シールを改ざんすると、FIPS 要件が壊れます。

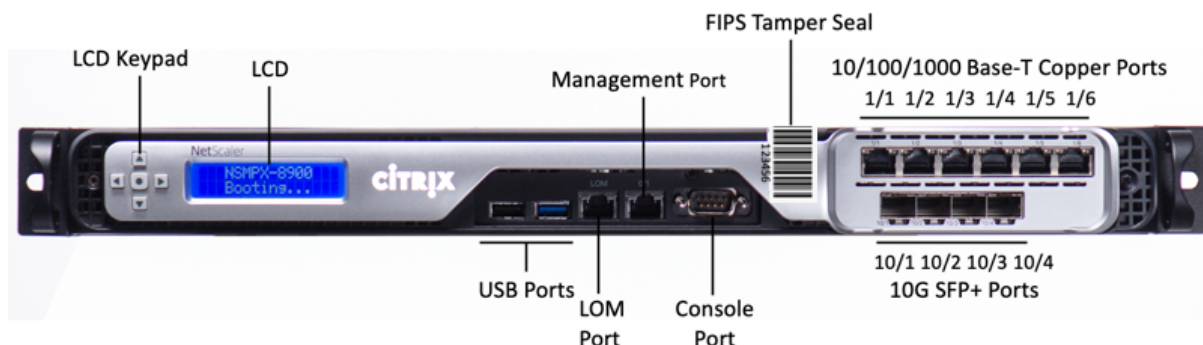
アプライアンスは合計 10 個のネットワーク・ポートを提供します。

- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート
- 4 個の 10G/1G SFP+ イーサネットポート

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細については、「[ハードウェアとソフトウェアのリリースマトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 8900 FIPS 認定アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 8900 FIPS 認定アプライアンス、フロントパネル



NetScaler MPX 8900 FIPS 認定アプライアンスには、次のポートがあります。

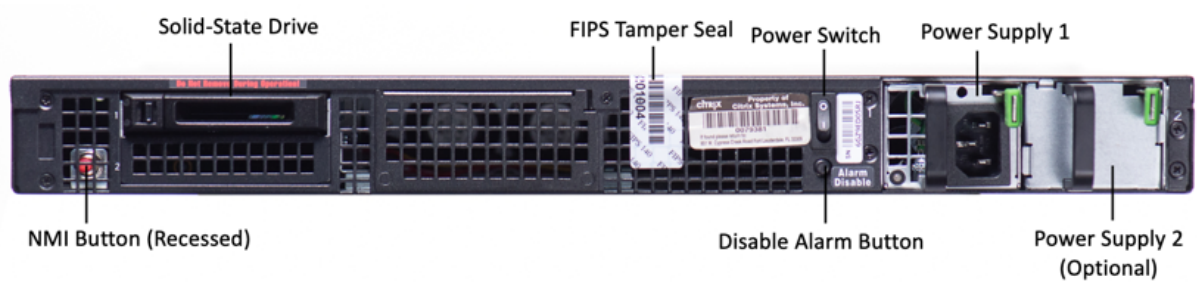
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート 1 個、番号が 0/1。このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 6 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネットポート。左から右に 1/1 ~1/6 の番号が付けられています。
- 10 G/1G SFP+ イーサネットポート 4 個、左から右に 10/1 ~10/4 の番号が付けられています。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

次の表に、管理ポートおよび LOM ポートの LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	接続なし、または 10 Mbps の速度
黄色に点滅	Active
緑に点滅	100 Mbps スピード
琥珀色	1 Gbps スピード

次の図は、MPX 8900 FIPS 認定アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 8900 FIPS 認定アプライアンス、背面パネル



MPX 8900 FIPS 認定アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 240 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD)

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押し、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し、強制的に電源を切ります。
- 1 つの電源装置、450 ワット、100 ~240 VAC（冗長性の第 2 の電源装置は、お客様がインストール可能なオプションです）。最大消費電力は 275 ワットで、標準的な消費電力は 225 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- **** アラームボタンを無効にする ****。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。2 つの電源装置のいずれかが入力電力を失う（2 台目の電源装置がオプション）、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI（マスク不可）割り込み（NMI）ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐために、この赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI のリモートコントロールメニューでネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

このアプライアンスの構成について詳しくは、[NetScaler MPX FIPS 認定アプライアンスを参照してください](#)。

NetScaler MPX 9100

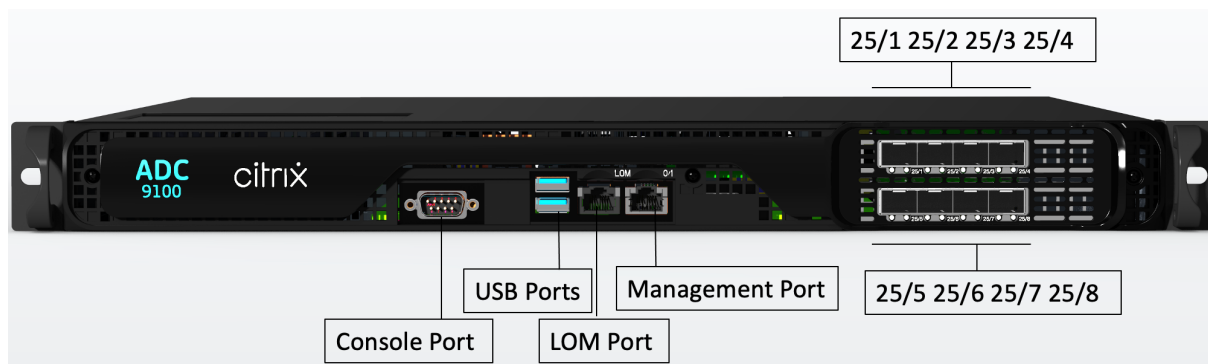
January 25, 2024

NetScaler MPX 9100 アプライアンスは 1U アプライアンスです。このプラットフォームには、単一の 10 コアプロセッサと 64 GB のメモリが搭載されています。アプライアンスには合計 8 つの 25G SFP28 ポートがあります。

ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされるソフトウェアリリースについては、[ハードウェア/ソフトウェアリリースマトリックス](#)を参照してください。

次の図は、MPX 9100 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 9100、フロントパネル

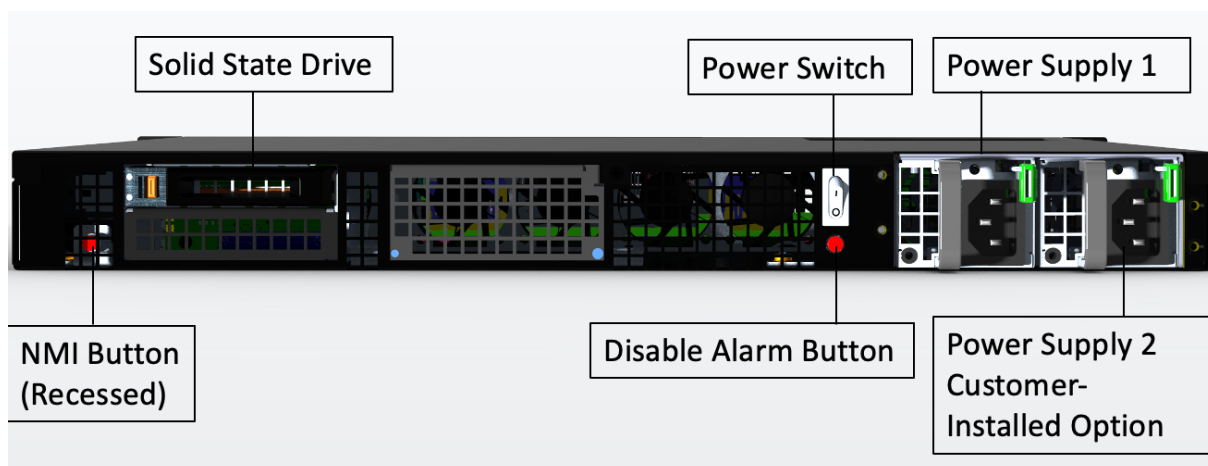


NetScaler MPX 9100 シリーズアプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、ADC ソフトウェアとは別に、アプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート 1 個（番号は 0/1）このポートは、ADC 管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 2 つの USB ポート（将来のリリース用に予約）。
- 25/1 から 25/8 までの番号が付けられた 8 つの 25G SFP28 ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 9100 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 9100、背面パネル



MPX 9100 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 480 GB のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD) x 1
 - 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押しして、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押しして強制的に電源を切ります。
- 定格 450 ワット、100~240VAC の電源装置 2 個 (2023 年 12 月 13 日以降に出荷されたハードウェア用)。最大消費電力は 275 ワットで、標準的な消費電力は 225 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。2 つの電源装置のいずれかが入力電力を失う (2 台目の電源装置がオプション)、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可) 割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他

の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI のリモートコントロールメニューでネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 9100 FIPS

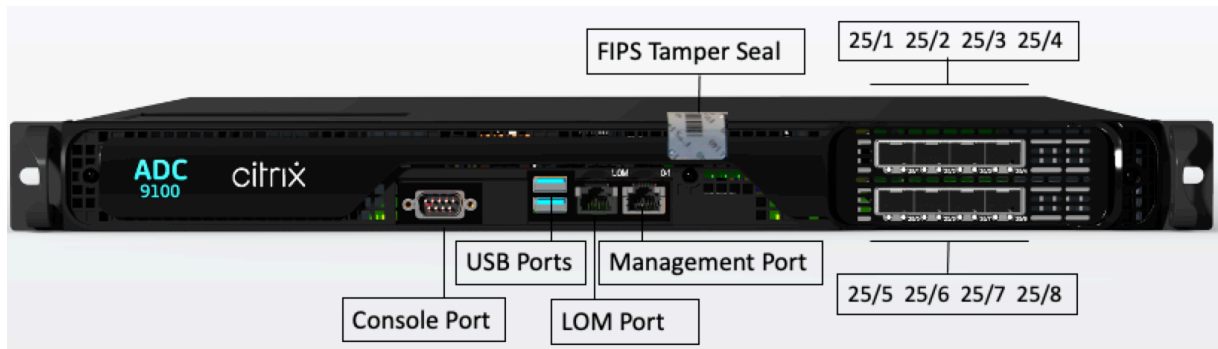
January 25, 2024

NetScaler MPX 9100 FIPS アプライアンスは 1U アプライアンスです。このプラットフォームには、単一の 10 コアプロセッサと 64 GB のメモリが搭載されています。アプライアンスには合計 8 つの 25G SFP28 ポートがあります。

ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされるソフトウェアリリースについては、[ハードウェア/ソフトウェアリリースマトリックス](#)を参照してください。

次の図は、MPX 9100 FIPS アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 9100 FIPS、フロントパネル

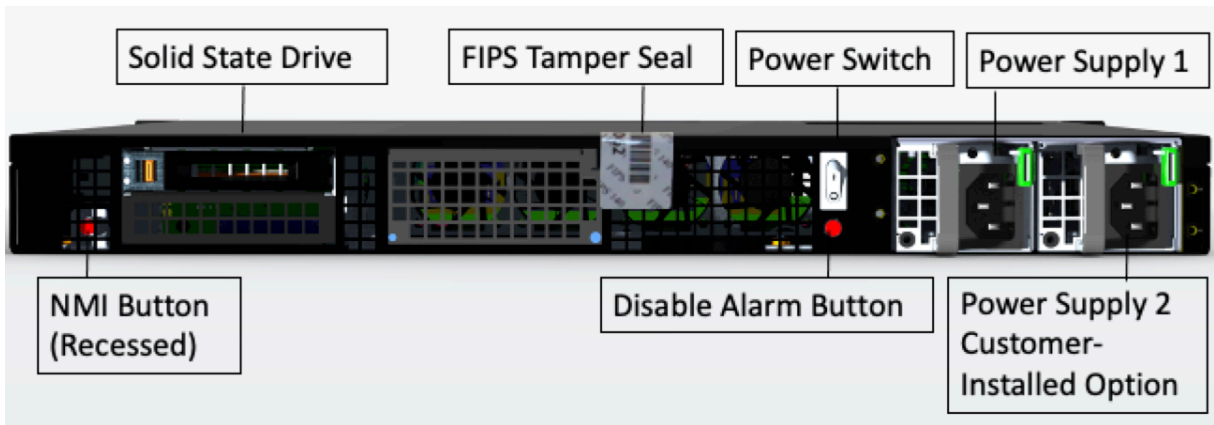


NetScaler MPX 9100 FIPS シリーズアプライアンスには次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、ADC ソフトウェアとは別に、アプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート 1 個（番号は 0/1）このポートは、ADC 管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 2 つの USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 25/1 から 25/8 までの番号が付けられた 8 つの 25G SFP28 ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 9100 FIPS アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 9100 FIPS、バックパネル



MPX 9100 FIPS アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 480 GB のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD) x 1
 - 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押しして、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押しして強制的に電源を切ります。
- 1 つの電源、定格 450 ワット、100 ~240 VAC (冗長性のための 2 つ目の電源はお客様による設置が可能なオプション)。最大消費電力は 275 ワットで、標準的な消費電力は 225 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。2 つの電源装置のいずれかが入力電力を失う (2 台目の電源装置がオプション)、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可) 割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI のリモートコントロールメニューでネットワ

ーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

このアプライアンスの構成については、[MPX FIPS アプライアンスを参照してください](#)。

NetScaler MPX 9700、MPX 10500、MPX 12500、MPX 15500

January 25, 2024

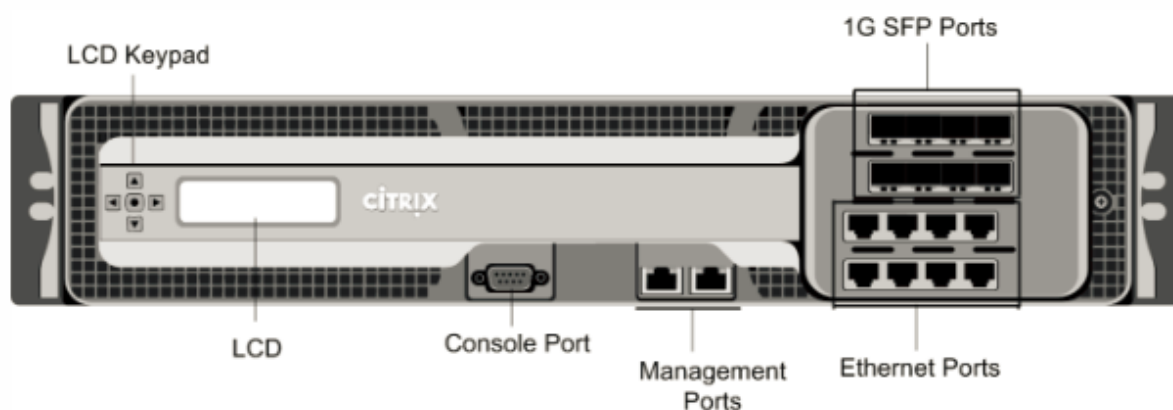
注:

このプラットフォームは寿命を迎えました。

NetScaler MPX 9700/10500/12500/15500 は、2U のアプライアンスで、それぞれ 2 個のクアドコアプロセッサと 16 GB のメモリを備えています。これらすべてのアプライアンスは、10G モデルと FIPS モデルでも利用可能です。

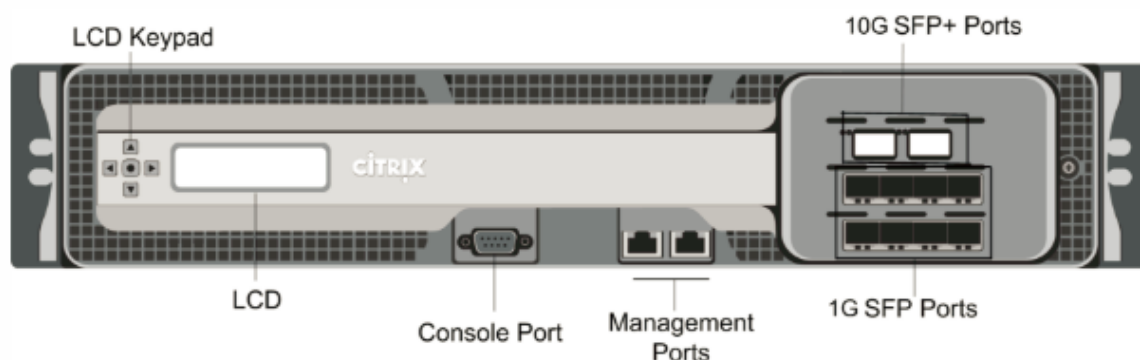
次の図は、MPX 9700/10500/12500/15500 の前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 9700/10500/12500/15500、フロントパネル



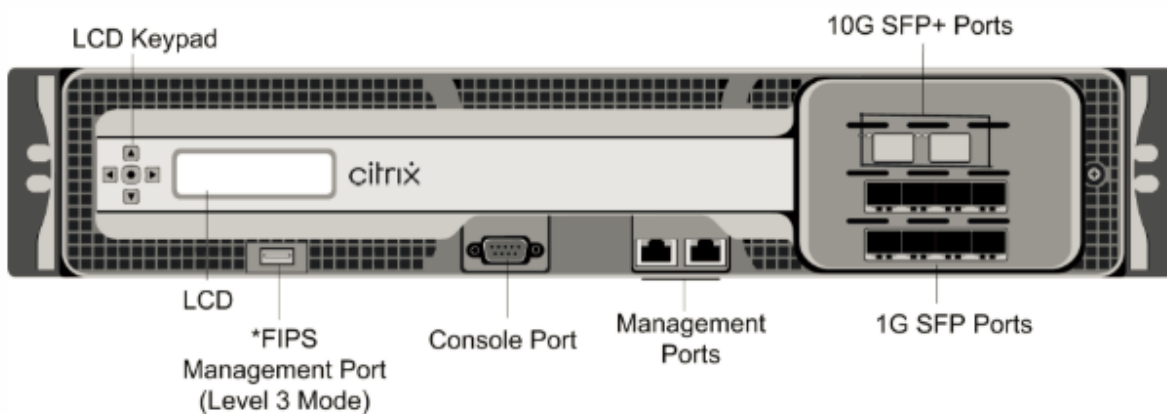
次の図は、MPX 9700/10500/12500/15500 10G の前面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 9700/10500/12500/15500 10G、フロントパネル



次の図は、MPX 9700/10500/12500/15500 FIPS の前面パネルを示しています。

図 3: NetScaler MPX 9700/10500/12500/15500 FIPS、フロントパネル



* FIPS 管理ポート (レベル 3 モード) は、将来のリリース用に予約されています。

注意: FIPS 管理ポートに USB デバイスを挿入しないでください。そうすると、FIPS カードに障害が発生する。

モデルに応じて、アプライアンスには次のポートがあります。

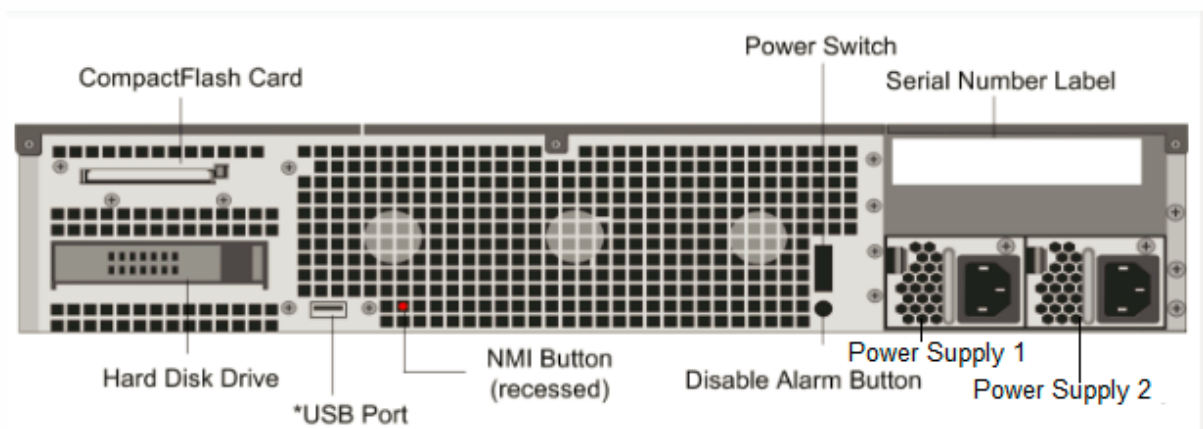
- FIPS 管理ポート (将来のリリース用に予約)。
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート
 - MPX 9700/10500/12500/15500. 1/1、1/2、1/3、および 1/4 の番号が付いた銅線またはファイバ 1G SFP ポート 8 個。左から右への最初の列に表示されます。ポートには、左から右に 1/5、1/6、1/7、および 1/8 という番号が付けられています。10/100/1000BASE-T 銅線イーサネットポート (RJ45) は、3 列目に 1/9、1/10、1/11、および 1/12 の番号が左から右に 8 個あります。ポートには、左から右に 1/13、1/14、1/15、および 1/16 という番号が付けられています。

- MPX 9700/10500/12500/15500 10G と MPX 9700/10500/12500/15000 FIPS。2つの 10G SFP+ ポートに 10/1 と 10/2 の番号が付けられています。1/1、1/2、1/3、および 1/4 の番号付きの 1 ギガビット銅線またはファイバ 1G SFP ポート 8 個。中央列には左から右へ順に表示されます。ポートには、左から右に 1/5、1/6、1/7、および 1/8 という番号が付けられています。

重要: このアプライアンスの 10 ギガビットポートには、10/1 および 10/2 というラベルが付けられています。

次の図は、10G モデルと FIPS モデルを含む、MPX 9700/10500/12500/15500 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 4: NetScaler MPX 9700/10500/12500/15500、MPX 9700/10500/12500/15500 FIPS、MPX 9700/10500/12500/15500 10G、背面パネル



注: USB ポートは、将来のリリース用に予約されています。

MPX 9700/10500/12500/15500 の背面パネルには、10G モデルと FIPS モデルを含む次のコンポーネントが表示されます。

- NetScaler ADC ソフトウェアの格納に使用される 4 GB リムーバブルコンパクトフラッシュカード。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押して、電源を切ります。
- ユーザーデータを格納するために使用されるリムーバブルハードディスクドライブ。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- NMI (マスク不可割り込み) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成します。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合のみ機能します。次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。

- アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。

- 1つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。

- 2つの電源装置、各定格は450ワット、110~220ボルトです。最大消費電力は360ワットです。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定の詳細については、「[初期設定](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 11500、MPX 13500、MPX 14500、MPX 16500、MPX 18500、MPX 20500

January 25, 2024

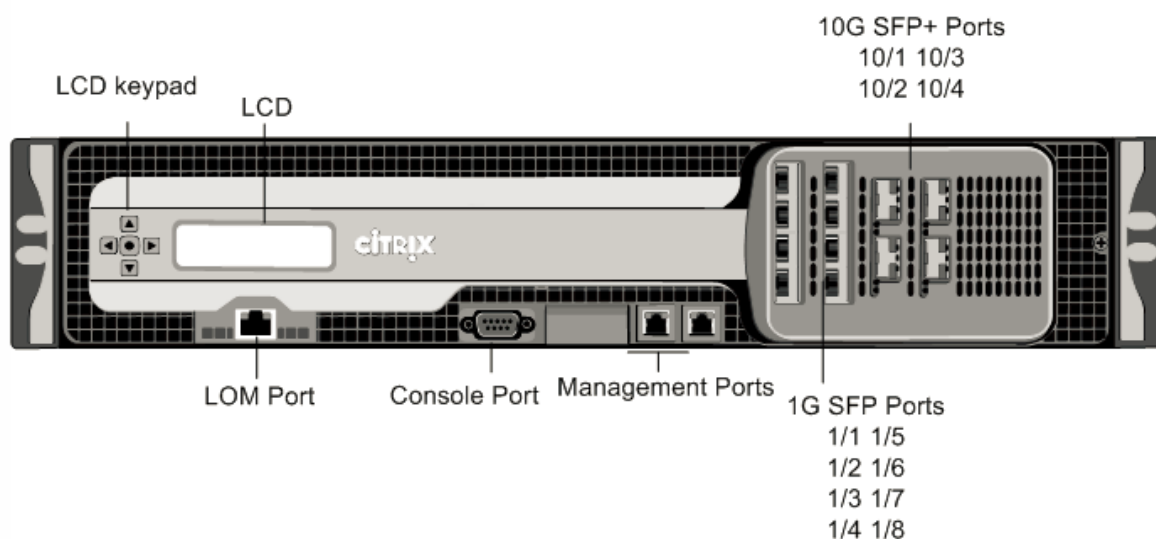
注:

このプラットフォームは寿命を迎えました。

NetScaler ADC モデルの MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 は、2U アプライアンスです。各モデルには、合計 12 個の物理コア (ハイパースレッディング付きの 24 コア) と 48 GB のメモリ用の 6 コアのプロセッサが 2 つ搭載されています。

次の図は、MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 アプライアンス、フロントパネル

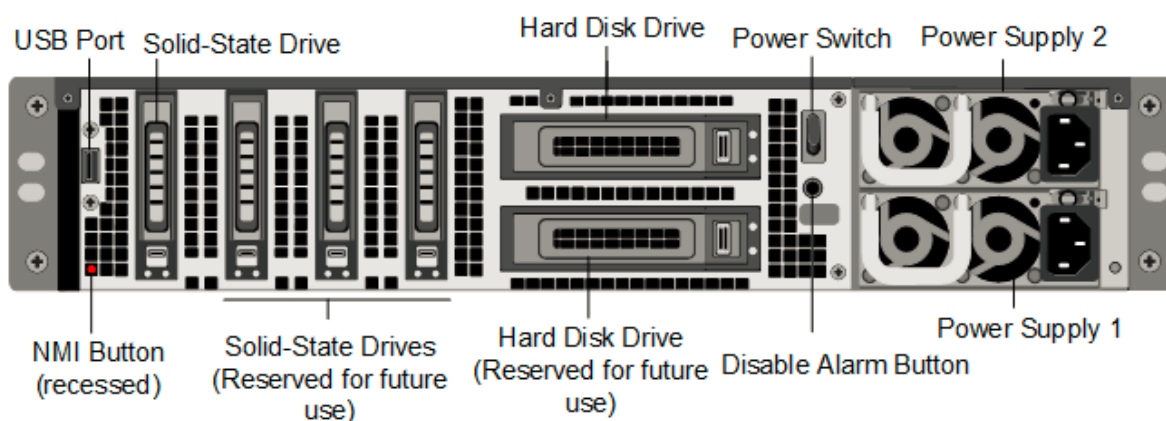


MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 アプライアンスには、次のポートがあります。

- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
注:LOM ポートの LED は設計上動作しません。
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 最初の列の上から下に 1/1、1/2、1/3、1/4 の番号が付けられた 8 個の 1G SFP ポート。ポートは、2 番目の列の上から下に 1/5、1/6、1/7、および 1/8 の番号が付けられています。
- 4 つの 10G SFP+ ポートは、最初の列の上から下に 10/1 と 10/2、2 番目の列には上から下に 10/3 および 10/4 の番号が付いています。

次の図は、MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 アプライアンス、背面パネル



MPX 11500/13500/14500/16500/18500/20500 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 160 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押して、電源を切ります。
- NMI (マスク不可割り込み) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成します。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- ユーザーデータを格納するために使用される 2 つのリムーバブルハードディスクドライブ。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合のみ機能します。

次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。

- 1 - You have plugged the appliance into only one power outlet.
- 2 - One power supply is malfunctioning, and you want to **continue** operating the appliance until it is repaired.

- 2つの電源装置、各定格は960ワット、110~220ボルトです。最大消費電力は650ワットです。一般的な消費電力は500ワットです。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 11500

January 25, 2024

注:

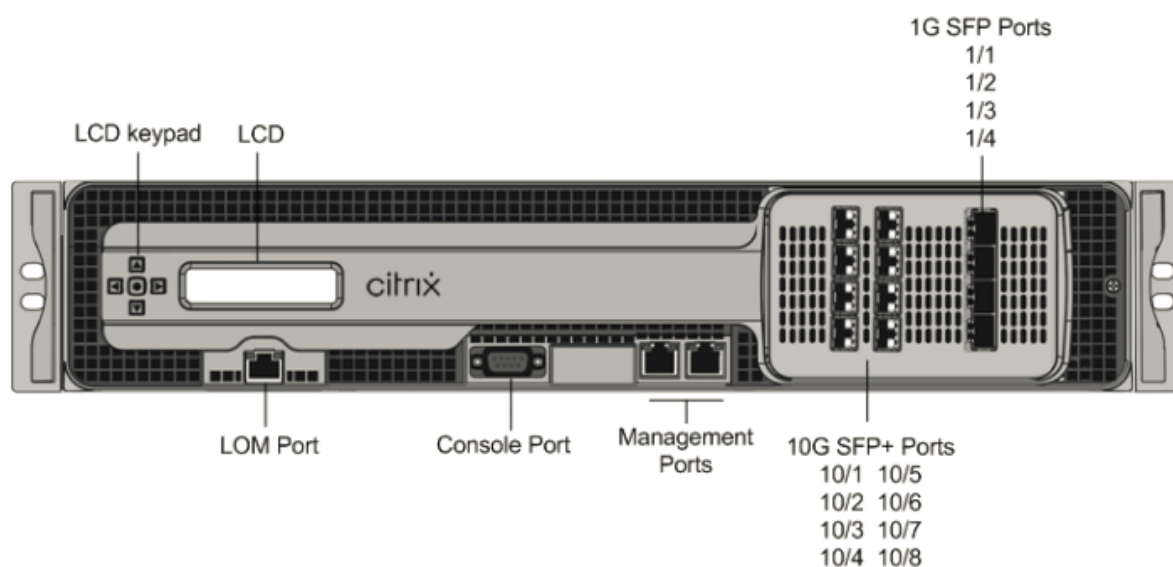
このプラットフォームは寿命を迎えました。

NetScaler

モデルの MPX 11515/11520/11530/11540/11542 は、2U アプライアンスです。各モデルには、合計 12 個の物理コア (ハイパースレッディング付きの 24 コア) と 48 GB のメモリ用の 6 コアのプロセッサが 2 つ搭載されています。次の図は、

MPX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンス、フロントパネル

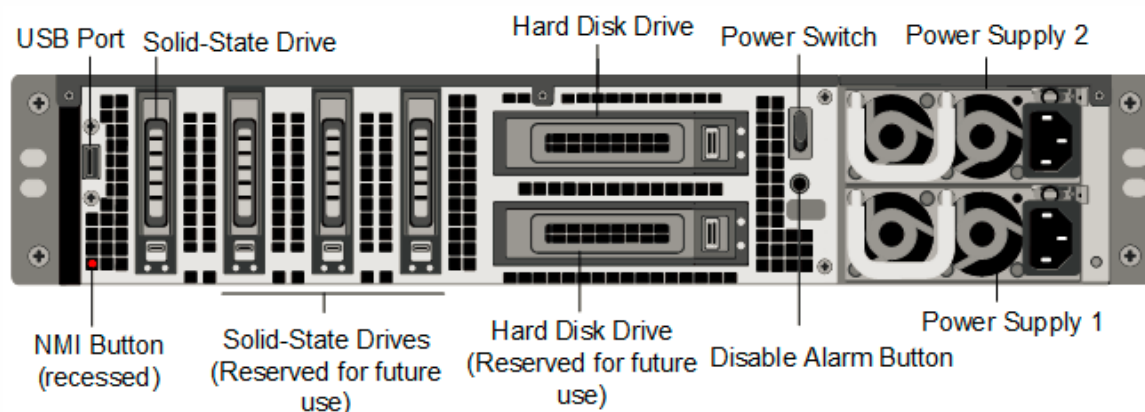


MPX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
注:LOM ポートの LED は設計上動作しません。
- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 8つの 10G SFP+ ポートと 4つの銅線またはファイバの 1 G SFP ポート。

次の図は、MPX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンス、背面パネル



MPX 11515/11520/11530/11540/11542 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 256 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押して、電源を切ります。
- NMI (マスク不可割り込み) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成します。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- ユーザーデータを格納するために使用される 2つのリムーバブルハードディスクドライブ。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2つある場合にのみ機能します。
次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。

- アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- 2 つの電源装置、各定格は 960 ワット、110~220 ボルトです。最大消費電力は 650 ワットで、標準消費電力は 500 ワットです。ただし、MPX 11540T アプライアンスの最大消費電力は 365 ワット、標準消費電力は 300 ワットです。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 14000

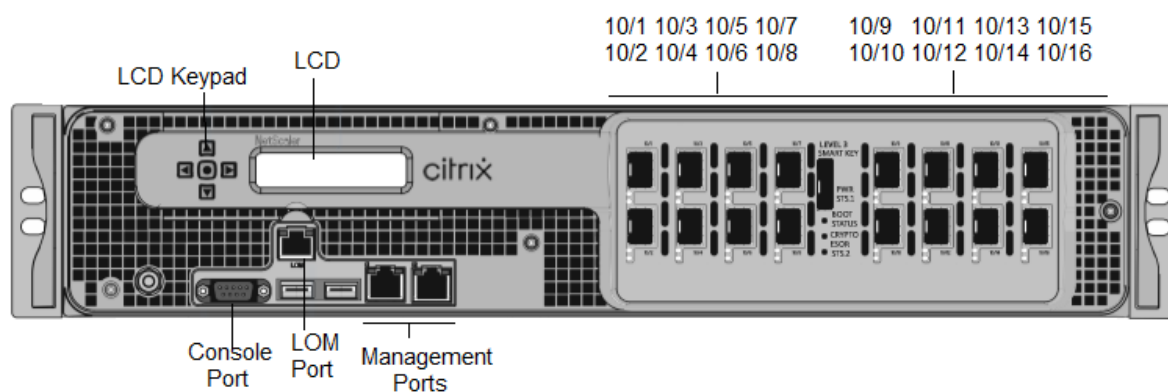
January 25, 2024

NetScaler MPX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 は、2U アプライアンスです。各モデルは、2 つの 6 コアプロセッサと 64 GB のメモリと 16 個の 10G SFP+ ポート (16x10G SFP+) を備えています。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについては、[NetScaler ADC ハードウェアソフトウェアサポートマトリックス](#)を参照してください。

次の図は、MPX 14020/14030/14040/14060/14080 (16x10G SFP+) アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 (16x10G SFP+)、フロントパネル



NetScaler MPX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 アプライアンスには、次のポートがあります。

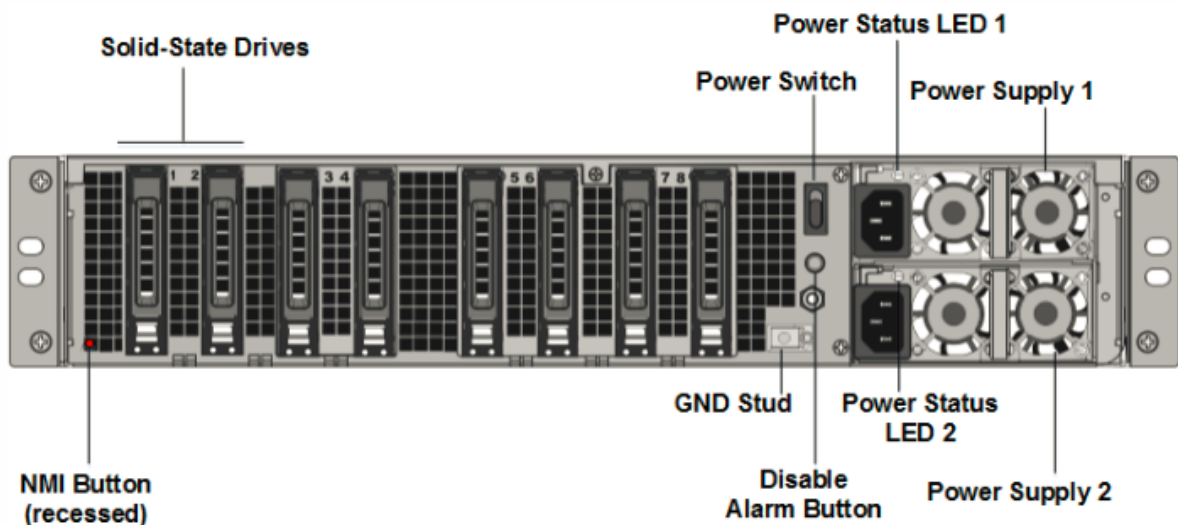
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。

- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート、16 個の 10G SFP+ ポート (16x10G SFP+)。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

注: これらのアプライアンスの 10G SFP+ ポートは、銅線 1G SFP トランシーバをサポートしています。

次の図は、MPX 14020/14030/14040/14060/14080/ 14100 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 14020/14030/14040/14060/14060/14080/14100、背面パネル



MPX 14020/14030/14040/14060/14080/14100 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID) 構成の冗長アレイ内の 240 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源には、「一般的なハードウェアコンポーネント」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。次の場合に電源アラームが鳴らないようにするには、このボタンを押してください。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ接続している

- 1つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。[NMI] ボタンは、[リモート制御] メニューの [LOM GUI] で、ネットワーク経由でリモートでも使用できます。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

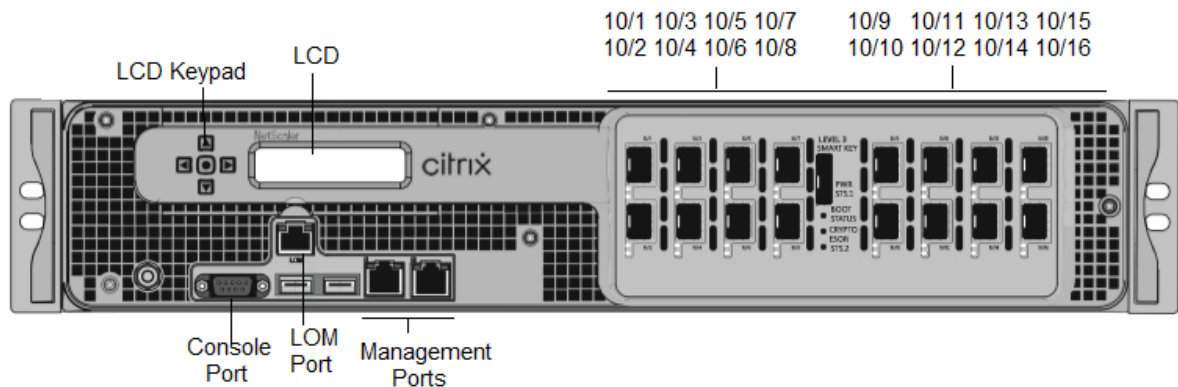
NetScaler MPX 14000-40C

January 25, 2024

NetScaler MPX 14000-40C は 2U アプライアンスです。各モデルには、2つの6コアプロセッサ、64 GB のメモリ、16個の10 G SFP+ ポートが搭載されています。

次の図は、14000-40C アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 14020/14040/14060/14080/14100-40C (16x10G SFP+ ポート)、フロントパネル



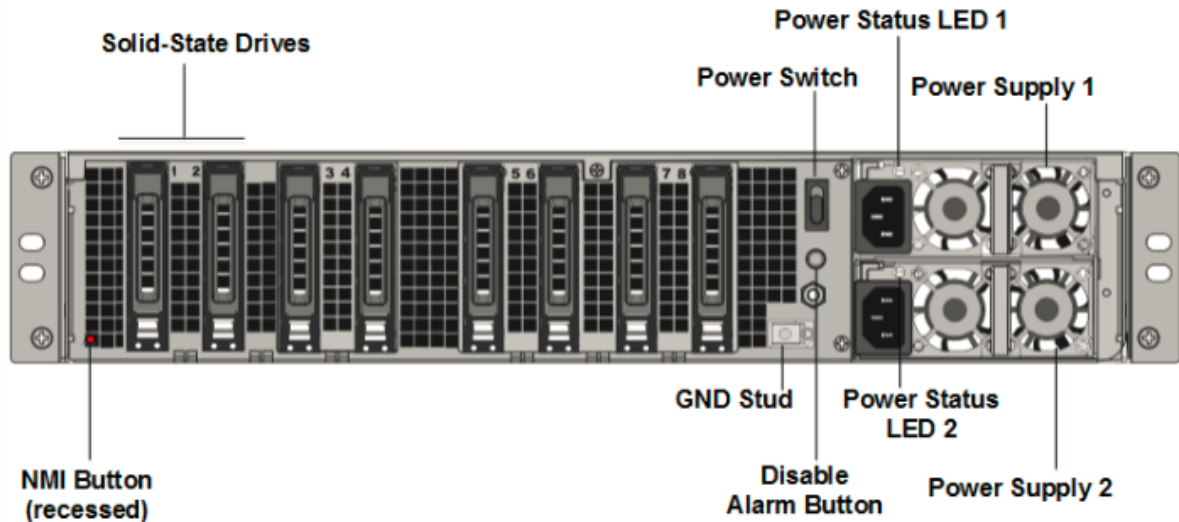
NetScaler MPX14000-40C アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2つの10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。管理ポートとも呼ばれ、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられます。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート:16個の10G SFP+ ポート。

- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

次の図は、MPX14000-40C アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 14020/14040/14060/14080/14100-40C (16x10G SFP+)、背面パネル



MPX 14000-40C アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立ディスク (RAID) デバイスの冗長アレイ内の 300 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。詳細については、「[共通ハードウェアコンポーネント](#)」を参照してください。
- 2 つの電源装置、各電源装置の定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源装置には、「[共通ハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合に機能します。次の条件のいずれかに当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要求に応じてコアダンプを開始するために使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

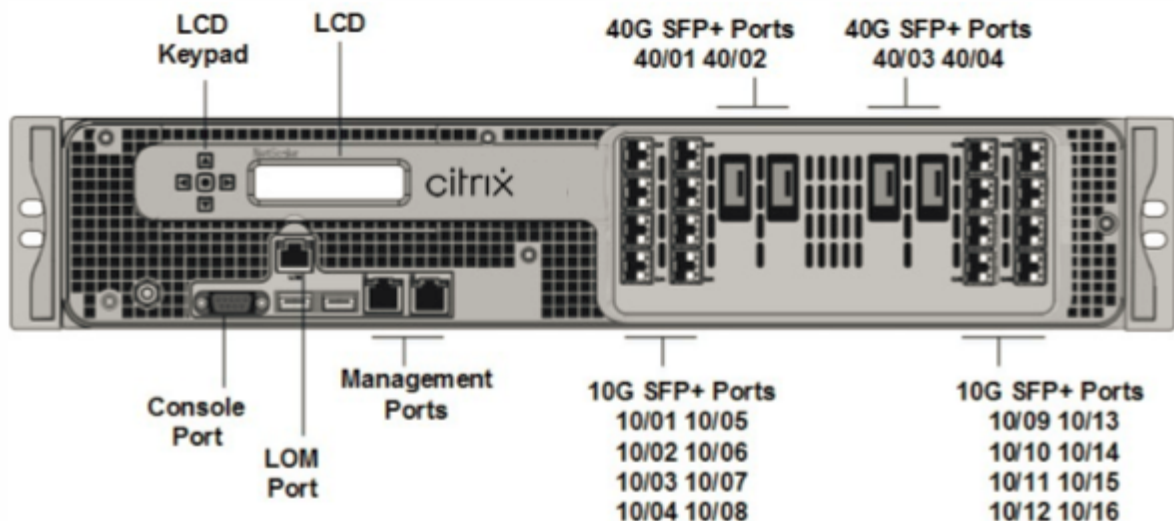
NetScaler MPX 14000-40G

January 25, 2024

NetScaler MPX 14020-40G、MPX 14040-40G、MPX 14040-40G、MPX 14060-40G、MPX 14080-40G、MPX 14100-40G は 2U アプライアンスである。各モデルには、2 つの 6 コアプロセッサ、64 GB のメモリ、4 つの 40G QSFP+ ポート、16 個の 10G SFP+ ポート (4x40G QSFP+ + 16x10G SFP+) が搭載されています。

次の図は、14000-40G アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 14020/14040/14060/14080/14100-40G (4x40G QSFP+、16x10G SFP+)、フロントパネル



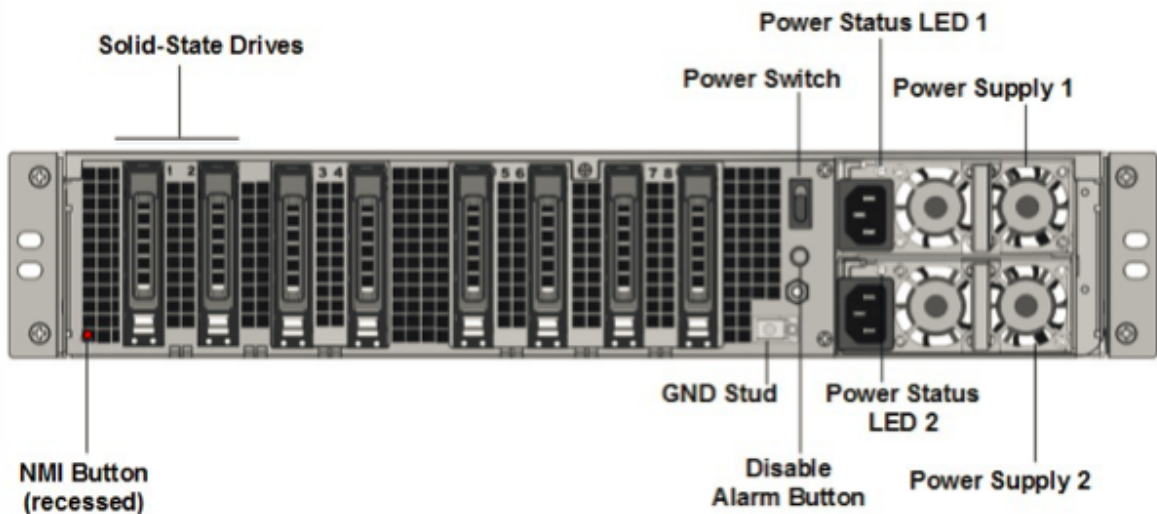
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート、16 個の 10G SFP+ ポート (16x10G SFP+)、4 つの 40G QSFP+ ポート (4x40G QSFP+)。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

注: 14000 FIPS アプライアンスのネットワークポートに関する次の点について説明します。

- 10G ポートは、1G 銅線または 1G ファイバトランシーバをサポートしません。
- 40G ポートは、10G および 1G トランシーバをサポートしません。

次の図は、14000-40G アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 14020/14040/14060/14080/14100-40G (4x40G QSFP+、16x10G SFP+)、背面パネル



MPX 14000-40G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立ディスク (RAID) デバイスの冗長アレイ内の 300 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。このスイッチは、アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各電源装置の定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源には、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合のみ機能します。次の条件のいずれかに当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- ノンマスクابل割り込み (NMI) ボタン。このボタンは、テクニカルサポートの要請により、コアダンプを開始するために使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスの管理ポートの消灯](#)」トピックを参照してください。

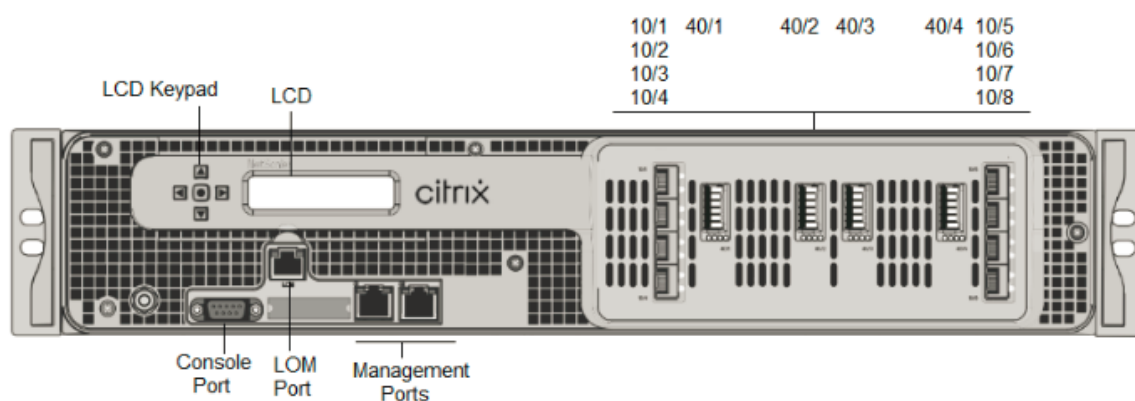
NetScaler MPX 14000-40S

January 25, 2024

NetScaler MPX 14040-40S, MPX 14060-40S, MPX 14060-40S, MPX 14080-40S, MPX 14100-40S は 2U アプリケーションである。各モデルには、2つの6コアプロセッサ、64 GBのメモリ、4つの40G QSFP+ポート、10G SFP+ポートが8個搭載されています。

次の図は、14000-40S アプリケーションの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 14040/14060/14080/14100-40S (4x40G QSFP+, 8x10G SFP+)、フロントパネル

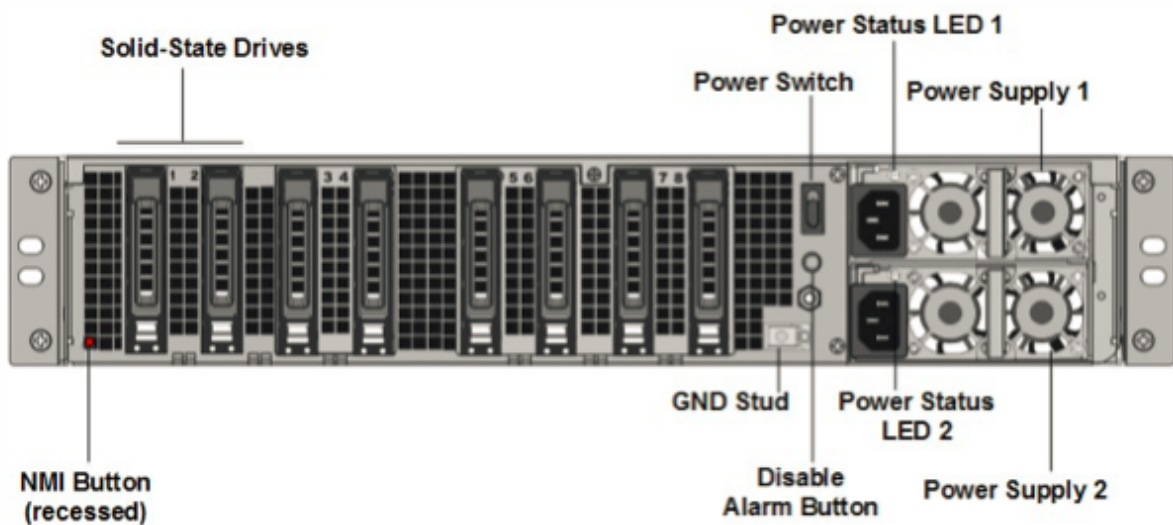


NetScaler MPX 14000-40S アプリケーションには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプリケーションをリモートで監視および管理できます。
- 2つの10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。管理ポートとも呼ばれ、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられます。これらのポートは、システム管理機能のためにアプリケーションに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート、4つの40G QSFP+、8つの10G SFP+ ポートポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図は、14000-40S アプリケーションの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 14020/14040/14060/14080/14100-40S (4x40G QSFP+, 8x10G SFP+)、背面パネル



MPX 14000-40S アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立ディスク (RAID) デバイスの冗長アレイ内の 300 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置、各電源装置の定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源装置には、「[共通ハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合のみ機能します。次の条件のいずれかに当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- テクニカルサポートからの依頼でコアダンプを開始するときに使用するマスク不可割り込み (NMI) ボタン。意図しない起動を防ぐため、くぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 14000 FIPS

January 25, 2024

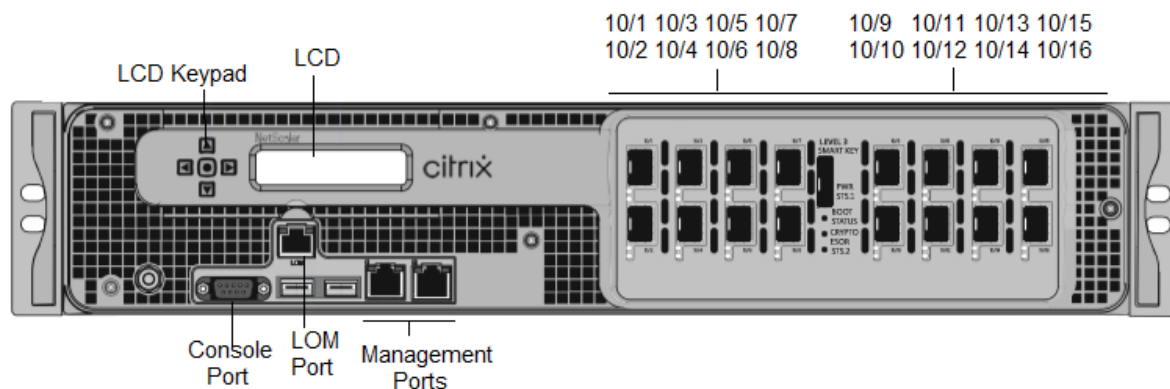
注:

[NetScaler MPX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスの構成については、MPX 14000 FIPS アプライアンスを参照してください。](#)

NetScaler ADC モデルは MPX 14030 FIPS、MPX 14060 FIPS、MPX 14080 FIPS は 2U アプライアンスである。各モデルは、2 つの 6 コアプロセッサ、64 GB のメモリ、16 個の 10G SFP+ ポート (16x10G SFP+) を備えています。

次の図は、MPX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 14030/14060/14080 FIPS、フロントパネル



NetScaler MPX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスには、次のポートがあります。

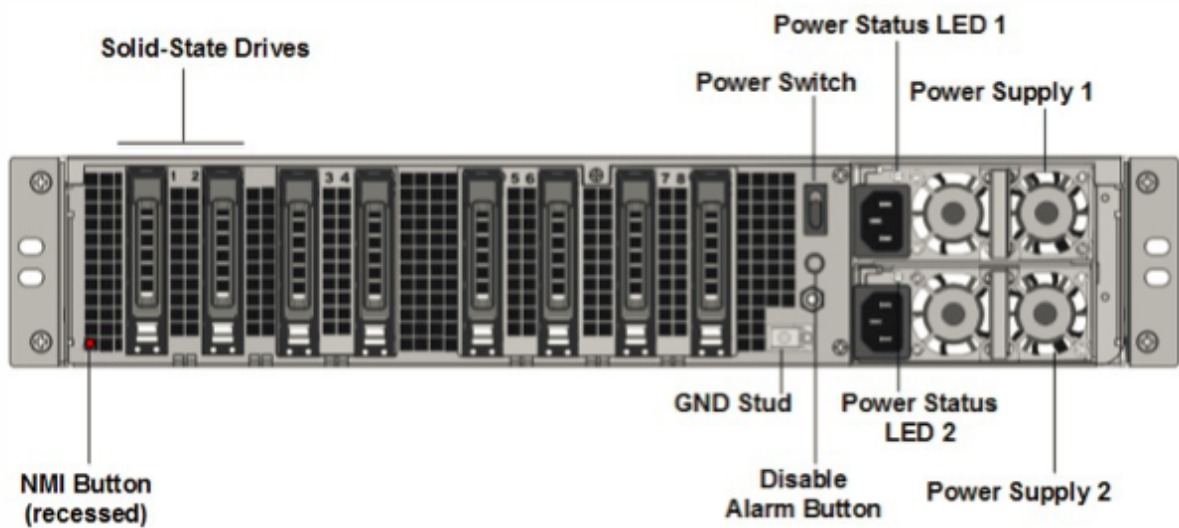
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 16 個の 10G SFP+ ポート。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

注:

- 10G ポートは、1G 銅線または 1G ファイバートランシーバをサポートしません。
- 40G ポートは、10G および 1G トランシーバをサポートしません。

次の図は、MPX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 14030/14060/14080 FIPS アプライアンス、背面パネル



MPX 14000 FIPS アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立ディスク (RAID) デバイスの冗長アレイ内の 300 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。このスイッチは、アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各電源装置の定格電圧は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源には、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合のみ機能します。次の場合に電源アラームが鳴らないようにするには、このボタンを押してください。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ接続している
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- ノンマスカブル割り込み (NMI) ボタン。このボタンは、テクニカルサポートの要請により、コアダンプを開始するために使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 15000

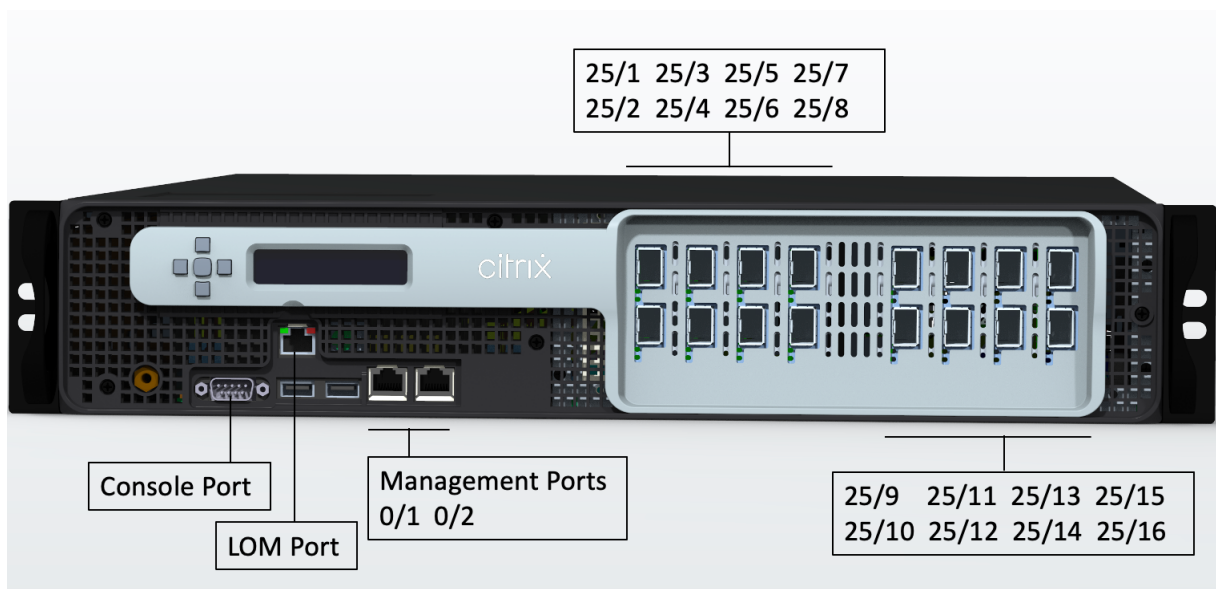
January 25, 2024

NetScaler MPX 15000 アプライアンスは、2U アプライアンスです。このプラットフォームには、2つの8コアプロセッサと128 GBのメモリが搭載されています。アプライアンスは、合計16個のイーサネット25Gポートを提供します。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースの詳細については、「[ハードウェアとソフトウェアのリリースマトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 15000 シリーズ・アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 15000、フロントパネル

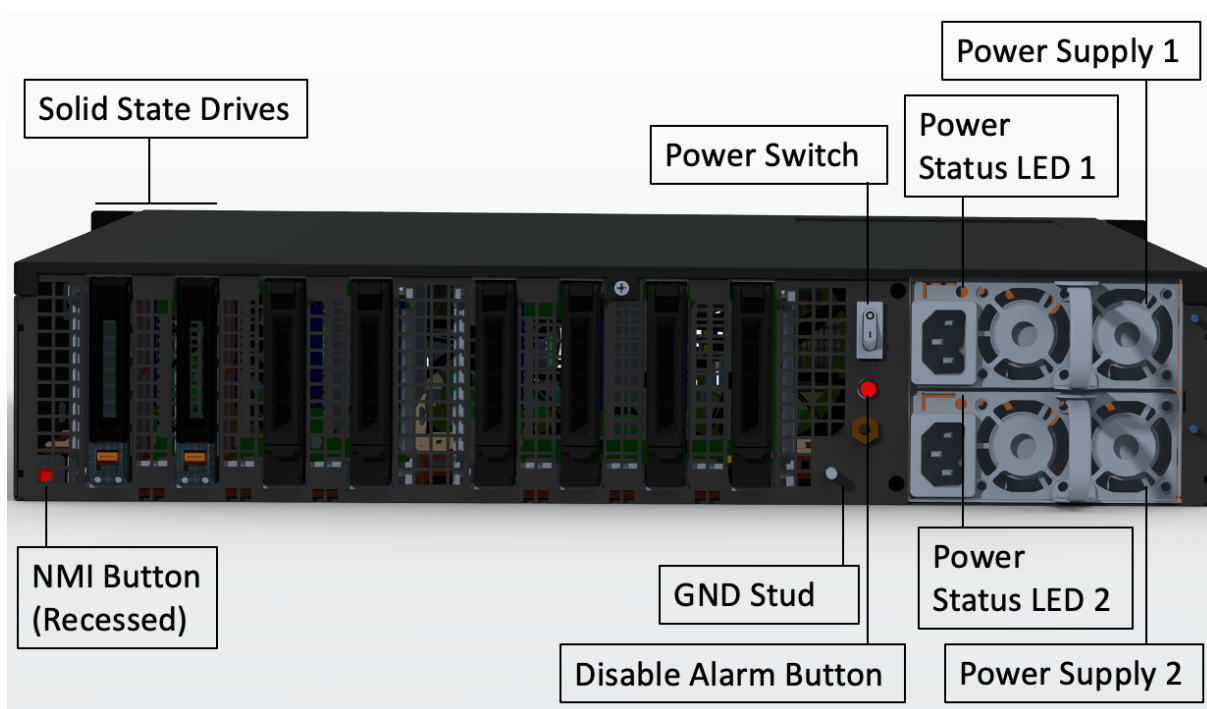


NetScaler MPX 15000 シリーズアプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2つの10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート（0/1 および 0/2 の番号付き）このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート1個、番号が0/1。このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 25/1 から 25/16 までの番号が付けられた16個の25Gイーサネットポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および100Gポート](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 15000 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 15000、背面パネル



MPX 15000 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID) 構成の冗長アレイ内の 480 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押し、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し、強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC 入力電源モジュール 2 個、定格は 1000 ワット。最大消費電力は 520 ワット、標準消費電力は 395 ワットです。各電源装置には、その状態を示す LED があります:

LED カラー

LED が示す状態

オフ

アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。

赤に点滅

この電源装置に電力が供給されていません。

緑に点滅

電源装置はスタンバイモードです。

LED カラー	LED が示す状態
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告（OVP/uVP/OCP/OTP/ファン）、OVP = 過電圧保護、UVP = 低電圧保護、OCP = 過電流保護、OTP = 過温度保護

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。2つの電源装置のいずれかが入力電力を失う（2台目の電源装置がオプション）、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI（マスク不可）割り込み（NMI）ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスの管理ポートの消灯](#)」トピックを参照してください。

NetScaler MPX 15000-50G

January 25, 2024

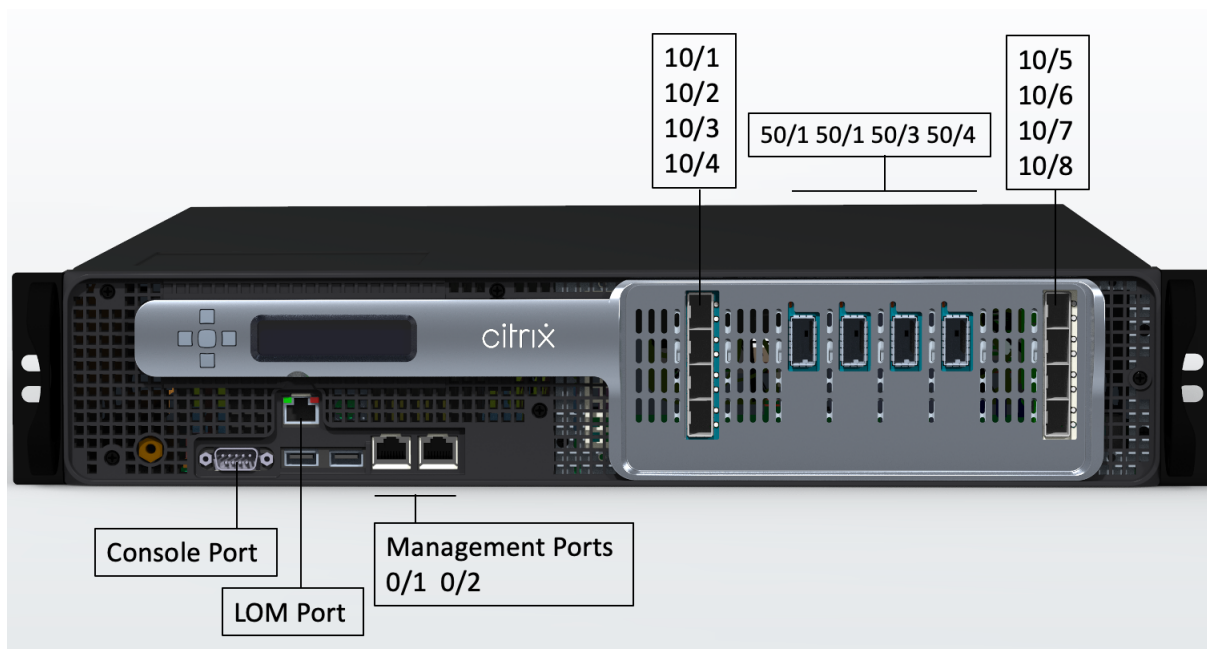
NetScaler MPX 15000-50G アプライアンスは、2U アプライアンスです。このプラットフォームには、2つの8コアプロセッサと128 GBのメモリが搭載されています。MPX 15000-50G アプライアンスは、合計12個のネットワーク・ポートを備えています。

- 10 G SFP+ イーサネットポート 8 個
- 4 つの 50G イーサネットポート

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについては、「[NetScaler MPX ハードウェアソフトウェア互換性マトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、NetScaler MPX 15000-50G アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 15000-50G、フロントパネル

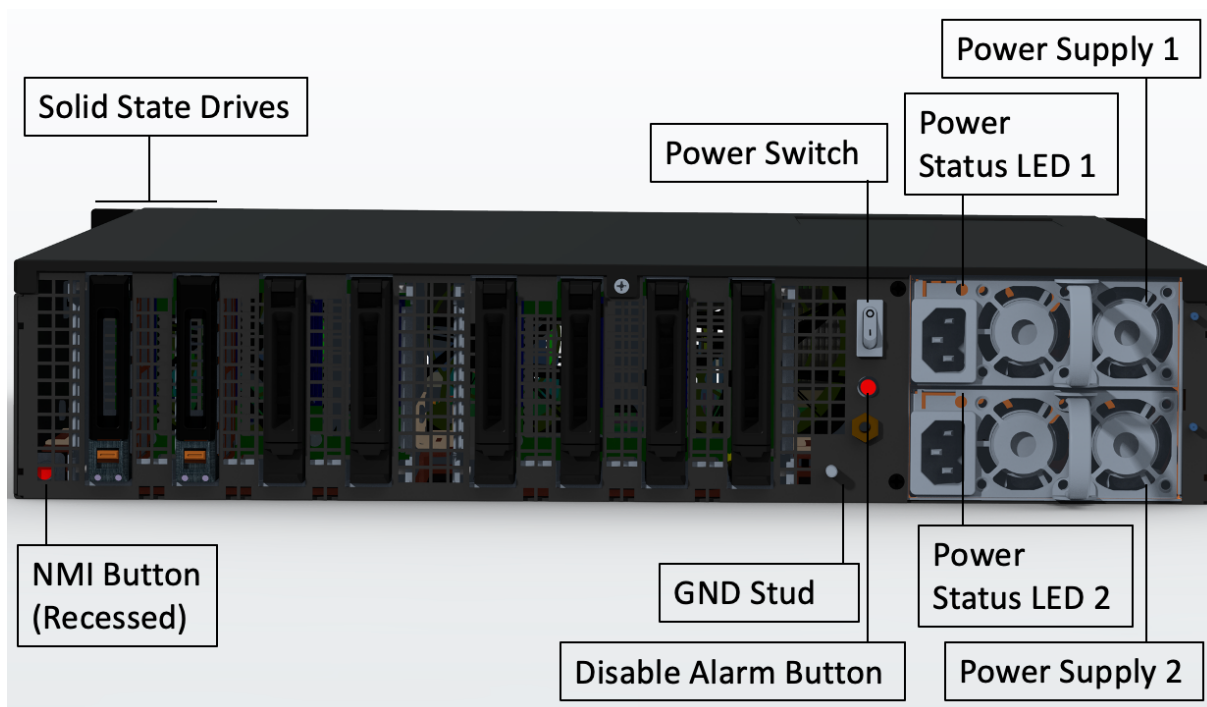


NetScaler MPX 15000-50G アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート（0/1 および 0/2 の番号付き）このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 10 G SFP+ イーサネットポート 8 個（10/1 ~10/8 の番号付き）
- 50G ポート 4 個、50/1 から 50/4 までの番号が付けられています。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図は、NetScaler MPX 15000-50G アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 15000-50G、背面パネル



MPX 15000-50G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID) 構成の冗長アレイ内の 480 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押し、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し、強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC 入力電源モジュール（それぞれ 1000 ワットの定格）2 個。最大消費電力は 522 ワット、標準消費電力は 300 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。

LED カラー	LED が示す状態
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告 (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)、OVP = 過電圧保護、UVP = 低電圧保護、OCP = 過電流保護、OTP = 過温度保護

- アラームボタンを無効にします。2つの電源装置の1つが入力電力を失ったとき、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可) 割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンス

January 25, 2024

NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンスは、2U アプライアンスです。このプラットフォームには、2つの 8 コアプロセッサと 128 GB のメモリが搭載されています。

注: アプライアンスの両側に FIPS 改ざんシールがあります。シールを改ざんすると、FIPS 要件が壊れます。

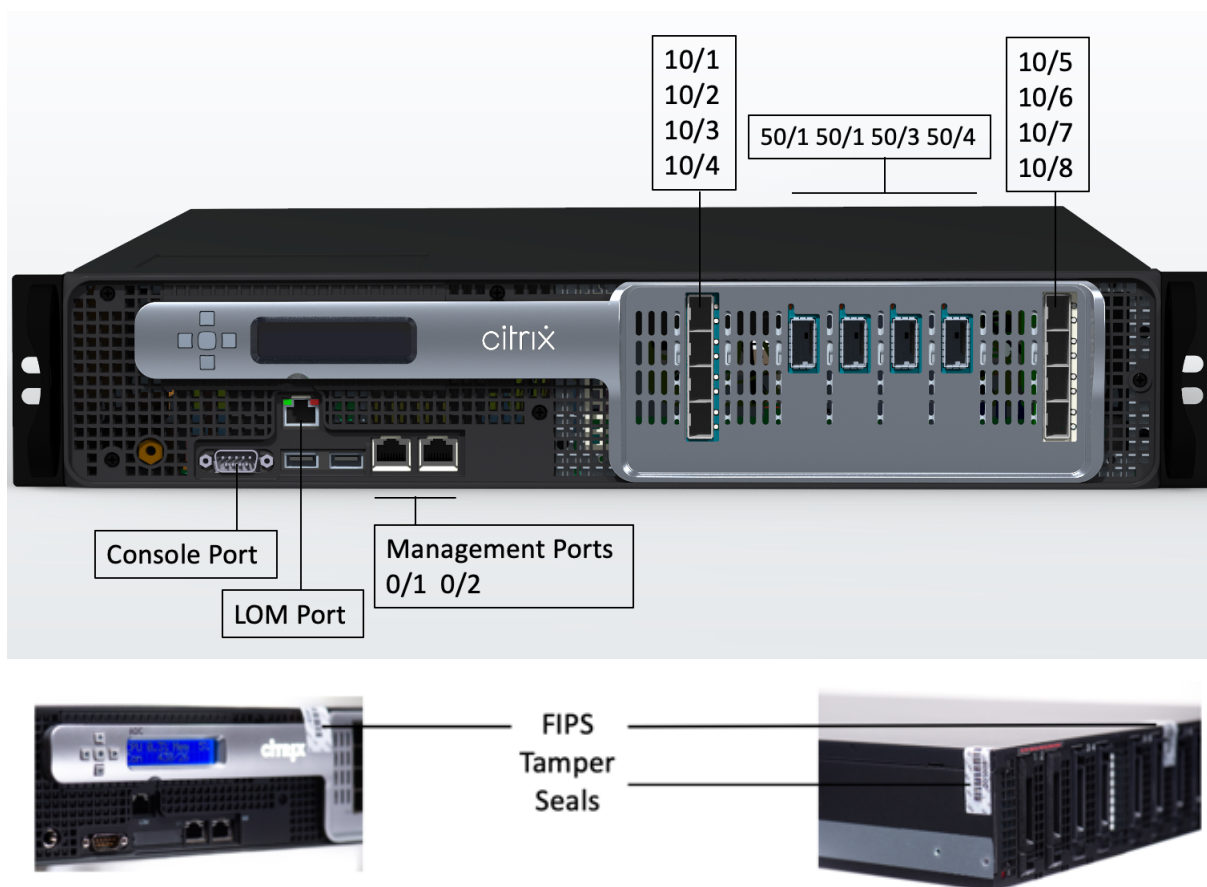
MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンスは、合計 12 のネットワークポートを提供します。

- 10 G SFP+ イーサネットポート 8 個
- 4 つの 50G イーサネットポート

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについては、「[NetScaler MPX ハードウェアソフトウェア互換性マトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンス、フロントパネル

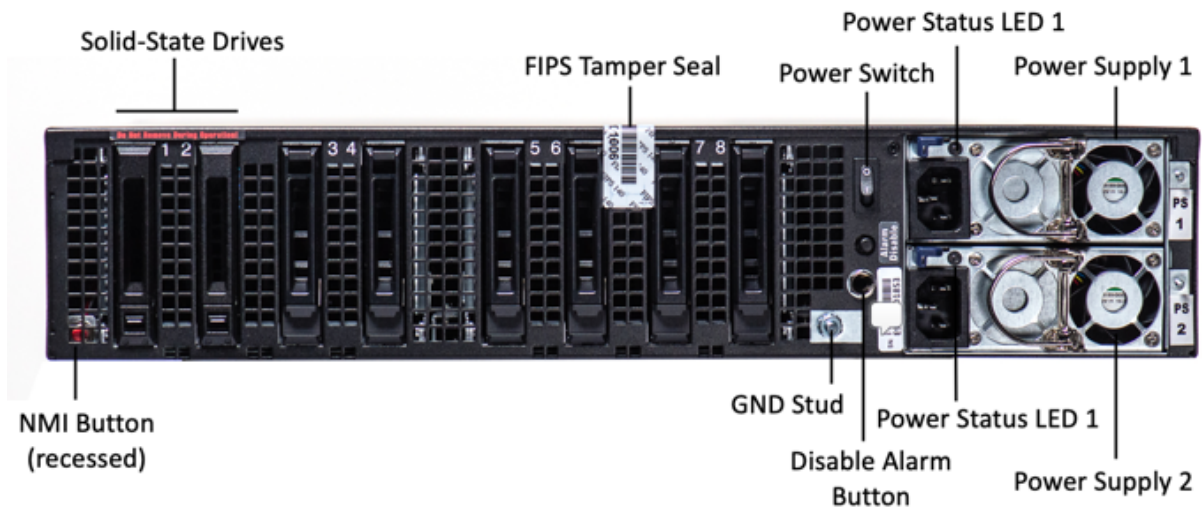


NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート（0/1 および 0/2 の番号付き）このポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 10 G SFP+ イーサネットポート 8 個（10/1 ~10/8 の番号付き）
- 50G ポート 4 個、50/1 から 50/4 までの番号が付けられています。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図は、NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンス、背面パネル



MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID) 構成の冗長アレイ内の 480 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押しして、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押しして強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC 入力電源モジュール（それぞれ 1000 ワットの定格）2 個。最大消費電力は 522 ワット、標準消費電力は 300 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

LED カラー	LED が示す状態
赤と緑で点滅	警告 (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)、OVP = 過電圧保護、UVP = 低電圧保護、OCP = 過電流保護、OTP = 過温度保護

- アラームボタンを無効にします。2つの電源装置の1つが入力電力を失ったとき、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可) 割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX ハードウェアとソフトウェアの互換性マトリックス](#)」を参照してください。

このアプライアンスの構成について詳しくは、[NetScaler MPX FIPS 認定アプライアンスを参照してください](#)。

NetScaler MPX 16000

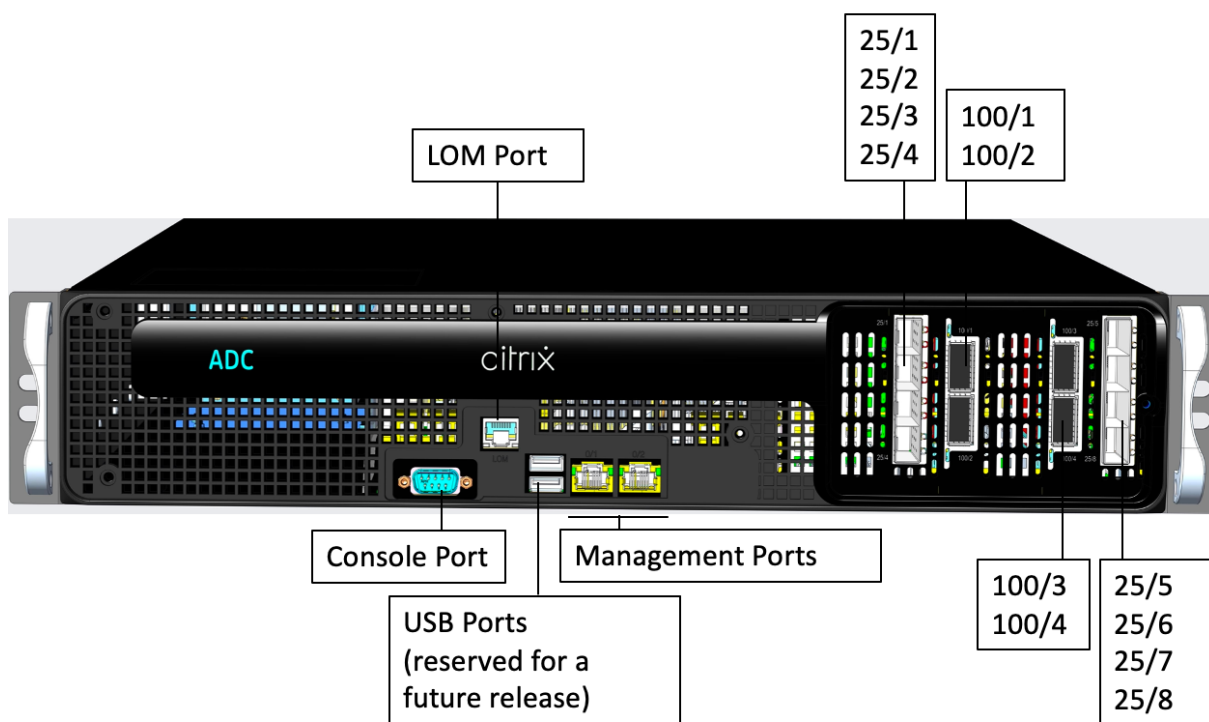
January 25, 2024

NetScaler MPX 16000 アプライアンスは 2U アプライアンスです。このプラットフォームには、2つの 16 コアプロセッサと 128 GB (16 x 8 GB DIMM) のメモリが搭載されています。アプライアンスには、合計 8 つの 25G SFP28 ポートと 4 つの 100G QSFP28 イーサネットポートが用意されています。

ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされるソフトウェアリリースについては、[ハードウェア/ソフトウェアリリースマトリックスを参照してください](#)。

次の図は、MPX 16000 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 16000、フロントパネル

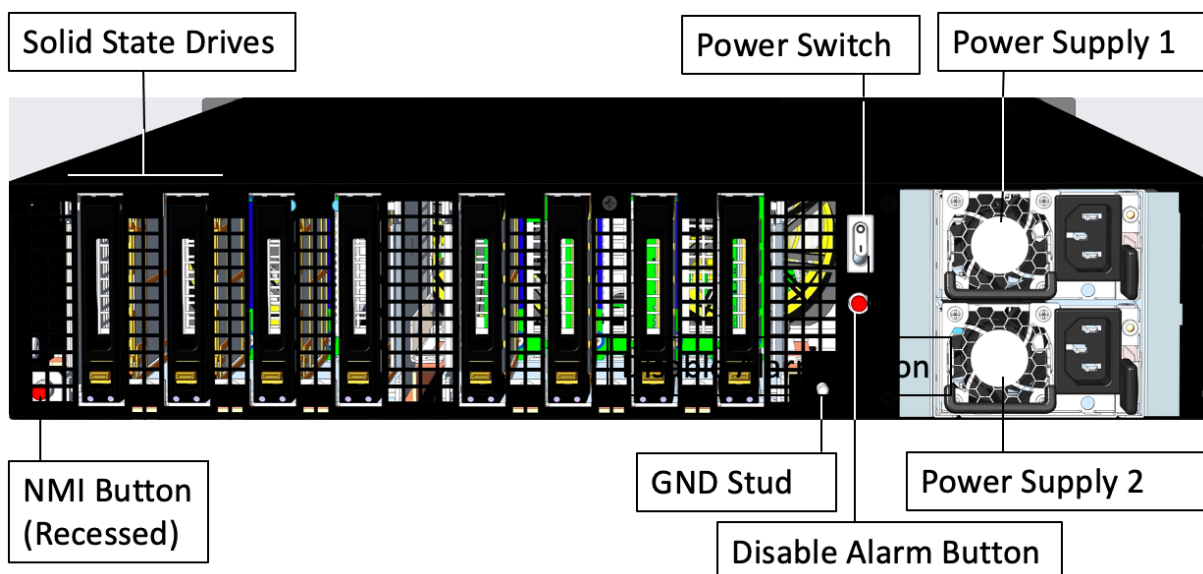


NetScaler MPX 16000 シリーズアプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、ADC ソフトウェアとは別に、アプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート、0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 2 つの USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 25/1 から 25/8 までの番号が付けられた 8 つの 25G SFP28 ポート。100/1 から 100/4 の番号が付けられた 4 つの 100G QSFP28 ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 16000 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 16000、背面パネル



MPX 16000 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 960 GB のリムーバブルソリッドステートドライブ (SSD) を 2 台搭載しています。
 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押しして、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押しして強制的に電源を切ります。
- 定格 850 ワット、100 ~240 VAC の 2 つの電源。最大消費電力は 584 ワット、標準消費電力は 465 ワットです。次の表に、各電源装置の LED ステータスを示します。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。2 つの電源装置のいずれかが入力電力を失う (2 台目の電源装置がオプション)、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。

- NMI (マスク不可) 割り込み (**NMI**) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI のリモートコントロールメニューでネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 17500、MPX 19500、および MPX 21500

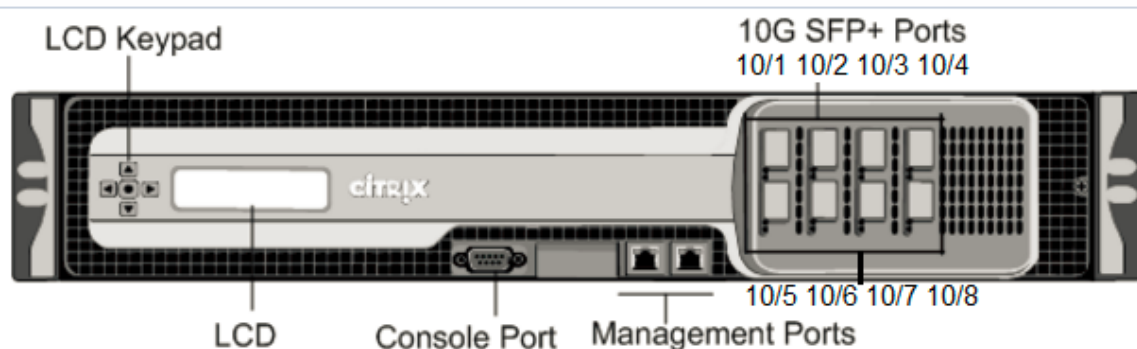
January 25, 2024

注: このプラットフォームは寿命に達しました。

NetScaler ADC モデルの MPX 17500/19500/21500 は、2U アプライアンスです。各モデルには、2つの6コアプロセッサと48GBのメモリが搭載されています。

次の図は、MPX 17500/19500/21500 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 17500/19500/21500 アプライアンス、フロントパネル

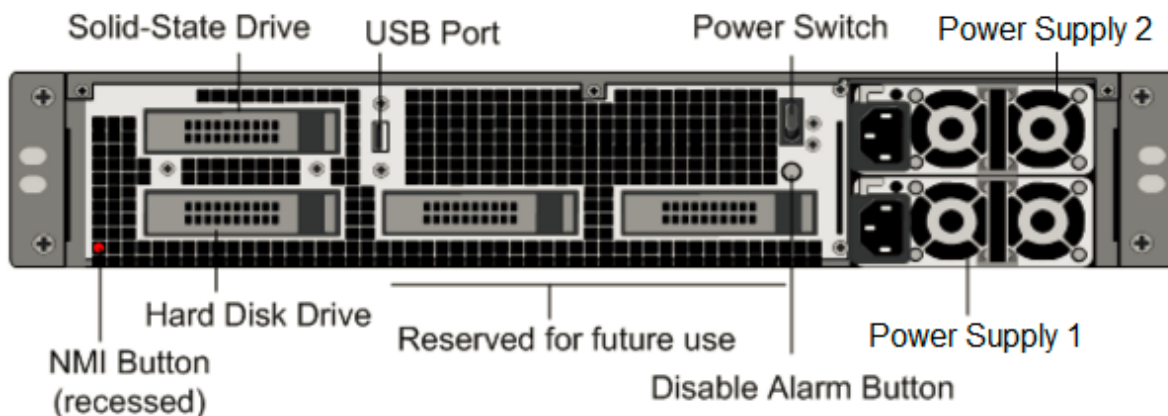


MPX 17500/19500/21500 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2つの10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。左から右に0/1と0/2の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 10 G SFP+ ポート8個に、10/1、10/2、10/3、および10/4の番号が付けられています。ポートには、左から右に10/5、10/6、10/7、および10/8という番号が付けられています。

次の図は、MPX 17500/19500/21500 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 17500/19500/21500 アプライアンス、背面パネル



MPX 17500/19500/21500 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 160 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押し、電源を切ります。
- テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成するマスク不可割り込み (NMI) ボタン。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- ユーザーデータを格納するリムーバブルハードディスクドライブ。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。
次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、110~220 ボルトです。最大消費電力は 500 ワットです。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 17550、MPX 19550、MPX 20550、MPX 21550

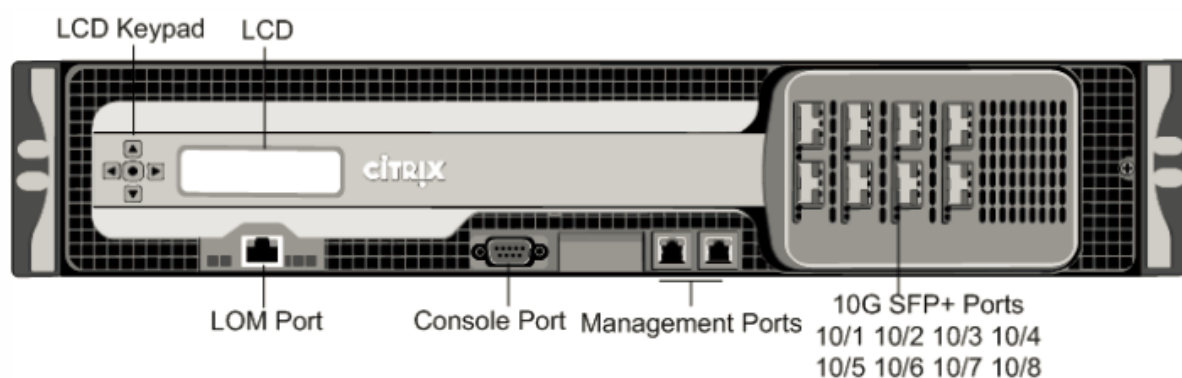
January 25, 2024

注: このプラットフォームは寿命に達しました。

NetScaler ADC モデルの MPX 17550、MPX 19550、MPX 20550、MPX 21550 は 2U アプライアンスである。各モデルには、合計 12 個の物理コア (ハイパースレッディング付きの 24 コア) と 96 GB のメモリ用の 6 コアのプロセッサが 2 つあります。

次の図は、MPX 17550/19550/20550/21550 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 17550/19550/20550/21550 アプライアンス、フロントパネル

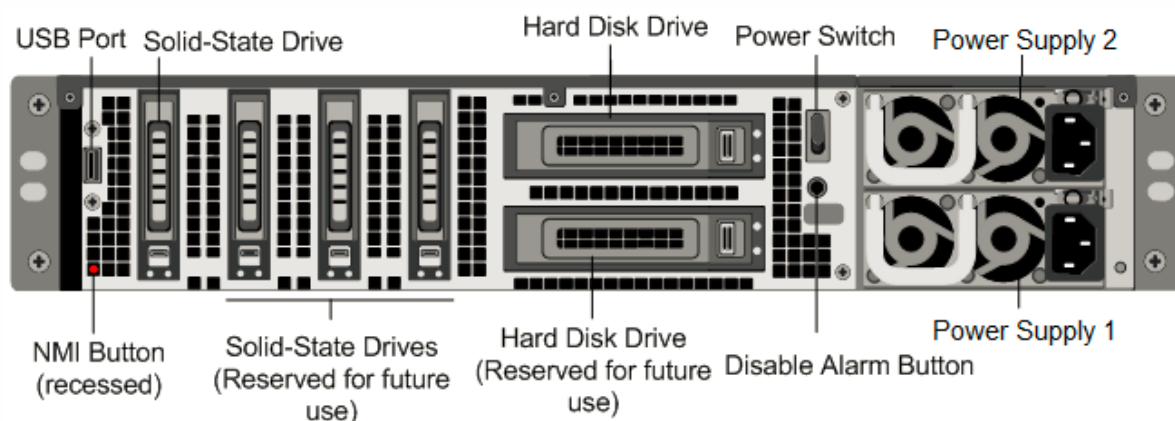


MPX 17550/19550/20550/21550 アプライアンスには、次のポートがあります。

- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
注: LOM ポートの LED は設計上動作しません。
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)。左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 10 G SFP+ ポート 8 個に、10/1、10/2、10/3、および 10/4 の番号が付けられています。ポートには、左から右に 10/5、10/6、10/7、および 10/8 という番号が付けられています。

次の図は、MPX 17550/19550/20550/21550 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 17550/19550/20550/21550 アプライアンス、背面パネル



MPX 17550/19550/20550/21550 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 160 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ。NetScaler ADC ソフトウェアの保存に使用されま
す。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズ
より小さくなることはありません。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押し
て、電源を切ります。
- テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成するマスク不可割り込み
(NMI) ボタン。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。こ
のボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- ユーザーデータを格納する 2 つのリムーバブルハードディスクドライブ
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合のみ機能します。
次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- 2 つの電源装置、各定格は 960 ワット、110~220 ボルトです。最大消費電力は 850 ワットです。標準的な消
費電力は 570 ワットです。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照し
てください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 22000

January 25, 2024

NetScaler

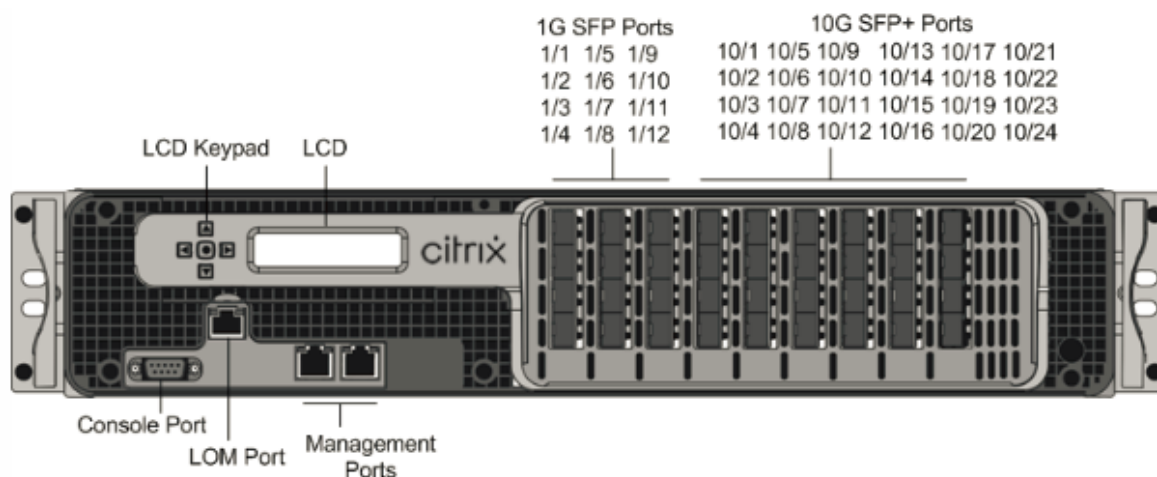
MPX 22040/22060/22080/22100/22120 は、2U アプライアンスです。各モデルは、2つの8コアプロセッサと256 GBのメモリを備えています。

MPX 22040/22060/22080/22100/22120 アプライアンスは、2つのポート構成で利用できます。

- 12個の1G SFPポートと24個の10G SFP+ポート (12x1G SFP+ 24x10G SFP+)
- 24個の10G SFP+ポート (24x10G SFP+)

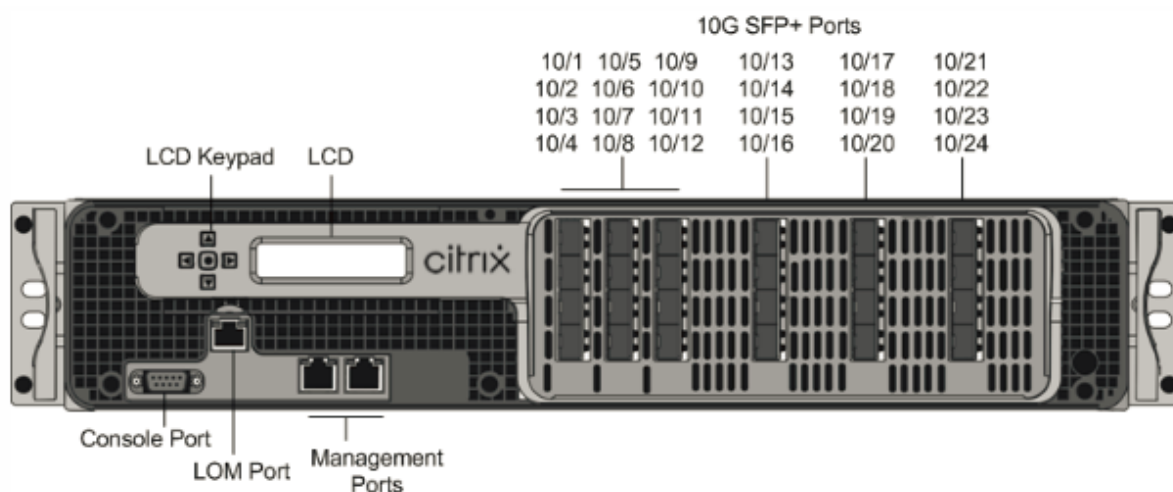
次の図は、MPX 22040/22060/22080/22100/22120 (12x1G SFP + 24x10G SFP+) アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 22040/22060/22080/22100/22120 (12x1G SFP+ 24x10G SFP+)、フロントパネル



次の図は、MPX 22040/22060/22080/22100/22120 (24x10G SFP+) アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 22040/22060/22080/22100/22120 (24x10G SFP+)、フロントパネル

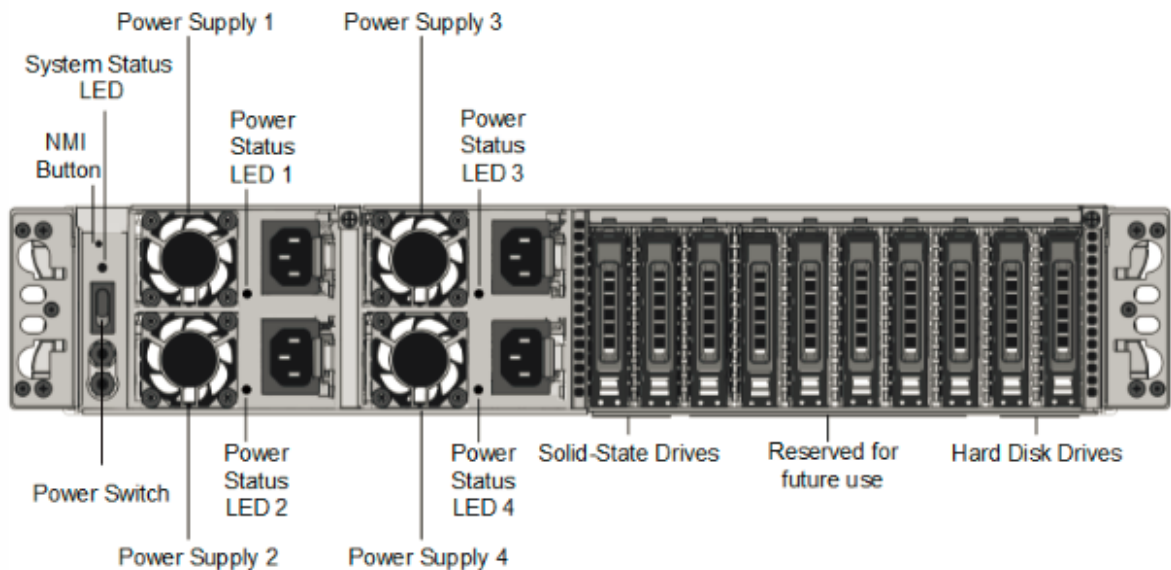


モデルに応じて、アプライアンスには次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート
 - MPX 22040/22060/22080/22100/22120 (12x1G SFP + 24x10G SFP+)。銅線またはファイバ 1G SFP ポート 12 個、10G SFP+ ポート 24 個。
 - MPX 22040/22060/22080/22100/22120 (24x10G SFP+)。24 個の 10G SFP+ ポート。

次の図に、MPX 22040/22060/22080/22100/22120 アプライアンスの背面パネルを示します。

図 3: NetScaler MPX 22040/22060/22080/22100/22120、背面パネル



MPX 22040/22060/22080/22100/22100/22120 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。詳細については、[アプライアンスのトピックの「ライトアウト管理ポート」](#) を参照してください。
- システムステータス LED。アプライアンスのステータスを示します。詳細については、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」を参照してください。

注: LOM ファームウェアバージョン 3.22 を実行している MPX 22040/22060/22080/22100/22120 アプライアンスでは、アプライアンスが正常に機能しているにもかかわらず、システムステータス LED がエラー (継続的に赤色に点灯する) を示します。

- 4つの電源装置、各定格は 750 ワット、100 ~240 ボルト。正常に動作するには、少なくとも 2 つの電源装置が必要です。余分な電源はバックアップとして機能します。各電源には、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 128 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ ×2
- ユーザーデータを格納するために使用される 500 GB 以上のリムーバブルハードディスクドライブ 1 台。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

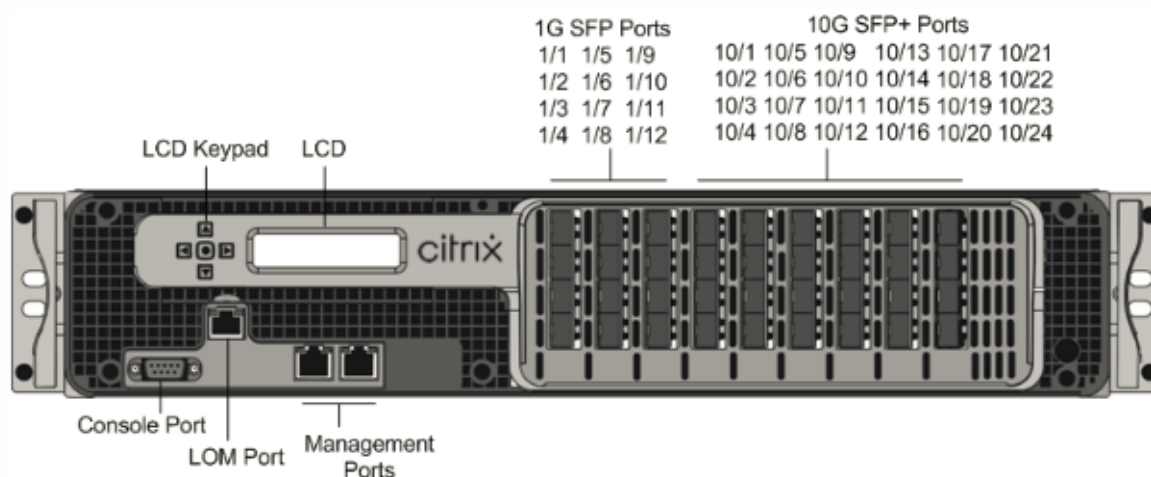
NetScaler MPX 24100

January 25, 2024

NetScaler MPX 24100/24150 は、2U アプライアンスです。各モデルは、2つの8コアプロセッサと256 GBのメモリを備えています。MPX 24100/24150 アプライアンスは、12個の1G SFPポート、および24個の10G SFP+ポート（12x1G SFP+ 24x10G SFP+）構成で利用できます。

次の図は、MPX 24100/24150（12x1G SFP + 24x10G SFP+）アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 24100/24150（12x1G SFP+ 24x10G SFP+）、フロントパネル

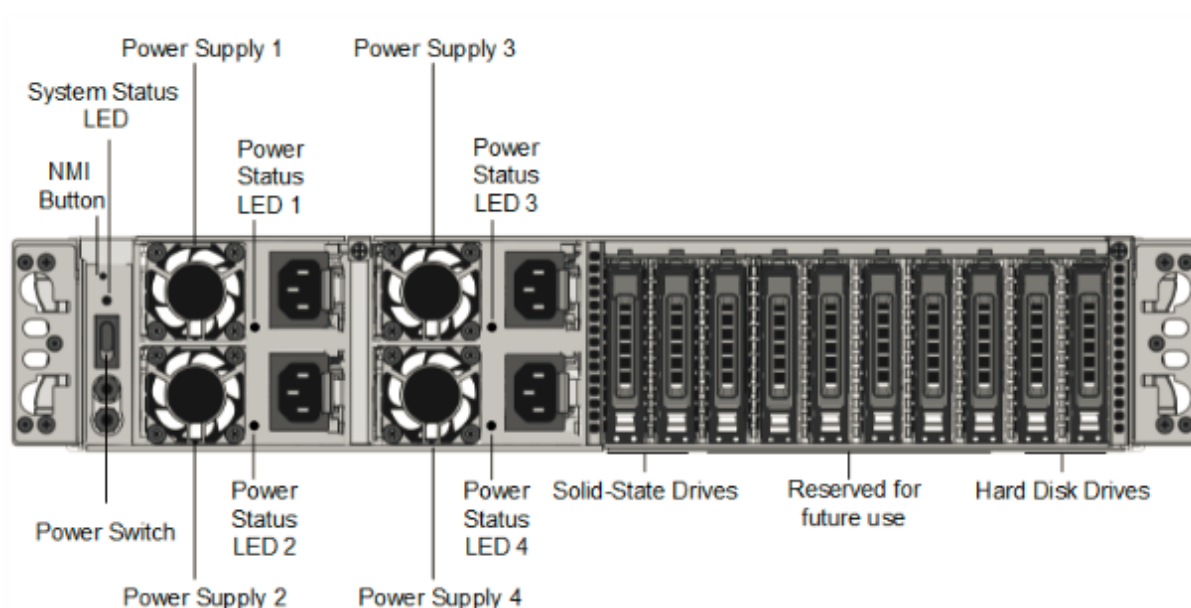


NetScaler MPX 24xxx アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート（RJ45）。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2つの10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート（RJ45）、左から右に0/1と0/2の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート。銅線またはファイバ 1G SFP ポート 12 個、10G SFP+ ポート 24 個。

次の図に、MPX 24100/24150 アプライアンスの背面パネルを示します。

図 2: NetScaler MPX 24100/24150、背面パネル



MPX 24xxx アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。
- システムステータス LED。アプライアンスのステータスを示します。詳細については、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」を参照してください。

注:

LOM ファームウェアバージョン 3.22 を実行している MPX 24100/24150 アプライアンスでは、アプライアンスが正常に機能しているにもかかわらず、システムステータス LED がエラー（継続的に赤色に点灯する）を示します。

- 4つの電源装置、各定格は 750 ワット、100 ~240 ボルト。正常に動作するには、少なくとも 2 つの電源装置が必要です。余分な電源はバックアップとして機能します。各電源には、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 2 秒未満押しして、電源を遮断します。
- 128 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ ×2
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- ユーザーデータを格納するために使用される 500 GB 以上のリムーバブルハードディスクドライブ 1 台。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

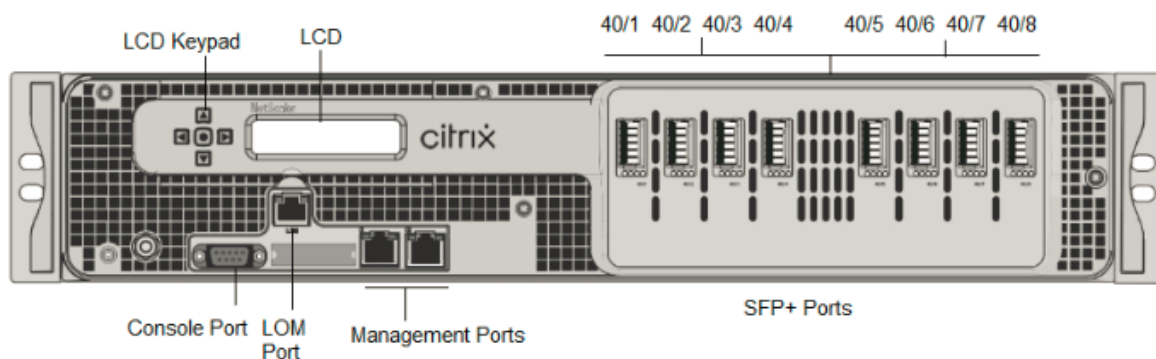
NetScaler MPX 25000A

January 25, 2024

NetScaler MPX 25100A、MPX 25160A、MPX 25200A は 2U アプライアンスです。各モデルは、2 つの 8 コアプロセッサ、256 GB のメモリ、8 つの 40G QSFP+ ポート (8x40G QSFP+) を備えています。

MPX 25100A、MPX 25160A、および MPX 25200A アプライアンスのフロントパネルには、(8x40G QSFP+) ポート構成があります。

図 1: NetScaler MPX 25100A、MPX 25160A、および MPX 25200A、フロントパネル

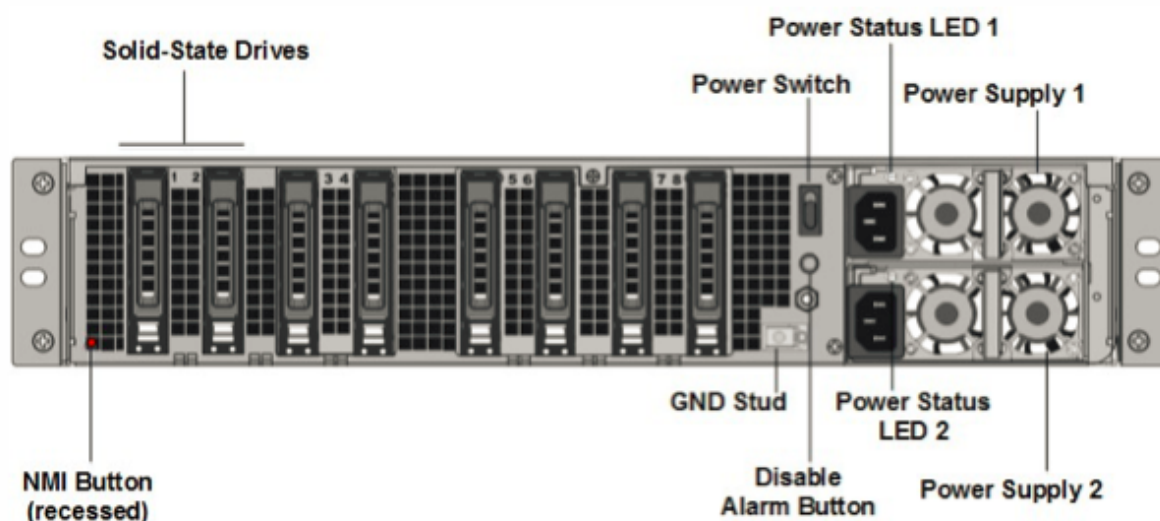


NetScaler MPX 25100A、MPX 25160A、MPX 25200A アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- ネットワークポート、8 つの 40G QSFP+ ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

注: 40G ポートは 10G および 1G トランシーバをサポートしていません。

次の図は、MPX 25100A、MPX 25160A、および MPX 25200A アプライアンスの背面パネルを示しています。



MPX 25100A、MPX 25160A、および MPX 25200A の背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立ディスク (RAID) デバイスの冗長アレイ内の 300 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。このスイッチは、アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各電源装置の定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源には、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。アプライアンスを 1 つの電源コンセントだけに接続した場合、または 1 つの電源装置が故障して修理されるまでアプライアンスの動作を継続する場合は、このボタンを押して、電源アラームが鳴らないようにします。
- ノンマスカブル割り込み (NMI) ボタン。このボタンは、テクニカルサポートの要請により、コアダンプを開始するために使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 25100T

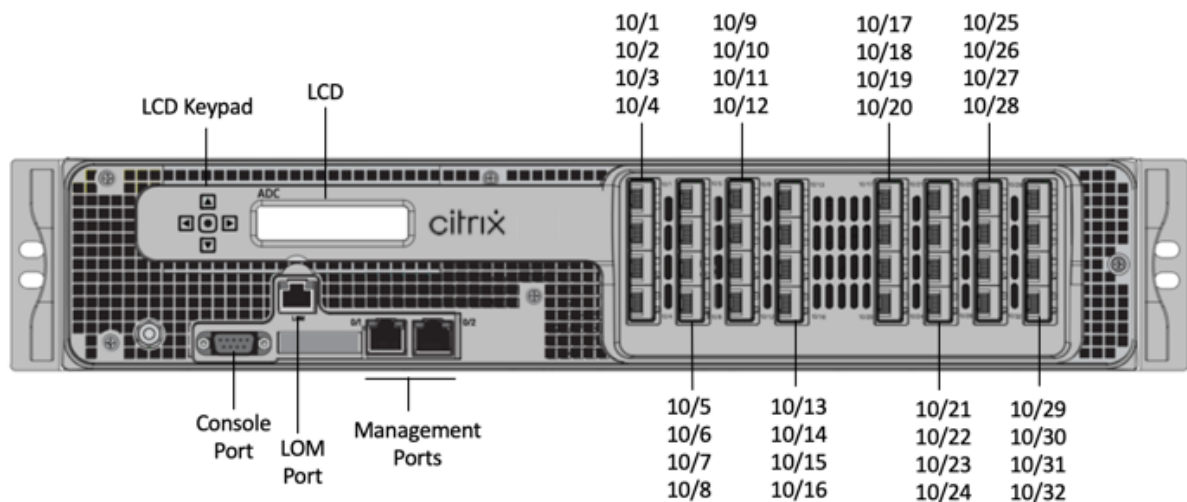
January 25, 2024

NetScaler MPX 25100T および 25160T は 2U アプライアンスです。各モデルは、2つの 10 コアプロセッサと 128 GB のメモリを備えています。MPX 25100T/25160T アプライアンスは、32 個の 10G SFP+ ポート (32x10G SFP+) 構成で利用できます。

注: MPX 25000T アプライアンスは、RAID (独立ディスクの冗長アレイ) デバイスではありません。

次の図は、MPX 25100T/25160T (32x10G SFP+) アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 25100T/25160T (32x10G SFP+)、フロントパネル



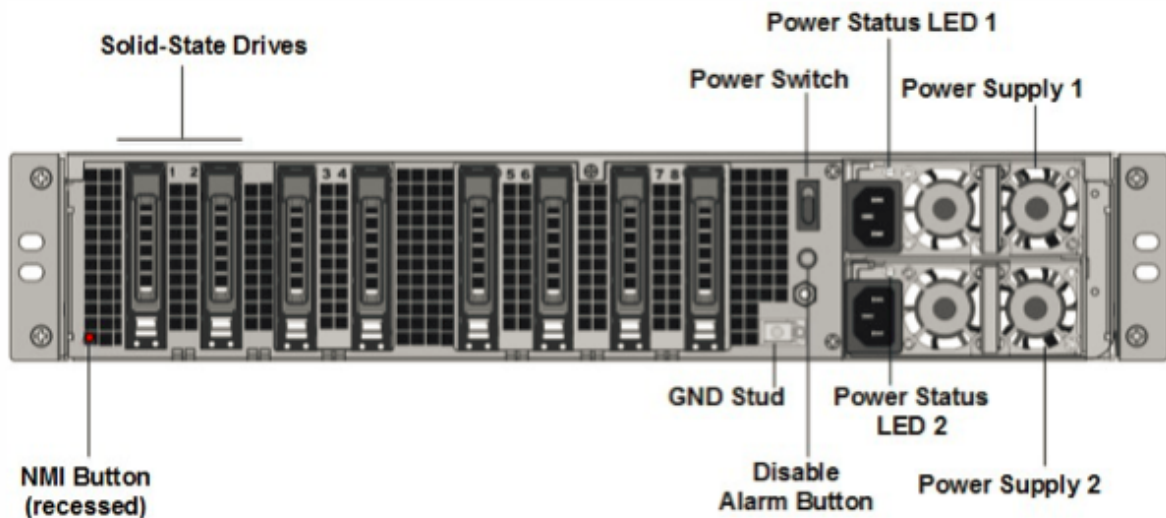
モデルに応じて、アプライアンスには次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート、32 個の 10G SFP+ ポート (32x10G SFP+)。

注: これらのアプライアンスの 10G SFP+ ポートは、銅線 1G SFP トランシーバをサポートしています。

次の図は、MPX 25100T/25160T アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 25100T/25160T、背面パネル



MPX 25100T/25160T アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 300 GB 以上の取り外し可能なソリッドステートドライブ 1 台
 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。最大消費電力は 717 W です。標準的な消費電力は 594 W です。各電源装置には、「一般的なハードウェアコンポーネント」で説明されているように、電源装置のステータスを示す LED があります。
- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。
 次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しくは、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

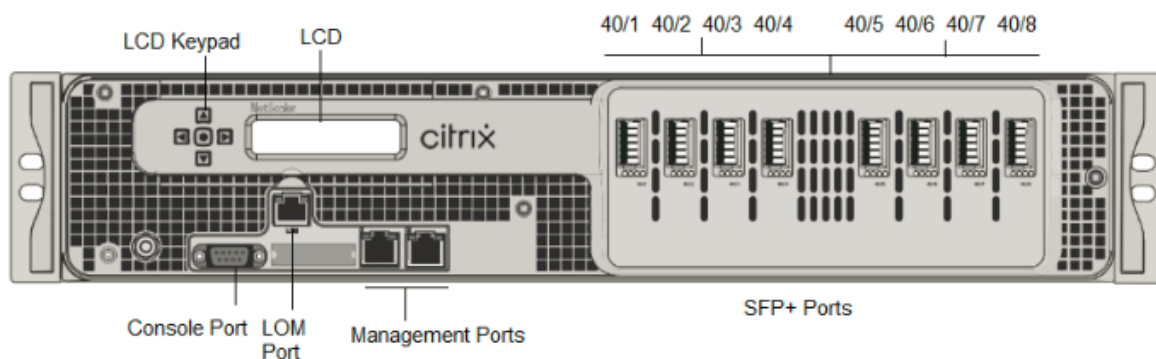
NetScaler MPX 2500TA

January 25, 2024

NetScaler MPX 25100TA、MPX 25160TA、MPX 25200TA は 2U アプライアンスです。各モデルには、2 つの 8 コアプロセッサ、128 GB のメモリ、8X40GE (QSFP+) ポートがあります。

MPX 25100TA、MPX 25160TA、および MPX 25200TA の前面パネルには、(8X40GE QSFP+) ポートがあります。

図 1: NetScaler MPX 25100TA、MPX 25160TA、および MPX 25200TA、フロントパネル



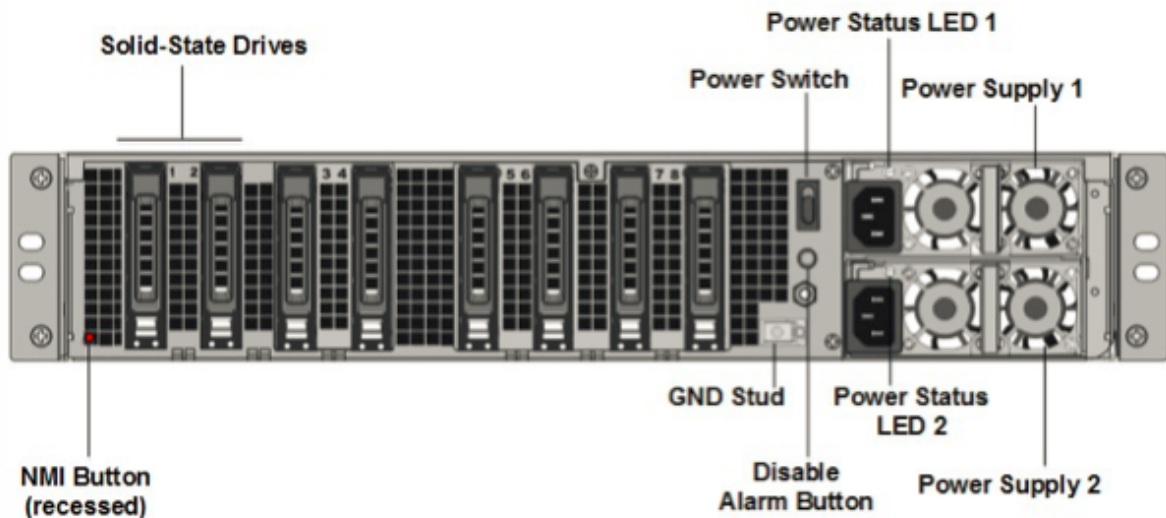
NetScaler MPX 25100TA、MPX 25160TA、および MPX 25200TA アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2 つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート、8 X 40GE QSFP+ ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

MPX 25100TA アプライアンスのネットワークポートに関して、次の点に注意してください。

- 10G ポートは、1G 銅線または 1G ファイバートランシーバをサポートしません。
- 40G ポートは、10G および 1G トランシーバをサポートしません。

図 2: NetScaler MPX 25100TA、MPX 25160TA、背面パネル。



MPX 25100TA、MPX 25160TA、および MPX 25200TA アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立ディスク (RAID) デバイスの冗長アレイ内の 300 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 1 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。最大消費電力は 717 W です。標準的な消費電力は 594 W です。各電源装置には、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源装置のステータスを示す LED があります。
- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。次の条件のいずれかに当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ接続している
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

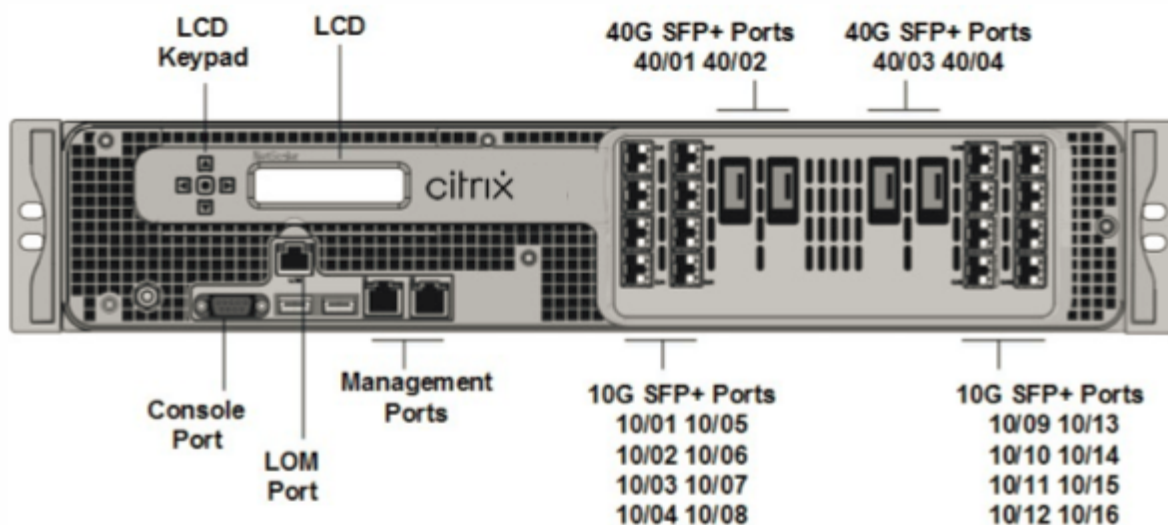
NetScaler MPX 25000-40G

January 25, 2024

NetScaler MPX 25000-40G は 2U アプライアンスです。各モデルには、2 つの 10 コアプロセッサ、256 GB のメモリ、4 つの 40G QSFP+ ポート、16 個の 10G SFP+ ポート (4x40G QSFP+ 16x10G SFP+) が搭載されています。

次の図は、MPX 25100/MPX 25160/25200 40G アプライアンスの前面パネルを示しています。

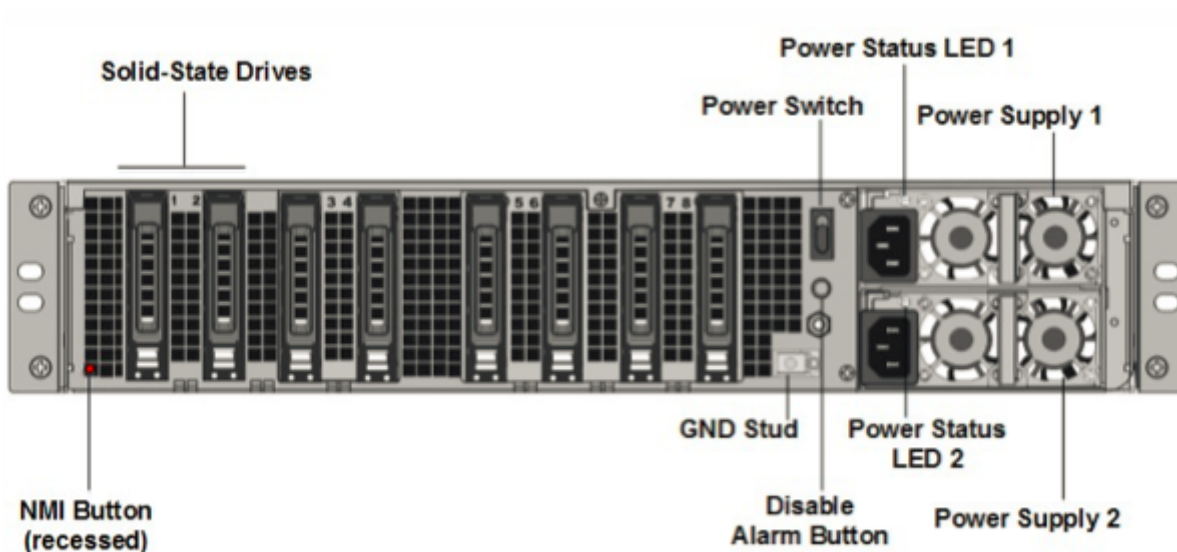
図 1: NetScaler MPX 25100 40G、MPX 25160 40G、MPX 25200 40G、フロントパネル



- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- ネットワークポート。4 つの 40G QSFP+ ポートと 16 個の 10G SFP+ ポート (4x40G QSFP+、4x10G SFP+、4x10G ベース-T)。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。
- USB ポート (将来のリリース用に予約)。

MPX 25100 40G および MPX 25160 40G アプライアンスのネットワークポートに関して、次の点に注意してください。

- 10G ポートは、1G 銅線または 1G ファイバトランシーバをサポートしません。
- 40G ポートは、10G および 1G トランシーバをサポートしません。



MPX 25100/25160/25200 40G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立ディスク (RAID) デバイスの冗長アレイ内の 300 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが **EOL** になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

電源スイッチこのスイッチは、アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押して、電源を遮断します。

- 2 つの電源装置。
各電源装置の定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源には、「[一般的なハードウェアコンポーネント](#)」で説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。次の条件のいずれかに当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスの管理ポートが消灯する](#)」トピックを参照してください。
- マスク不可割り込み (NMI)
ボタンこのボタンは、テクニカルサポートの要請に応じて、コアダンプを開始するために使用されます。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモ

ートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスの管理ポートの消灯](#)」トピックを参照してください。

NetScaler MPX 26000

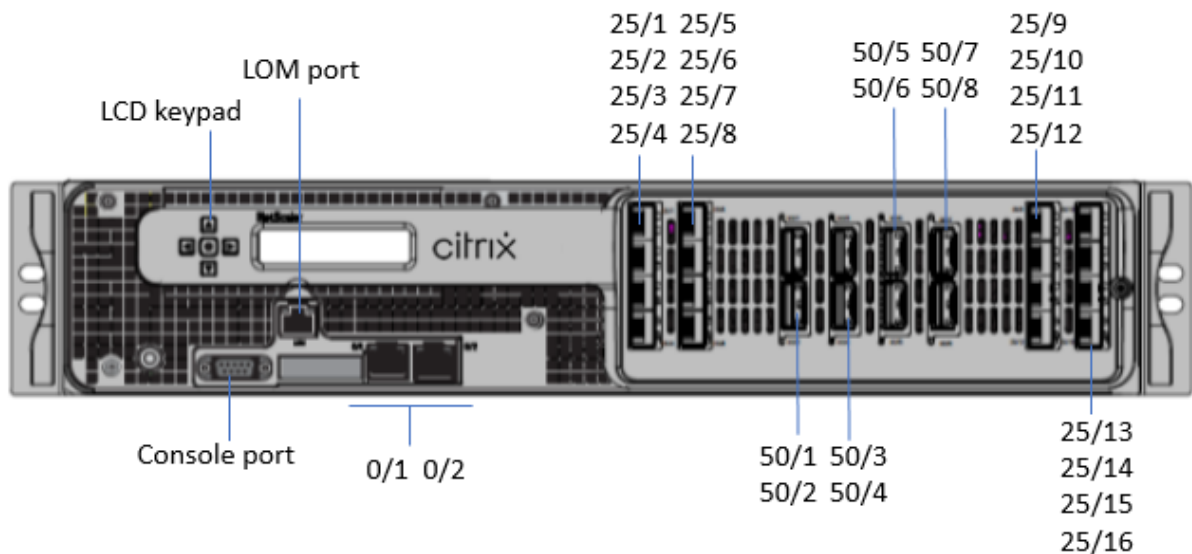
January 25, 2024

NetScaler MPX 26100/26160/26200 アプライアンスは、2U アプライアンスです。これらのアプライアンスには、2つの14コアプロセッサと256GBのメモリが搭載されています。アプライアンスには、8つの50Gネットワークポートと16個の25Gネットワークポートがあります。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについては、「[NetScaler MPX ハードウェアソフトウェア互換性マトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、NetScaler MPX 26000 アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 26000、フロントパネル

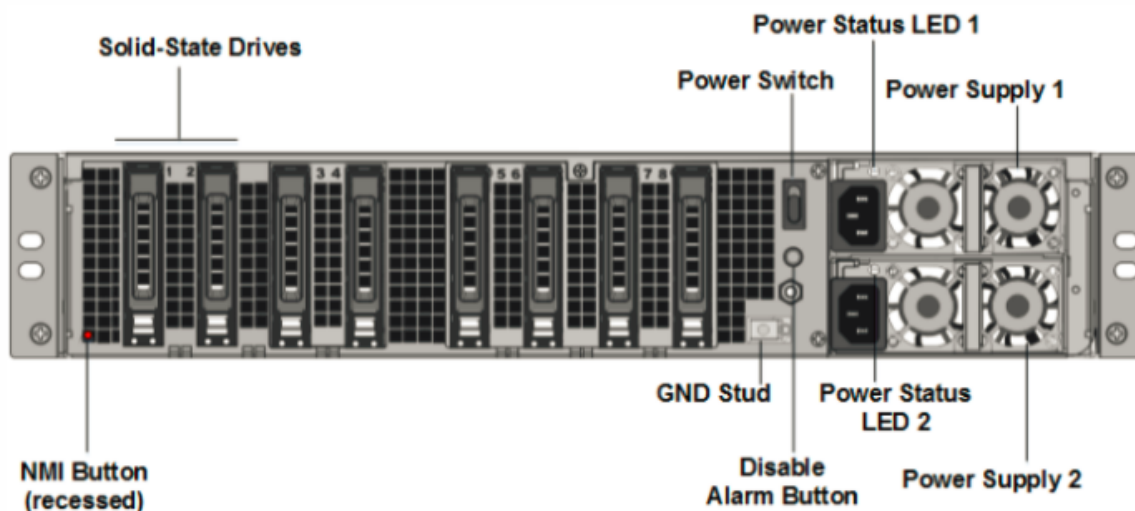


NetScaler MPX 26000 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2つの10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート (0/1 および 0/2 の番号付き) これらのポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 8つの50Gポート、50/1 から 50/8 までの番号が付いています。
- 25/1 ~25/16 の番号が付いた16個の25Gポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図は、MPX 26000 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 26000、背面パネル



NetScaler MPX 26000 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID) 構成の冗長アレイ内の 480 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押し、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し、強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC、1000 W 電源モジュール 2 個。最大消費電力は 672 W です。標準的な消費電力は 540 W です。各電源装置には、次のような状態を示す LED があります。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。

LED カラー	LED が示す状態
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告 (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン)、OVP = 過電圧保護、UVP = 低電圧保護、OCP = 過電流保護、OTP = 過温度保護

- アラームボタンを無効にします。2つの電源装置の1つが入力電力を失ったとき、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可) 割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 26000-50S

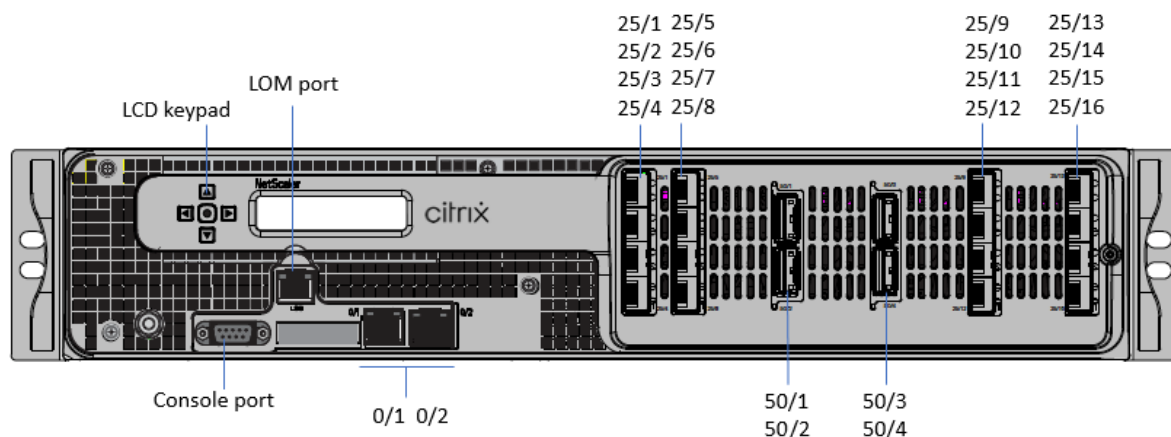
January 25, 2024

NetScaler MPX 26000-50S アプライアンスは、2U アプライアンスです。これらのアプライアンスには、2つの14コアプロセッサと256 GBのメモリが搭載されています。アプライアンスには、4つの50Gおよび16の25Gネットワークポートがあります。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについては、「[NetScaler MPX ハードウェアソフトウェア互換性マトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、NetScaler MPX 26000-50S アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 26000-50S、フロントパネル

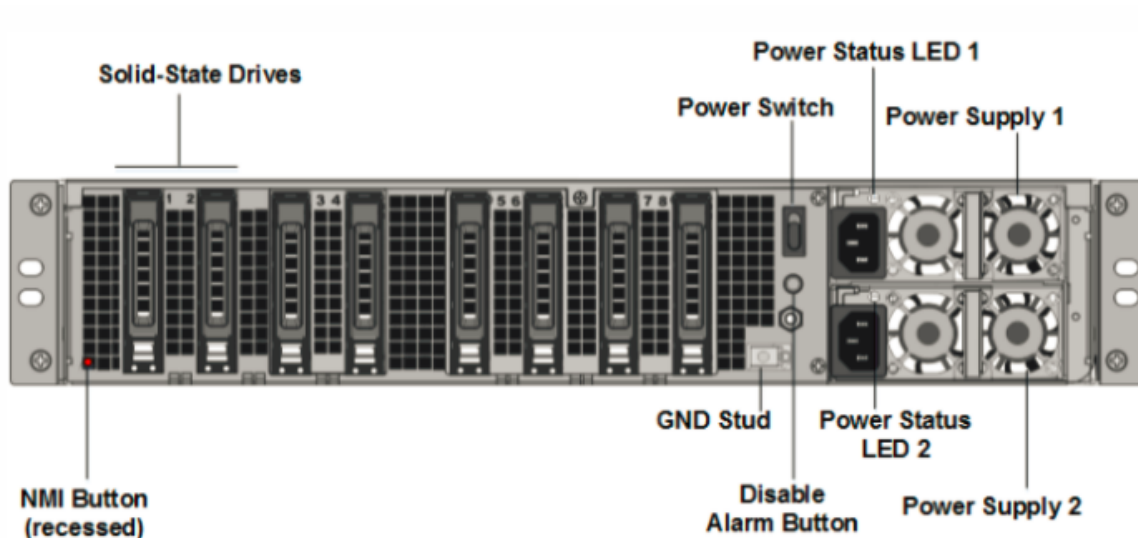


NetScaler MPX 26000-50S アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート (0/1 および 0/2 の番号付き) これらのポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 50G ポート 4 個、50/1 から 50/4 までの番号が付けられています。
- 25/1 ~25/16 の番号が付いた 16 個の 25G ポート。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

次の図に、MPX 26000-50S アプライアンスの背面パネルを示します。

図 2: NetScaler MPX 26000-50S、背面パネル



NetScaler MPX 26000-50S アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID) 構成の冗長アレイ内の 480 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります。そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押しして、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押しして強制的に電源を切ります。

- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC、1200 W 電源モジュール ×2 最大消費電力は 764 W です。標準的な消費電力は 628 W です。各電源装置には、その状態を示す LED があります。

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。
赤と緑で点滅	警告; (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン); OVP = 過電圧保護; UVP = 低電圧保護; OCP = 過電流保護; OTP = 過温度保護; OTP = 過温度保護

- アラームボタンを無効にします。2つの電源装置の1つが入力電力を失ったとき、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可) 割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

NetScaler MPX 26000-100G

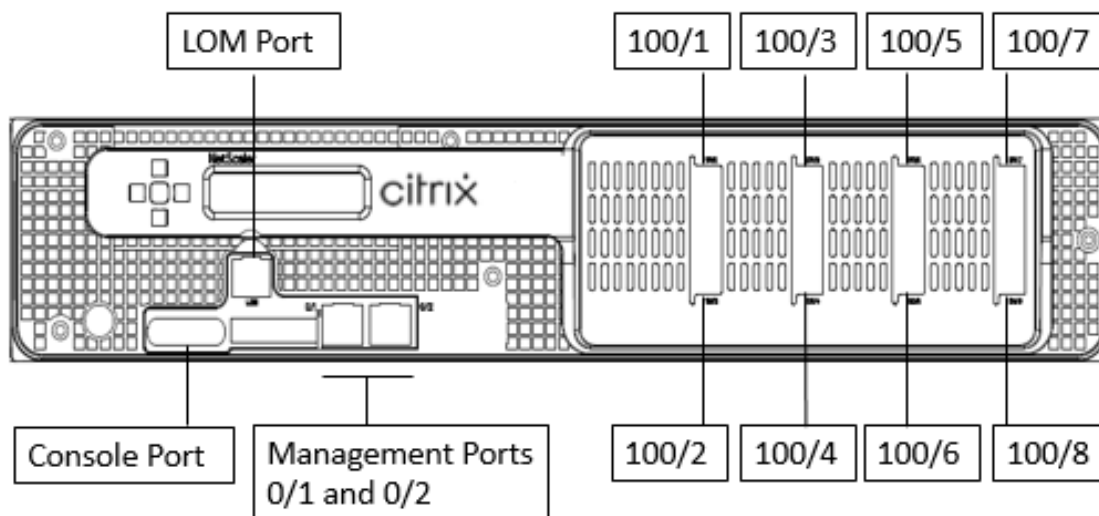
January 25, 2024

NetScaler MPX 26000-100G および MPX 26000T-100G アプライアンスは、2U アプライアンスです。これらのアプライアンスには、2つの 14 コアプロセッサと 256 GB のメモリが搭載されています。このアプライアンスは、合計 8 個のネットワークポートを備えています。4 枚のカードとデュアル 100G SFP+ イーサネットポートを備えています。

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームでサポートされているソフトウェアリリースについては、「[NetScaler MPX ハードウェアソフトウェア互換性マトリックス](#)」を参照してください。

次の図は、NetScaler MPX 26000-100G および NetScaler ADC MPX 26000T-100G アプライアンスのフロントパネルを示しています。

図 1: NetScaler MPX 26000-100G および NetScaler ADC MPX 26000T-100G、フロントパネル



NetScaler MPX 26000-100G および NetScaler ADC MPX 26000T-100G アプライアンスには、次のポートがあります。

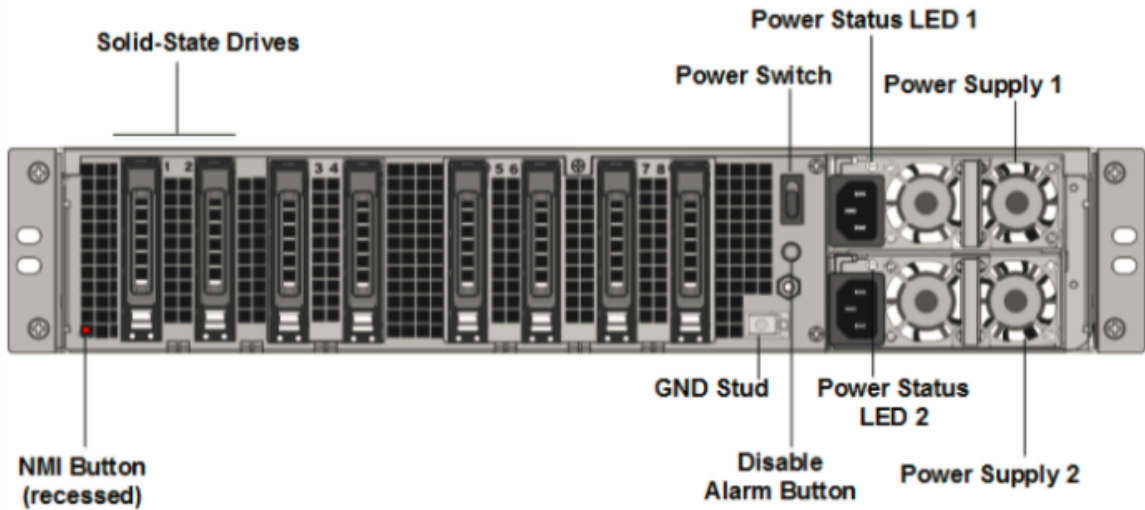
- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット LOM ポート 1 つ。このポートを使用して、NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理します。
- 2 つの 10/100/1000Base-T RJ45 銅線イーサネット管理ポート (0/1 および 0/2 の番号付き) これらのポートは、NetScaler ADC 管理機能用のアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- 100G イーサネットポート ×8、100/1 から 100/8 までの番号付き。ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

注:

26000-100G にはネイティブ 10G ポートはありません。100G ポートは、ネイティブの 40G/50G/100G トランシーバ、DAC、および AOC をサポートします。ネイティブの 10G および 25G トランシーバ、DAC および AOC をサポートするには、SFP+-QSFP+ アダプタを使用します。

次の図は、NetScaler MPX 26000-100G および NetScaler ADC MPX 26000T-100G アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler MPX 26000-100G および NetScaler ADC MPX 26000T-100G、背面パネル



NetScaler MPX 26000-100G および NetScaler ADC MPX 26000T-100G アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 独立したディスク (RAID) 構成の冗長アレイ内の 480 GB 以上のリムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。RAID 構成では、同じデータを複数のドライブに保存することで、パフォーマンスを向上させ、ストレージ容量を増やし、データ損失のリスクを軽減し、フォールトトレランスを実現します。2 つの SSD は同じデータを格納します。片方が故障して交換すると、新しい SSD は他の SSD にミラーリングされます。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。
 - OS が機能している場合は、スイッチを 2 秒未満押し、正常なシャットダウンでシステムの電源を切断します。
 - OS が応答しない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し、強制的に電源を切ります。
- ホットスワップ可能な 100 ~240 VAC 入力電源モジュール 2 個各電源装置には、その状態を示す LED があります:

LED カラー	LED が示す状態
オフ	アプライアンスの電源装置に電力が供給されていません。
赤に点滅	この電源装置に電力が供給されていません。
緑に点滅	電源装置はスタンバイモードです。
緑	電源は機能している。
赤	電源装置の障害。

LED カラー	LED が示す状態
赤と緑で点滅	警告; (OVP/uVP/OCP/OTP/ファン); OVP = 過電圧保護; UVP = 低電圧保護; OCP = 過電流保護; OTP = 過温度保護

- アラームボタンを無効にします。2つの電源装置の1つが入力電力を失ったとき、または電源装置が故障した場合に、電源アラームを消音するには、このボタンを押します。
- NMI (マスク不可) 割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートの詳細については、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

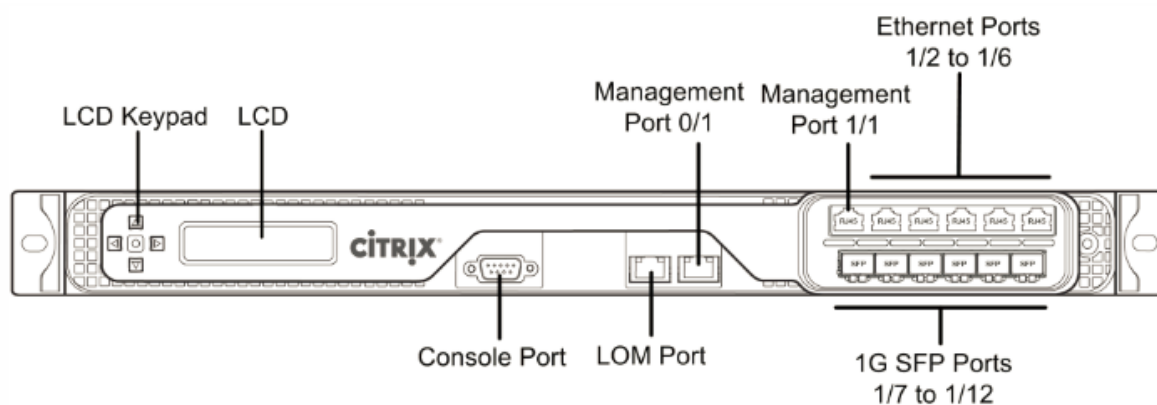
NetScaler T1010

January 25, 2024

NetScaler T1010 は、シングルコアプロセッサを搭載した 1U アプライアンスで、32GB のメモリを備えています。

次の図に、T1010 アプライアンスの前面パネルを示します。

図 1: NetScaler T1010 フロントパネル



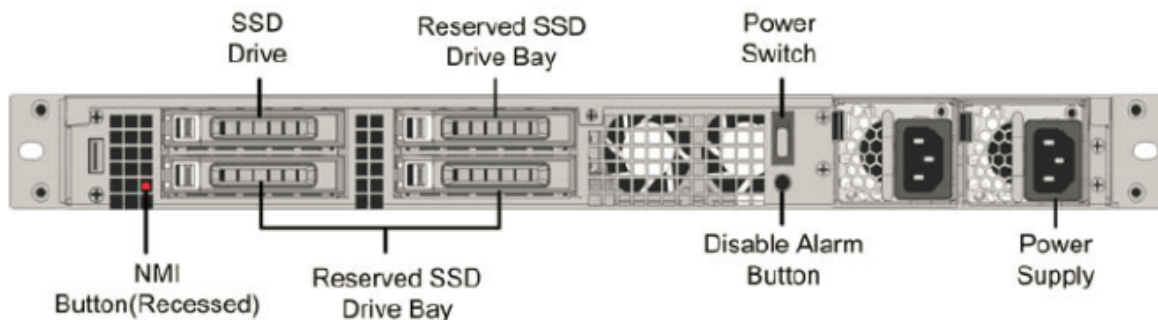
T1010 アプライアンスには次のポートがあります。

- 6つの 1000BASE-X SFP データプレーンポート
- 1 GB RJ-45 データプレーンポート ×5
- 10/100/1000BASE-T、RJ45 管理プレーンポート ×2

- 10/100BASE-T、RJ-45 ライトアウト管理（LOM）ポート×1

次の図に、T1010 アプライアンスの背面パネルを示します。

図 2: NetScaler T1010 背面パネル



T1010 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 256 GB 以上の取り外し可能なソリッドステートドライブ 1 台
 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- マスク不可割り込み（NMI）ボタン。テクニカルサポートの要請により、NetScaler ADC コアダンプを生成するために使用されます。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押し、電源を切ります。
- アラームボタンを無効にする。これは機能しません。このボタンは、2 台目の電源装置を取り付けた場合にのみ機能します。
- 次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- 単一電源、定格 450 ワット、110~220 ボルト。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

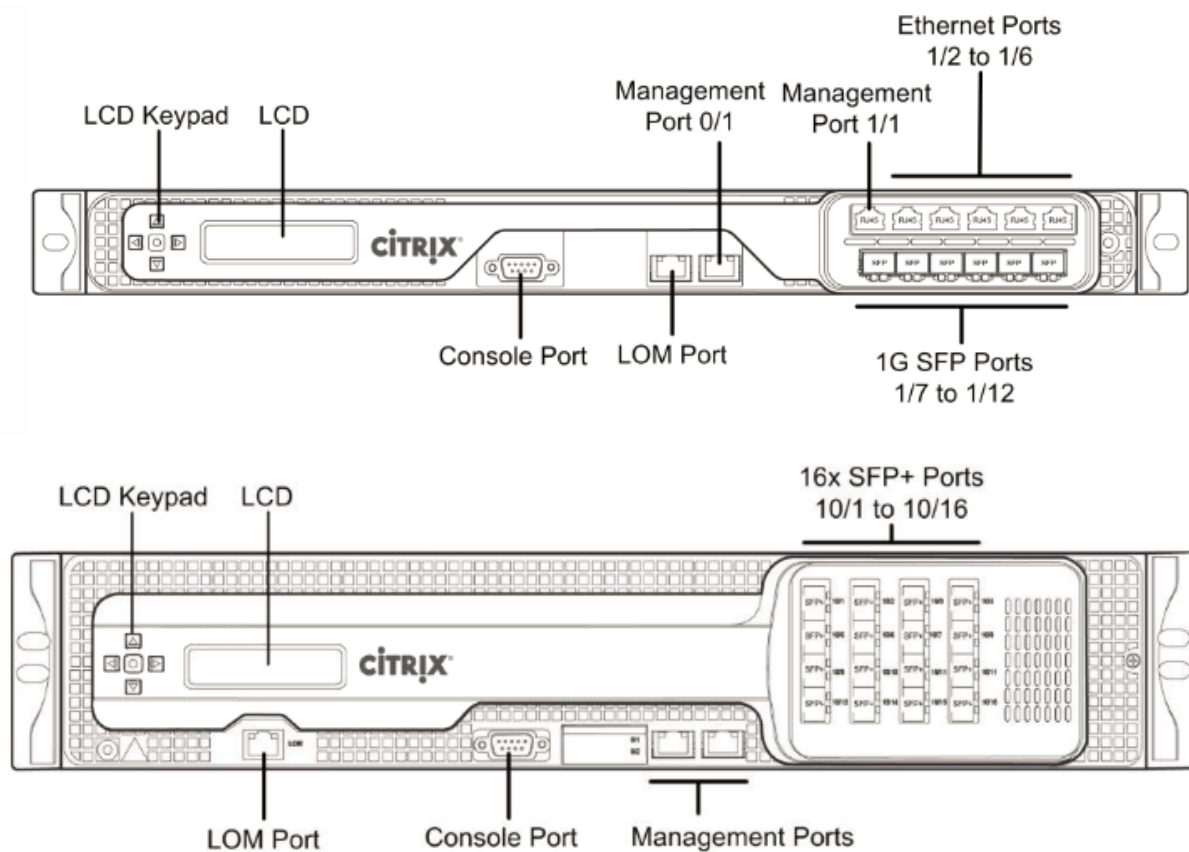
NetScaler T1100

January 25, 2024

NetScaler T1100 は、デュアルコアプロセッサと 42 GB のメモリを搭載した 2U アプライアンスです。

次の図は、T1100 (Gen1) および T1100 (16) の 2 つのモデル T1100 アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler T1100 (Gen1) および T1100 (16) フロントパネル

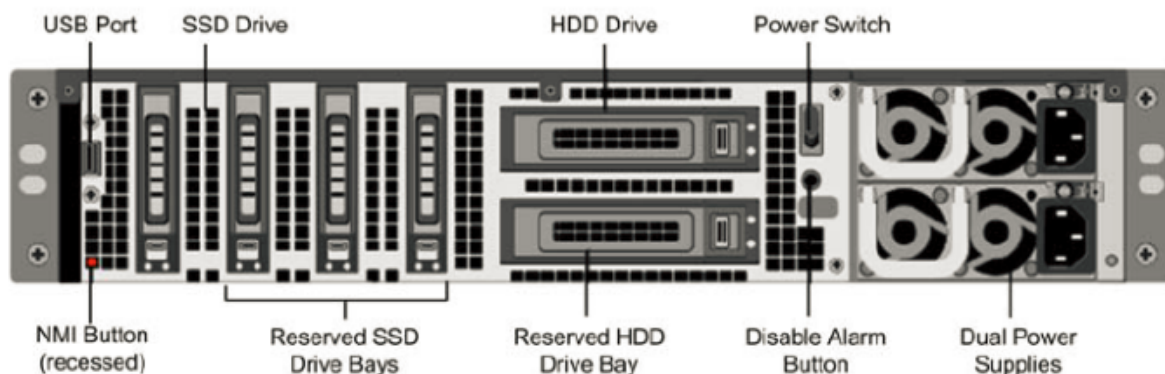


T1100 アプライアンスには、次のポートがあります。

- 8 つの 10GBASE-X SFP+ データプレーンポート [T1100 (Gen1)]
- 16 10GBASE-X SFP+ データプレーンポート [T1100 (16)]
- 10/100/1000BASE-T、RJ45 管理プレーンポート ×2
- 10/100BASE-T、RJ-45 LOM ポート ×1

次の図に、T1100 の背面パネルを示します。

図 2: NetScaler T1100 背面パネル



T1100 の背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- USB ポート (将来のリリース用に予約)。
- 160 GB リムーバブルソリッドステートドライブ。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- ユーザーデータを格納するリムーバブルハードディスクドライブ。
- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 5 秒間押し、電源を切ります。
- テクニカルサポートの要請に応じて使用され、アプライアンス上でコアダンプを生成するマスク不可割り込み (NMI) ボタン。ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用して、この赤いボタンを押します。このボタンは、意図しない起動を防ぐためにくぼんだ状態になっています。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- デュアル電源装置、各定格 650 ワット、110~220 ボルトです。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

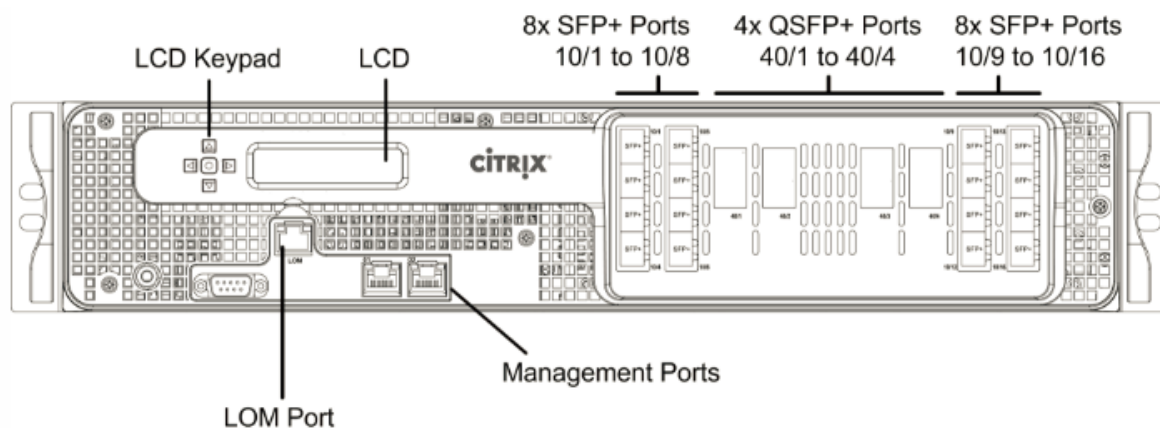
NetScaler T1120

January 25, 2024

NetScaler T1120 アプライアンスは、デュアルコアプロセッサと 128 GB のメモリを備えた 2U アプライアンスです。

次の図は、T1120 アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler T1120 アプライアンスのフロントパネル

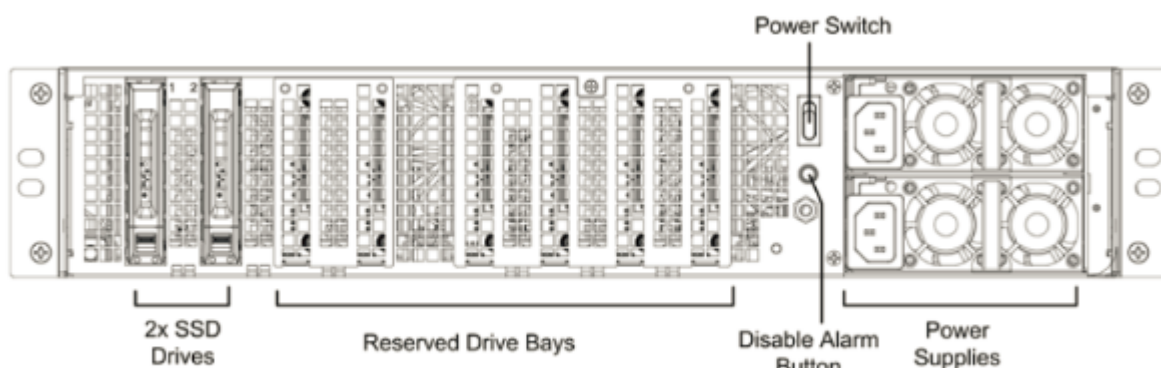


T1120 アプライアンスには、次のポートがあります。

- 40G QSFP+ ポート ×4
- 16 個の 10GBASE-X SFP+ ポート
- 10/100/1000BASE-T、RJ45 ポート ×2
- 10/100BASE-T RJ-45 LOM ポート ×1

次の図は、T1120 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler T1120 背面パネル



T1120 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 240 GB リムーバブルソリッドステートドライブ。

注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- 電源スイッチ。電源装置を取り外すかのように、アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- アラームボタンを無効にします。このボタンは、アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源装置には、電源装置の状態を示す LED があります。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期設定については、「[初期設定](#)」を参照してください。

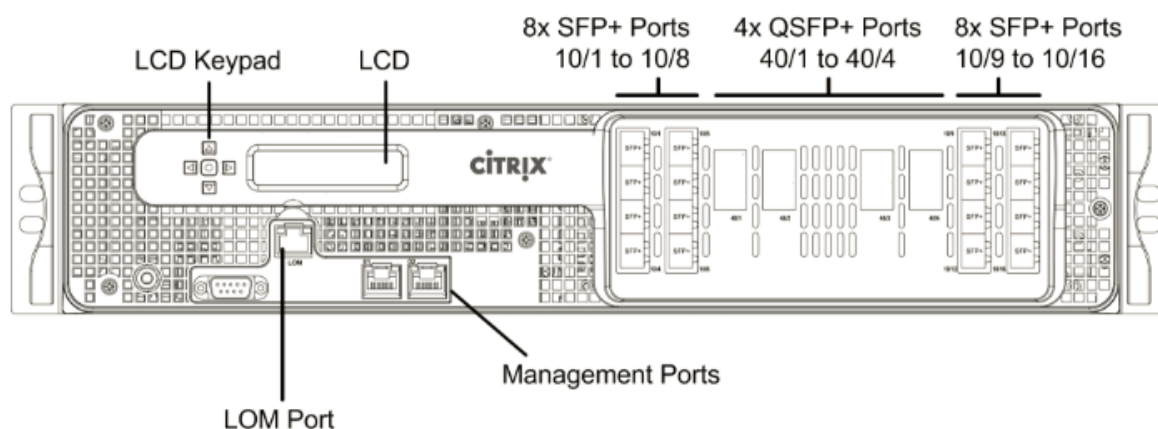
NetScaler T1200

January 25, 2024

NetScaler T1200 は、デュアルコアプロセッサと 256 GB のメモリを備えた 2U アプライアンスです。

次の図は、T1200 アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler T1200 フロントパネル

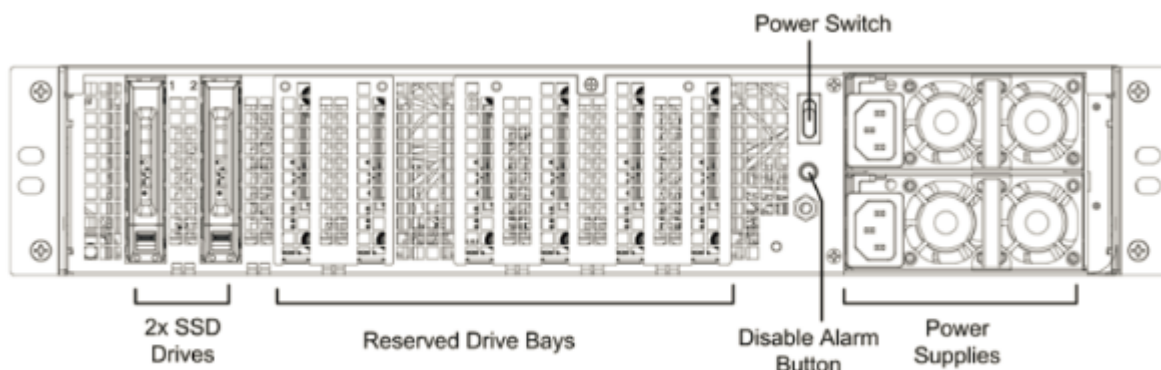


T1200 アプライアンスには、次のポートがあります。

- 24 10GBASE-X SFP+ データプレーンポート
- 12 1000BASE-X SFP データプレーンポート
- 10/100/1000BASE-T、RJ45 管理ポート ×2
- 10/100BASE-T、RJ-45 LOM ポート ×1

次の図に、T1200 アプライアンスの背面パネルを示します。

図 2: NetScaler T1200 背面パネル



T1200 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- LCD ディスプレイと LED ステータスインジケータの説明に従って、アプライアンスのステータスを示すシステムステータス LED。
 - 4つの電源装置、各定格は 750 ワット、100 ~240 ボルト。正常に動作するには、少なくとも 2 つの電源装置が必要です。余分な電源はバックアップとして機能します。各電源装置には、LCD ディスプレイと LED ステータスインジケータの説明に従って、電源装置のステータスを示す LED があります。
 - 電源スイッチ。アプライアンスへの電源を切ります。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
 - 256 GB リムーバブルソリッドステートドライブ ×2
- 注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。

- ユーザーデータを格納するために使用される 2 つの 1 TB リムーバブルハードディスクドライブ。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

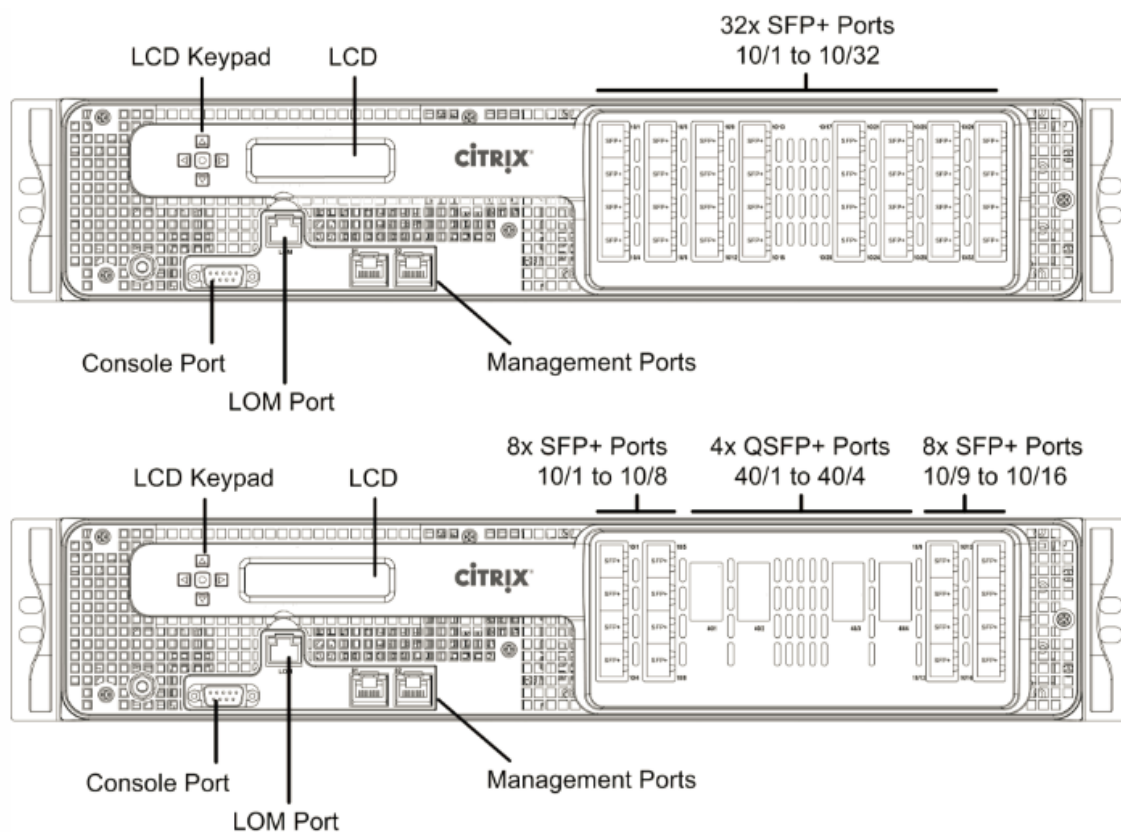
NetScaler T1300

January 25, 2024

NetScaler T1300 は、デュアルコアプロセッサと 128 GB のメモリを備えた 2U アプライアンスです。

次の図は、T1300-10GE および T1300-40GE アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler T1300-10GE および T1300-40GE フロントパネル

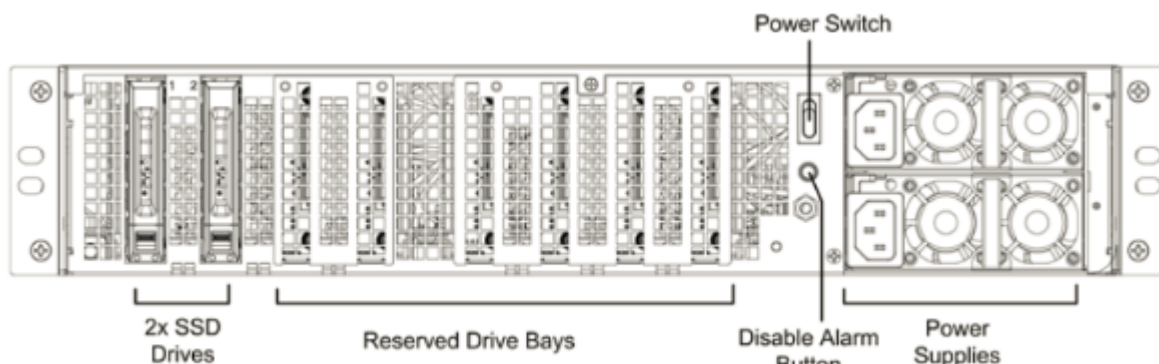


T1300 アプライアンスには、次のポートがあります。

- 10/100/1000BASE-T、RJ45 管理プレーンポート ×2
- 10/100BASE-T、RJ-45 LOM ポート ×1
- 32 10GBASE-X SFP+ データプレーンポート (T1300-10GE)
- 4 つの 40G QSFP+ データプレーンポート (T1300-40GE)
- 16 10GBASE-X SFP+ データプレーンポート (T1300-40GE)

次の図は、T1300 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler T1300 背面パネル



T1300 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- T1300-10GE アプライアンスに 300 GB リムーバブルソリッドステートドライブ 1 台、T1300-40GE アプライアンスに 300 GB リムーバブルソリッドステートドライブ 2 台。

注: コンポーネントが EOL になると、ドライブの密度は増加しますが、そのサイズは元のサイズよりも小さくなります。

- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。
- ** アラームボタンを無効にする **。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。次の条件のいずれかに当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
- アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
- 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

NetScaler T1310

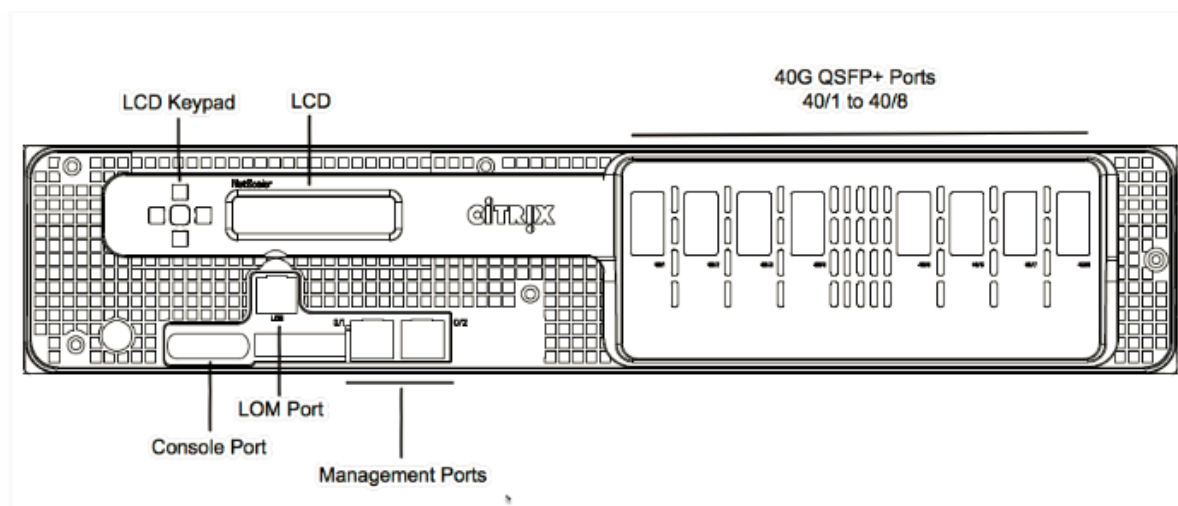
January 25, 2024

NetScaler T1310 は 2U アプライアンスです。これは、2 つの 10 コアプロセッサと 256 GB のメモリを備えています。T1310 アプライアンスは、8 つの 40G QSFP+ ポート (8x40G QSFP+) 構成で使用できます。

注: T1310 アプライアンスは RAID デバイスではありません。

次の図は、T1310 アプライアンスの前面パネルを示しています。

図 1: NetScaler T1310 フロントパネル



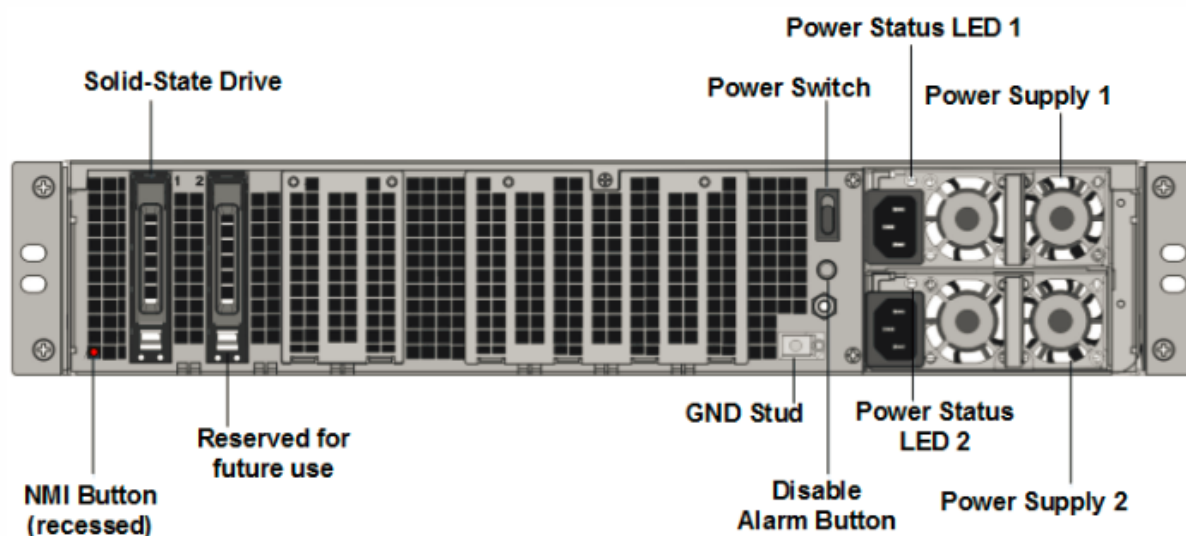
T1310 アプライアンスには、次のポートがあります。

- RS232 シリアルコンソールポート。
- 10/100Base-T 銅線イーサネットポート (RJ45)。LOM ポートとも呼ばれます。このポートを使用して、NetScaler ソフトウェアとは無関係にアプライアンスをリモートで監視および管理できます。
- 2つの 10/100/1000Base-T 銅線イーサネット管理ポート (RJ45)、左から右に 0/1 と 0/2 の番号が付けられています。これらのポートは、システム管理機能のためにアプライアンスに直接接続するために使用されます。
- ネットワークポート: 8 つの 40G QSFP+ ポート (8x40G QSFP+)。

注: 40G QSFP+ トランシーバは別売りです。40G ポートは 10G および 1G トランシーバをサポートしていません。お使いのアプライアンス用のトランシーバーを注文するには、NetScaler の営業担当者にお問い合わせください。

次の図は、T1310 アプライアンスの背面パネルを示しています。

図 2: NetScaler T1310 背面パネル



T1310 アプライアンスの背面パネルには、次のコンポーネントが表示されます。

- 300 GB リムーバブルソリッドステートドライブ 1 台。
注: コンポーネントが EOL になるとドライブの密度が増加する可能性があります、そのサイズは元のサイズより小さくなることはありません。
- 電源スイッチ。アプライアンスへの電源をオンまたはオフにします。スイッチを 2 秒未満押し、電源を遮断します。
- 2 つの電源装置。各定格は 1000 ワット、100 ~240 ボルトです。各電源には、LCD ディスプレイと LED ステータスインジケータで説明されているように、電源の状態を示す LED があります。
- アラームボタンを無効にする。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合にのみ機能します。
- 次のいずれかの条件に当てはまる場合、このボタンを押して、電源アラームの鳴きを停止します。
 - アプライアンスを 1 つの電源コンセントにのみ差し込んでいます。
 - 1 つの電源装置が故障しており、修理されるまでアプライアンスの動作を続行する。
- マスク不可割り込み (NMI) ボタン。テクニカルサポートの要請に応じてコアダンプを開始するために使用します。意図しない起動を防ぐためにくぼんだこの赤いボタンを押すには、ペン、鉛筆、またはその他の尖ったオブジェクトを使用します。NMI ボタンは、LOM GUI の [リモートコントロール] メニューで、ネットワーク経由でリモートから使用することもできます。アプライアンスのライトアウト管理ポートについて詳しくは、「[NetScaler MPX アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

レールの設置、ハードウェアのラックマウント、およびケーブルの接続については、「[ハードウェアの設置](#)」を参照してください。

アプライアンスの初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。

フィールド交換可能ユニット

January 25, 2024

NetScaler FRU (フィールド交換可能ユニット) は、ユーザーまたは技術者がユーザーのサイトで交換できる ADC コンポーネントです。NetScaler アプライアンスの FRU には、DC または AC 電源、ソリッドステート (SSD) またはハードディスクドライブ (HDD)、直接接続ケーブル (DAC)、アプライアンスのベゼル、トランシーバー、およびレールキットが含まれます。

メモ:

- SSD または HDD には構成情報が保存されており、ユニットを交換した後は、バックアップから復元する必要があります。
- NetScaler FRU はすべて Citrix から購入する必要があります。NetScaler が提供していないコンポー

ネットは、NetScaler アプライアンスではサポートされていません。アプライアンス用の FRU を購入するには、NetScaler の営業担当者にお問い合わせください。

電源装置

2つの電源装置を含むアプライアンスの場合、2台目の電源はオプションですが、推奨されます。一部のアプライアンスでは、4つの電源装置を搭載でき、適切に動作するためには、最低でも2つの電源装置が必要です。ベストプラクティスとして、冗長性を確保するために、すべての電源装置を接続します。

アプライアンスには、アプライアンスの電源に差し込む標準の電源コードが付属しています。もう一方の端には NEMA 5~15 プラグがあり、ラックまたは壁面の電源コンセントに接続できます。

電源の仕様については、「[共通コンポーネント](#)」を参照してください。

注:

電源ファンが動作していないと思われる場合は、使用しているプラットフォームの説明を参照してください。一部のプラットフォームでは、ファンは回転せず、実際のファンは必要などきにものみ回転します。

各電源装置の2色のLEDインジケータは、電源装置の状態を示します。

電源装置の交換に関する電気的安全上の注意

- 通常の使用中は、アプライアンスがアースに直接物理的に接続されていることを確認します。アプライアンスを取り付けまたは修理するときは、必ずアース回路を最初に接続し、最後に切断してください。
- 電源コードが差し込まれているときは、電源装置に触れないでください。電源コードが差し込まれている限り、電源スイッチがオフになっていても、電源装置に回線電圧が供給されます。

安全上の注意事項の一覧については、「[安全性、注意事項、警告、およびその他の情報](#)」を参照してください。

AC 電源を交換してください

ほとんどの NetScaler ADC MPX プラットフォームは、2つの電源装置に対応しています。プラットフォームによっては、4つの電源装置を収容できます。4つの電源に対応するアプライアンスを除き、すべての NetScaler ADC アプライアンスは単一の電源で正常に機能します。これらのアプライアンスは、正常に動作するために2つの電源装置が必要です。もう一方の電源はバックアップとして機能します。すべての電源装置が同じタイプ（AC または DC）である必要があります。

注記:

アプライアンスに電源装置が1つしかない場合は、電源装置を交換する前にアプライアンスをシャットダウンする必要があります。2つの電源装置を使用すると、もう一方の電源装置が動作していれば、アプライアンスを

シャットダウンせずに1つの電源装置を交換できます。4つの電源装置を使用すると、他の2つの電源装置が動作していれば、アプライアンスをシャットダウンせずに1つまたは2つの電源装置を交換できます。

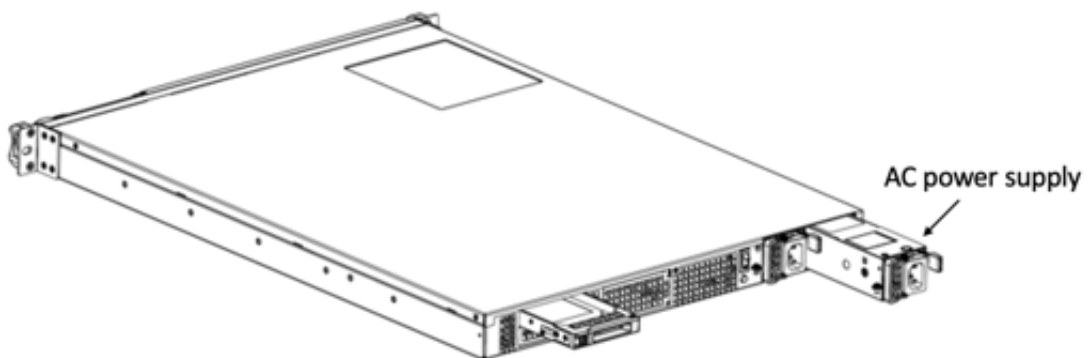
NetScaler ADC アプライアンスに AC 電源装置を取り付けまたは交換するには:

1. ハンドルを PSU に対して垂直に揃えます。蝶ネジを緩め (ねじ込まれている場合)、レバーをハンドルの方向に押し、既存の PSU を引き出します。

注

次の図は、実際の NetScaler ADC アプライアンスを表していない場合があります。

図 1: 既存の AC 電源を取り外します



2. 新しい電源を箱から慎重に取り外します。
3. アプライアンスの背面で、電源装置を電源スロットに合わせます。
4. 電源装置をスロットに挿入し、電源装置が所定の位置に固定されるまで半円形のハンドルを押しします。
5. 電源を電源に接続します。すべての電源装置を接続する場合は、個別の電源コードを電源装置に接続し、それらを別々のコンセントに接続します。

注:

NetScaler アプライアンスは、次のシナリオで大げさなアラートを発します。

- 1つの電源装置に障害が発生する
- 2つの電源装置が取り付けられているアプライアンスには、電源ケーブルを1つだけ接続します。

アラームを消音するには、アプライアンスの背面パネルにある小さな赤いボタンを押します。アラームを無効にするボタンは、アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。

DC 電源を交換してください

ほとんどの NetScaler ADC MPX プラットフォームは、2つの電源に対応できます。プラットフォームによっては、4つの電源装置に対応できるものもあります。すべての NetScaler ADC アプライアンスは、4つの電源に対応でき

るアプライアンスを除き、1つの電源装置で正常に機能します。これらのアプライアンスは、正常に動作するために2つの電源装置が必要です。もう一方の電源はバックアップとして機能します。すべての電源装置が同じタイプ（ACまたはDC）である必要があります。

注記:

アプライアンスに電源装置が1つしかない場合は、電源装置を交換する前にアプライアンスをシャットダウンする必要があります。2つの電源装置を使用すると、もう一方の電源装置が動作していれば、アプライアンスをシャットダウンせずに1つの電源装置を交換できます。4つの電源装置を使用すると、他の2つの電源装置が動作していれば、アプライアンスをシャットダウンせずに1つまたは2つの電源装置を交換できます。

NetScaler ADC アプライアンスに DC 電源装置を取り付けまたは交換するには:

1. 次の図に示すように、蝶ネジを緩めてレバーをハンドルの方向に押し、既存の PSU を引き出します。

注記:

次の図は、実際の NetScaler ADC アプライアンスを表していない場合があります。

図 2: 既存の DC



2. 新しい電源を箱から慎重に取り外します。
3. アプライアンスの背面で、電源装置を電源スロットに合わせます。
4. レバーをハンドルの方向に押しながら、電源装置をスロットに挿入します。しっかり圧力をかけ、電源装置をスロットにしっかりと挿入します。

図 3: 交換用 DC 電源装置の挿入



5. 電源装置をスロットに挿入したら、レバーを放します。
6. 電源を電源に接続します。すべての電源装置を接続する場合は、個別の電源コードを電源装置に接続し、それらを別々のコンセントに接続します。

注:

NetScaler アプライアンスは、次のシナリオで大きなアラートを発します。

- 1つの電源装置に障害が発生する
- 2つの電源装置が取り付けられているアプライアンスには、電源ケーブルを1つだけ接続します。

アラームを消音するには、アプライアンスの背面パネルにある小さな赤いボタンを押します。アラームを無効にするボタンは、アプライアンスに電源装置が2つある場合にのみ機能します。

ソリッドステートドライブ

SSD は、データをソリッドステートフラッシュメモリに格納する高性能デバイスです。MPX SSD には、ブートローダー構成ファイル、構成ファイル (ns.conf)、ライセンス、および一部のモデルでは、NetScaler ADC ソフトウェアとユーザーデータが含まれます。

すべての MPX プラットフォームは、SSD に NetScaler ADC ソフトウェアを格納します。SSD は /flash としてマウントされます。

注:

MPX 5550/5650 および MPX 8005/8015/8200/8400/8600/8800 アプライアンスでは、/flash と /var の両方が同じ SSD ドライブの異なるパーティションからマウントされます。

CLI を使用して RAID がサポートする SSD を交換する

注:

このセクションは、NetScaler バージョン 12.1 および 13.0 に適用されます。それ以降のバージョンについては、NetScaler サポートにお問い合わせください。

ADC GUI で、[構成] → [システム] → [診断] → [ユーティリティ] → [コマンド・ライン・インタフェース] に移動します。

CLI には、シリアルコンソールポートまたは管理ポート (0/1 または 0/2) からアクセスすることもできます。

注:

RAID ステータスには、「準備完了」または「機能縮退」の値があります。ドライブのステータスは、ONLINE または MISSING の値を取ることができます。

RAID の SSD のステータスを確認するには、CLI で次のように入力します。

コマンド:

```
1 sh raid
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 RAID1 status: READY
2 Drive:
3     1    ONLINE
4     2    ONLINE
5 Done
6 <!--NeedCopy-->
```

SSD の両方が ONLINE と表示され、RAID ステータスが READY と表示されている場合は、アクションは必要ありません。

次の表では、最初の列の値は、アプライアンスの背面パネルのドライブ番号を示しています。他の列のドライブ番号は、コマンドで使用する必要がある番号、または CLI およびシェルの出力に表示される番号を参照します。

シャーシ	CLI コマンド	シェルコマンド	シェルコマンド	シェルコマンド
シャーシのスロット	<code>sh raid</code>	<code>atacontrol status ar0</code>	<code>atacontrol detach/ atacontrol attach</code>	<code>atacontrol addspare ar0</code>
SSD 1	drive 1	drive 0	ata2	ad4
SSD 2	drive 2	drive 1	ata3	ad6

次の出力は、SSD 2 に障害が発生し、交換する必要があることを示しています。

コマンド:

```
1 sh raid
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 RAID1 status: DEGRADED
2 Drive:
3     1    ONLINE
4     2    MISSING
5 Done
6 <!--NeedCopy-->
```

場合によっては、障害が発生したドライブ/SSD が報告されないことがあります。

コマンド:

```
1 sh raid
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 RAID1 status: DEGRADED
2 Drive:
3     1    ONLINE
4 Done
5 <!--NeedCopy-->
```

シェルから、ドライブ 1/SSD 2 に障害が発生し、RAID ステータスが「縮退」と表示され、ドライブ 1/SSD 2 が欠落しているか、または出力に存在しないことを確認します。

1. NetScaler ADC コマンドプロンプトで、シェルプロンプトに切り替えます。種類: `shell`
2. RAID アレイのステータスを確認します。SSD2 は、出力に存在しない、または存在しないことを示す。

コマンド:

```
1 root@ns# atacontrol status ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 ar0: ATA RAID1 status: DEGRADED
2 subdisks:
3     0 ad4  ONLINE
4     1 ----  MISSING
5 <!--NeedCopy-->
```

または

```
1 ar0: ATA RAID1 status: DEGRADED
2 subdisks:
3     0 ad4  ONLINE
4 <!--NeedCopy-->
```

注:

シェルでドライブ番号が変更されました。SSD 1 はドライブ 0、SSD 2 はドライブ 1 として報告します。

`atacontrol`ユーティリティを使用して RAID アレイを正常状態に復元するには、次の手順に従います。

1. 障害が発生したドライブを取り外します。障害が発生したドライブは、新しい FRU ドライブに交換されます。
2. FRU ドライブを取り付けます。
3. FRU ドライブを RAID アレイに追加します。
4. 交換用ドライブが認識されることを確認します。
5. 再構築プロセスを開始します。
6. 再構築プロセスを監視します。
7. リビルドが正常に行われたことを確認します。
8. `bash` シェルを終了し、NetScaler CLI から確認します。

SSD 2 が失敗した場合の例 次の例では、SSD 2/ドライブ 1/ata3 に障害が発生しています。

1. 障害が発生したドライブを取り外します。

```
1 root@ns# atacontrol detach ata3
2 <!--NeedCopy-->
```

2. 物理的には、SSD 2/ドライブ 1 を取り外し、スロット 2 の新しい FRU ドライブと交換します。
3. FRU ドライブを取り付けます。

```
1 root@ns# atacontrol attach ata3
2 <!--NeedCopy-->
```

4. FRU ドライブを RAID アレイに追加します。

```
1 root@ns# atacontrol addspare ar0 ad6
2 <!--NeedCopy-->
```

5. 交換用ドライブが認識されることを確認します。

```
1 root@ns# atacontrol status ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 ar0: ATA RAID1 status: DEGRADED
2 subdisks:
3   0 ad4 ONLINE
4   1 ad6 SPARE
5 <!--NeedCopy-->
```

6. 再構築プロセスを開始します。

```
1 root@ns# atacontrol rebuild ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

7. 再構築プロセスを監視します。

```
1 root@ns# atacontrol status ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 ar0: ATA RAID1 status: REBUILDING 10% completed
2 subdisks:
3   0 ad4 ONLINE
4   1 ad6 SPARE
5 <!--NeedCopy-->
```

注:

RAID アレイの再構築にはしばらく時間がかかります。

8. リビルドが成功したことを確認します。

```
1 root@ns# atacontrol status ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 ar0: ATA RAID1 status: READY
2 subdisks:
3   0 ad4 ONLINE
4   1 ad6 ONLINE
5 <!--NeedCopy-->
```

注:

リビルド操作が完了すると、サブディスクの状態は ONLINE になり、RAID のステータスは READY と表示されます。

9. シェルを終了し、NetScaler CLI から RAID アレイのステータスを確認します。

```
1 root@ns# exit
2 >sh raid
3 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 RAID1 status: READY
2 Drive:
3   1 ONLINE
4   2 ONLINE
5 Done
6 <!--NeedCopy-->
```

SSD 1 が失敗した場合の例 次の例では、SSD 1/ドライブ 0/ata2 に障害が発生しています。

1. 障害が発生したドライブを取り外します。

```
1 root@ns# atacontrol detach ata2
2 <!--NeedCopy-->
```

2. 物理的には、SSD 1/ドライブ 0 を取り外し、スロット 1 の新しい FRU ドライブと交換します。

3. FRU ドライブを取り付けます。

```
1 root@ns# atacontrol attach ata2
2 <!--NeedCopy-->
```

- FRU ドライブを RAID アレイに追加します。

```
1 root@ns# atacontrol addspare ar0 ad4
2 <!--NeedCopy-->
```

- 交換用ドライブが認識されることを確認します。

```
1 root@ns# atacontrol status ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 ar0: ATA RAID1 status: DEGRADED
2 subdisks:
3   0 ad4 SPARE
4   1 ad6 ONLINE
5 <!--NeedCopy-->
```

- 再構築プロセスを開始します。

```
1 root@ns# atacontrol rebuild ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

- 再構築プロセスを監視します。

```
1 root@ns# atacontrol status ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 ar0: ATA RAID1 status: REBUILDING 10% completed
2 subdisks:
3   0 ad4 SPARE
4   1 ad6 ONLINE
5 <!--NeedCopy-->
```

注:

RAID アレイの再構築にはしばらく時間がかかります。

- リビルドが成功したことを確認します。

```
1 root@ns# atacontrol status ar0
2 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 ar0: ATA RAID1 status: READY
2 subdisks:
3   0 ad4 ONLINE
4   1 ad6 ONLINE
5 <!--NeedCopy-->
```


注:

リビルド操作が完了すると、サブディスクの状態は ONLINE になり、RAID のステータスは READY と表示されます。

9. シェルを終了し、NetScaler CLI から RAID アレイのステータスを確認します。

```
1 root@ns# exit
2 >sh raid
3 <!--NeedCopy-->
```

出力:

```
1 RAID1 status: READY
2 Drive:
3 1 ONLINE
4 2 ONLINE
5 Done
6 <!--NeedCopy-->
```

ソリッドステートドライブを交換してください

交換用 SSD には、NetScaler ADC ソフトウェアのプリインストールバージョンと汎用構成ファイル (ns.conf) が含まれています。ただし、SSL 関連の証明書とキー、またはカスタムブート設定は含まれません。構成ファイルとカスタマイズした設定は、お客様のサイトのバックアップストレージの場所から交換用ドライブに復元する必要があります (使用可能な場合)。復元するファイルには次のものがあります。

- /flash/nsconfig/ns.conf: 現在の設定ファイル
- /flash/NSCONFIG/zebos.conf: Zebos 設定ファイル
- /flash/nsconfig/ライセンス: NetScaler ADC 機能のライセンス。
- /flash/nsconfig/ssl: クライアントまたはバックエンドサーバーへのデータの暗号化に必要な SSL 証明書とキー。
- /nsconfig/rc.netscaler: お客様固有の起動操作 (オプション)。

ソリッドステートドライブを交換するには:

1. NetScaler ADC コマンドプロンプトで、シェルプロンプトを終了します。タイプ:

```
shell
```

2. シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、NetScaler ADC アプライアンスをシャットダウンします。

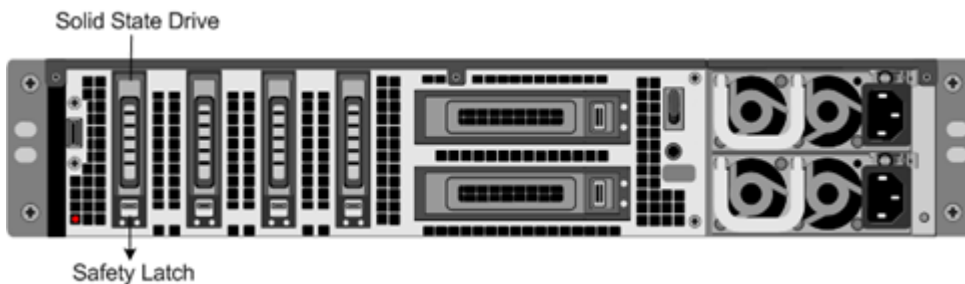
```
shutdown -p now
```

3. アプライアンスの背面パネルにある SSD を探します。プラットフォームに応じて、ドライブカバーの安全ラッチを右または下に押し、ドライブハンドルを引き出して外します。障害のあるドライブを引き出します。

注記:

次の図は、実際の NetScaler ADC アプライアンスを表していない場合があります。

図 4: 既存のソリッドステートドライブを取り外します



4. 交換用 SSD がプラットフォームに適したタイプであることを確認します。
5. 新しい SSD を取り上げ、ドライブハンドルを左または上に完全に開き、可能な限りドライブをスロットに挿入します。ドライブを装着するには、ハンドルをアプライアンスの背面と同じ位置で閉じ、ドライブがスロットにしっかりとロックされるようにします。

重要: ドライブを挿入する際、ドライブを水平に挿入する場合は、NetScaler 製品ラベルが上部にあることを確認してください。ドライブを垂直に挿入する場合は、ラベルは右側にある必要があります。

図 5. 交換用のソリッドステートドライブを挿入します



6. NetScaler ADC アプライアンスの電源を入れます。アプライアンスが起動すると、以前の作業構成はなくなります。したがって、アプライアンスは、デフォルトの IP アドレス 192.168.100.1/16 またはコンソールポートを介してのみ到達可能です。
7. 「初期設定」の説明に従って、[アプライアンスの初期構成を実行します](#)。Web ブラウザを使用してデフォルトの IP アドレスにログオンするか、コンソールケーブルを使用してシリアルコンソールに接続して初期設定を実行します。
8. プラットフォームライセンスおよびユニバーサルライセンスを含むオプション機能ライセンスを NetScaler ADC アプライアンスにアップロードします。詳しくは、「[ライセンス](#)」を参照してください。
9. 正しい NetScaler ADC ソフトウェアのバージョンが読み込まれたら、作業構成を復元できます。SCP ユーティリティを使用して、以前のバージョンの ns.conf /nsconfig ファイルをディレクトリにコピーします。または、NetScaler ADC コマンドプロンプトから以前の構成を /nsconfig/ns.conf ファイルに貼り付けます。ns.conf 新しいファイルをロードするには、NetScaler ADC コマンドプロンプトで再起動コマンドを入力して、NetScaler ADC アプライアンスを再起動する必要があります。

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブ (HDD) は、ログやその他のデータファイルを格納します。HDD に格納されているファイルには、`newslog`ファイル、`dmesg`、メッセージファイル、コア/クラッシュファイルが含まれます。HDD には、NetScaler ADC プラットフォームに応じて、さまざまな容量があります。ハードドライブは、実行時に必要なファイルを格納するために使用されます。HDD は `/var` としてマウントされます。

ハードディスクドライブを交換してください

ハードディスクドライブ (HDD) は、ログファイルとその他のユーザーファイルを格納します。新しいログファイルの収集は、新しい HDD で起動すると開始されます。

ハードディスクドライブをインストールするには、次の手順に従います。

1. NetScaler ADC コマンドプロンプトで、シェルプロンプトを終了します。タイプ:

```
shell
```

2. シェルプロンプトで次のいずれかのコマンドを入力して、NetScaler ADC アプライアンスをシャットダウンします。

- MPX アプライアンスで、次のように入力します。

```
shutdown -p now
```

- MPX 以外のアプライアンスで、次のように入力します。

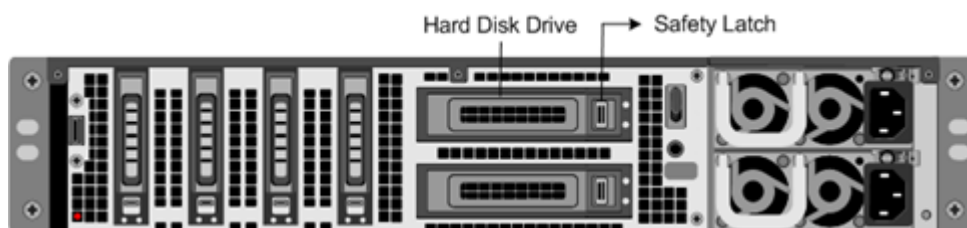
```
shutdown
```

3. アプライアンスの背面パネルにあるハードディスクドライブの位置を確認します。
4. 交換用ハードディスクドライブが、NetScaler ADC プラットフォームに適したタイプであることを確認します。
5. ドライブハンドルを引き出し、プラットフォームに応じて、ドライブカバーの安全ラッチを右または下に押して、ハードディスクドライブを取り外します。障害のあるドライブを引き出します。

注:

次の図は、実際の NetScaler ADC アプライアンスを表していない場合があります。

図 6: 既存のハードディスクドライブの取り外し



- 新しいディスクドライブを取り上げ、ドライブハンドルを左側に完全に開き、新しいドライブをできるだけスロットに挿入します。ドライブを装着するには、ハンドルをアプライアンスの背面と同じ高さに関じ、ハードドライブがスロットにしっかりとロックされるようにします。

重要:

ドライブを挿入するときは、NetScaler 製品ラベルが上部にあることを確認してください。

図 7: 交換用のハードディスクドライブを挿入します。



- NetScaler ADC アプライアンスの電源を入れます。アプライアンスは NetScaler ADC ソフトウェアを起動し、CompactFlash カードから構成ファイルを読み取ります。

直接接続ケーブル

直接接続ケーブル (DAC) アセンブリは、双方向通信の高性能統合デュプレックスデータリンクです。このケーブルは、メカニカルフォームファクタ用の IPF MSA (SFF-8432)、直接接続ケーブル用の SFP+ MSA に準拠しています。ケーブルの長さは最大 5 メートルですが、データ・レートには依存しません。10 Gbps を超える速度をサポートし、光リンク (SFP+ トランシーバおよび光ファイバケーブル) に代わる費用対効果の高い代替品です。

DAC 付きトランシーバはホットスワップ可能です。アプライアンスをシャットダウンすることなく、接続されたケーブルでトランシーバを挿入および取り外すことができます。NetScaler ADC アプライアンスはパッシブ DAC のみをサポートします。

重要:

- DAC は、10G ポートでのみサポートされます。DAC を 1G ポートに挿入しないでください。
- トランシーバから内蔵銅ケーブルを取り外し、ファイバケーブルをトランシーバに挿入しないでください。

直接接続ケーブルを取り付ける

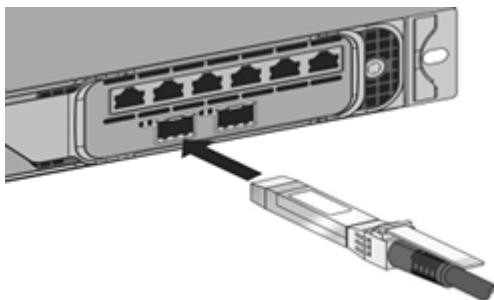
注記:

次の図の図は参照用であり、実際の NetScaler アプライアンスを表していない場合があります。

直接接続ケーブルを取り付けまたは取り外すには、次の手順に従います:

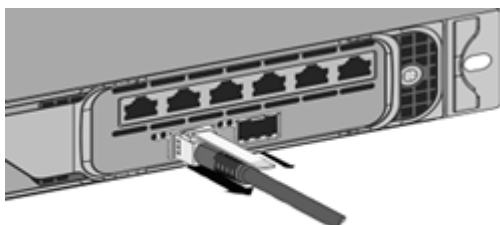
- DAC を取り付けるには、次の図に示すように、アプライアンスの 10G ポートに DAC をスライドさせます。DAC がポートに正しく収まると、カチッという音がします。

図 8: DAC を 10G ポートに挿入する



2. DAC を取り外すには、次の図に示すように、DAC の上部にあるタブを引き、DAC をポートから引き出します。

フィギュア 9. 10G ポートから DAC を取り外します



ベゼル

NetScaler ADC アプライアンスのベゼルが FRU として使用できるようになり、現場で交換できるようになりました。

注:

bezel FRU は、MPX/SDX 9100 プラットフォームでのみサポートされています。

ベゼルの交換するには

1. ベゼルのシャーシ前面に固定している 5 本のネジを外します。
2. ケーブルを外します (図を参照)。
3. 古いベゼルを捨てる。
4. ケーブルを新しいベゼルに接続し直します。
5. ネジを使用して、新しいベゼルのシャーシ前面に取り付けます。

図 1: 2U ベゼルの交換

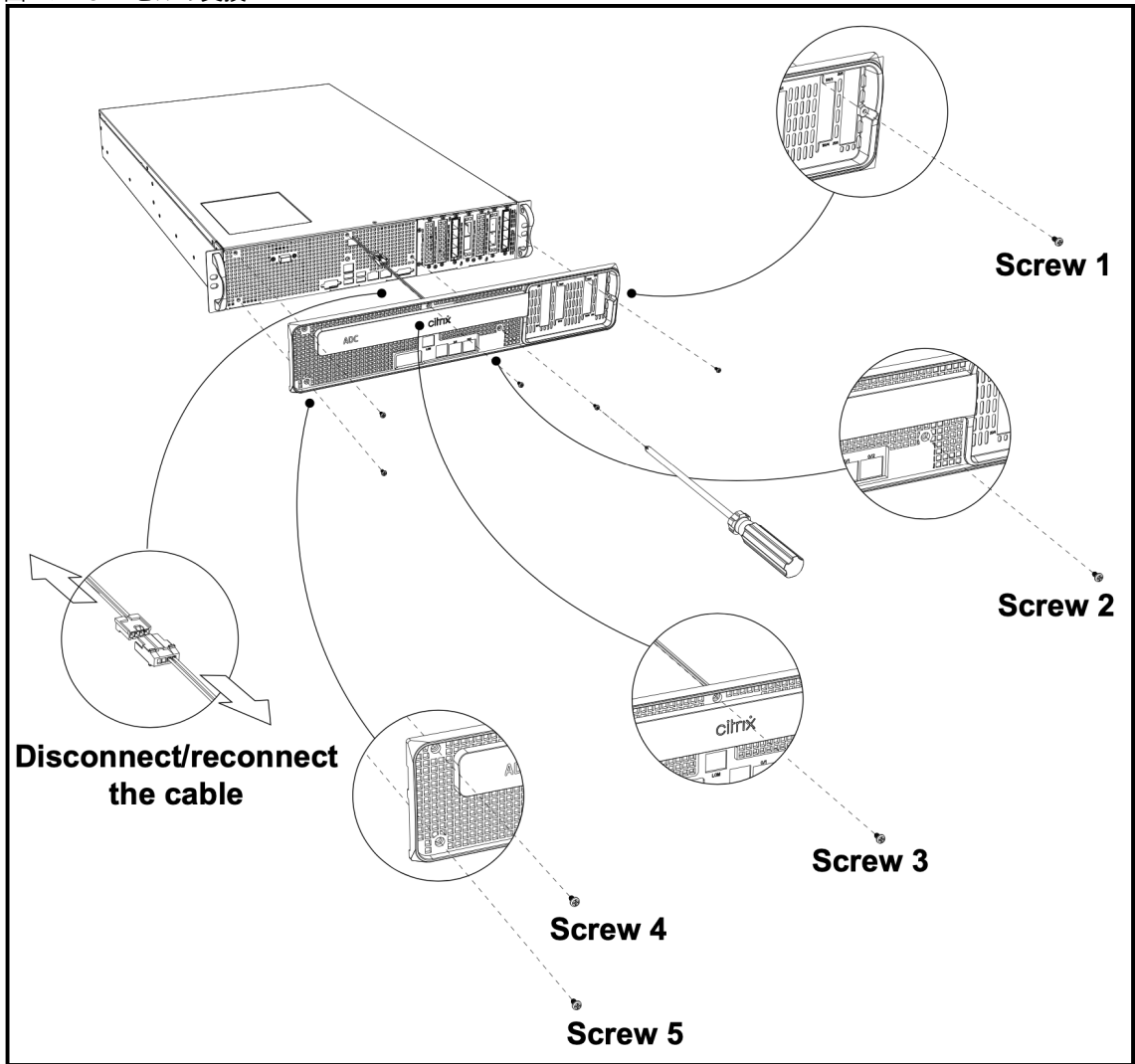
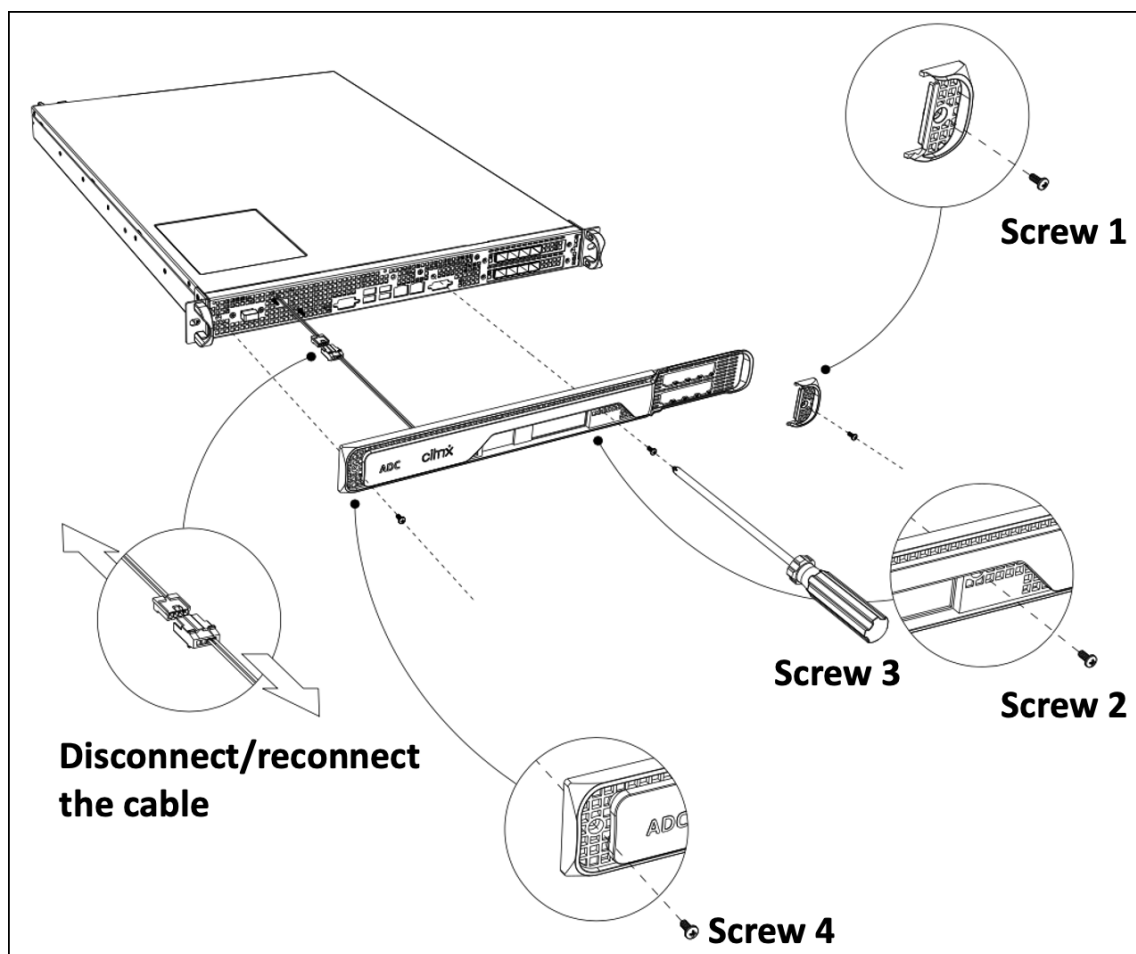


図 2: 1U ベゼルの交換



トランシーバー

さまざまな速度のトランシーバーが FRU として使用できます。トランシーバーを注文するには、NetScaler の営業担当者またはパートナーにお問い合わせください。

トランシーバの取り外しと取り付けについては、「[1G SFP トランシーバの取り付けと取り外し](#)」を参照してください。

レールキット

レールキットは FRU として提供されています。レールキットには、28 インチ (延長 38 インチ) と 23 インチ (延長 33 インチ) があります。レールキットを注文するには、NetScaler の営業担当者またはパートナーにお問い合わせください。

レールキットをアプライアンスに取り付ける方法については、「[アプライアンスのラックマウント](#)」を参照してください。

安全性、注意事項、警告、その他の情報

January 25, 2024

注: 各モデルの安全認証、規格、ROHS 準拠のリストについては、データシートを参照してください。データシートは www.netScaler.com で入手できます。[プラットフォーム]>[フォームファクター]>[ハードウェア]に移動します。

安全に関する声明

次の安全説明は、製品をインストールする前に知っておく必要がある注意事項と危険情報を示します。

ステートメント 1:

危険: 電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電流は危険です。

感電を防ぐために次の事項に注意してください。

- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、またはこの製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- すべての電源コードは、正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。
- 本製品に接続されている機器は、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- 信号ケーブルの接続または切り離しは、可能な限り片手で行ってください。
- 火災、水害、または構造的損傷の形跡が見られる場合は、機器の電源をオンにしないでください。
- 設置および構成手順で別途指示されている場合を除いて、デバイスのカバーを開く場合はその前に必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、モデムを取り外してください。
- この製品または接続されたデバイスの設置、移動、またはカバーを開く場合には、次の表の説明に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルを接続する

- 本製品に接続するすべての電源と機器を遮断します。
- すべてのケーブルをデバイスに接続します。
- 信号ケーブルをコネクタに接続します。
- 電源コードを電源に接続します。DC システムの場合は、-48 VDC 接続の極性が正しいことを確認します。RTN は (+)、-48 VDC は (-) です。地球の地面は安全のために 2 穴ラグを使用する必要があります。
- すべての給電部の電源をオンにします。

ケーブルを外す

- 本製品に接続するすべての電源と機器を遮断します。

- AC システムの場合は、シェルフの電源コンセントからすべての電源コードを切り離すか、または AC 電力配分装置で電源を遮断します。
- DC システムの場合は、ブレーカパネルの DC 電源を切断するか、電源をオフにして DC ケーブルを取り外します。
- 信号ケーブルをコネクタから切り離します。
- すべてのケーブルをデバイスから切り離します。

ステートメント 2:

注意: レーザー製品 (CD-ROM、DVD ドライブ、光ファイバーデバイス、送信機など) を取り付ける場合には、以下のことに注意してください。

- カバーは決して外さないでください。レーザー製品のカバーを取り外すと、危険なレーザー放射にさらされる可能性があります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- ここで指定されたもの以外の処置の制御や調整、またはパフォーマンスの使用は、有害な放射線曝露につながる可能性があります。

危険: 一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザーダイオードが組み込まれています。以下の点に注意してください:

- カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。

ステートメント 3:

注意:

電源機構 (パワーサプライ) のカバーまたは次のラベルが貼られている部分のカバーは決して取り外さないでください。



このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、電流、エネルギーレベルが存在します。これらのコンポーネントの内部には、保守が可能な部品はありません。これらの部品に問題があると思われる場合は、サービス技術者に連絡してください。

ステートメント 4:

危険：特定の状況下では分岐回路が過負荷になると、火災や感電事故が発生する可能性があります。こうした事故を防ぐためには、システムの電氣的要件が分岐回路の保護要件を超えていないことを確認してください。電気仕様については、デバイスに付属している情報を参照してください。

ステートメント 5 (入力が -48 VDC の NetScaler ADC アプライアンスに適用):

注意：この装置は、DC 電源回路の接地導体と装置の接地導体を接続できるように設計されています。この接続を確立する場合は、次の条件を満たす必要があります。

- この装置は、直流供給システムの接地電極導体に直接接続するか、直流供給システムの接地電極導体が接続されている接地端子バーまたはバスからボンディングジャンパに接続する必要があります。
- この装置は、同じ直流供給回路とアース導体の間の接続を有する他の機器、および直流システムの接地点との間の接続を有する他の機器と同じ直ち領域（例えば、隣接するキャビネット）に配置されなければなりません。DC システムを他の場所にアースしてはいけません。
- DC 供給源は、この装置と同じ施設内に設置する必要があります。
- スイッチングまたは切断装置は、DC 電源とアース電極導体の接続点との間の接地回路導体内に配置してはならない。

ステートメント 6:

注意：感電やエネルギーによる危険のリスクを避けるために、次のようにしてください。

- この機器は、訓練を受けたサービス担当者が、NEC および IEC/UL/CSA 60950-1 および 62368-1（IT 機器の安全基準）で定義されている、立ち入りが制限された場所に設置する必要があります。
- 機器を正しく接地された安全特別低電圧（SELV）電源に接続してください。SELV 電源とは、正常時、または単一の障害が発生してもその出力電圧が安全レベル（直流 60V）を超えないように設計された 2 次側の回路です。
- フィールド配線には市販品で容量が十分な切断デバイスを設置してください。
- 分岐回路の過電流保護に必要な回路ブレーカー定格については、製品ドキュメントに記載されている仕様を参照してください。
- 銅導線のみを使用してください。必要なワイヤーサイズについては、製品ドキュメントに記載されている仕様を参照してください。
- 配線端子ねじの締め付けに必要なトルク値については、製品ドキュメントに記載の仕様を参照してください。

ステートメント 7:

注意：感電の危険があります。機器には複数の電源から電力が供給されている場合があります。



ステートメント 8:

注意: 設置作業や保守作業の間は、アプライアンスの電子機器に静電破壊が起こらないように、アースリストストラップを装着してください。導電性リストストラップを良好な接地、またはアプライアンスに接続して使用してください。背面の ESD シンボルのそばにあるコネクタに接続できます。



ステートメント 9:

警告: 動いている部品は危険です。動作しているファンブレードには近寄らないでください。



光ファイバーの安全性情報

危険: 有害な光線

光ファイバー製品は、負傷を起こす可能性のあるレーザー光線を使用します。カバーされていないポートは、この放射を放出する可能性があります。レーザー光を直接浴びることは避けてください。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たりしないでください。光ファイバートランシーバモジュールの保護シールドを外さないようにしてください。

注意、警告、およびその他の情報

電氣的安全上の注意:

危害や器具の損傷から身を守るために、基本的な電氣的安全対策に従ってください。

- 緊急電源オフ (EPO) スイッチの位置に注意して、電気事故が発生した場合にアプライアンスの電源をすばやく取り外すことができます。
- アプライアンスの取り付けまたは修理を行う前に、電源やワイヤに接触する可能性のあるジュエリーやその他の金属オブジェクトをすべて取り外してください。ライブ電源またはワイヤとアースの両方に触れると、金属物体が急速に加熱し、火傷を引き起こしたり、衣服に火をつけたり、金属オブジェクトを露出した端子に溶け出したりすることがあります。
- 電源サージや電圧スパイクからアプライアンスを保護し、電源に障害が発生した場合でも、アプライアンスの動作を維持するには、レギュレーション型無停電電源装置を使用します。
- アプライアンスを他のサーバーや電子機器の上に積み重ねないでください。

- すべてのアプライアンスは、TN アースを使用する電源システムに設置するように設計されています。TT または IT アースを使用する電源システムにデバイスを設置しないでください。
- 通常の使用中は、アプライアンスが地球に直接物理的に接続されていることを確認します。アプライアンスの取り付けまたは修理を行うときは、必ずアース回路が最初に接続され、最後に切断されていることを確認してください。
- アプライアンスが接続されている電源システムのすべての通電導体に、120 VAC、15 A (240 VAC、国際線) 以下のヒューズまたは回路遮断器が使用されていることを確認します。
- 高電圧部品を扱うときは、単独では動作しないでください。
- コンポーネントがホットスワップ可能でない限り、コンポーネントの取り外しまたは取り付けを行う前に、必ずアプライアンスを電源から外してください。電源を切断するときは、まずアプライアンスをシャットダウンしてから、アプライアンスに接続されているすべての電源装置の電源コードを取り外します。電源コードが差し込まれている限り、電源スイッチがオフの場合でも、電源モジュールに回線電圧が存在する可能性があります。
- 電気ショックからの保護として、静電気放電を減らすように設計されたマットを使用しないでください。代わりに、電気絶縁体として設計されたゴムマットを使用してください。
- 過負荷の危険がない状態で電源がアプライアンスの最大消費電力を処理できることを確認します。修理やアップグレードを行う前に、必ずアプライアンスを取り外してください。
- サーバキャビネットやサーバールームラックに配線を過負荷にしないでください。
- 雷雨や予想される雷雨の際は、雷の危険性がなくなるまで、ハードウェアの修理やアップグレードは避けてください。
- 古い家電製品または部品を廃棄する場合は、電子廃棄物の処分に関する地方法および国の法律に従ってください。
- 爆発の可能性を防ぐため、期限切れのバッテリーを同じモデルまたはメーカー推奨の代替品に交換し、バッテリーの交換と廃棄についてはメーカーの指示に従ってください。
- この製品は、位相間電圧 230V の IT 配電システム用に設計されています。
- 電源装置のカバーや、次のラベルが付いた密閉されたパーツは絶対に取り外さないでください。

Hazardous voltage, current, and energy levels are present inside any component that has this label attached. There are no user-serviceable parts inside these components. If you suspect a problem with one of these parts, contact Citrix Technical Support.

アプライアンスの注意事項:

- レールを取り付ける前に、ラック内の各コンポーネントの配置を決定します。
- 最初に最も重いアプライアンスをラックの下部に取り付けて、次に上に作業します。ラックの負荷を均等に分配します。不均衡なラックは危険です。

- 電源装置とハードドライブに触れる前に冷却してください。
- 簡単にアクセスできるように、機器をコンセントの近くに設置してください。
- 安全な動作のために十分な通気量のあるラックに機器を取り付けます。
- 閉じたラックアセンブリまたは複数ユニットラックアセンブリの場合、ラック環境の周囲動作温度は室内の周囲温度よりも大きくなる可能性があります。したがって、ラックにアプライアンスを設置する場所を決定するときは、装置の最低および最高動作温度を考慮してください。

ラックの注意事項:

- ラックの底面にあるレベリングジャックが床まで完全に伸ばされ、ラックの全重量が床に固定されていることを確認します。
- シングルラック設置の場合は、スタビライザーをラックに取り付けます。
- 複数ラックを設置する場合は、ラックを一緒に (取り付け) します。
- ラックからコンポーネントを延長する前に、必ずラックが安定していることを確認してください。
- 一度に拡張するコンポーネントを 1 つだけです。2 つ以上を同時に延長すると、ラックが不安定になる可能性があります。
- アプライアンスの前面パネルの左右にあるハンドルは、アプライアンスをラックから引き出すためだけに使用する必要があります。ラックへのアプライアンスの取り付けには、これらのハンドルを使用しないでください。代わりに後述するラックレールハードウェアを使用してください。

台湾 **BSMI RoHS** ステートメント

January 25, 2024

次の表は、NetScaler MPX および SDX ハードウェアアプライアンスにおける制限物質の存在状態の宣言です。

限用物質含有情況標示聲明書

Declaration of the Presence Condition of Restricted Substances

設備名稱：網路負載均衡設備(服務器)						
單元 Unit	限用物質及其化學符號 Restricted substances and its chemical symbols					
	鉛Lead (Pb)	汞Mercury (Hg)	鎘Cadmium (Cd)	六價鉻 Hexavalent chromium (Cr ⁺⁶)	多溴聯苯 Polybrominated biphenyls (PBB)	多溴二苯醚 Polybrominated diphenyl ethers (PBDE)
金屬外殼	○	○	○	○	○	○
印刷電路板	○	○	○	○	○	○
電源供應器	○	○	○	○	○	○
風扇	○	○	○	○	○	○
外殼前面板	○	○	○	○	○	○
配件(電源線、傳輸線)	○	○	○	○	○	○
<p>備考1. “超出0.1 wt %”及“超出0.01 wt %”係指限用物質之百分比含量超出百分比含量基準值。 Note 1 : “Exceeding 0.1 wt %” and “exceeding 0.01 wt %” indicate that the percentage content of the restricted substance exceeds the reference percentage value of presence condition.</p> <p>備考2. “○”係指該項限用物質之百分比含量未超出百分比含量基準值。 Note 2 : “○” indicates that the percentage content of the restricted substance does not exceed the percentage of reference value of presence.</p> <p>備考3. “—”係指該項限用物質為排除項目。 Note 3 : The “—” indicates that the restricted substance corresponds to the exemption.</p>						

限用物質含有情況標示聲明書

Declaration of the Presence Condition of Restricted Substances

設備名稱：網路負載均衡設備						
單元 Unit	限用物質及其化學符號 Restricted substances and its chemical symbols					
	鉛Lead (Pb)	汞Mercury (Hg)	鎘Cadmium (Cd)	六價鉻 Hexavalent chromium (Cr ⁺⁶)	多溴聯苯 Polybrominated biphenyls (PBB)	多溴二苯醚 Polybrominated diphenyl ethers (PBDE)
金屬外殼	○	○	○	○	○	○
印刷電路板	○	○	○	○	○	○
電源供應器	○	○	○	○	○	○
風扇	○	○	○	○	○	○
外殼前面板	○	○	○	○	○	○
配件(電源線、傳輸線)	○	○	○	○	○	○
<p>備考1. “超出0.1 wt %” 及 “超出0.01 wt %” 係指限用物質之百分比含量超出百分比含量基準值。 Note 1 : “Exceeding 0.1 wt %” and “exceeding 0.01 wt %” indicate that the percentage content of the restricted substance exceeds the reference percentage value of presence condition.</p> <p>備考2. “○” 係指該項限用物質之百分比含量未超出百分比含量基準值。 Note 2 : “○” indicates that the percentage content of the restricted substance does not exceed the percentage of reference value of presence.</p> <p>備考3. “-” 係指該項限用物質為排除項目。 Note 3 : The “-” indicates that the restricted substance corresponds to the exemption.</p>						

FCC コンプライアンスステートメント

January 25, 2024

サプライヤーの適合宣言書

このページに記載されている FCC コンプライアンスステートメントは、すべての NetScaler ADC MPX および SDX ハードウェアモデルに適用されます。

責任者—米国の連絡先情報:

Citrix Systems, Inc.
4988 Great America Parkway
Santa Clara, CA
95054 USA

compliance.prime@cloud.com

このデバイスは、FCC ルールのパート 15 に準拠しています。動作には、次の 2 つの条件が適用されます。(1) このデバイスは有害な干渉を引き起こさない可能性があり、(2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含む、受信した干渉を受け入れなければなりません。

注：この機器は、FCC 規則のパート 15 に従って、クラス A デジタルデバイスの制限に準拠していることがテストされ、確認されています。これらの制限は、機器が商業環境で運用されている場合に、有害な干渉に対して合理的な保護を提供するように設計されています。この装置は、無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射することがあり、取扱説明書に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。住宅地での本機器の操作は有害な干渉を引き起こす可能性が高く、その場合、ユーザーは自費で干渉を修正する必要があります。

インストールの準備

January 25, 2024

新しいアプライアンスを設置する前に、アプライアンスを慎重に開梱し、すべての部品が納入されたことを確認してください。アプライアンスの設置場所が、温度および電力要件を満たしていることを確認します。また、サーバキャビネットまたは床から天井までのキャビネットが床にしっかりとボルトで固定され、十分な通気量があることを確認します。

注：すべてのアプライアンスで、空気は前面から背面に流れます。

アプライアンスの設置、保守、交換は、トレーニングを受けた資格のある担当者のみが行う必要があります。すべての注意と警告に従っていることを確認してください。

アプライアンスを解凍します

ケーブル、アダプター、レールキットなど特定のアプライアンスのハードウェアアクセサリは、注文したハードウェアプラットフォームにより異なります。新しいアプライアンスが入っている箱を、十分なスペースのある頑丈なテーブルの上に開梱し、中身を調べます。

アプライアンスに指定されたケーブル、アダプタ、レールキットを受け取ったことを確認します。

注

各ケーブルに使用できるコンセントがあるか確認します。

受け取ったキットがラックに合わない場合は、NetScaler の営業担当者に連絡して適切なキットを注文してください。

トランシーバモジュールは別売です。NetScaler の営業担当者に連絡して、アプライアンス用のトランシーバモジュールを注文してください。このアプライアンスでは、Citrix 提供のトランシーバだけがサポートされます。

重要

ブラジルのお客様には、NetScaler は電源ケーブルを同梱していません。ABNT NBR 14136:2002 標準に準拠するケーブルをご使用ください。

新しいアプライアンスのボックスに含まれている項目に加えて、インストールと初期構成プロセスを完了するには、次の項目が必要です。

- ネットワークに接続する追加のイーサネットポートごとに、イーサネットケーブル。
- ネットワークに接続したい NetScaler ADC イーサネットポートごとに、ネットワークスイッチまたはハブ上の使用可能なイーサネットポート。
- 管理ワークステーションとして機能するコンピュータ。

現場とラックの準備

NetScaler ADC アプライアンスには、特定のサイトおよびラック要件があります。適切な環境制御と電力密度が使用可能であることを確認します。ラックは、アースにボルトで固定され、十分な通気量があり、十分な電源とネットワーク接続が必要です。設置場所とラックの準備は、設置プロセスの重要な段階であり、円滑な設置を実現します。

サイトの要件

アプライアンスは、次の機能を備えたサーバーラックまたはサーバキャビネットに設置する必要があります。

- 環境制御

An air conditioner, preferably a dedicated computer room air conditioner (CRAC), capable of maintaining the cabinet or server room at a temperature of no more than 27 degrees C/80.6 degrees F at altitudes of up to 2100 m/7000 ft, or 18 degrees C/64.4 degrees F at higher altitudes, a humidity level no greater than 45 percent, and a dust-free environment.

- 電力密度

Wiring capable of handling at least 4000 watts per rack unit in addition to power needs **for** the CRAC.

ラックの要件

アプライアンスを設置するラックは、次の条件を満たす必要があります。

- ラックの特性:

ラックは、専用設計のサーバキャビネットに統合するか、床から天井までのタイプで、安定性を確保するために、上部と下部にボルトで固定する必要があります。キャビネットがある場合は、安定性と十分な通気のために、耐荷重壁に垂直に設置する必要があります。サーバールームがある場合は、十分な通気を確保するために、ラックを 1 メートル/3 フィート以上離れた列に設置する必要があります。ラックでは、IT 担当者が各サーバの前面と背面、およびすべての電源とネットワーク接続に自由にアクセスできるようにする必要があります。

- 電源接続:

ユニットごとに最低 2 つの標準電源コンセント。

- ネットワーク接続:

ラックユニットあたり少なくとも 4 つのイーサネット接続。

- スペース要件:

1U モデルの場合は空で、その他すべてのアプライアンスモデルでは 2 つの連続した空のラックユニットです。

注: 以下のレールキットは別途注文できます。

- 23~33 インチのラックにフィットするコンパクトな 4 支柱レールキット。
- 2 支柱レールキット、2 支柱ラックに適合します。

重要:

電気、アプライアンス、およびラックの安全上の注意事項の詳細については、「[安全性、注意、警告、およびその他の情報](#)」を参照してください。

ハードウェアをインストールします

January 25, 2024

設置場所が環境基準を満たし、サーバラックが指示に従って設置されていると判断したら、ハードウェアを取り付ける準備が整いました。アプライアンスをマウントしたら、アプライアンスをネットワーク、電源、コンソール端末に接続する準備が整いました。コンソール端末は、初期設定に使用することができます。インストールを完了するには、アプライアンスをオンにします。インストール手順に記載されている注意事項と警告を必ず守ってください。

注: アプライアンスをラックに取り付ける前に、シリアル番号を保管してください。シリアル番号は、アプライアンスに初めてログオンするためのパスワードであり、アプライアンスの背面にあります。

[NetScaler ADC ハードウェアアプライアンスのラックマウント方法に関するこのクイックビデオをご覧ください。](#)

ラックへのアプライアンスのマウント

ほとんどのアプライアンスは、EIA-310-D 仕様に準拠した標準のサーバラックに設置できます。アプライアンスを取り付ける前に、アプライアンスに付属するレールのセットを取り付ける必要があります。アプライアンスを取り付けるときに必要な工具は、プラスのドライバとマイナスのドライバだけです。

警告:

ラックに取り付けるユニットがアプライアンスだけの場合は、一番下に設置してください。ラックに他のユニットが含まれている場合は、最も重いユニットが底部にあることを確認してください。アプライアンスを取り付ける前に、安定化装置がある場合は、ラックに取り付けます。

アプライアンスには、アプライアンスの高さに応じて 1 つまたは 2 つのラックユニットが必要です。

レールアセンブリから内側のレールを取り外します

1. レールアセンブリを平らな面に置きます。
2. アセンブリの前面に向かってインナーレールを引き出します。
3. 内側のレールがレールアセンブリから最後まで来るまで、ラッチを押します。
4. 手順 1.~3. を繰り返してもう 1 つのインナーレールも取り外します。

アプライアンスにインナーレールを取り付けます

1. 右のインナーレールを、アプライアンスの右側のハンドルの後側に配置します。
2. レールの穴とアプライアンスの側面の対応する穴の位置を合わせます。
3. 図に示すように、付属のネジでレールをアプライアンスに、1U アプライアンスの場合は片面に 4 つ、2U アプライアンスの場合は片面に 5 つ、取り付けます

図 1: 内側レールを取り付ける



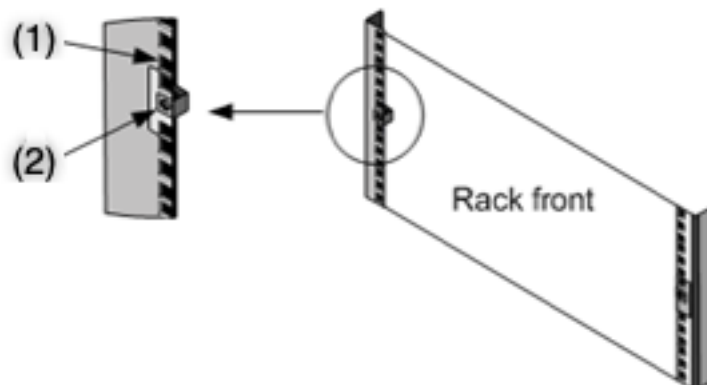
4. 手順 1.~3. を繰り返して、左のインナーレールをアプライアンスのもう一方の側に取り付けます。

ラックレールをラックに取り付ける

1. 丸穴のネジ式ラックを使用している場合は、手順 3. に進みます。

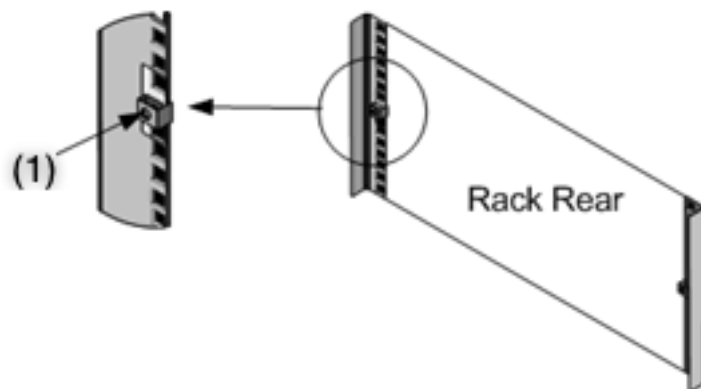
- 次の図のように、四角ナットの固定器具をラック前面の支柱と背面の支柱に取り付けます。ネジを挿入する前に、四角ナットの位置を 1U または 2U アプライアンスの正しい穴に合わせてください。3 つの穴は等間隔に並んでいません。

図 2: 前面のラック支柱にリテーナを取り付ける



- (1)-2U アプライアンスの場合は、この穴に取り付けます。
- (2)-1U アプライアンスの中央の穴に取り付けます。

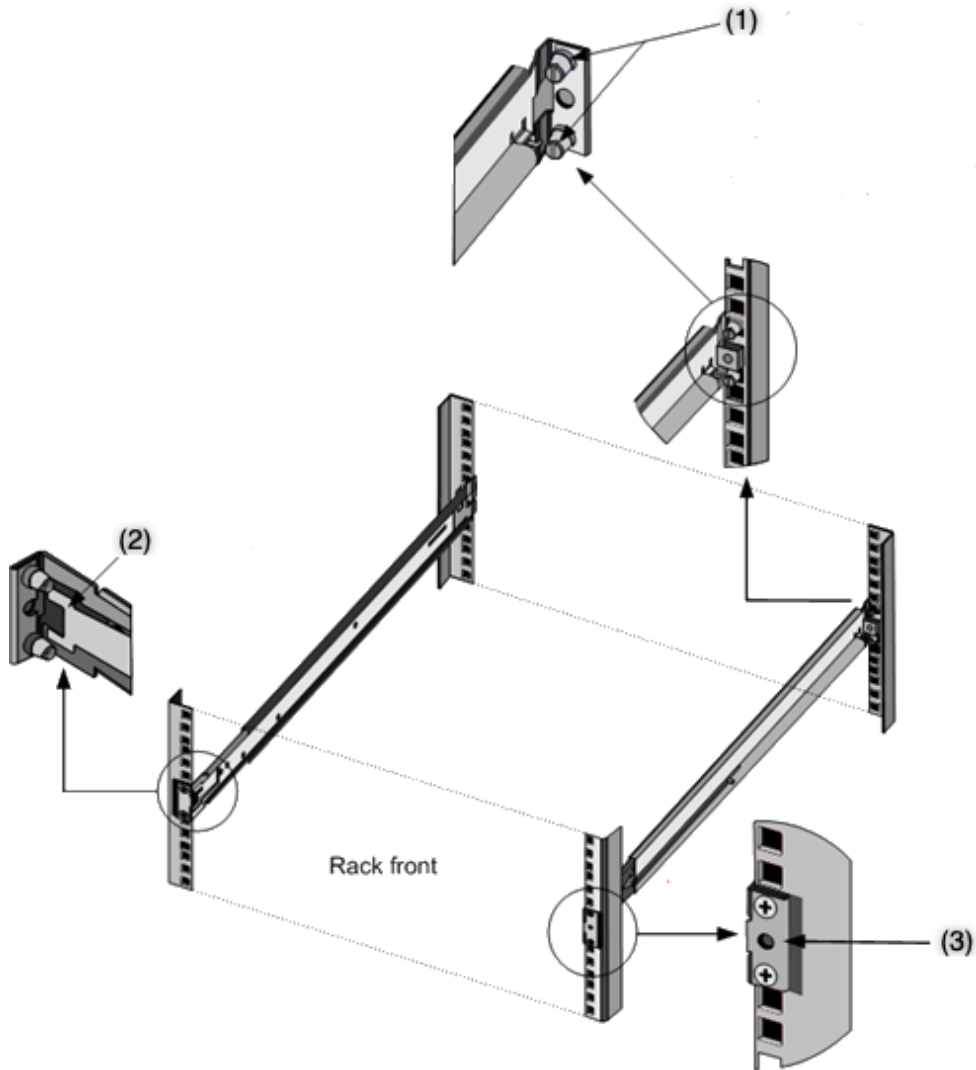
図 3: 背面ラック支柱にリテーナを取り付ける



- (1)-1U または 2U アプライアンスの中央の穴に取り付けます。

- 次の図のように、調整可能なレールアセンブリをラックに取り付けます。後ろのレールフランジをネジでラックに固定します。ネジでレールを適切な位置に固定すると、ラッチのバネを取り外すこともできます。

図 4:



(1)-丸穴ネジラックの場合は、スタッドを取り外して廃棄してください。スタッドを固定していた平頭ネジを使用して、レールをラックに固定します。角穴および丸穴の非ネジラックの場合は、ラックの背面の穴にスタッドを挿入します。

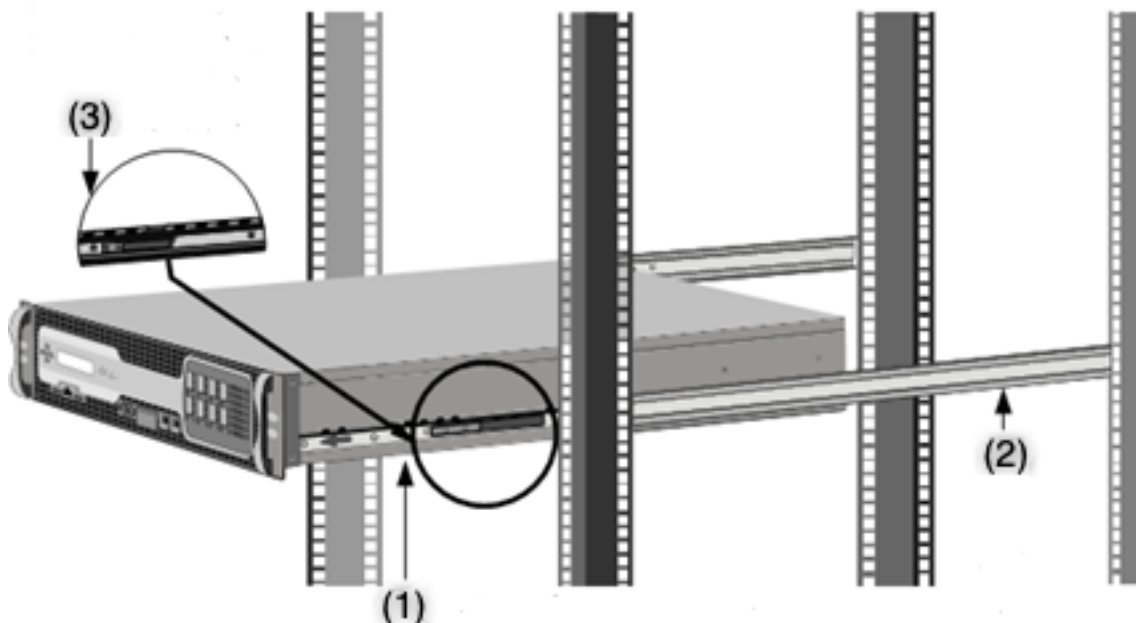
(2)-ラッチスプリング。

(3)-アプライアンスをラックに取り付けるまで、ネジをこの穴に挿入しないでください。

ラックへのアプライアンスの取り付け

1. アプライアンスに取り付けたインナーレールとラックレールの位置を合わせます。
2. 両側に均等に力を加えながら、アプライアンスをラックレールに挿入します。
3. アプライアンスをラックから完全に引き出して、アプライアンスが所定の位置にロックされていることを確認します。

図 5. ラックへのアプライアンスのマウント



- (1)-付属のネジを使用して、インナーレールをアプライアンスに取り付けます。
- (2)-外側のレールをタックに取り付けます。
- (3) -ラッチを押して、アプライアンスをラックの中または外に出します。

SFP (小型フォーム・ファクタ・プラグ) は、最大 1 ギガビット/秒の速度で動作できるコンパクトなトランシーバです。銅と繊維の両方のタイプがあります。1G SFP 銅線トランシーバを装着すると、1G SFP ポートが 1000BASE-T ポートに変換されます。1G SFP ファイバートランシーバを装着すると、1G SFP ポートが 1000BASE-X ポートに変換されます。

オートネゴシエーションは、トランシーバを挿入するポートでデフォルトで有効になっています。ポートとネットワーク間のリンクが確立されると、トランシーバのケーブルの両端でモードが一致します。速度も自動ネゴシエートされます。

トランシーバの取り付けと取り外し

メモ

1G SFP トランシーバはホットスワップ可能です。40G QSFP+/10G SFP+ トランシーバは、ixgbe (ix) インターフェイスを使用する NetScaler ADC アプライアンス上でホットスワップ可能です。>

100G ポートは、ネイティブの 40G/50G/100G トランシーバ、直接接続銅ケーブル (DAC)、アクティブ光ケーブル (AOC) をサポートします。

ネイティブ 10G および 25G トランシーバは、10G および 25G ポートを持たないが、SFP+ から QSFP+ へのア

アダプタの使用を必要とするアプライアンスでサポートされます。このアダプターの購入については、NetScalerの担当者にお問い合わせください。

NetScaler ADC アプライアンスは、Citrix システムズ以外のベンダーのトランシーバをサポートしていません。NetScaler ADC アプライアンスにサードパーティ製トランシーバをインストールしようとする、保証が無効になります。

ケーブルを装着した状態でトランシーバを取り付けしないでください。これを行うと、ケーブル、コネクタ、またはトランシーバの光インターフェイスが損傷する可能性があります。

トランシーバの取り付けと取り外しを頻繁に行うと、トランシーバの寿命が短くなります。トランシーバ—またはアプライアンスの損傷を防ぐため、注意深く取り外し手順に従ってください。

トランシーバの取り付け

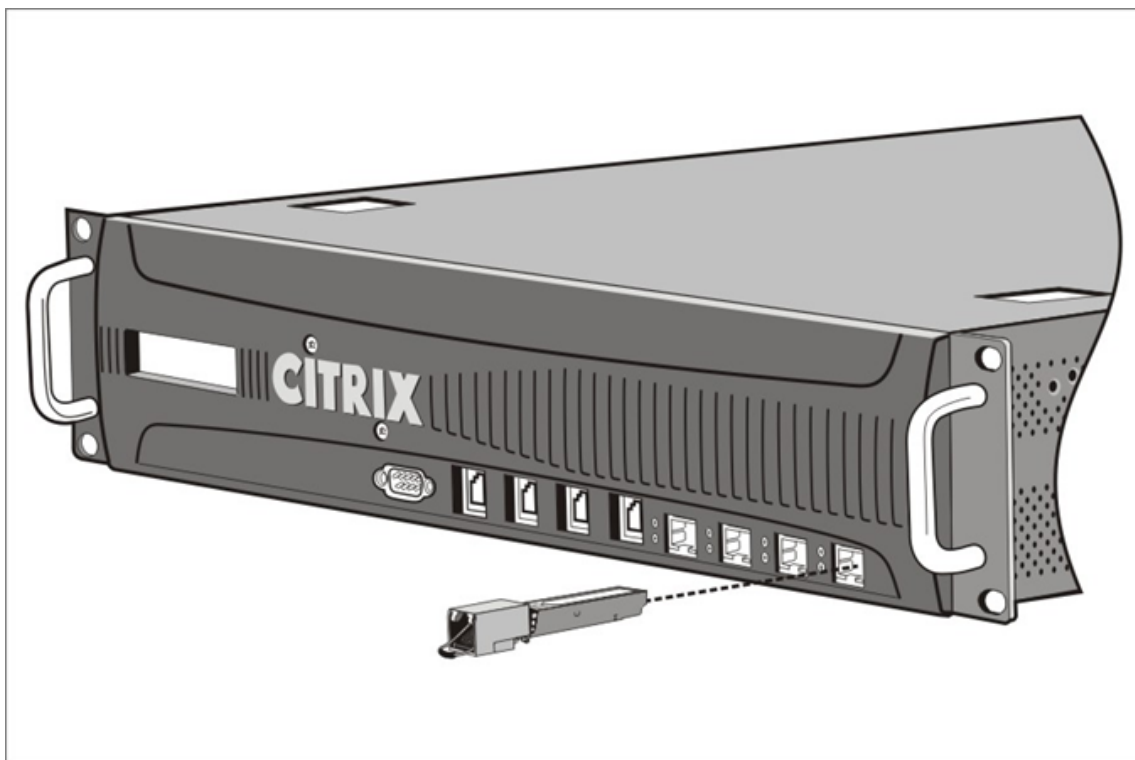
1. トランシーバを箱から慎重に取り外します。

危険: 光ファイバトランシーバやケーブルを直接調べないでください。レーザービームが放射されて目が傷つくおそれがあります。

2. アプライアンスの前面パネルにある適切なトランシーバポートの前面にトランシーバを合わせます。

注: 次の図に示す図は、実際のアプライアンスを表していない場合があります。

図 6: トランシーバの取り付け



3. 親指と人差し指の間にトランシーバを持ち、トランシーバのポートに挿入します。トランシーバが所定の位置にスナップする音がするまで押し込みます。

4. トランシーバーをロックします。
5. LED が緑色で 2 回点滅するのを確認します。これは、トランシーバーが正常に機能していることを示します。
6. ファイバートランシーバを使用している場合は、ケーブルを挿入する準備ができるまで、トランシーバとケーブルに接続されているダストキャップを取り外さないでください。

トランシーバを取り外す

1. トランシーバからケーブルを取り外します。光ファイバーケーブルを使用している場合は、ケーブルをしまう前にケーブルに埃除けキャップを取り付けてください。
危険: 光ファイバートランシーバやケーブルを直接調べないでください。レーザービームが放射されて目が傷つくおそれがあります。
2. トランシーバのロックを解除します。
3. 親指と人差し指の間にトランシーバを持ち、ゆっくりとポートから引き出します。
4. ファイバートランシーバを取り外す場合は、取り外す前にダストキャップを交換してください。
5. トランシーバを元のボックスまたは別の適切な容器に入れます。

アプライアンスでサポートされているトランシーバを確認するには、[ハードウェアプラットフォームでプラットフォームの詳細を確認してください](#)。

ケーブルを接続する

アプライアンスをラックに確実に取り付けした後、ケーブルを接続できます。Ethernet ケーブルとオプションのコンソールケーブルを最初に接続します。最後に電源ケーブルを接続します。

危険: アプライアンスの取り付けまたは修理を行う前に、電源やワイヤに接触する可能性のあるジュエリーやその他の金属オブジェクトをすべて取り外してください。ライブ電源またはワイヤとアースの両方に触れると、金属物体が急速に加熱する可能性があります。また、火傷を引き起こしたり、衣服に火をつけたり、金属オブジェクトを露出した端子に融合させたりすることもあります。

イーサネットケーブルの接続

Ethernet ケーブルはアプライアンスをネットワークに接続します。必要なケーブルの種類は、ネットワークへの接続に使用するポートの種類によって決まります。10/100/1000BASE-T ポートまたは 1G SFP 銅製トランシーバーでは、標準の RJ-45 コネクタを備えたカテゴリ 5e またはカテゴリ 6 のイーサネットケーブルを使用します。1G SFP 光ファイバートランシーバ、10G SFP+、または 40G QSFP+ トランシーバを備えた LC デュプレックスコネクタ付きの光ファイバケーブルを使用します。光ファイバケーブルのもう一方の端にあるコネクタのタイプは、接続するデバイスのポートによって異なります。

Ethernet ケーブルを **10/100/1000BASE-T** ポートまたは **1G SFP** 銅製トランシーバーに接続するには

1. 次の図に示すように、イーサネットケーブルの RJ-45 コネクタをアプライアンスの前面パネルの適切なポートに挿入します。

図 8: イーサネットケーブルを挿入する



2. もう一方の端の RJ-45 コネクタを、ルーターやスイッチなどのターゲットデバイスに挿入します。
3. 接続が確立されて、黄色の LED が点灯することを確認します。

イーサネットケーブルを **1G SFP** ファイバ、**10G SFP+**、または **40G QSFP+** トランシーバーに接続するには

1. トランシーバーとケーブルから埃除けのキャップを外します。
2. 光ファイバケーブルの LC コネクタを、アプライアンスの前面パネルの適切なポートに挿入します。
3. もう一方の端のコネクタを、ルーターやスイッチなどのターゲットデバイスに挿入します。
4. 接続が確立されて、黄色の LED が点灯することを確認します。

コンソールケーブルの接続

コンソールケーブルを使用して、アプライアンスをコンピュータまたはターミナルに接続し、そこからアプライアンスを構成できます。

または、ネットワークに接続されたコンピュータを使用することもできます。コンソールケーブルを接続する前に、VT100 端末エミュレーションをサポートするようにコンピュータまたは端末を次のように設定します。

- 9600 ボー
- 8 データビット
- 1 ストップビット、パリティ、およびフロー制御を **NONE** に設定します。

次に、コンソールケーブルの一方の端をアプライアンスの RS232 シリアルポートに、もう一方の端をコンピュータまたは端末に接続します。

コンソールケーブルをコンピュータまたは端末に接続するには

1. ケーブルの DB-9 コネクタをアプライアンスの前面パネルのコンソールポートに挿入します。

図 9. コンソールケーブルを挿入する



:RJ-45 コンバータ付きのケーブルを使用するには、付属のオプションのコンバータをコンソールポートに挿入し、ケーブルを接続します。

2. RJ-45 コネクタをコンピュータまたは端末のシリアルポートに挿入します。

電源ケーブルを接続します

アプライアンスに同梱されている電源ケーブルの数は、アプライアンスの電源装置の数によって異なります。電源ケーブルが 2 本付属のアプライアンスも、電源ケーブルが 1 本だけ接続されている場合に動作します。電源ケーブルが 4 本付属のアプライアンスは、電源ケーブルが 2 本だけ接続されている場合にも動作します。3 本プラグが接地するため、アースケーブルは別途必要ない場合があります。

アプライアンスを電源に接続するには

1. 電源ケーブルを、アプライアンスの背面にある入口レセプタクルの 1 つに接続します。電源ケーブルのもう一方の端をコンセントに接続します。

図 10. 電源ケーブルを挿入する



2. アプライアンスに複数の電源装置がある場合は、この手順を繰り返します。追加の電源装置は、ホットスワップ可能な冗長電源装置です。
3. アプライアンスの起動後、NetScaler ログとアプライアンス前面の LCD が点灯し、LCD にアプライアンスの動作状態が表示されます。

注

電源装置が 2 つあるアプライアンスは、1 つの電源装置に障害が発生した場合、または 1 つの電源ケーブルだけをアプライアンスに接続すると、高ピッチの警告を発します。アプライアンスの背面パネルにある小さな赤いボタンを押して、アラームを消音します。

アプライアンスのスイッチを入ります

アプライアンスをラックに取り付け、ケーブルを接続したら、電源ケーブルが正しく接続されていることを確認します。複数の電源装置を取り付けた場合は、もう一方のケーブルが、最初の電源装置とは異なる回路のコンセントに接続されていることを確認します。接続を確認したら、アプライアンスをオンにできます。

アプライアンスをオンにするには

1. アプライアンスがコンソールポートまたはイーサネットポートを介して接続されていることを確認します。この接続により、電源を入れた後にアプライアンスを構成できるようになります。
2. アプライアンスの背面パネルのオン/オフ切り替え電源スイッチを押します。

図 11. 背面パネルの電源スイッチ

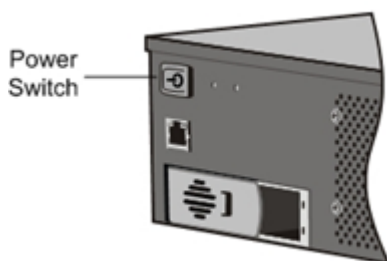
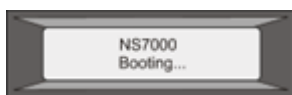


図 12. LCD 起動画面



注意: 電気事故が発生した場合にアプライアンスの電源をすぐに遮断できるように、緊急電源オフ (EPO) スイッチの位置に注意してください。

初期構成

January 25, 2024

アプライアンスをラックに取り付けると、初期設定を実行できます。初期設定が完了したら、使用している機能の特定の構成ガイドを参照してください。

初期構成は、多機能 NetScaler ADC、NetScaler Gateway、および専用の Citrix Web App Firewall アプライアンスでも同じです。アプライアンスの初期構成には、次のインターフェイスのいずれかを使用できます。

- 初回使用ウィザード: Web ブラウザを使用してアプライアンスに接続する場合、ネットワーク構成とライセンス情報がまだ指定されていない場合は、入力を求められます。
- LCD キーパッド: ネットワーク設定を指定できますが、ライセンスをアップロードするには、別のインターフェイスを使用する必要があります。
- シリアルコンソール: シリアルコンソールに接続した後、NetScaler ADC コマンドラインを使用してネットワーク設定を指定し、ライセンスをアップロードできます。
- 動的ホスト構成プロトコル (DHCP): リモートネットワークからアプライアンスを構成するには、DHCP を使用して、リモート構成のためにアプライアンスにアクセスできる IP アドレスを新しい各アプライアンスに割り当てます。また、DHCP を使用して複数の NetScaler ADC アプライアンスをインストールし、コンソールポートを使用せずに構成することもできます。

初期設定の場合、管理ユーザ名とパスワードの両方としてデフォルトのパスワードを使用します。その後のアクセスでは、初回構成時に割り当てるパスワードを使用します。

アプライアンスの初期設定が完了したら、アプライアンスへのセキュアなアクセスを設定できます。その結果、ログオン時にパスワードの入力を求められなくなりました。この設定は、特に多くのパスワードを追跡する必要がある環境で役立ちます。

初回セットアップウィザードを使用する

NetScaler ADC アプライアンス (または NetScaler ADC 仮想アプライアンス) を初めて構成するには、アプライアンスと同じネットワーク上に管理コンピューターを構成する必要があります。

NetScaler IP (NSIP) アドレスを NetScaler ADC アプライアンスの管理 IP アドレスとして割り当てます。このアドレスでは、構成、監視、およびその他の管理タスクのためにアプライアンスにアクセスします。NetScaler ADC がバックエンドサーバーと通信するためのサブネット IP (SNIP) アドレスを割り当てます。アプライアンスを識別するためのホスト名、ドメイン名を解決する DNS サーバーの IP アドレス、アプライアンスが配置されているタイムゾーンを指定します。

ウィザードは、以下のいずれかの条件が満たされると自動的に起動します。

- アプライアンスはデフォルトの IP アドレスで設定されています。
- サブネット IP アドレスが構成されていない。
- アプライアンスにライセンスが存在しない。

アプライアンスの初回構成を実行

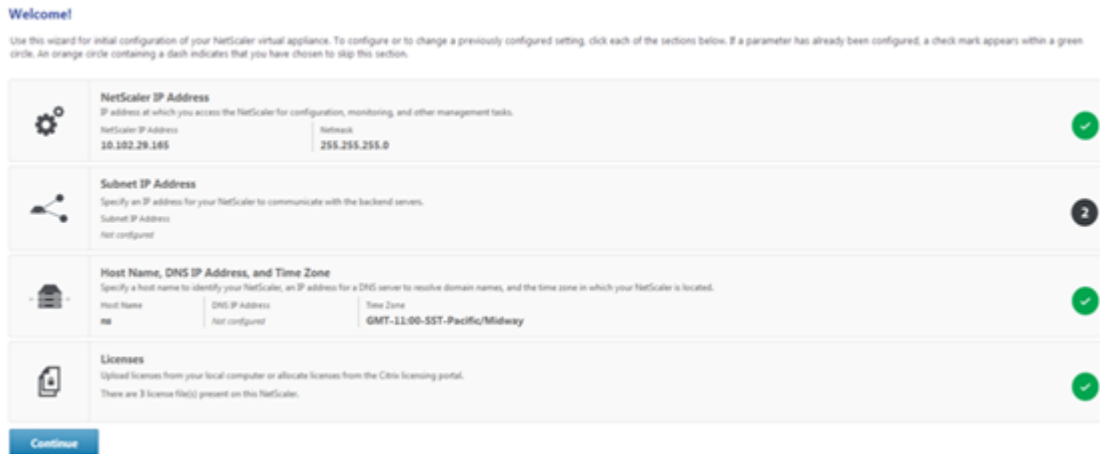
1. Web ブラウザで、次のように入力します。

```
1 http://192.168.100.1
2 <!--NeedCopy-->
```

注: NetScaler ADC ソフトウェアは、このデフォルトの IP アドレスで事前構成されています。
NSIP アドレスを割り当て済みの場合は、Web ブラウザーにそのアドレスを入力します。

2. [ユーザー名]に「**nsroot**」と入力します。パスワードに、以前のデフォルトパスワードが機能しない場合は、アプライアンスのシリアル番号を入力してみてください。シリアル番号のバーコードは、アプライアンスの背面にあります。最初のログオン後にパスワードを変更することをお勧めします。パスワードの変更については、「[管理者パスワードを変更する](#)」を参照してください。

次の画面が開きます。



3. 設定を構成したり変更したりするには、そのセクションをクリックします。設定が完了したら、**[Continue]** をクリックします。
4. プロンプトが表示されたら、**[再起動]** を選択します。

LCD キーパッドを使用する

最初にアプライアンスをインストールするときに、アプライアンスの前面パネルにある LCD キーパッドを使用して、初期設定を構成できます。キーパッドでは、同じくアプライアンスの前面パネルにある LCD ディスプレイモジュールを操作します。

注: LCD キーパッドを使用して、新しいアプライアンスをデフォルト構成で初期設定できます。構成ファイル (ns.conf) には、次のコマンドとデフォルト値が含まれている必要があります。

```
1 set ns config -IPAddress 192.168.100.1 -netmask 255.255.0.0
2 <!--NeedCopy-->
```

次の表で、それぞれのキーの機能について説明します。

表 1. LCD キー機能

キー	機能
<	カーソルを左へ 1 桁移動します。
>	カーソルを右へ 1 桁移動します。

キー	機能
	カーソルの下の桁を増やします。
V	カーソルの下の桁を減らします。
.	情報を処理するか、値の変更がなければ設定を終了します。このキーは、 Enter キーとも呼ばれます。

LCD キーパッドを使用して初回構成を行うには、「<」キーを押します。

サブネットマスク、NetScaler IP アドレス (NSIP)、ゲートウェイをそれぞれこの順序で入力するように求められます。サブネットマスクは、NSIP とデフォルトゲートウェイ IP アドレスの両方に関連付けられています。NSIP は、NetScaler ADC アプライアンスの IPv4 アドレスです。デフォルトゲートウェイは、ルータの IPv4 アドレスです。このアドレスは、アプライアンスがルーティングできない外部 IP トラフィックを処理します。NSIP アドレスとデフォルトゲートウェイは、同じサブネット上に存在する必要があります。

サブネットマスクに 255.255.255.224 などの有効な値を入力すると、IP アドレスを入力するように求められます。同様に、IP アドレスに有効な値を入力すると、ゲートウェイアドレスを入力するように求められます。入力した値が無効の場合は、次のエラーメッセージが 3 秒間表示されます。xxx.xxx.xxx.xxx は入力した IP アドレスで、値の再入力要求が続きます。

```
1 Invalid addr!  
2 xxx.xxx.xxx.xxx  
3 <!--NeedCopy-->
```

数字を変更せずに Enter (.) キーを押すと、ソフトウェアはユーザ終了要求として解釈します。次のメッセージが 3 秒間表示されます。

```
1 Exiting menu...  
2 xxx.xxx.xxx.xxx  
3 <!--NeedCopy-->
```

入力したすべての値が有効な場合は、**Enter** キーを押すと、次のメッセージが表示されます。

```
1 Values accepted,  
2 Rebooting...  
3 <!--NeedCopy-->
```

サブネットマスク、NSIP、およびゲートウェイの値は、構成ファイルに保存されます。

注: 高可用性 (HA) ペアのデプロイについては、「[高可用性](#)」を参照してください。

NetScaler ADC シリアルコンソールの使用

アプライアンスを最初にインストールするときに、シリアルコンソールを使用して初期設定を行います。シリアルコンソールを使用すると、システム IP アドレスの変更、サブネットまたはマップ IP アドレスの作成、高度なネットワ

ーク設定の構成、およびタイムゾーンの変更を行うことができます。

注: アプライアンスのシリアル・コンソール・ポートを確認するには、各アプライアンスの前面パネルの図を参照してください。

シリアルコンソールを使用して初期設定を構成する

1. コンソールケーブルをアプライアンスに接続します。詳細については、「[ハードウェアの設置](#)」の「[コンソールケーブルの接続](#)」を参照してください。
2. コンピューター上で選択した vt100 端末エミュレーションプログラムを実行してアプライアンスに接続し、次の設定を構成します。9600 ボー、8 データビット、1 ストップビット、および「NONE」に設定されたフロー制御。
3. Enter キーを押します。端末画面にログオンプロンプトが表示されます。

注: 使用している端末プログラムによっては、Enter キーを 2~3 回押す必要があります。

4. 管理者資格情報を使用して、アプライアンスにログオンします。[ユーザー名]に「`nsroot`」と入力します。パスワードに、以前のデフォルトパスワードが機能しない場合は、アプライアンスのシリアル番号を入力してみてください。シリアル番号のバーコードは、アプライアンスの背面にあります。最初のログオン後にパスワードを変更することをお勧めします。パスワードの変更については、「[管理者パスワードを変更する](#)」を参照してください。
5. プロンプトで、`config ns` と入力して NetScaler ADC 構成スクリプトを実行します。
6. プロンプトに従って、アプライアンスの初回構成を完了します。

注: アプライアンスへのパケット送信を攻撃者によって阻止されないように、組織の LAN で、ルーティング不可能な IP アドレスをアプライアンス IP アドレスとして選択します。

手順 5 と 6 を次のコマンドに置き換えることができます。NetScaler のコマンドプロンプトで、次のように入力します。

```
1 set ns config -ipaddress<IPAddress> -netmask<subnetMask>
2 add ns ip<IPAddress> <subnetMask> -type<type>
3 add route<network> <netmask> <gateway>
4 set system user <userName> -password
5 save ns config
6 reboot
7 <!--NeedCopy-->
```

例:

```
1 set ns config -ipaddress 10.102.29.60 -netmask 255.255.255.0
2 add ns ip 10.102.29.61 255.255.255.0 -type snip
3 add route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.102.29.1
4 set system user nsroot -password
5 Enter password: *****
```

```
6 Confirm password: *****
7 save ns config
8 reboot
9 <!--NeedCopy-->
```

これで、アプライアンスの初期構成が完了しました。

初期アクセスに **DHCP** を使用する

注: NetScaler ADC アプライアンスおよびアプライアンスという用語は同じ意味で使用されます。

NetScaler ADC アプライアンスの初期構成では、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用してコンソールへの依存を排除できます。DHCP は、サブネット IP (SNIP) アドレスを提供します。このアドレスでは、アプライアンスにアクセスしてリモートで構成できます。たとえば、アプライアンスを別のサブネットに移動する場合など、初期設定後に DHCP を使用することもできます。

DHCP を使用するには、まず DHCP サーバーでアプライアンスのベンダークラス識別子を指定する必要があります。オプションで、NetScaler ADC アプライアンスが IP アドレスを取得できる IP アドレスのプールを指定することもできます。プールが指定されていない場合、アドレスは一般プールから取得されます。

新しい NetScaler ADC アプライアンスには構成ファイルがありません。構成ファイルがないアプライアンスをネットワークに接続すると、その DHCP クライアントは、DHCP サーバーで IP アドレスを自動的にポーリングします。DHCP サーバーでアプライアンスのベンダークラス識別子を指定した場合、サーバーはアドレスを返します。以前に構成したアプライアンスで DHCP クライアントを有効にすることもできます。

前提条件

DHCP を使用するには、次のことが必要です。

1. アプライアンスの背面パネルにあるシリアル番号ステッカーにあるシステム ID (`sysid`) を書き留めます。古いアプライアンスでは、システム ID が使用できない場合があります。この場合、システム ID の代わりに MAC アドレスを使用します。
2. DHCP サーバーをセットアップし、アプライアンスのベンダークラス識別子を使用して構成します。

NetScaler ADC アプライアンス用の **Linux/UNIX DHCP** サーバーの構成

1. サーバーの `dhcp.conf` ファイルに次の構成を追加して、NetScaler ADC アプライアンスのベンダークラス識別子として「Citrix-NS」を指定します。サブクラス宣言は、サブネット宣言の内側にある必要があります。

```
1 option space auto;
2     option auto.key code 1 = text;
3
4     class "citrix-1" {
```



```
5
6     match option vendor-class-identifier;
7     }
8
9
10    subclass "citrix-1" "citrix-NS"{
11
12    vendor-option-space auto;
13    option auto.key "citrix-NS";
14 <!--NeedCopy-->
```

注: dhcp.conf ファイルの場所は、Linux/UNIX ベースのオペレーティングシステムのバージョンやフレーバーによって異なる場合があります。例えば、FreeBSD 6.3 では、ファイルは /etc フォルダ内に存在します。場所については、DHCP サーバの `dhcpd manpage` を参照してください。

1. NetScaler ADC アプライアンスで一般プールの IP アドレスを使用しない場合は、アプライアンスのアドレスプールを指定します。サブネット宣言の中にこのプール宣言を含めます。たとえば、次の構成を dhcp.conf ファイルに追加すると、192.168.2.120 から 192.168.2.127 の範囲の IP アドレスのプールが指定されます。

```
1 pool {
2
3 allow members of "citrix-1";
4 range 192.168.2.120 192.168.2.127;
5 option subnet-mask 255.255.255.0;
6 }
7
8 <!--NeedCopy-->
```

1. DHCP プロセスを終了し、再起動して、設定ファイルへの変更を反映します。シェルプロンプトで、次のように入力します:

```
1 killall dhcpd
2 dhcpd&
3 <!--NeedCopy-->
```

DHCP 設定の例 (dhcpd.conf)

```
1 option space auto;
2 option auto.key code 1 = text;
3
4 class "citrix-1" {
5
6     match option vendor-class-identifier;
7 }
8
9
10 subnet 192.168.2.0 netmask 255.255.255.0 {
11
12 option routers10.217.242.1;
13 option domain-name"jeffbr.local";
14 option domain-name-servers8.8.8.8;
```

```
15 default-lease-time 21600;
16 max-lease-time 43200;
17 subclass "citrix-1" "citrix-NS" {
18
19 vendor-option-space auto;
20 option auto.key "citrix-NS";
21 }
22
23 pool {
24
25 allow members of "citrix-1";
26 range 192.168.2.120 192.168.2.127;
27 option subnet-mask 255.255.255.0;
28 }
29
30 }
31
32 <!--NeedCopy-->
```

1. サーバーマネージャーを開き、DHCP サービスが実行されていることを確認します。
2. **DHCP** マネージャを開き、[**DHCP**] をクリックし、[**IPv4**] を選択します。
3. ベンダークラスを `..citrix-NS` に設定するには、[**IPv4**] を右クリックし、[**ベンダークラスの定義**] を選択します。表示名、説明、および ASCII 値として「.citrix-NS」を指定して、新しいクラスを追加します。[**OK**] をクリックします。
4. スコープを作成して、IP 範囲、サブネットワーク、DNS サーバー、WIN サーバー、デフォルトゲートウェイ、および除外された IP アドレス範囲を構成します。スコープを作成するには、**IPv4** リストで [**スコープのオプション**] を右クリックし、名前と説明を入力します。[**Next**] をクリックします。
5. サーバにバインドされたインターフェイスの IP アドレスに対応する IP アドレス範囲とサブネットマスクを指定します。[**Next**] をクリックします。
6. IP アドレスを除外するには、[**除外の追加**] と [**遅延**] にそのアドレスを追加します。[**Next**] をクリックします。
7. リース期間を追加して、[**次へ**] をクリックします。
8. [**はい、これらのオプションを今すぐ設定する**] を選択し、[**次へ**] をクリックします。
9. 必要に応じて、デフォルトゲートウェイを指定し、[**Next**] をクリックします。
10. 必要に応じて、ドメイン名と DNS サーバーを指定し、[**次へ**] をクリックします。
11. 必要に応じて、WINS サーバを指定し、[**次へ**] をクリックします。
12. [**はい、このスコープをアクティブにします**] を選択してスコープをアクティブにし、[**次へ**] をクリックします。
13. [**完了**] をクリックします。[**IPv4**] タブで構成されたスコープを表示できます。

リモートコンピュータからの **NetScaler ADC** 初期構成の実装

新しい NetScaler ADC アプライアンスが起動すると、DHCP サーバーに IP アドレスを自動的にポーリングし、DHCP サーバーにその `sysid` を提供します。このアクションは、設定ファイルを持たないアプライアンスにも当てはまります。DHCP サーバーは、プールから 1 つの IP アドレスを選択し、それをサブネット IP (SNIP) アドレスとしてアプライアンスに割り当てます。DHCP サーバーには、アプライアンスの `dhcpd.leases` ファイルに、アプライアンスの `sysid` と、アプライアンスに割り当てる IP アドレスが含まれます。アプライアンスの IP アドレスを調べるには、`dhcpd.leases` ファイルで、`uid` フィールドまたは `client-hostname` フィールドにアプライアンスの `sysid` が含まれている最後のエントリを探します。このエントリのバインディング状態がアクティブであることを確認します。バインド状態がアクティブではなく空の場合、IP アドレスはまだアプライアンスに関連付けられていません。

このアドレスを使用して、アプライアンスに接続し、初期設定をリモートで構成できます。たとえば、DHCP サーバーから取得した IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの設定を変更できます。初期設定が完了したら、DHCP IP アドレスを手動でサーバプールに戻すことができます。または、アプライアンスを再起動すると、DHCP IP アドレスがサーバプールに自動的に解放されます。

アプライアンスに割り当てられた SNIP アドレスは、NetScaler ADC コンソールまたは DHCP サーバーから確認できます。

NetScaler ADC コンソールから **SNIP** アドレスを検索します コンソールプロンプトで、次のように入力します。

```
1 sh dhcpParams
2 DHCP Client on next reboot is ON
3 DHCP Client Current State: Active
4 DHCP Client Default route save: OFF
5 DHCP acquired IP:192.168.2.127
6 DHCP acquired Netmask:255.255.255.0
7 DHCP acquired Gateway:192.168.2.1
8 Done
9 <!--NeedCopy-->
```

DHCP サーバーから **SNIP** アドレスを検索します `dhcpd.leases` ファイルで、アプライアンスの `uid` フィールドまたは `client-hostname` フィールドの `sysid` がある最後のエントリを探します。

例:

DHCP サーバーの `dhcpd.leases` ファイルの次のエントリは、`sysid` が `45eae1a8157e89b9314f` のアプライアンスのバインド状態を確認します。

```
1 lease 192.168.2.127 {
2
3   starts 3 2013/08/19 00:40:37;
4   ends 3 2013/08/19 06:40:37;
5   cltt 3 2013/08/19 00:40:37;
6   binding state active;
```

```

7   next binding state free;
8   hardware ethernet 00:d0:68:11:f4:d6;
9   uid "45eae1a8157e89b9314f";
10  client-hostname "45eae1a8157e89b9314f";
11  <!--NeedCopy-->

```

前の例では、バインディング状態は ACTIVE で、アプライアンスに割り当てられた IP アドレスは 192.168.2.127 です。

次の表は、新しい NetScaler ADC アプライアンスの構成時に使用する DHCP 関連の CLI コマンドを示しています。

表 2. 新しい NetScaler ADC アプライアンスで DHCP を使用するための NetScaler ADC CLI コマンド

タスク	コマンドプロンプトで入力します:
アプライアンスの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイなど、DHCP から取得した詳細を確認するには	sh DHCPParams
NetScaler ADC 構成が完了したときに DHCP IP アドレスを解放し、DHCP サーバーの IP アドレスプールに戻すには	dhcPIP をリリース

設定ファイルが存在する場合の **DHCP** の使用

NetScaler ADC アプライアンスを別のサブネットに移動する必要がある場合は、DHCP を使用して、すでに構成ファイルがあるアプライアンスにアクセスできます。アプライアンスを移動する前に、DHCP クライアントを有効にし、設定を保存します。その結果、アプライアンスが再起動すると、DHCP サーバで IP アドレスを自動的にポーリングします。アプライアンスをシャットダウンする前に、DHCP クライアントを有効にし、設定を保存してください。有効にしなかった場合は、コンソールからアプライアンスに接続し、アプライアンス上で DHCP クライアントを動的に実行する必要があります。DHCP サーバは、IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネットマスクを提供します。IP アドレスを使用してアプライアンスにアクセスし、その他の設定をリモートで構成できます。

DHCP クライアントが構成ファイル内で有効になっている場合は、それを無効にしてから、構成ファイルを保存します。DHCP クライアントが有効になっている場合、アプライアンスは再起動時に DHCP サーバを再度ポーリングし、IP アドレスを確認します。

各タスクに関連付けられた CLI コマンドは次のとおりです。

- DHCP クライアントを動的に実行して DHCP サーバから IP アドレスを取得するには


```
set dhcpParams dhcpClient on
```
- アプライアンスの再起動時に実行されるように DHCP クライアントを構成するには


```
set dhcpParams dhcpClient on
save config
```

- アプライアンスの再起動時に DHCP クライアントが実行されないようにするには

```
set dhcpParams dhcpClient off
```

```
save config
```

注: このコマンドは、ON 設定が保存された場合にのみ必要です。

- アプライアンスの再起動時に DHCP が取得したルートを使用できるように保存するには

```
> set dhcpParams -dhcpclient on -saveroute on
```

```
> save config
```

- DHCP 取得ルートを保存しないようにするには (デフォルトの動作)

```
set dhcpParams -dhcpclient on -saveroute off
```

```
save config
```

注: このコマンドは、ON 設定が保存された場合にのみ必要です。

SSH キーを使用し、パスワードなしで **NetScaler ADC** アプライアンスにアクセスする

多くの NetScaler ADC アプライアンスを管理する場合、個々のアプライアンスにログオンするためのパスワードの保存と検索は面倒です。パスワードの入力を求められないように、各アプライアンスで公開鍵暗号化を使用したセキュアアクセスを設定できます。

NetScaler ADC 機能は、内部ユーザーが無効になっている場合 (set ns param-internaluserlogin disabled コマンドを使用して) 内部通信に SSH キーベースの認証を使用することもできます。そのような場合は、キー名を `ns_comm_key` として設定する必要があります。

SSH キーを使用してアクセスを設定するには、クライアントで公開鍵と秘密鍵のペアを生成し、その公開鍵をリモートの NetScaler ADC アプライアンスにコピーする必要があります。

SSH キーを使用してキーを生成し、リモートの **NetScaler ADC** アプライアンスに接続する

1. クライアント (Linux クライアントまたは NetScaler ADC) で、ディレクトリを `/root/.ssh` に変更します。

```
cd /root/.ssh
```

2. 公開鍵と秘密鍵のペアを生成します。

```
ssh-keygen -t <key_type> -f <optional_key_file_name>
```

例:

デフォルトのファイル名で RSA キーを作成します。

```
ssh-keygen -t rsa
```

3. キーペアのファイル名の入力を求められたら、Enter キーを押します。

注:

- キーペアのデフォルトのファイル名を更新する場合は、この手順の残りの部分では、デフォルト名の代わりに新しい名前を使用します。
- 内部ユーザログインを無効にする場合は、公開鍵と秘密鍵のペアのファイル名として「ns_comm_key」を使用します。

4. パスフレーズの入力を求められたら、Enter キーを 2 回押します。

注: クライアントが NetScaler ADC アプライアンスの場合は、/flash ディレクトリや/var ディレクトリのサブディレクトリなどの永続的な場所に秘密キーファイルを移動します。

5. FTP を使用してクライアントからリモートの NetScaler ADC アプライアンスにログオンし、次の手順に従います。

- a) ディレクトリを /nsconfig/ssh に変更します。プロンプトで、次のように入力します:

```
cd /nsconfig/ssh
```

- b) バイナリ転送モードを使用して、パブリックキーをこのディレクトリにコピーします。

```
bin  
put id_rsa.pub
```

6. PuTTY などの SSH クライアントを使用してリモートの NetScaler ADC アプライアンスへの接続を開き、次の手順に従います。

- a) 管理者の資格情報を使用してリモートアプライアンスにログオンします。

- b) NetScaler ADC シェルに移動します。

```
shell
```

- c) シェルプロンプトで、ディレクトリを /nsconfig/ssh に変更します。

```
root@ns# cd /nsconfig/ssh
```

- d) authorized_keys ファイルに公開鍵を追加します。シェルプロンプトで、次のように入力します:

```
root@ns# cat id_rsa.pub >> authorized_keys
```

注:

authorized_keys ファイルがアプライアンス上に存在しない場合は、まずファイルを作成してから内容を追加する必要があります。

- e) /flash、nsconfig、ssh ディレクトリの権限を 755 に変更します。

```
root@ns# chmod 755 /flash  
root@ns# chmod 755 /flash/nsconfig  
root@ns# chmod 755 /flash/nsconfig/ssh
```

f) `authorized_keys` ファイルの権限を 744 に変更します。

```
root@ns# chmod 744 authorized_keys
```

g) 必要に応じて、公開キーを削除します。

```
root@ns# rm id_rsa.pub
```

7. クライアントで、パスワードを入力せずに、SSH を使用してリモートの NetScaler ADC アプライアンスに接続できることを確認します。

パブリックキーと秘密キーのペアにデフォルトのファイル名を使用する場合。

```
ssh <user_name>@<CitrixADCIPAddress>
```

公開鍵と秘密鍵のペアに「`ns_comm_key`」(内部ユーザーが無効の場合)を使用する場合。

```
ssh -i /nsconfig/ssh/ns_comm_key <user_name>@<CitrixADCIPAddress>
```

パブリックキーと秘密キーのペアに他の名前を使用する場合。

```
ssh -i <path_to_client_private_key> <user_name>@<CitrixADCIPAddress>
```

管理パスワードの変更

デフォルトのユーザーアカウントは管理者アカウントで、NetScaler ADC アプライアンスのすべての機能に完全にアクセスできます。セキュリティを維持するには、必要な場合にのみ管理者アカウントを使用する必要があります。フルアクセスを必要とする職務の個人だけが、管理者アカウントのパスワードを知っている必要があります。

注: 管理者パスワードを頻繁に変更することをお勧めします。

GUI を使用して管理パスワードを変更する

1. 管理者資格情報を使用してアプライアンスにログオンします。
2. **[System] > [User Administration] > [Users]** の順に選択します。
3. [ユーザー] ウィンドウで、既定のユーザーアカウントをクリックし、[パスワードの変更] をクリックします。
4. [パスワードの変更] ダイアログボックスの [パスワード] と [パスワードの確認] ボックスに、任意のパスワードを入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

CLI を使用して管理パスワードを変更する

コマンドプロンプトで入力します:

```
1 set system user <userName> -password  
2 <!--NeedCopy-->
```

例:

```
1 set system user nsroot -password
2 Enter password: *****
3 Confirm password: *****
4 Done
5 <!--NeedCopy-->
```

NetScaler MPX アプライアンスの管理ポートをライトアウト

January 25, 2024

一部の NetScaler ADC アプライアンスでは、アプライアンスの前面パネルにインテリジェントプラットフォーム管理インターフェイス (IPMI) (ライトアウト管理 (LOM) ポートとも呼ばれます) があります。NetScaler ADC ソフトウェアとは無関係に、LOM ポートを使用してアプライアンスをリモートで監視および管理できます。

データネットワークがダウンしている場合でも、アプライアンスへの接続を維持するために、データチャネルとは別の専用チャネルに LOM ポートを接続します。データケーブルとデータネットワークは、単一障害点として排除します。

LOM ポートにはブラウザからアクセスでき、ほとんどのタスクでは GUI (GUI) を使用できます。すべてのタスクは、NetScaler ADC シェルを使用して実行できます。

次のタスクには、GUI またはシェルのいずれかを使用できます。

- ネットワーク設定の構成
- サーバーヘルス監視
- 電源制御操作
- 工場出荷時リセット
- RAKP を有効または無効にする

NetScaler ADC アプライアンスが異なれば、サポートするシェルも異なります。

- FreeBSD ベースの NetScaler ADC MPX アプライアンスの場合は、`bash nsroot` シェル (NS シェルとも呼ばれます) を使用します。
- Linux ベースのアプライアンスの場合は、Linux `bash` ルートシェルを使用します。

注:

LOM とベースボード管理コントローラ (BMC) という用語は同じ意味で使用されます。

LOM サポートマトリックス

LOM サポートマトリックスは、プラットフォームごとに推奨される LOM ファームウェアバージョンを示しています。

NetScaler MPX

プラットフォーム	推奨バージョン
MPX 5900	4.61
MPX 8015	3.21
MPX 8900	4.61
MPX 9100	2.13.12
MPX 11500	3.39
MPX 11500 NEBS	3.39
MPX 11515	3.39
MPX 14000	4.14
MPX 14000-40S	4.14
MPX 14000 FIPS	4.14
MPX 14000-40G	4.14
MPX 15000	5.56
MPX 15000-50G	5.56
MPX 16000	2.13.12
MPX 17500	3.39
MPX 17550	3.39
MPX 22000	3.24
MPX 24000	3.24
MPX 25000A	4.14
MPX 25000TA	4.14
MPX 25000-40G	4.14
MPX 26000	5.56
MPX 26000-50S	5.56
MPX 26000-100G	5.56

IPMI ツールを使用して **LOM** パスワードの長さを設定します

January 25, 2024

NetScaler MPX では、IPMI ツールを使用して LOM パスワードにさまざまな長さ（16 文字から 20 文字の範囲）を設定できます。LOM GUI を使用して LOM パスワードを変更または作成することに制限はありません。ただし、このタスクに IPMI ツールを使用する際にはいくつかの制限があります。

IPMI ツールを使用して **LOM** パスワードの長さを設定するには

1. NetScaler シェルにログインします。
2. 次を入力: `ipmitool user set password <userid> <password> <20>`

最後に 20 を入力しないと、16 文字を超えるパスワードで LOM GUI にログインできません。パスワードの長さが 16 文字未満の場合は、20 を入力する必要はありません。パスワードに特殊文字を含めるには、二重引用符で囲みます。

例

次に、LOM パスワードの長さを 19 文字から始め 17 文字に減らして出力するサンプルコマンドをいくつか示します。これらのコマンドは、<20> コマンドの最後に必要です。

例 #1-LOM パスワードの長さ = 19

```
root@ns# ipmitool user set password 2 examplelompassword1 20
```

ユーザーパスワードの設定コマンドが正常に終了しました (ユーザー 2)

例 #2-LOM パスワードの長さ = 18

```
root@ns# ipmitool user set password 2 examplelompassword 20
```

ユーザーパスワードの設定コマンドが正常に終了しました (ユーザー 2)

例 #3-LOM パスワードの長さ = 17

```
root@ns# ipmitool user set password 2 examplelompasswor 20
```

ユーザーパスワードの設定コマンドが正常に終了しました (ユーザー 2)

注意事項

- MPX 5900、MPX 8900、MPX 14000、および MPX 15000 プラットフォームでは、LOM ファームウェアは最大 19 文字のパスワードをサポートします。
- MPX 9100 および MPX 16000 プラットフォームでは、LOM ファームウェアは最大 20 文字のパスワードをサポートします。

LOM ポートのネットワーク設定を構成する

January 25, 2024

LOM ポートへの初期アクセスのデフォルトの IP アドレスは 192.168.1.3 です。最初のログオン時に、既定の資格情報と IP アドレスを変更します。すべての LOM GUI 操作では、Web ブラウザーで LOM IP アドレスを入力し、管理者資格情報を入力して、アプライアンスに接続する必要があります。または、`ipmitool` ユーティリティを使用して、コマンドラインから LOM 機能にアクセスできます。`ipmitool` ユーティリティをリモートで使用すると、次のことができます。

- LOM ファームウェアのバージョン番号を確認します。
- ウォーム再起動とコールド再起動を実行します。
- LOM ネットワーク設定を構成します。
- アプライアンスのヘルスを監視します。
- 電源制御操作を実行します。

このユーティリティは、<http://ipmitool.sourceforge.net/> でダウンロードできます。`ipmitool` ユーティリティは、NetScaler MPX および CloudBridge/SDX (dom0) アプライアンスにも含まれており、LOM ポートネットワークの初期構成が可能です。シェルを使用する場合、初期ネットワーク構成に DHCP 設定または静的 IP 設定を使用できます。ネットワーク設定を構成したら、ネットワーク経由で `ipmitool` コマンドを使用できます。たとえば、BMC firmware revision コマンドには、BMC/LOM GUI ポートにアクセスするのと同じユーザー名、パスワード、IP アドレスが必要です。

初期構成では、ラップトップまたはワークステーションのネットワークポートを、クロスケーブルを使用して LOM ポートに直接接続します。または、LOM ポートと同じローカルサブネット (192.168.1.x) 内のスイッチに接続します。ネットワーク到達可能な IP アドレスを割り当て、デフォルトのクレデンシャルを変更します。新しい設定を保存すると、LOM が再起動し、変更が有効になります。再起動後、新しいアドレスを使用して LOM にアクセスする必要があります。

間違えて古い IP アドレスと新しい IP アドレスの両方でネットワーク接続が失われる場合は、ローカルシェル方式を使用して復旧する必要があります。

管理者の資格情報を管理し、[セキュアな LOM 展開のためのネットワークを設定するためのベストプラクティスについては、『セキュア展開ガイド』](#) を参照してください。

ヒント: ネットワークを初めてセットアップする場合、トラブルシューティングを容易にするために、ラップトップ/PC が LOM ポートに直接接続されていることを確認してください。ラップトップ/PC の静的アドレスを使用して、デフォルトの IP アドレス (192.168.1.3) で LOM GUI に ping を実行し、アクセスできるがリモートアクセスが機能しない場合は、次の手順を実行します。

- ネットワークパス上にあるすべてのネットワークデバイスのネットワークファイアウォール設定とアクセス制御リスト (ACL) ポリシーについて詳しく見てみましょう。

ヒント: LOM GUI 機能の一部が機能しても機能しない機能 (たとえば、通常の ADC コンソール出力が LOM GUI の ADC コンソール・ウィンドウに表示されているが、コンソールでの入力は機能しない) 場合は、前述の方法を試して、ネットワークによってブロックされている特定の BMC プロトコルの原因を特定します。

ヒント: iKVM (HTML5) 機能を使用して LOM GUI にアクセスします。または、Java を使用します。最新の Java アップデートがコンピュータにインストールされていることを確認します。

GUI を使用して NetScaler ADC LOM ポートを構成する

1. Web ブラウザで、<http://192.168.1.3>を入力し デフォルトのユーザー資格情報を入力します。
注: NetScaler LOM ポートは、IP アドレス 192.168.1.3 とサブネットマスク 255.255.0 で事前構成されています。
2. [構成] タブで、[ネットワーク] をクリックし、次のパラメーターの新しい値を入力します。
 - IP アドレス: LOM ポートの IP アドレス
 - サブネットマスク: LOM ポートのサブネットを定義するために使用されるサブネットマスク
 - デフォルトゲートウェイ: LOM ポートをネットワークに接続するルータの IP アドレス
3. [Save] をクリックします。
4. ユーザーの資格情報を変更する場合は、[構成] > [ユーザー] に移動してユーザーを選択し、[ユーザーの変更] をクリックして、資格情報を変更します。

シェルを使用して NetScaler ADC LOM ポートを構成する

注: シェルにアクセスするには、スーパーユーザー (admin) 資格情報が必要です。

1. IP アドレッシングモードを設定します。
 - DHCP を使用するには、シェルプロンプトで次のように入力します。

```
ipmitool lan set 1 ipsrc dhcp
```

それ以上の IP レベルの設定は必要ありません。
 - 静的アドレス指定を使用するには、シェルプロンプトで次のように入力します。
 - a) `ipmitool lan set 1 ipsrc static`
 - b) `ipmitool lan set 1 ipaddr <LOM IP address>`
 - c) `ipmitool lan set 1 netmask <netmask IP address>`
 - d) `ipmitool lan set 1 defgw ipaddr <default gateway IP address >`

BMC が再起動し、変更が適用されます。BMC への ping は、約 60 秒後に成功します。

2. 必要に応じて、イーサネット VLAN ID とプライオリティを構成するには、NetScaler ADC シェルプロンプトで次のように入力します。

- `ipmitool lan set 1 vlan id <off|<ID>>`
- `ipmitool lan set 1 vlan priority <priority>`

VLAN は、無効または有効にできます。VLAN ID を 1~4094 の値に設定し、VLAN プライオリティを 0~7 の値に設定します。ネットワーク設定が正しく適用されると、物理的に別のマシンからネットワーク経由でリモートから `ipmitool` にアクセスできます。リモートアクセスの場合は、BMC ユーザー名、BMC パスワード、および BMC IP アドレスを入力します。たとえば、`ipmitool mc info` コマンドを実行するには、リモートマシンのシェルプロンプトで、次のように入力します。

```
ipmitool -U <username> -P <password> -H <bmc IP address> mc info
```

ヘルスマニタリング情報の取得

ADC MIB には、NetScaler ソフトウェア管理 MIB と ADC IPMI LOM ハードウェア管理 MIB の 2 つがあります。ソフトウェア管理 MIB は、主に、アプリケーションソフトウェアと、アプリケーションソフトウェアのハードウェアリソース（CPU%、メモリ% など）の使用状況を監視するために使用されます。アプライアンスの高レベルビューが提供されるため、組織内のアプリケーショングループが実行するアプリケーション監視機能に適しています。LOM MIB はハードウェアの状態を監視するために使用されるため、アプライアンスの低レベルビューが提供されます。これは、ネットワーク監視グループによって実行されるネットワーク監視機能により適用可能です。

LOM MIB の LOM SNMP トラップは、ハードウェア障害を報告します。ADC MIB の ADC SNMP トラップは、ソフトウェア障害とハードウェアロード問題を報告します。

ADC MIB には、ハードウェアセンサーの小さなサブセットがあります。BIOS は、主に起動時に NetScaler ADC ソフトウェアの起動前にハードウェアをチェックするため、BIOS レベルの障害はカバーされません。BIOS で障害が検出された場合、ブートローダーはロードされません。ブートローダーがロードされない場合、オペレーティングシステムはロードされないため、トラップの送信を担当する ADC SNMP ソフトウェアサービスはロードされません。

NetScaler ADC ソフトウェア管理 MIB は、次の条件でのみ警告を発行します。

1. 障害が緩やかで、メイン CPU が SNMP アラートを発行できる場合。電気キャパシタの障害など、CPU に近い電氣的障害は、CPU がアラートを発行するには速すぎます。
2. BIOS、オペレーティングシステム、および SNMP サービスの開始後に障害が発生し、通常の起動に成功した場合。
3. オペレーティングシステムおよびその他のシステムソフトウェアが、SNMP ソフトウェアサービスを実行するのに十分な安定した状態にあるときに障害が発生した場合。

ハードウェアまたはソフトウェアの障害のために ADC MIB がこれらの警告を報告できないときは、LOM MIB が警告を監視して報告します。LOM マイクロコントローラは、NetScaler ADC ソフトウェアとは独立して動作します。NetScaler ADC アプライアンスのハードウェアとソフトウェアを監視するには、ADC MIB と LOM MIB の両方を使用する必要があります。

ADC IPMI LOM ハードウェア管理 MIB SNMP ファームウェアは、BMC マイクロコントローラチップ上で動作します。BMC チップ CPU は、ハードウェア障害が発生した場合に、前述の条件のいずれかが発生するかどうかにかかわ

らず、警告を送信します。たとえば、メモリ DIMM 障害が原因で起動中に BIOS がシステムを停止した場合、BMC チップは BIOS POST コードスヌーピングメカニズムを使用して障害を検出します。次に、不良な DIMM SNMP アラートを送信します。

LOM ポートにログオンして、アプライアンスに関するヘルス情報を表示できます。システム温度、CPU 温度、ファンと電源のステータスなど、すべてのシステムセンサー情報は、センサーの読み取り値ページに表示されます。イベントログには、ハードウェア障害イベントの記録に加えて、電源のオフ/オンなどのルーチンイベントのタイムスタンプが記録されます。SNMP トラップが有効になっている場合、これらのイベントは、SNMP ネットワーク監視ソフトウェアに送信できます。SNMP アラートを設定する方法の詳細については、「SNMP アラートの構成」を参照してください。

1. メニューバーで、[システムヘルス] をクリックします。
2. [オプション] で、[センサーの読み取り値] をクリックします。

MIB をインストールする

LOM ファームウェアバージョン用の IPMI SNMP 管理情報ベース (MIB) をダウンロードし、SNMP モニタリングソフトウェアにインポートします。

設定例については、<http://www.net-snmp.org/tutorial/tutorial-5/commands/snmptrap.html> を参照してください。ご使用の環境に固有のこの手順の正確な手順については、SNMP ネットワーク監視ソフトウェアプロバイダにお問い合わせください。

SNMP アラートの構成

SNMP アラートは LOM で設定できます。オプションで、電子メールを送信するようにアラートを構成できます。

アラートを構成するには、LOM GUI または NetScaler ADC シェルを使用できます。

GUI を使用して LOM で SNMP アラートを構成する

1. IPMI View ユーティリティを <ftp://ftp.supermicro.com/utility/IPMIView/> からダウンロードし、コンピュータにインストールします。このユーティリティを使用して、構成をテストします。詳細については、『IPMI View ユーザガイド』 (<http://supermicro.com>) のアラート設定に関するセクションを参照してください。
2. IPMI ビューユーティリティを開きます。
3. LOM GUI で、[構成] > [アラート] に移動し、[アラート No 1] をクリックし、[** 変更]** をクリックします。
4. アラートを生成するイベントの重要度レベルを選択します。
5. [宛先 IP] を、IPMI ビューユーティリティをインストールした IP アドレスに設定します。
6. 必要に応じて、電子メールでアラートを受信するには、電子メールアドレスを指定します。定期的なアラートの電子メールを受信しないようにするには、「情報」よりも大きい重大度を指定します。
7. [Save] をクリックします。

8. LOM は、1 分または 2 分以内に IPMI View ユーティリティへのアラートの送信を開始します。IPMI View ユーティリティが LOM からのアラートの受信を開始したら、宛先 IP アドレスを再構成して、HP OpenView などの SNMP ネットワーク管理ソフトウェアを指すようにします。

NetScaler ADC シェルを使用して LOM で SNMP アラートを設定する

フィルタとポリシー設定をカスタマイズするには、IPMI 仕様 2.0 rev. 1.1 のマニュアルを参照してください。

最新の IPMI 仕様は、インテル Web サイトの IPMI セクションから入手できます。

<http://www.intel.com/content/www/us/en/servers/ipmi/ipmi-specifications.html>

通常、SNMP ネットワーク管理ソフトウェアでのカスタマイズは、中央の場所で 1 回行うことができるため、推奨される方法です。したがって、次の設定は、すべてのセンサーのすべてのイベントを SNMP ネットワーク管理ソフトウェアに送信します。これらのイベントはトラフィック量が少ないイベントであるため、ネットワークの使用量が大きくなることはありません。

SNMP フィルタの設定 次のコマンドは、すべてのイベントを許可するように SNMP を設定します。

```
ipmitool raw 4 0x12 0x6 0x10 0x80 1 1 0 0xff 0xff 0xff 0xff 0xff 0xff 0xff 0 0xff 0 0 0xff 0 0 0xff 0
```

ポリシーリストのセットアップ 次のコマンドは、すべてのセンサーおよびイベントのポリシーリストを作成します。

```
ipmitool raw 4 0x12 9 0x10 0x18 0x11 0x81
```

SNMP イベントの宛先アドレスの設定 次のコマンドは、SNMP イベントの宛先 IP アドレスを設定します。

```
ipmitool lan alert set 1 1 ipaddr <x.x.x.x>
```

ここで、は、SNMP イベントの送信先の IP アドレスです。

SNMP コミュニティストリング名の指定 プロンプトで、次のように入力します：

```
ipmitool lan set 1 snmp <community string>
```

LOM GUI に証明書とキーをインストールする

January 25, 2024

HTTPS を使用して LOM GUI にアクセスすることをお勧めします。HTTPS を使用するには、デフォルトの SSL 証明書信頼できる認証局からの証明書に置き換え、秘密鍵を LOM GUI にアップロードする必要があります。

SNMP アラートを暗号化するには、SSL 証明書と秘密キーを設定します。GUI で、[構成] > [SSL 証明書] に移動し、SSL 証明書と秘密キーを適用します。ネットワークに LOM を安全に展開する方法の詳細については、NetScaler ADC セキュア展開ガイドを参照してください。暗号化を有効にして LOM のセキュリティ対策について学ぶには、[NetScaler ADC セキュア導入ガイドを参照してください](#)。

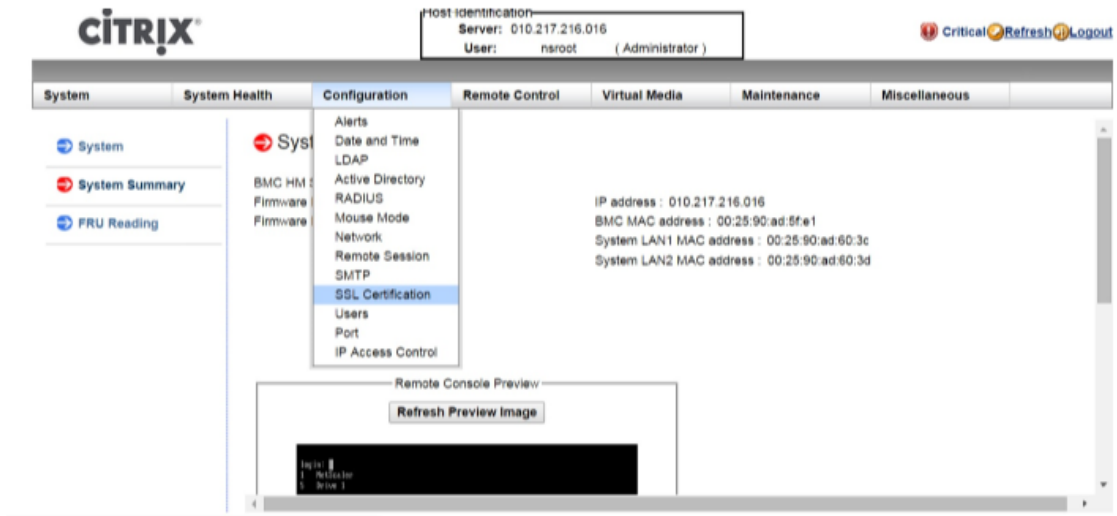
間違えた場合は、BMC を工場出荷時のデフォルトに戻して証明書とキーを消去する必要があります。次のシェルコマンドを使用します。

```
1 ipmitool raw 0x30 0x40
2 <!--NeedCopy-->
```

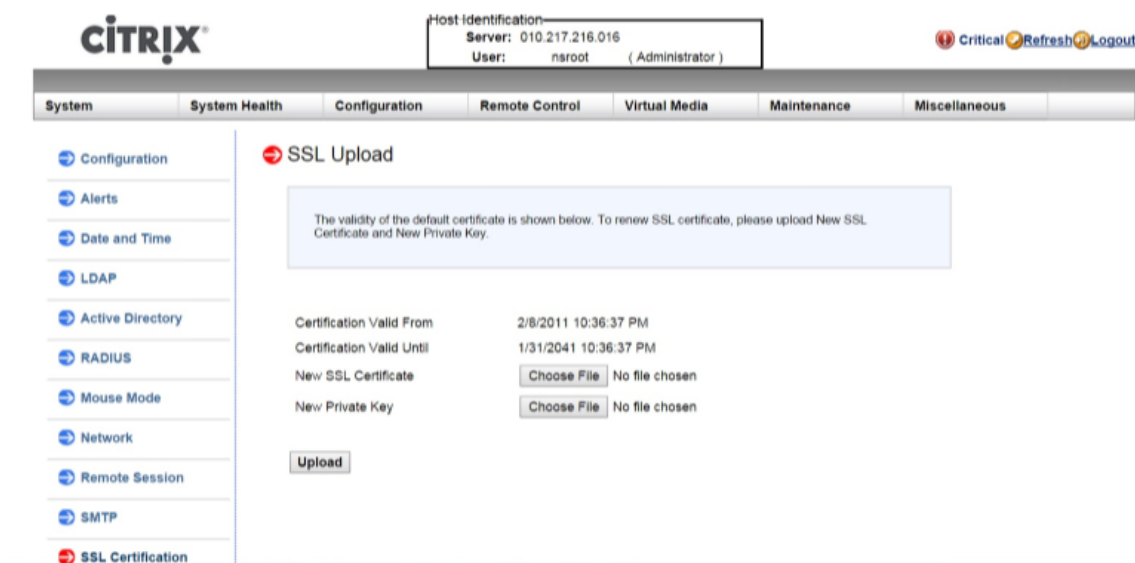
注: 証明書ファイルには、証明書のみを含める必要があります。証明書と鍵は、同じファイル内に存在することはできません。証明書に証明書のみが含まれていること、およびキーファイルにキーのみが含まれていることを確認します。

LOM GUI を使用して信頼できる証明書と秘密キーをアップロードする

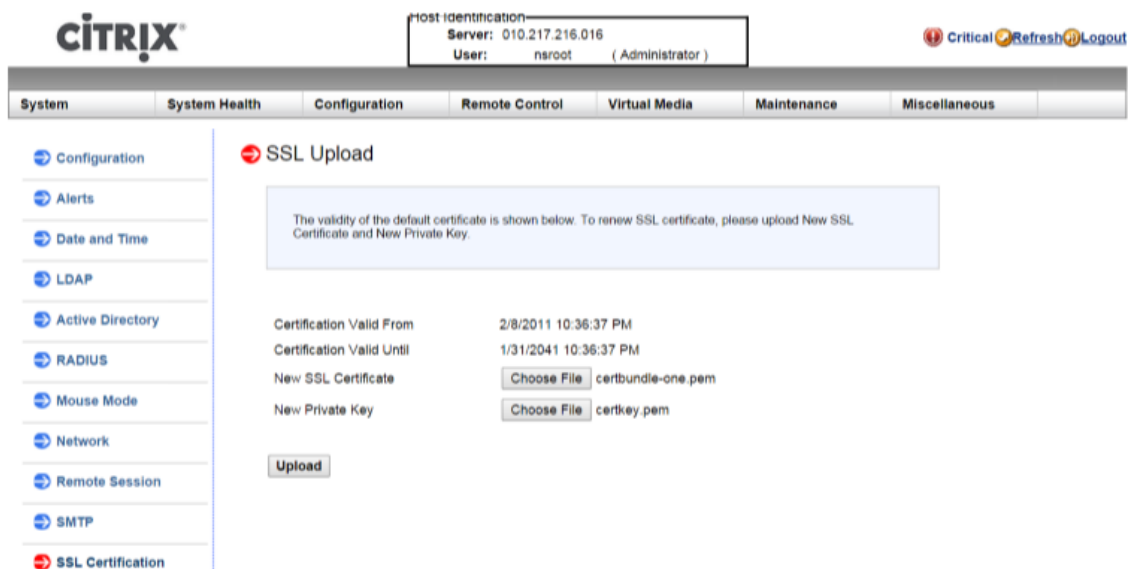
1. [構成] > [SSL 認証] に移動します。



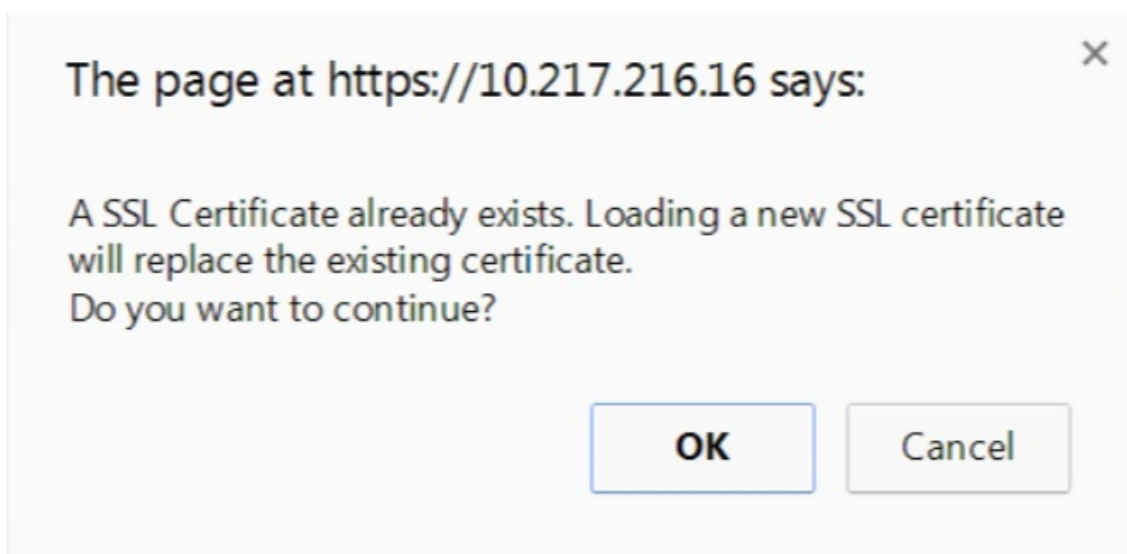
2. 右側のペインで、[Choose File] ボタンをクリックして、新しい SSL 証明書と新しい秘密キーを選択します。



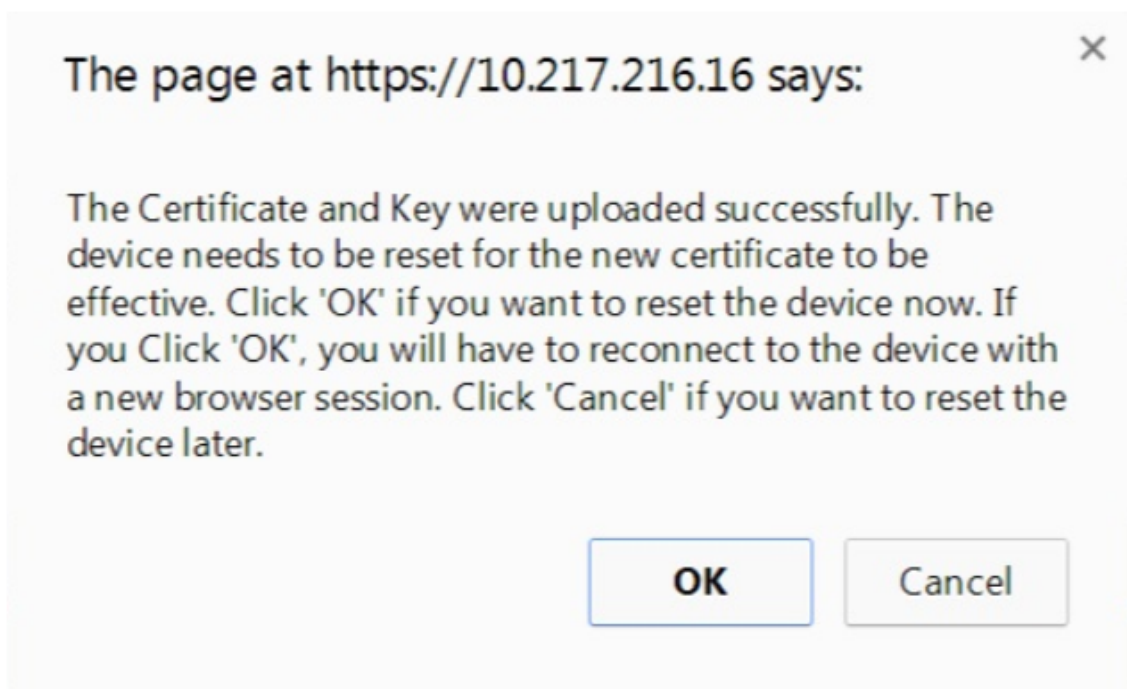
- 正しい証明書と秘密キーを選択していることを確認するには、[**Choose File**] ボタンの横に表示される証明書とキーのファイル名を確認します。



- [**アップロード**] をクリックします。新しい SSL 証明書をアップロードすると、既存の（デフォルト）証明書が置き換えられることが通知されます。
- [**OK**] をクリックします。



6. 証明書とキーが正常にアップロードされたことを示すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックしてデバイスをリセットします。



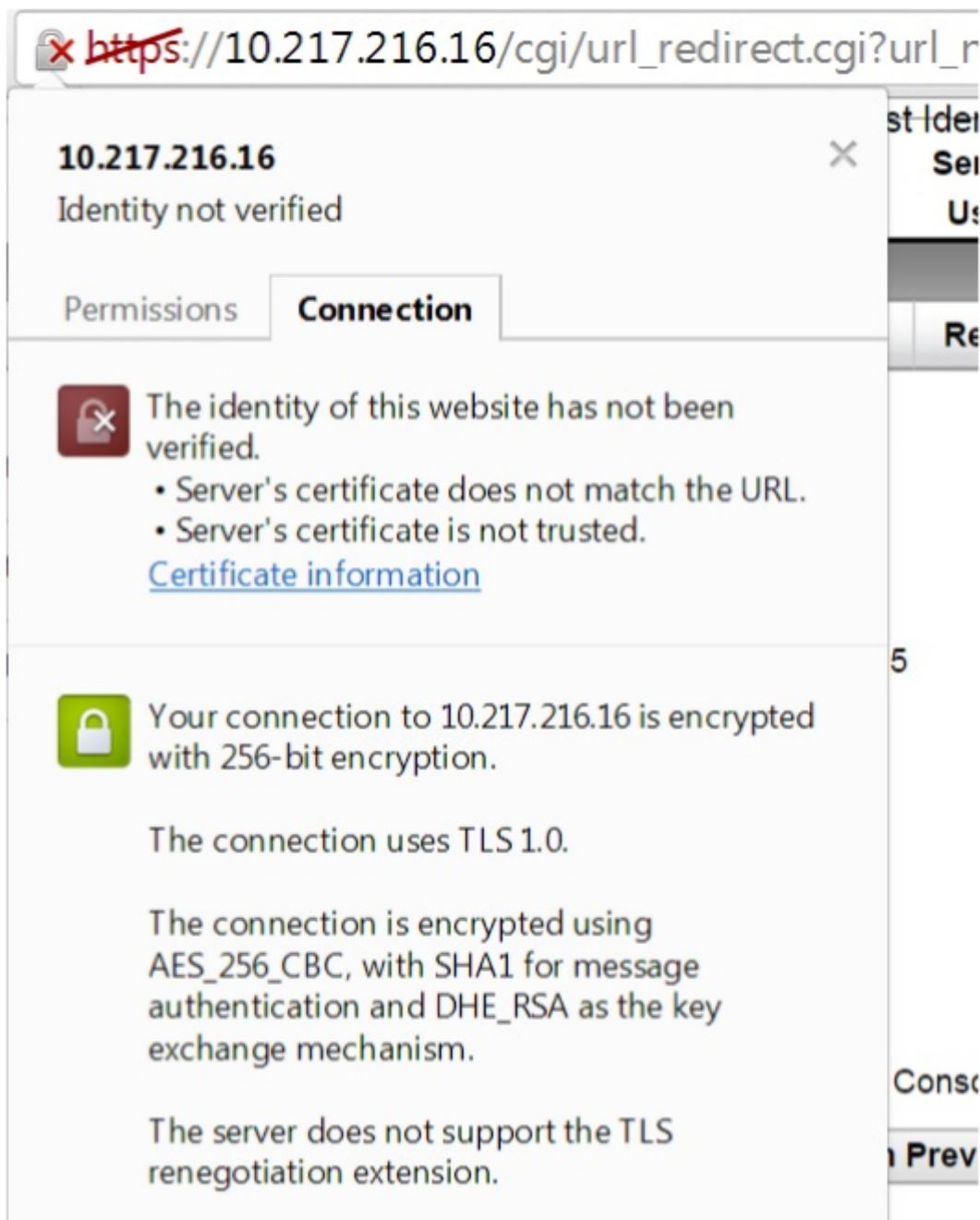
リセットには約 60 秒かかります。その後、ログオンページにリダイレクトされます。

➔ SSL Upload

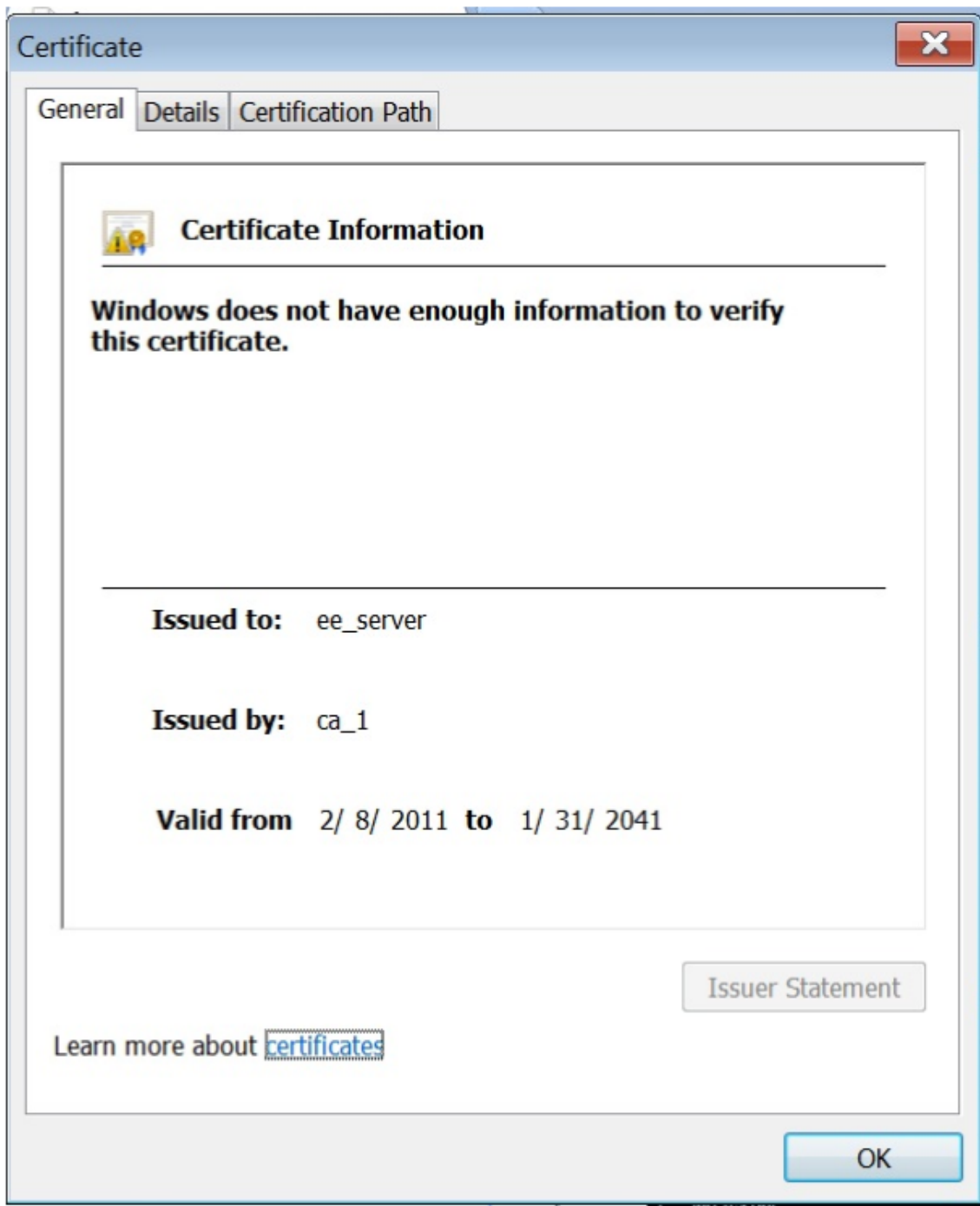
LOADING...

The device is rebooting itself.
You will be redirected to the login page in 60 seconds.
Click [here](#) if you are not redirected automatically.

7. デフォルトの資格情報を使用して、LOM GUI にログオンします。
注: 証明書またはキーが無効の場合、BMC は再起動し、新しい設定を試行し、以前の設定に戻ります。
8. 次のスクリーンショットに示すように、アドレスバーで、接続タブを表示するには、ロックアイコンをクリックします。



9. [証明書情報] をクリックして、アップロードした証明書の詳細を表示します。



注: LOM と ADC セキュリティのベストプラクティスは、[NetScaler ADC セキュア導入ガイド](#)に記載されています。

アプライアンスの **MAC** アドレス、シリアル番号、ホストプロパティの取得

January 25, 2024

メディアアクセスコントロールアドレス (MAC アドレス) は、物理ネットワークセグメント上の通信のためにネットワークインターフェイスに割り当てられる一意の識別子です。シリアル番号は、アプライアンスの背面パネルに記載されています。背面パネルに簡単にアクセスできない場合は、LOM ポートにログオンすることで、アプライアンスのシリアル番号を取得できます。また、ARP、ICMP、Telnet、セキュアシェルアクセス、ダイナミックルーティングの状態など、IP アドレスに割り当てられたパラメータ設定を取得することもできます。

LOM GUI を使用してアプライアンスの **MAC** アドレス、シリアル番号、およびホストのプロパティを取得するには

1. メニューバーで、[リモートコントロール] をクリックします。
2. [オプション] の [コンソールリダイレクト] をクリックします。
3. [コンソールの起動] をクリックし、[はい] をクリックします。
4. 管理者の資格情報を入力します。
5. MAC アドレスを表示するには、`show interface <management_interface_id>` と入力します。
6. アプライアンスのシリアル番号を表示するには、`show hardware` と入力します。
7. アプライアンスのシリアル番号を表示するには、`sh nsip` と入力します。

アプライアンスシェルを使用して **BMC** の **MAC** アドレスとホストのプロパティを取得する

シェルプロンプトで、次のように入力します:

```
ipmitool lan print
```

例:

```
1 Set in Progress      : Set Complete
2 Auth Type Support   : MD2 MD5 OEM
3 Auth Type Enable    : Callback : MD2 MD5 OEM
4                     : User      : MD2 MD5 OEM
5                     : Operator : MD2 MD5 OEM
6                     : Admin    : MD2 MD5 OEM
7                     : OEM      :
8 IP Address Source   : Static Address
9 IP Address          : 192.168.1.3
10 Subnet Mask        : 255.255.255.0
11 MAC Address        : 00:25:90:3f:5e:d0
12 SNMP Community String : public
13 IP Header          : TTL=0x00 Flags=0x00 Precedence=0x00 TOS=0x00
```

```
14 BMC ARP Control      : ARP Responses Enabled, Gratuitous ARP
    Disabled
15 Gratuitous ARP Intrvl : 0.0 seconds
16 Default Gateway IP   : 0.0.0.0
17 Default Gateway MAC  : 00:00:00:00:00:00
18 Backup Gateway IP    : 0.0.0.0
19 Backup Gateway MAC   : 00:00:00:00:00:00
20 802.1q VLAN ID      : Disabled
21 802.1q VLAN Priority : 0
22 RMCP+ Cipher Suites : 1,2,3,6,7,8,11,12,0
23 Cipher Suite Priv Max : aaaaXXaaaXXaaXX
24                       : X=Cipher Suite Unused
25                       : c=CALLBACK
26                       : u=USER
27                       : o=OPERATOR
28                       : a=ADMIN
29                       : O=OEM
30 <!--NeedCopy-->
```

LOM ポートを使用して電源制御操作を実行する

January 25, 2024

LOM ポートを使用して、正常なシャットダウンと再起動、アプライアンスの電源の再起動、BMC マイクロコントローラの再起動などの電源制御操作をリモートで実行できます。コールドリスタートは、ウォームリスタートよりも時間がかかります。コールドリスタートでは、アプライアンスの電源をオフにし、再び電源を入れます。

GUI を使用した電源制御操作の実行

1. メニューバーで、[リモートコントロール] をクリックします。
2. [オプション] の [電源制御] をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - システムのリセット：アプライアンスを正常に再起動します。アプライアンスに対するすべての操作が停止され、クライアントまたはサーバーへの新しい接続は受け入れられず、既存の接続はすべて閉じられます。このオプションは、reboot コマンドを入力するなど、ウォーム再起動に似ています。この操作中、BMC は再起動しません。
 - システムの電源オフ-即時：アプライアンスを正常にシャットダウンせずに、アプライアンスへの電源を直ちに切断します。BMC はこのモードで正常に動作し続け、ユーザーはリモートでアプライアンスの電源をオンにできます。このオプションは、ユニットの電源が切れるまで電源ボタンを押すのと同じです。
 - システムの電源オフ-秩序あるシャットダウン：アプライアンスを正常にシャットダウンしてから、アプライアンスへの電源を切断します。このオプションは、アプライアンスの背面パネルの電源ボタンを 4 秒未満押しした場合と同じ効果があります。アプライアンスのすべての操作が停止され、クライアント

またはサーバーへの新しい接続は受け入れられません。また、アプライアンスがシャットダウンする前に、既存の接続はすべて閉じられます。BMCはこのモードで正常に動作し続け、ユーザーはリモートでアプライアンスの電源をオンにできます。このオプションは、アプライアンスシェルで shutdown コマンドを入力するのと同じです。

- システムの電源オン: アプライアンスのスイッチをオンにします。この操作中、BMCは再起動しません。このオプションは、電源ボタンを押すのと同じです。
- システムの電源オフ/オン: アプライアンスの電源を切り、再び電源を入れます。この操作中、BMCは再起動しません。このオプションは、ユニットの電源が切れるまで電源ボタンを押し、次に電源ボタンを押してユニットの電源を入れます。

3. [アクションを実行] をクリックします。

BMC の電源を入れ直します

電源ボタンを使用したアプライアンスのウォーム再起動、コールド再起動、またはアプライアンスの電源再投入には、BMCの電源の再投入は含まれません。BMCは、電源装置から直接スタンバイ電源で動作します。したがって、アプライアンスの電源ボタンの状態はBMCに影響しません。BMCの電源を再投入する唯一の方法は、アプライアンスからすべての電源コードを60秒間取り外すことです。

アプライアンスシェルを使用して **BMC** で電源制御操作を実行します

BMC マイクロコントローラのウォームリスタートまたはコールド再起動を実行する場合、LOMポートと通信できません。どちらのアクションもBMCを再起動しますが、メインCPUは再起動しません。アプライアンスからLOMのウォーム再起動を実行するには、次のように入力します。

```
ipmitool mc reset warm
```

ネットワーク上の別のコンピュータからリモートでウォーム再起動を実行する

```
ipmitool -U <bmc_gui_username> -P <bmc_gui_password> -H <bmc IP address> mc reset warm
```

アプライアンスから **LOM** のコールド再起動を実行します

```
ipmitool mc reset cold
```

ネットワーク上の別のコンピュータからリモートでウォーム再起動を実行する

```
ipmitool -U <bmc_gui_username> -P <bmc_gui_password> -H <bmc IP address> mc reset cold
```


コアダンプを実行する

アプライアンスに障害が発生したり、応答しなくなった場合は、コアダンプをリモートで実行できます。この手順は、アプライアンスの背面パネルにある **NMI** ボタンを押すのと同じ効果があります。

GUI を使用してコアダンプを実行する

1. メニューバーで、[リモートコントロール] をクリックします。
2. [オプション] の [NMI] をクリックし、[NMI の開始] をクリックします。

シェルを使用して、ネットワーク上の別のコンピュータからリモートでコアダンプを実行する

シェルプロンプトで、次のように入力します：

```
ipmitool -U <bmc_gui_username> -P <bmc_gui_password> -H <bmc IP address> chassis power diag
```

BMC 構成を工場出荷時のデフォルトに戻す

January 25, 2024

BMC は、SSL 証明書と SSL キーの削除など、工場出荷時のデフォルト設定に復元できます。

GUI を使用して設定を工場出荷時のデフォルトにリセットする

1. 「メンテナンス」 > 「出荷時デフォルト」 に移動します。
2. [復元] をクリックします。

シェルを使用して設定を工場出荷時のデフォルトにリセットする

シェルプロンプトで、次のように入力します：

```
ipmitool raw 0x30 0x40
```

BIOS POST コードを使用してエラーを検出する

January 25, 2024

BIOS POST コードは、LOM GUI またはシェルを使用して読み取ることができます。BIOS ビープ音を解釈するには、https://www.supermicro.com/manuals/other/AMI_AptioV_BIOS_POST_Codes_for_SM_Motherboards.pdfを参照してください。

LOM GUI を使用して BIOS ポストコードを読み取る

[その他] > [BIOS ポストスヌーピング] に移動します。

シェルを使用して BIOS ポストコードを読み取ります

プロンプトで、次のように入力します:

```
ipmitool raw 0x30 0x2a
```

NetScaler MPX アプライアンス上の LOM ファームウェアのアップグレード

January 25, 2024

Citrix は、NetScaler MPX ソフトウェア内の LOM ファームウェアのアップグレードを自動化しました。ハードウェアプラットフォームを知ったり、LOM ファームウェアをダウンロードしたりする必要はありません。

注:

この手順を完了するには 2 回の再起動が必要なため、本番トラフィックが中断されることが予想されます。アップグレードは、メンテナンス期間中に実行することをお勧めします。高可用性セットアップで、セカンダリノードでアップグレードを実行して、本番トラフィックの中断を最小限に抑えます。以下のサポート対象プラットフォームで `upgrade_bmc.sh` スクリプトを実行します。スクリプトは `/netscaler` フォルダにあります。

- MPX 5900
- MPX 8005
- MPX 8900
- MPX 9100
- MPX 11500
- MPX 11515
- MPX 14000
- MPX 15000
- MPX 16000
- MPX 22000
- MPX 25000
- MPX 26000

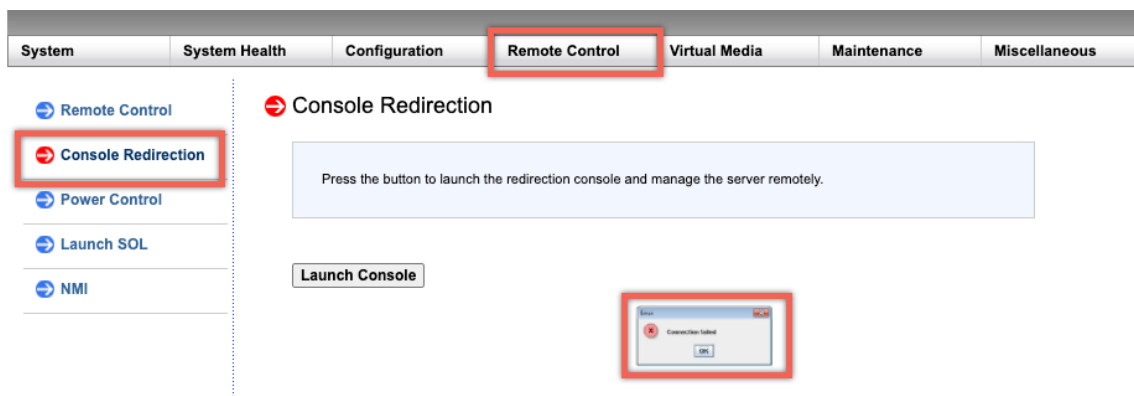
NetScaler ADC アプライアンスのアップグレードについて詳しくは、「[Citrix ADC アプライアンスのアップグレードとダウングレード](#)」を参照してください。

注:

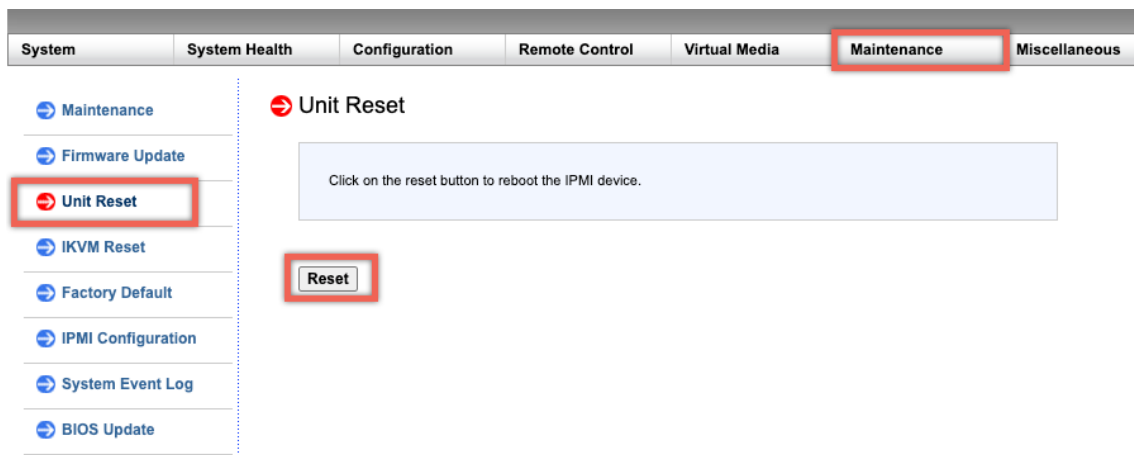
MPX 5900、MPX 8900、MPX 15000、または MPX 26000 で LOM GUI にログインできない場合は、コマンドプロンプトに `shell` を入力して LOM パスワードをリセットし、5.56 または 4.61 にアップグレードした後、`ipmitool user set password 2 <your preferred password>` を入力します。

トラブルシューティング

- LOM を MPX 5900 および MPX 8900 プラットフォームで 4.61、または MPX 15000 および MPX 26000 プラットフォームで 5.56 にアップグレードすると、コンソールリダイレクトが失敗する。



[メンテナンス] タブからユニットのリセットを実行します。これにより、BMC がリセットされます。



LOM GUI で RADIUS 認証を有効にする

January 25, 2024

RADIUS (リモート認証ダイヤルインユーザーサービス) は、リモートユーザーの認証、承認、および監査を管理できるネットワークプロトコルです。

LOM GUI での RADIUS 認証の設定

1. LOM GUI にログインします。
2. [構成] > [Radius] に移動します。
3. [RADIUS を有効にする] を選択します。
4. RADIUS サーバのポートと IP アドレスを指定します。
5. ユーザが RADIUS サーバにアクセスするためのシークレット (パスワード) を指定します。
6. [Save] をクリックします。

The screenshot shows the LOM GUI interface. At the top, there are tabs for System, System Health, Configuration (highlighted with a red box), Remote Control, Virtual Media, Maintenance, and Miscellaneous. On the left, a sidebar contains various configuration options: Configuration, Alerts, Date and Time, LDAP, Active Directory, RADIUS (highlighted with a red box), Mouse Mode, Network, and SMTP. The main content area is titled 'RADIUS Settings' and contains a blue box with instructions: 'Check the box below to enable RADIUS and enter the required information to access the RADIUS server. Press the Save button to save your changes.' Below this, there is a checked checkbox for 'Enable RADIUS', followed by input fields for 'Port' (1812), 'IP Address' (198.51.100.15), and 'Secret' (masked with asterisks). A 'Save' button is located at the bottom of the form.

パラメーター:

RADIUS ユーザ名とパスワード:

RADIUS サーバによって、サポートされる文字と長さが決まります。BMC は、文字を制限したりフィルタリングしたりしません。

MPX 8000/8600、MPX 14000、および MPX 25000 シリーズプラットフォームでは、BMC パスワードの長さがサポートされています: 最小 1 文字、最大 16 文字。

MPX 8900、MPX 15000、および MPX 26000 シリーズのプラットフォームでは、BMC パスワードの長さ: 最小 1 文字、最大 64 文字。

RADIUS シークレット:

BMC の有効文字は 0-9, a-z, A-Z, ! @, +, -, /, : and _ です。

MPX 8000/8600、MPX 14000、および MPX 25000 シリーズプラットフォームでは、BMC シークレット長 (最小 1 文字、最大 31 文字) がサポートされます。

MPX 8900、MPX 15000、および MPX 26000 シリーズのプラットフォームでは、BMC シークレット長: 最小 1 文字、最大 128 文字。

RADIUS のネットワークプロトコルを使用して **LOM** にアクセスするために、**Windows** または **Ubuntu OS** を実行している外部コンピュータを設定します

RADIUS は、Citrix LOM にアクセスするために外部コンピュータ上で実行されるアプリケーションです。RADIUS を実行する前に、ユーザーアカウントとクライアント情報を設定する必要があります。

次のアクションを実行します。

1. Ubuntu でユーザーアカウントを設定します。
2. Ubuntu でクライアント情報を設定します。
3. Ubuntu で RADIUS サーバを起動します。
4. Windows サーバーにロールを追加します。
5. オブジェクトの追加-グループ。
6. オブジェクトを追加します—ユーザー。
7. ネットワークポリシーを追加します。
8. ベンダー固有の属性を追加します。
9. RADIUS クライアントを設定します。

詳細については、Ubuntu のドキュメントを参照してください。

NetScaler ADC アプライアンスでの **RACP** トポロジ

January 25, 2024

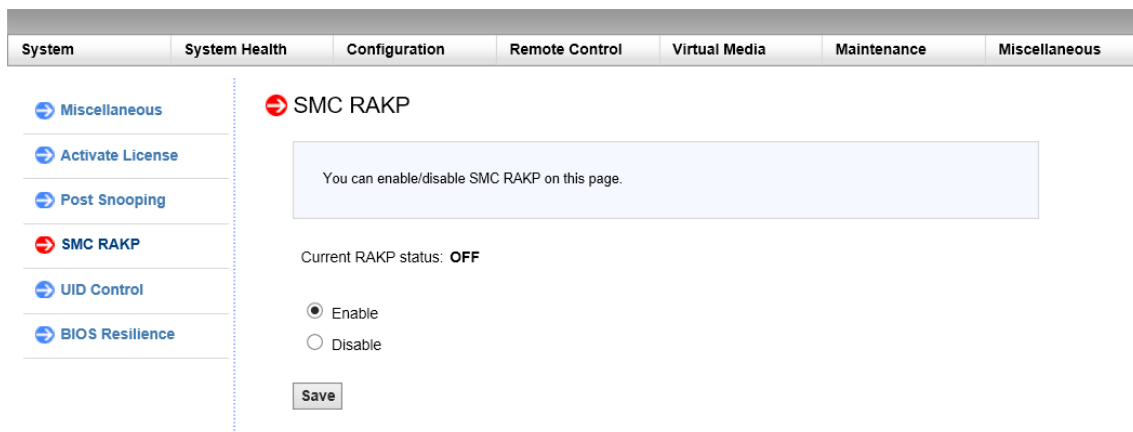
リモート認証キー交換プロトコル (RAKP) は、リモート認証のために IPMI ツールで使用されます。RAKP をサポートする NetScaler ADC アプライアンスでは、デフォルトで無効になっています。次の方法のいずれかを使用して、有効または無効にできます。

1. LOM GUI
2. ADC シェル

LOM GUI を使用して **RAKP** を有効または無効にする

1. Web ブラウザで、LOM GUI にログインします。
2. 「その他」 > 「**SMC RAKP**」に移動します。現在の RAKP ステータスが表示されます。
3. ** 有効または無効を選択します **。

4. **[Save]** をクリックします。



ADC bash シェルを使用して **RAKP** を有効または無効にする

- RAKP を有効にするには、次のように入力します。 `ipmitool raw 0x30 0x72 0x01 0x01`
- RAKP を無効にするには、次のように入力します。 `ipmitool raw 0x30 0x72 0x01 0x00`

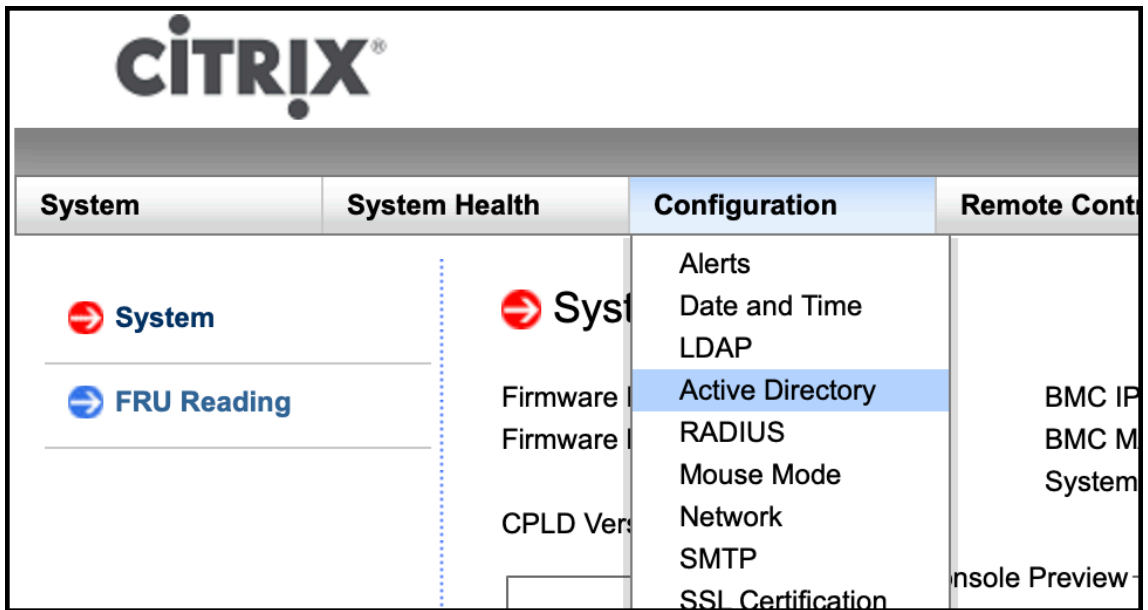
LOM での **Active Directory** 設定

January 25, 2024

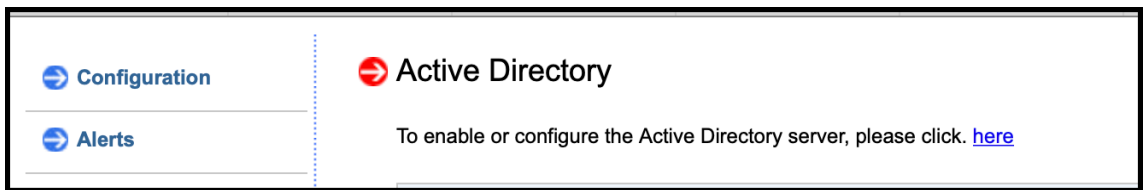
LOM で LDAP 認証を使用するには、LOM にアクティブディレクトリを追加します。

LOM に Active Directory を追加するには、次の手順に従います。

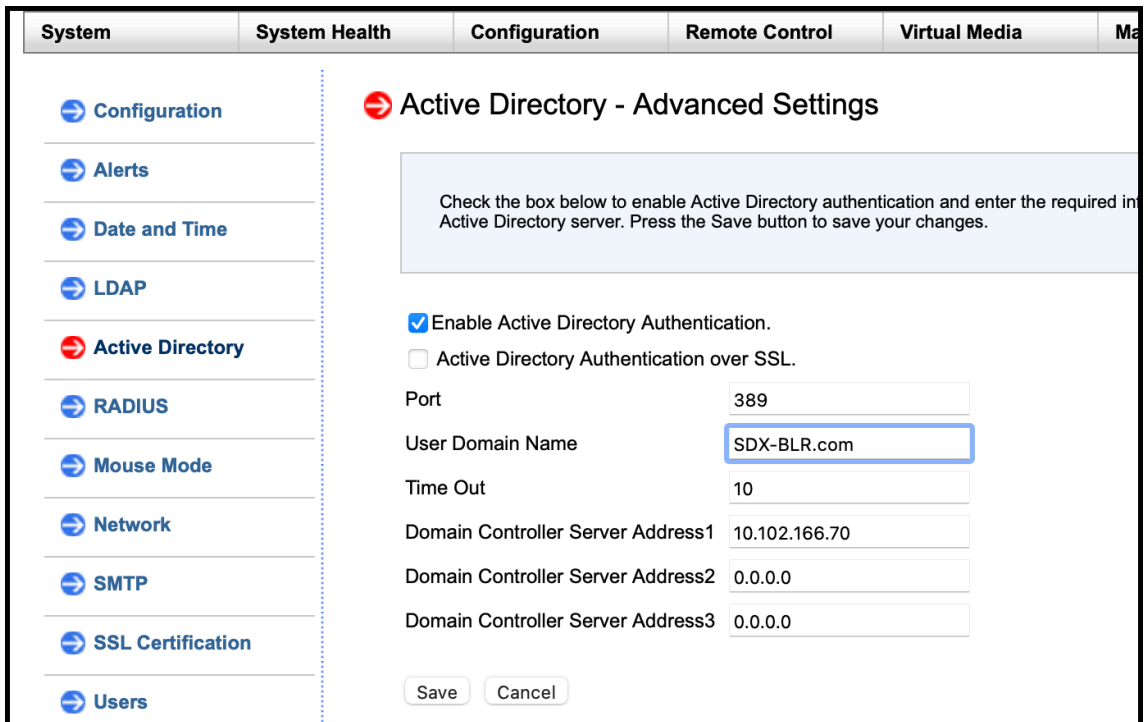
1. LOM GUI にログオンします。
2. [構成] > **[Active Directory]** に移動します。



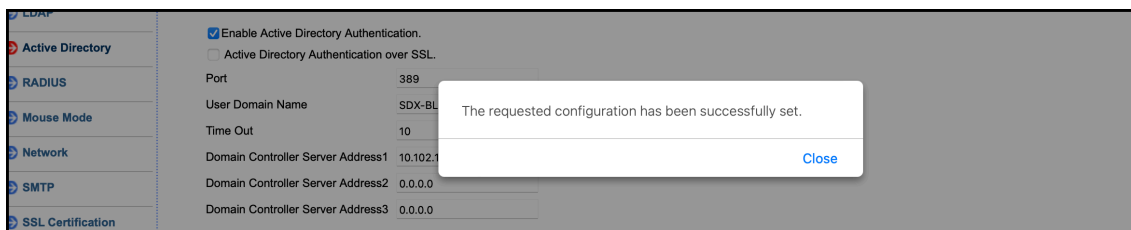
3. Active Directory の設定を構成または編集するには、このリンクをクリックします。



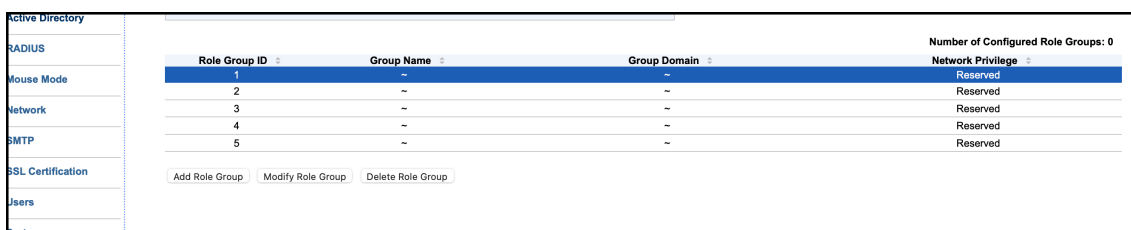
4. さまざまなパラメータに値を入力し、[保存] をクリックします。



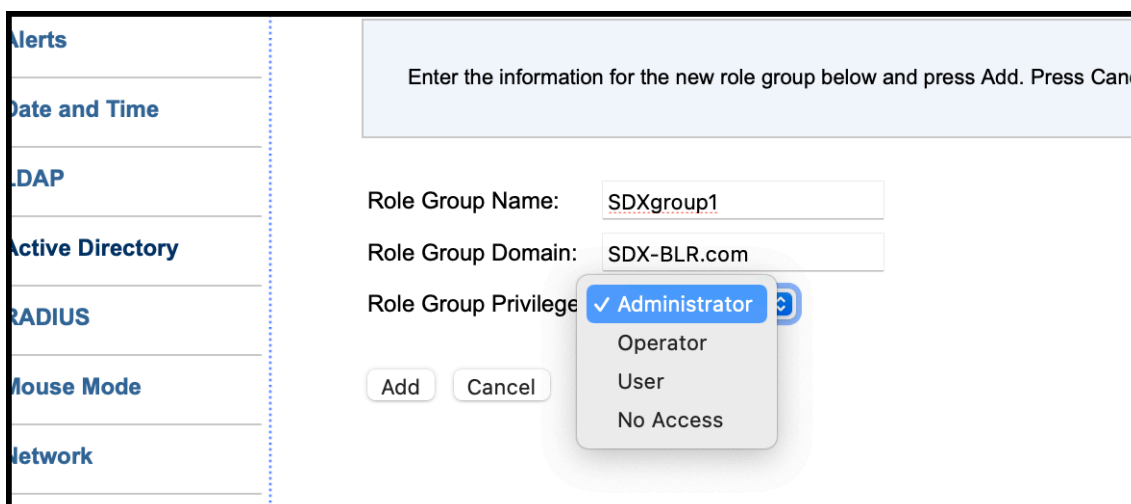
保存に成功すると、次のメッセージが表示されます。



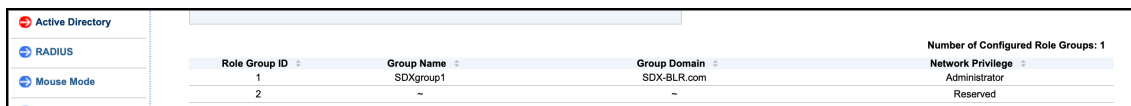
5. [**Active Directory**] をクリックし、役割グループを追加します。役割グループは、Active Directory ユーザーに LOM に対する特定の種類の権限を付与するために必要です。



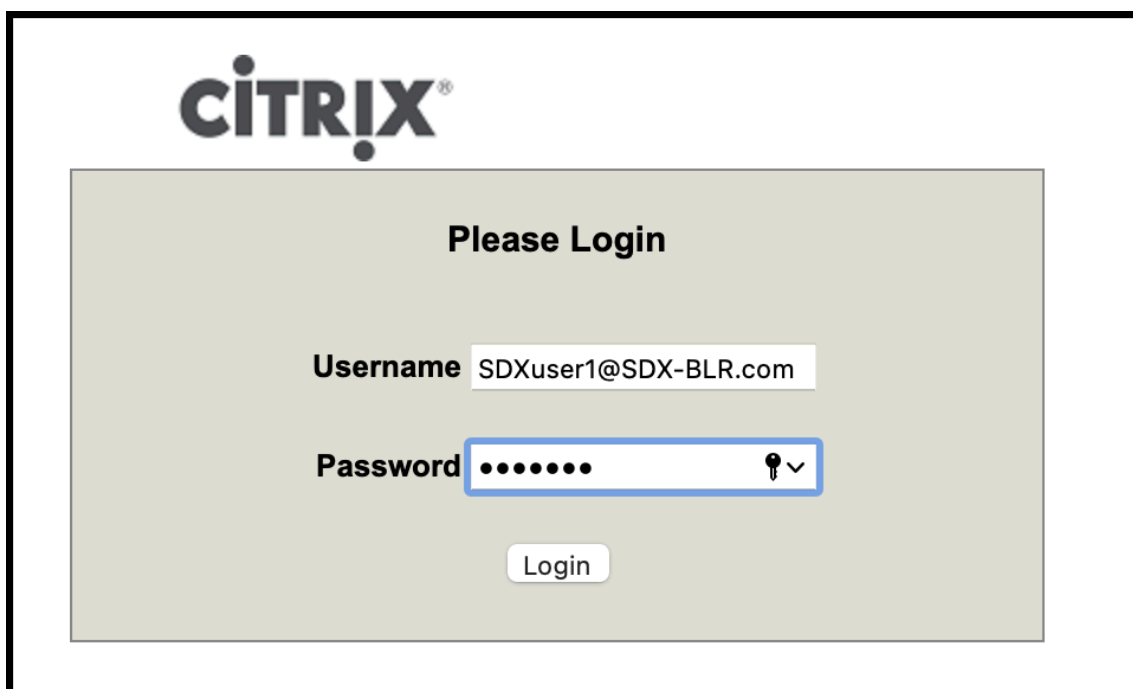
6. [管理者] を選択して役割グループに管理者権限を付与し、[保存] をクリックします。



役割グループがテーブルに表示されます。



7. Active Directory ユーザーとしてログオンします。

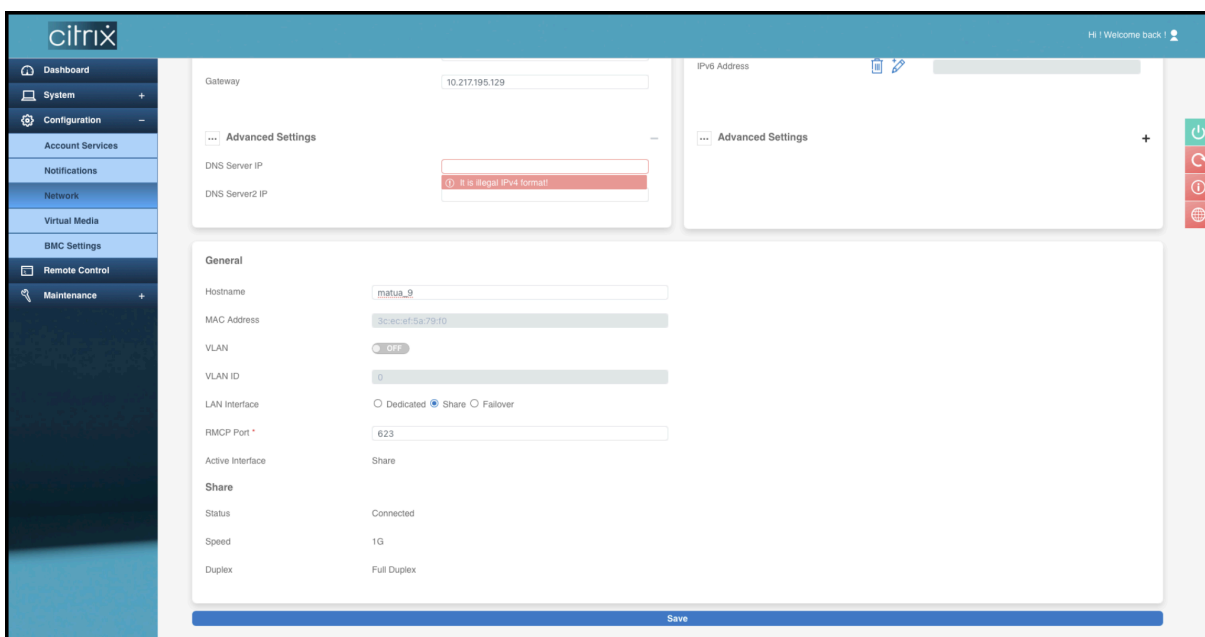


これで、Active Directory を追加する手順は完了です。

BMC ホスト名を変更する

January 25, 2024

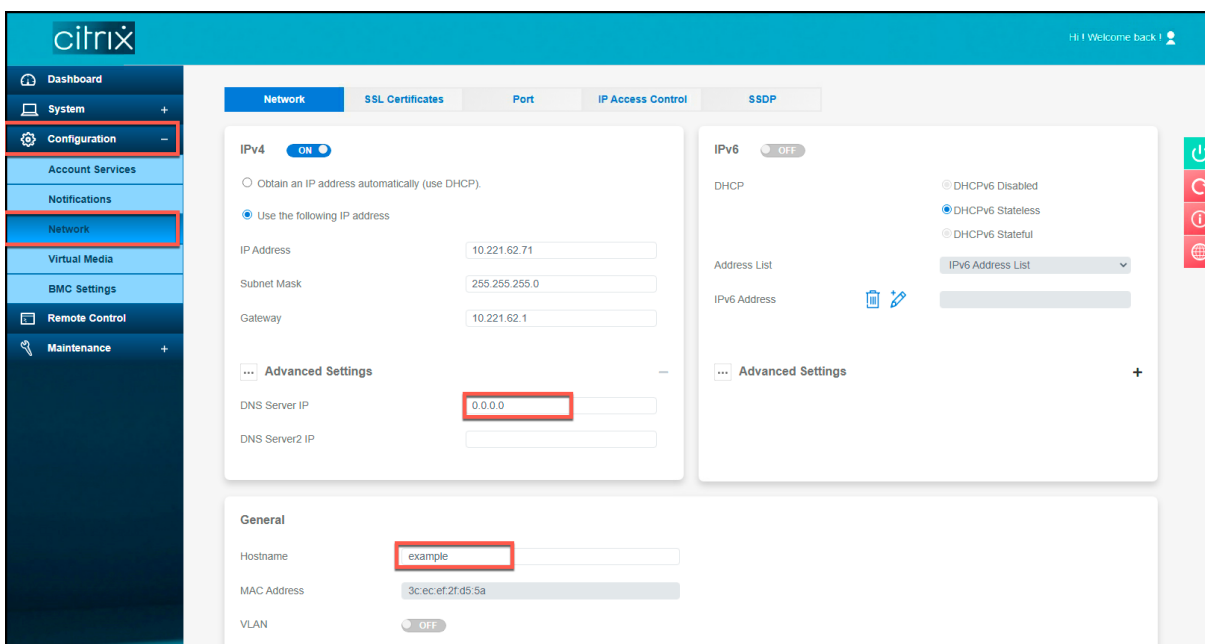
BMC バージョン 2.12 のホスト名を変更する場合、[**DNS Server IP**] フィールドに **IP** アドレスを入力する必要があります。このフィールドを空白のままにすると、次のエラーが発生します。



ダミー IP アドレス (0.0.0.0 など) の入力がサポートされています。

LOM GUI を使用して BMC バージョン 2.12 のホスト名を変更するには、次の手順を実行します。

1. LOM GUI にログインします。
2. [構成] > [ネットワーク] に移動します。
3. 「DNS サーバー IP」フィールドに、IP アドレスを入力します。IP アドレスがない場合は、0.0.0.0 と入力します。
4. ホスト名を入力します。
5. [Save] をクリックします。



MPX 16000 プラットフォームのハードウェアヘルス属性

January 25, 2024

次の表は、MPX 16000 プラットフォームのヘルス属性の推奨範囲を示しています。

シェルから `ipmitool sdr list` コマンドを実行します。このコマンドは、感覚パラメータデータを詳細に一覧表示します。

CLI から `stat system -detail` コマンドを実行します。このコマンドは、パラメーターのサブセットを一覧表示します。

ヘルス属性 (シェル)	ヘルス属性 (CLI)	推奨範囲
CPU 1 温度	CPU 0 温度 (摂氏)	10-95
CPU2 Temp	CPU 1 温度 (摂氏)	10-95
PCH 温度	温度 1 (摂氏)	10-85
システム温度	内部温度 (摂氏)	10-80
周辺機器の温度	温度 0 (摂氏)	10-80
ファン 1	CPU ファン 0 スピード (RPM)	1260-8260
ファン 2	CPU ファン 1 スピード (RPM)	1260-8260
ファン 3	システムファン速度 (RPM)	1260-8260
ファン 4	システムファン 1 速度 (RPM)	1260-8260
ファン 5	システムファン 2 速度 (RPM)	1260-8260
ファン 6	ファン 0 スピード (RPM)	1260-8260
12V	+12.0 ボルトの電源電圧	11.330-12.520
5VCC	+5.0 ボルトの電源電圧	4.713-5.217
3.3VCC	メイン電源電圧: 3.3 V	3.134-3.464
VBAT	バッテリー電圧 (ボルト)	2.591-3.464
Vcpu1VCCIN	CPU 0 コア電圧 (ボルト)	1.616-2.016
VCPU2 VCCIN	CPU 1 コア電圧 (ボルト)	1.616-2.016
Vcpu1VDDQABCD	電圧 0 (ボルト)	1.096-1.344
Vcpu1VDDQEFGH	電圧 1 (ボルト)	1.096-1.344
Vcpu2VDDQABCD	電圧 2 (ボルト)	1.096-1.344
Vcpu2VDDQEFGH	電圧 3 (ボルト)	1.096-1.344

ヘルス属性 (シェル)	ヘルス属性 (CLI)	推奨範囲
5VSB	5V スタンバイ電圧 (ボルト)	4.745-5.249
3.3VSB	スタンバイ電源電圧: 3.3 V	3.117-3.447
1.8V PCH	電圧 4 (ボルト)	1.698-1.883
PS1 ステータス	電源装置 1 のステータス	-該当なし-
PS2 ステータス	電源装置 2 のステータス	-該当なし-

出力例

次のセクションでは、システムセンサーヘルス属性を表示するさまざまな方法を示します。データはサンプル表現のみです。アプライアンスからの出力は異なる場合があります。許容範囲については、前の表を参照してください。

- CLI から
- シェルから
- LOM GUI から

CLI

コマンドラインで、次のように入力します。 `stat system -detail`

```

1 >stat system -detail
2
3 NetScaler Executive View
4
5 System Information:
6 Up since          Tue Nov 15 13:50:59 2022
7 Up since(Local)  Tue Nov 15 13:50:59 2022
8 Memory usage (MB)                3562
9 InUse Memory (%)                  6.24
10 Number of CPUs                    9
11
12 System Health Statistics (Standard):
13 CPU 0 Core Voltage (Volts)        1.77
14 CPU 1 Core Voltage (Volts)        1.77
15 Main 3.3 V Supply Voltage         3.49
16 Standby 3.3 V Supply Voltage      3.45
17 +5.0 V Supply Voltage              5.26
18 +12.0 V Supply Voltage            12.44
19 Battery Voltage (Volts)           3.11
20 Intel CPU Vtt Power(Volts)        0.00
21 5V Standby Voltage(Volts)         5.04
22 Voltage Sensor2(Volts)            0.00
23 CPU Fan 0 Speed (RPM)             3360

```

```
24 CPU Fan 1 Speed (RPM) 3360
25 System Fan Speed (RPM) 3360
26 System Fan 1 Speed (RPM) 3360
27 System Fan 2 Speed (RPM) 3360
28 CPU 0 Temperature (Celsius) 54
29 CPU 1 Temperature (Celsius) 53
30 Internal Temperature (Celsius) 33
31 Power supply 1 status NORMAL
32 Power supply 2 status NORMAL
33 Power supply 3 status NOT SUPPORTED
34 Power supply 4 status NOT SUPPORTED
35
36 System Disk Statistics:
37 /flash Size (MB) 29748
38 /flash Used (MB) 3927
39 /flash Available (MB) 23441
40 /flash Used (%) 14
41 /var Size (MB) 800856
42 /var Used (MB) 20127
43 /var Available (MB) 716660
44 /var Used (%) 2
45
46 System Health Statistics(Auxiliary):
47 Voltage 0 (Volts) 1.20
48 Voltage 1 (Volts) 1.20
49 Voltage 2 (Volts) 1.20
50 Voltage 3 (Volts) 1.20
51 Voltage 4 (Volts) 1.88
52 Voltage 5 (Volts) 0.00
53 Voltage 6 (Volts) 0.00
54 Voltage 7 (Volts) 0.00
55 Fan 0 Speed (RPM) 3360
56 Fan 1 Speed (RPM) 0
57 Fan 2 Speed (RPM) 0
58 Fan 3 Speed (RPM) 0
59 Temperature 0 (Celsius) 28
60 Temperature 1 (Celsius) 34
61 Temperature 2 (Celsius) 0
62 Temperature 3 (Celsius) 0
63 Done
64 >
65 <!--NeedCopy-->
```

Shell

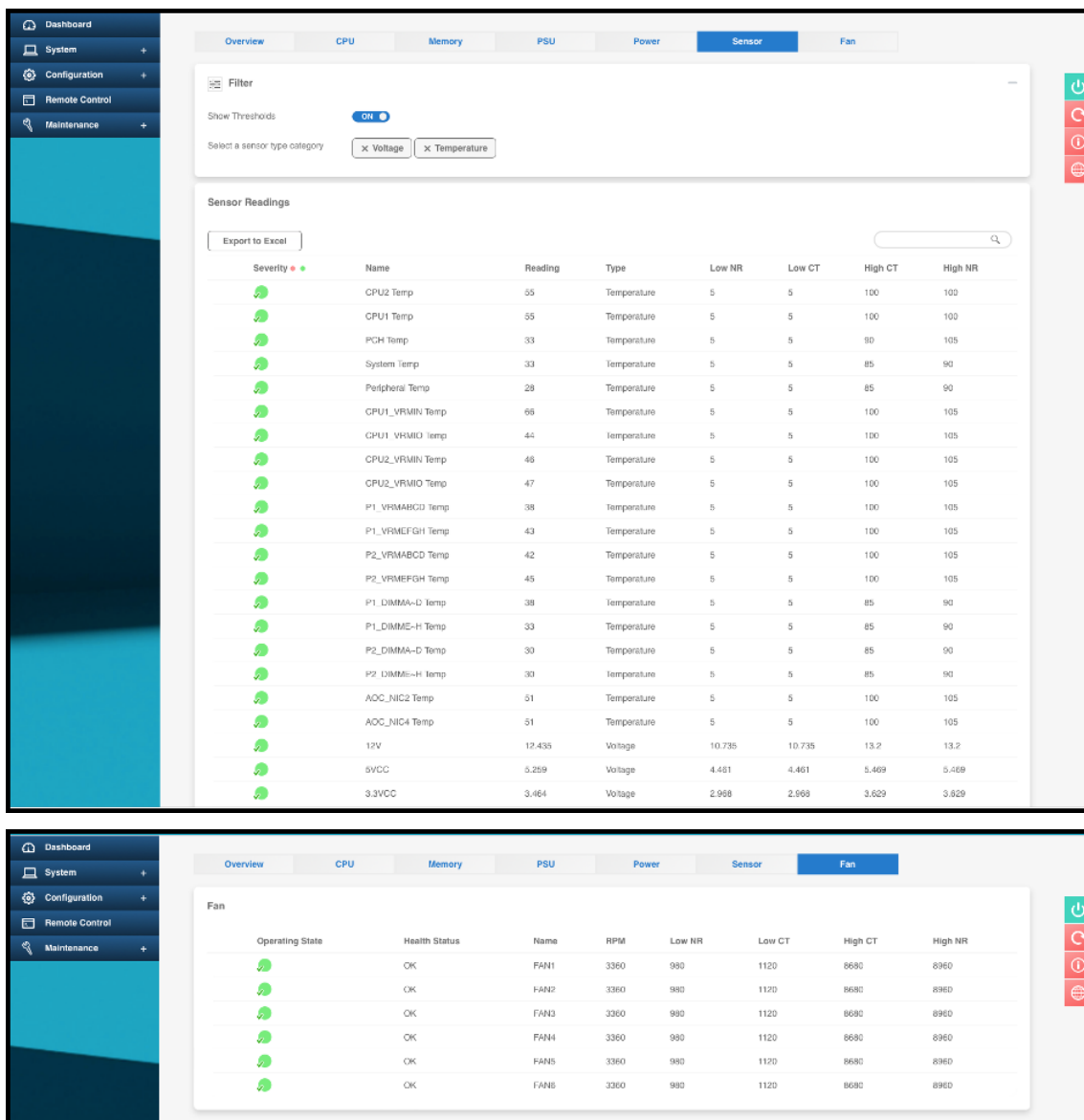
コマンドラインで、次のように入力します。shell

```
1 > shell
2 root@ns# ipmitool sdr list
3
4 CPU1 Temp | 54 degrees C | ok
5 CPU2 Temp | 53 degrees C | ok
```

6	PCH Temp	34 degrees C	ok
7	System Temp	33 degrees C	ok
8	Peripheral Temp	28 degrees C	ok
9	CPU1_VRMIN Temp	65 degrees C	ok
10	CPU1_VRMIO Temp	44 degrees C	ok
11	CPU2_VRMIN Temp	46 degrees C	ok
12	CPU2_VRMIO Temp	47 degrees C	ok
13	P1_VRMABCD Temp	38 degrees C	ok
14	P1_VRMEFGH Temp	43 degrees C	ok
15	P2_VRMABCD Temp	42 degrees C	ok
16	P2_VRMEFGH Temp	45 degrees C	ok
17	FAN1	3360 RPM	ok
18	FAN2	3360 RPM	ok
19	FAN3	3360 RPM	ok
20	FAN4	3360 RPM	ok
21	FAN5	3360 RPM	ok
22	FAN6	3360 RPM	ok
23	P1_DIMMA~D Temp	38 degrees C	ok
24	P1_DIMME~H Temp	33 degrees C	ok
25	P2_DIMMA~D Temp	30 degrees C	ok
26	P2_DIMME~H Temp	30 degrees C	ok
27	12V	12.44 Volts	ok
28	5VCC	5.26 Volts	ok
29	3.3VCC	3.49 Volts	ok
30	VBAT	3.11 Volts	ok
31	Vcpu1VCCIN	1.77 Volts	ok
32	Vcpu1VCCIO	1.00 Volts	ok
33	Vcpu2VCCIN	1.77 Volts	ok
34	Vcpu2VCCIO	1.00 Volts	ok
35	Vcpu1VDDQABCD	1.20 Volts	ok
36	Vcpu1VDDQEFGH	1.20 Volts	ok
37	Vcpu2VDDQABCD	1.20 Volts	ok
38	Vcpu2VDDQEFGH	1.20 Volts	ok
39	5VSB	5.04 Volts	ok
40	3.3VSB	3.45 Volts	ok
41	2.5V BMC	2.56 Volts	ok
42	1.8V BMC	1.83 Volts	ok
43	1.2V BMC	1.20 Volts	ok
44	1.0V BMC	1.02 Volts	ok
45	1.8V PCH	1.88 Volts	ok
46	PVNN PCH	1.06 Volts	ok
47	1.05V PCH	1.06 Volts	ok
48	PS1 Status	0x01	ok
49	PS2 Status	0x01	ok
50	AOC_NIC2 Temp	51 degrees C	ok
51	AOC_NIC4 Temp	51 degrees C	ok
52	root@ns#		
53	<!--NeedCopy-->		

LOM GUI

1. LOM GUI にログインします。
2. ダッシュボードの [センサー] をクリックすると、温度と電圧の値が表示されます。ファンの値を表示するには、「ファン」をクリックします。



MPX 9100 プラットフォームのハードウェアヘルス属性

January 25, 2024

次の表は、MPX 9100 プラットフォームのヘルス属性の推奨範囲を示しています。

シェルから `ipmitool sdr list` コマンドを実行します。このコマンドは、感覚パラメータデータを詳細に一覧表示します。

CLI から `stat system -detail` コマンドを実行します。このコマンドは、パラメーターのサブセットを一覧表示します。

ヘルス属性 (シェル)	ヘルス属性 (CLI)	推奨範囲
CPU 温度	CPU 0 温度 (摂氏)	10-95
PCH 温度	温度 1 (摂氏)	10-85
システム温度	内部温度 (摂氏)	10-80
周辺機器の温度	温度 0 (摂氏)	10-80
CPU_VRMIN 温度	-いいえ-	10-95
VRMABCD 温度	-いいえ-	10-95
VRMEFGH 温度	-いいえ-	10-95
DIMMABCD 温度	-いいえ-	10-80
DIMMEFGH 温度	-いいえ-	10-80
ファン 1	CPU ファン 0 スピード (RPM)	1260-18060
ファン 2	CPU ファン 1 スピード (RPM)	1260-18060
ファン 3	システムファン速度 (RPM)	1260-18060
ファン 4	システムファン 1 速度 (RPM)	1260-18060
ファン 5	システムファン 2 速度 (RPM)	1260-18060
ファン 6	ファン 0 スピード (RPM)	1260-18060
12V	+12.0 ボルトの電源電圧	10.704-13.812
5VCC	+5.0 ボルトの電源電圧	4.466-5.737
3.3VCC	メイン電源電圧: 3.3 V	2.885-3.690
VBAT	バッテリー電圧 (ボルト)	2.591-3.464
5VSB	5V スタンバイ電圧 (ボルト)	4.496-5.378
3.3VSB	スタンバイ電源電圧: 3.3 V	2.954-3.552
1.8V PCH	電圧 2 (ボルト)	1.618-1.943
PVNN PCH	-いいえ-	0.892-1.072
1.05V PCH	-いいえ-	0.915-1.176
2.5V BMC	-いいえ-	2.177-2.804

ヘルス属性 (シェル)	ヘルス属性 (CLI)	推奨範囲
1.8V BMC	-いいえ-	1.620-1.944
1.2V BMC	-いいえ-	1.074-1.290
1.0V BMC	-いいえ-	0.892-1.072
vCPUVRM	-いいえ-	1.616-1.944
vcpu	CPU 0 コア電圧 (ボルト)	0.931-1.195
vdimmABCD (ボルト)	電圧 0 (ボルト)	1.096-1.344
vdimmefGH (ボルト)	電圧 1 (ボルト)	1.096-1.344
PS1 ステータス	電源装置 1 のステータス	-いいえ-
PS2 ステータス	電源装置 2 のステータス	-いいえ-

注

-nl-パラメータは`stat system -detail`コマンドの出力に表示されません。

-na-該当しません。

出力例

次のセクションでは、システムセンサーヘルス属性を表示するさまざまな方法を示します。データはサンプル表現のみです。アプライアンスからの出力は異なる場合があります。許容範囲については、前の表を参照してください。

- CLI から
- シェルから
- LOM GUI から

CLI

コマンドラインで、次のように入力します。 `stat system -detail`

```

1 >stat system -detail
2
3 NetScaler Executive View
4
5 System Information:
6 Up since          Tue Nov 15 13:50:59 2022
7 Up since(Local)  Tue Nov 15 13:50:59 2022
8 Memory usage (MB)          3562
9 InUse Memory (%)          6.24
10 Number of CPUs            9

```



```

11
12 System Health Statistics (Standard):
13 CPU 0 Core Voltage (Volts)                1.07
14 CPU 1 Core Voltage (Volts)                0.00
15 Main 3.3 V Supply Voltage                 3.32
16 Standby 3.3 V Supply Voltage              3.39
17 +5.0 V Supply Voltage                     5.12
18 +12.0 V Supply Voltage                    12.38
19 Battery Voltage (Volts)                   3.06
20 Intel CPU Vtt Power(Volts)                0.00
21 5V Standby Voltage(Volts)                 5.13
22 Voltage Sensor2(Volts)                    0.00
23 CPU Fan 0 Speed (RPM)                     9240
24 CPU Fan 1 Speed (RPM)                     9380
25 System Fan Speed (RPM)                    9380
26 System Fan 1 Speed (RPM)                  9100
27 System Fan 2 Speed (RPM)                  9520
28 CPU 0 Temperature (Celsius)                58
29 CPU 1 Temperature (Celsius)                0
30 Internal Temperature (Celsius)            42
31 Power supply 1 status                      NORMAL
32 Power supply 2 status                      NOT PRESENT
33 Power supply 3 status                      NOT SUPPORTED
34 Power supply 4 status                      NOT SUPPORTED
35
36 System Disk Statistics:
37 /flash Size (MB)                           23801
38 /flash Used (MB)                           3392
39 /flash Available (MB)                      18504
40 /flash Used (%)                             15
41 /var Size (MB)                             341189
42 /var Used (MB)                              12637
43 /var Available (MB)                        301257
44 /var Used (%)                               4
45
46 System Health Statistics(Auxiliary):
47 Voltage 0 (Volts)                          1.22
48 Voltage 1 (Volts)                          1.22
49 Voltage 2 (Volts)                          1.85
50 Voltage 3 (Volts)                          0.00
51 Voltage 4 (Volts)                          0.00
52 Voltage 5 (Volts)                          0.00
53 Voltage 6 (Volts)                          0.00
54 Voltage 7 (Volts)                          0.00
55 Fan 0 Speed (RPM)                          9240
56 Fan 1 Speed (RPM)                          0
57 Fan 2 Speed (RPM)                          0
58 Fan 3 Speed (RPM)                          0
59 Temperature 0 (Celsius)                     23
60 Temperature 1 (Celsius)                     33
61 Temperature 2 (Celsius)                     0
62 Temperature 3 (Celsius)                     0
63 Done

```

```
64 >  
65 <!--NeedCopy-->
```

Shell

コマンドラインで、次のように入力します。shell

```
1 > shell  
2 root@ns# ipmitool sdr list  
3  
4 CPU Temp          | 59 degrees C      | ok  
5 PCH Temp          | 32 degrees C      | ok  
6 System Temp       | 42 degrees C      | ok  
7 Peripheral Temp   | 23 degrees C      | ok  
8 CPU_VRMIN Temp    | 51 degrees C      | ok  
9 VRMABCD Temp      | 38 degrees C      | ok  
10 VRMEFGH Temp     | 40 degrees C      | ok  
11 DIMMABCD Temp    | 27 degrees C      | ok  
12 DIMMEFGH Temp    | 30 degrees C      | ok  
13 FAN1              | 9380 RPM           | ok  
14 FAN2              | 9380 RPM           | ok  
15 FAN3              | 9380 RPM           | ok  
16 FAN4              | 9240 RPM           | ok  
17 FAN5              | 9240 RPM           | ok  
18 FAN6              | 9240 RPM           | ok  
19 12V               | 12.38 Volts       | ok  
20 5VCC              | 5.12 Volts        | ok  
21 3.3VCC            | 3.32 Volts        | ok  
22 VBAT              | 3.06 Volts        | ok  
23 5VSB              | 5.13 Volts        | ok  
24 3.3VSB            | 3.39 Volts        | ok  
25 1.8V PCH          | 1.85 Volts        | ok  
26 PVNN PCH          | 1.03 Volts        | ok  
27 1.05V PCH         | 1.06 Volts        | ok  
28 2.5V BMC          | 2.56 Volts        | ok  
29 1.8V BMC          | 1.78 Volts        | ok  
30 1.2V BMC          | 1.18 Volts        | ok  
31 1.0V BMC          | 0.99 Volts        | ok  
32 VcpuVRM           | 1.78 Volts        | ok  
33 Vcpu              | 1.07 Volts        | ok  
34 VDimmABCD         | 1.22 Volts        | ok  
35 VDimmEFGH         | 1.22 Volts        | ok  
36 PS1 Status        | 0x01              | ok  
37 PS2 Status        | 0x00              | ok  
38 root@ns#  
39 <!--NeedCopy-->
```

LOM GUI

1. LOM GUI にログオンします。

2. ダッシュボードの [センサー] をクリックすると、温度と電圧の値が表示されます。ファンの値を表示するには、「ファン」をクリックします。

The screenshot shows the NetScaler MPX dashboard with the 'Sensor' page selected. The 'Fan' sub-tab is active. The 'Sensor Readings' table is displayed with the following data:

Severity	Name	Reading	Type	Low NR	Low CT	High CT	High NR
OK	PCH Temp	35	Temperature	5	5	90	105
OK	CPU Temp	61	Temperature	5	5	100	100
OK	System Temp	43	Temperature	5	5	85	90
OK	Peripheral Temp	25	Temperature	5	5	85	90
OK	CPU_VRMIN Temp	52	Temperature	5	5	100	105
OK	VRMABCD Temp	38	Temperature	5	5	100	105
OK	VRMEFGH Temp	40	Temperature	5	5	100	105
OK	DIMMABCD Temp	31	Temperature	5	5	85	90
OK	DIMMEFGH Temp	33	Temperature	5	5	85	90

The screenshot shows the NetScaler MPX dashboard with the 'Fan' page selected. The 'Fan' sub-tab is active. The 'Fan' table is displayed with the following data:

Operating State	Health Status	Name	RPM	Low NR	Low CT	High CT	High NR
OK	OK	FAN1	9240	980	1120	19740	21560
OK	OK	FAN2	9380	980	1120	19740	21560
OK	OK	FAN3	9380	980	1120	19740	21560
OK	OK	FAN4	9100	980	1120	19740	21560
OK	OK	FAN5	9100	980	1120	19740	21560
OK	OK	FAN6	9240	980	1120	19740	21560

ハードウェアのヘルス属性

January 25, 2024

NetScaler ADC ハードウェアプラットフォームの動作範囲は、属性によって異なります。

注記属性の現在の値を表示するには、`stat system -detail` コマンドを使用します。

MPX 5900 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、MPX 5900 プラットフォームのヘルス属性を示します。

ヘルス属性	推奨範囲
CPU 0 温度 (摂氏)	0 から 85
補助装置下の温度 1 (摂氏)	-5 から 90
内部温度 (摂氏)	-5 から 80
補助装置の温度 0 (摂氏)	-5 から 80
CPU ファン 0 スピード (RPM)	1500 から 18000
CPU ファン 1 スピード (RPM)	1500 から 18000
システムファン速度 (RPM)	1500 から 18000
システムファン 1 速度 (RPM)	1500 から 18000
システムファン 2 速度 (RPM)	1500 から 18000
ファン 0 速度 (RPM) (補助ユニット)	1500 から 18000
+12.0 ボルトの電源電圧 (ボルト)	10.74 から 12.945
+5.0 V 電源電圧 (ボルト)	4.48 から 5.39
主電源電圧 3.3 V (ボルト)	2.959 対 3.554
バッテリー電圧 (ボルト)	2.599 から 3.775
CPU 0 コア電圧 (ボルト)	1.395 から 1.899
補助電圧 0 (ボルト)	1.047 から 1.344
補助下の電圧 1 (ボルト)	1.047 から 1.344
5 V スタンバイ電圧 (ボルト)	4.48 から 5.39
スタンバイ 3.3 V 供給電圧 (ボルト)	2.959 から 3.544
電源装置 1 のステータス	標準
電源装置 2 のステータス	存在しない-正常

MPX 8900 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、MPX 8900 プラットフォームのヘルス属性を示します。

NetScaler MPX

ヘルス属性	推奨範囲
CPU 0 コア (ボルト)	1.395 から 1.899
メイン 3.3V 電源 (ボルト)	2.959 対 3.554
スタンバイ 3.3V 電源 (ボルト)	2.959 対 3.554
+5.0V 電源 (ボルト)	4.48 から 5.39
+12.0V 電源 (ボルト)	10.74 から 12.945
バッテリー (ボルト)	2.599 から 3.775
5V スタンバイ (ボルト)	4.48 から 5.39
CPU ファン 0 スピード (RPM)	1500 から 18000
CPU ファン 1 スピード (RPM)	1500 から 18000
システムファン速度 (RPM)	1500 から 18000
システムファン 1 速度 (RPM)	1500 から 18000
システムファン 2 速度 (RPM)	1500 から 18000
CPU 0 温度 (摂氏)	0 から 85
内部温度 (摂氏)	-5 から 80
電源装置 1 のステータス	標準
電源装置 2 のステータス	存在しない-正常

MPX 15000 および MPX 26000 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、MPX 15000 および MPX 26000 プラットフォームのヘルス属性を示します。

ヘルス属性	単位	最小値	公称値	最大値
CPU 0 コア電圧	ボルト	1.47	1.82	1.835
CPU 1 コア電圧	ボルト	1.47	1.82	1.835
3_3VCC	ボルト	3.12	3.30	3.48
3_3VSB	ボルト	3.12	3.30	3.48
5VCC	ボルト	4.72	5.00	5.28
p12V	ボルト	11.33	12.00	12.67
VBAT	ボルト	2.75	3.00	3.200

NetScaler MPX

ヘルス属性	単位	最小値	公称値	最大値
Vtt	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
5VSB	ボルト	4.72	5.00	5.28
電圧センサー 2	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
CPU ファン 0 スピード	RPM	1500	-なし-	7500
CPU ファン 1 スピード	RPM	1500	-なし-	7500
システムファン速度	RPM	1500	-なし-	7500
システムファン 1 スピード	RPM	1500	-なし-	7500
システムファン 2 スピード	RPM	1500	-なし-	7500
ファン 0 スピード	RPM	1500	-なし-	7500
CPU 0 温度	摂氏	0	-なし-	85
CPU1 Temp	摂氏	0	-なし-	85
内部温度	摂氏	0	-なし-	80

MPX 14000 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、MPX 14000 プラットフォームのヘルス属性を示します。

ヘルス属性	推奨範囲
CPU 0 コア (ボルト)	0.85-0.91
CPU 1 コアボルト	0.85-0.93
メイン 3.3V 電源 (ボルト)	3.31-3.36
スタンバイ 3.3V 電源 (ボルト)	3.26-3.31
+5.0V 電源 (ボルト)	4.99-5.06
+12.0V 電源 (ボルト)	11.98-12.08
バッテリー電圧	3.02-3.12
内部 CPU VTT パワー	0.99-1.01
CPU ファン 0 スピード (RPM)	1875-4350

ヘルス属性	推奨範囲
CPU ファン 1 スピード (RPM)	1875-4200
システムファン速度 (RPM)	1875-4350
システムファン 1 速度 (RPM)	1875-4275
システムファン 2 速度 (RPM)	1875-4200
CPU 0 温度 (摂氏)	33-43
CPU 1 温度 (摂氏)	35-45
内部温度 (摂氏)	28-38
電源装置 1 のステータス	標準
電源装置 2 のステータス	標準

MPX 22040 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、MPX 22040 プラットフォームのヘルス属性を示します。

ヘルス属性	単位	リカバリ不 可能な値を 下げる	重要度が低 い	重要度が低 い	上限 (非重 要)	クリティカ ル上限	上位の回復 不可
CPU 1 温度	C 度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000
CPU2 Temp	C 度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000
システム温 度	C 度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000
周辺機器の 温度	C 度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000
PCH 温度	C 度	-11.000	-8.000	-5.000	90.000	95.000	100.000
FPC_Temp 1	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	66.000	70.000	75.000
FPC_Temp 2	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FPC_Temp 3	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
HDDBP_Temp 1	度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000

ヘルス属性	単位	リカバリ不 可能な値を 下げる	重要度が低 い	重要度が低 い	上限 (非重 要)	クリティカ ル上限	上位の回復 不可
HDDBP_Temp 2	度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FAN 1	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 2	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 3	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 4	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 5	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 6	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 7	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 8	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_2 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_2 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_2 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 FAN	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
PS_4 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_4 FAN	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_4 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FPC ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-

ヘルス属性	単位	リカバリ不 可能な値を 下げる	重要度が低 い	重要度が低 い	上限 (非重 要)	クリティカ ル上限	上位の回復 不可
VTT	ボルト	0.816	0.864	0.912	1.344	1.392	1.440
CPU1 Vcore	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552
CPU2 Vcore	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552
VDIMM AB	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM CD	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM EF	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM GH	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
+1.5 V	ボルト	1.248	1.296	1.344	1.648	1.696	1.744
3.3 V	ボルト	2.640	2.784	2.928	3.648	3.792	3.936
+3.3VSB	ボルト	2.640	2.784	2.928	3.648	3.792	3.936
5 V	ボルト	4.096	4.288	4.480	5.504	5.696	6.912
12 V	ボルト	10.176	10.494	10.812	13.250	13.568	13.886
VBAT	ボルト	2.400	2.544	2.688	3.312	3.456	3.600

MPX 24100 プラットフォームのヘルス属性

次の表に、MPX 24100/24150 のヘルス属性を示します。

ヘルス属性	単位	リカバリ不 可能な値を 下げる	重要度が低 い	重要度が低 い	上限 (非重 要)	クリティカ ル上限	上位の回復 不可
CPU 1 温度	C 度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000
CPU2 Temp	C 度	0.000	0.000	0.000	90.000	93.000	95.000
システム温 度	C 度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000
周辺機器の 温度	C 度	-9.000	-7.000	-5.000	80.000	85.000	90.000
PCH 温度	C 度	-11.000	-8.000	-5.000	90.000	95.000	100.000

ヘルス属性	単位	リカバリ不 可能な値を 下げる	重要度が低 い	重要度が低 い	上限 (非重 要)	クリティカ ル上限	上位の回復 不可
FPC_Temp 1	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	66.000	70.000	75.000
FPC_Temp 2	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FPC_Temp 3	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
HDDBP_Temp 1	ρ 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
HDDBP_Temp 2	ρ 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
FAN 1	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 2	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 3	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 4	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 5	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 6	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 7	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FAN 8	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 FAN	RPM	-なし-	1980.000	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_1 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	72.000	76.000	82.000
PS_2 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_2 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_2 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_3 Temp	C 度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-

ヘルス属性	単位	リカバリ不 可能な値を			上限 (非重 要)	クリティカ ル上限	上位の回復 不可
		下げる	重要度が低 い	重要度が低 い			
PS_4 ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_4 FAN	RPM	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
PS_4 Temp	C度	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
FPC ステ ータス	個別	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
VTT	ボルト	0.816	0.864	0.912	1.344	1.392	1.440
CPU1 Vcore	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552
CPU2 Vcore	ボルト	0.480	0.512	0.544	1.488	1.520	1.552
VDIMM AB	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM CD	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM EF	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
VDIMM GH	ボルト	1.104	1.152	1.200	1.648	1.696	1.744
+1.5 V	ボルト	1.248	1.296	1.344	1.648	1.696	1.744
3.3 V	ボルト	2.640	2.784	2.928	3.648	3.792	3.936
+3.3VSB	ボルト	2.640	2.784	2.928	3.648	3.792	3.936
5 V	ボルト	4.096	4.288	4.480	5.504	5.696	6.912
12 V	ボルト	10.176	10.494	10.812	13.250	13.568	13.886
VBAT	ボルト	2.400	2.544	2.688	3.312	3.456	3.600

MPX 5500/7500/9700/9700 10G プラットフォームのヘルス属性

次の表に、ヘルス属性とその推奨値の範囲を示します。

					MPX
ヘルス属性/プラットフォーム	SNMP アラームのサポート	MPX 5500/5600	MPX 7500/9500	MPX 9700/10500/12500/15500	MPX 9700/10500/12500/15500
CPU 0 コア (ボルト)	いいえ	0.97-1.5	1-1.5	1-1.5	1-1.5
CPU 1 コア (ボルト)	いいえ	0.97-1.5	1-1.5	1-1.5	1-1.5
メイン 3.3V 電源 (ボルト)	はい	3.2-3.6	3.2-3.54	3.2-3.54	3.2-3.55
スタンバイ 3.3V 電源 (ボルト)	はい	3.2-3.6	3.2-3.54	3.2-3.54	3.2-3.55
+5.0V 電源 (ボルト)	いいえ	4.8-5.2	4.8-5.2	4.8-5.2	4.8-5.2
+12.0V 電源 (ボルト)	いいえ	11.5-12.35	11.52-12.35	11.5-12.31	11.8-12.35
-12.0V 電源 (ボルト)	いいえ	-なし-	-なし-	-なし-	-なし-
バッテリー (ボルト)	いいえ	3-3.5	2.85-3.5	2.85-3.5	2.85-3.5
インテル CPU VTT パワー (ボルト)	いいえ	1-1.2	1-1.2	1-1.2	1-1.2
5V スタンバイ (ボルト)	いいえ	4.9-5.2	4.9-5.2	4.9-5.2	4.9-5.2
電圧センサー 2 (ボルト)	いいえ	1.2-2	1.2-2	1.2-2	1-1.8
CPU ファン 0 スピード (RPM)	はい	3000-16000	3000-16000	3000-10000	3000-16000
CPU ファン 1 スピード (RPM)	はい	3000-16000	3000-16000	3000-16000	3000-16000
システムファン速度 (RPM)	はい	900-15000	900-13000	900-10000	900-9000
システムファン 1 速度 (RPM)	いいえ	900-15000	900-15000	900-10000	900-8000
システムファン 2 速度 (RPM)	いいえ	900-15000	900-15000	900-10000	900-10000
CPU 1 温度	はい	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)

					MPX 9700/10500/12500/15500
ヘルス属性/プラットフォーム	SNMP アラームのサポート	MPX 5500/5600	MPX 7500/9500	MPX 9700/10500/12500/15500	MPX 9700/10500/12500/15500
CPU 0 温度	はい	24–90 (摂氏), 75.2–194 (華氏)	24–90 (摂氏), 75.2–194 (華氏)	24–90 (摂氏), 75.2–194 (華氏)	24–90 (摂氏), 75.2–194 (華氏)
内部温度	はい	19–50 (摂氏), 66.2–122 (華氏)	19–50 (摂氏), 66.2–122 (華氏)	19–50 (摂氏), 66.2–122 (華氏)	19–50 (摂氏), 66.2–122 (華氏)
電源装置 1 のステータス	はい	未サポート	Normal	Normal	Normal
電源装置 2 のステータス	はい	未サポート	Normal	Normal	Normal

MPX 5550/8005/115xx/17500/17550 プラットフォームの正常性属性

次の表に、ヘルス属性とその推奨値の範囲を示します。

ヘルス属性/プラットフォーム	SNMP アラームのサポート	MPX 17500/19500/21500	MPX 115xx	MPX 17550/19550/21550	MPX 5550/8005/8800	MPX 11550/15500/17500/17550/8800
CPU 0 コア (ボルト)	いいえ	0.99–1.5	0.95–1.5	0.95–1.5	-なし-	-なし-
CPU 1 コア (ボルト)	いいえ	0.99–1.5	0.95–1.56	0.95–1.5	-なし-	-なし-
メイン 3.3V 電源 (ボルト)	はい	3.19–3.55	3.19–3.55	3.18–3.55	3.14–3.47	3.14–3.47
スタンバイ 3.3V 電源 (ボルト)	はい	3.2–3.55	3.1–3.55	3.1–3.55	3.14–3.47	3.14–3.47
+5.0V 電源 (ボルト)	いいえ	4.8–5.2	4.8–6.24	4.8–5.2	4.75–5.25	4.75–5.25
+12.0V 電源 (ボルト)	いいえ	11.5–12.35	11.8–12.35	11.5–12.35	11.40–12.60	11.40–12.60
-12.0 V 電源 (ボルト)	いいえ	-なし-	-なし-	-なし-	(-10.80)–(-13.20)	(-10.80)–(-13.20)
バッテリー (ボルト)	いいえ	2.85–3.37	3–3.5	2.8–3.5	2.5	2.5

ヘルス属性/プラットフォーム	SNMP アラームのサポート	MPX 17500/19500/21500/115xx		MPX 17550/19550/21550/115xx		MPX 17550/19550/21550/115xx	
インテル CPU VTT パワー (ボルト)	いいえ	1-1.2	1-1.2	1-1.2	-なし-	-なし-	
5V スタンバイ (ボルト)	いいえ	4.88-5.2	4.8-5.25	4.9-5.3	-なし-	-なし-	
電圧センサー 2 (ボルト)	いいえ	1.4-5.2	1.4-6.24	1.4-5.2	3.14-3.47	3.14-3.47	
CPU ファン 0 スピード (RPM)	はい	3000-16000	3000-16000	3000-16000	600	600	
CPU ファン 1 スピード (RPM)	はい	3000-16000	3000-16000	3000-16000	600	600	
システムファン速度 (RPM)	はい	900-15000	900-15000	900-15000	600	600	
システムファン 1 速度 (RPM)	いいえ	900-15000	900-15000	900-16000	600	600	
システムファン 2 速度 (RPM)	いいえ	900-15000	900-15000	900-16000	600	600	
CPU 0 温度	はい	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	< 85 (摂氏)、< 185 (華氏)	< 85 (摂氏)、< 185 (華氏)	
CPU 1 温度	はい	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	24-90 (摂氏), 75.2-194 (華氏)	-なし-	-なし-	
内部温度	はい	19-50 (摂氏), 66.2-122 (華氏)	19-50 (摂氏), 66.2-122 (華氏)	19-50 (摂氏), 66.2-122 (華氏)	< 55 (摂氏)、< 131 (華氏)	< 55 (摂氏)、< 131 (華氏)	
電源装置 1 のステータス	はい	Normal	Normal	Normal	Normal	未サポート	

ヘルス属性/プラットフォーム	SNMP アラームのサポート	MPX 17500/19500/21500/115xx	MPX 17550/19550/21550/115xx	MPX 17550/19550/21550/115xx	MPX 17550/19550/21550/115xx	MPX 17550/19550/21550/115xx
電源装置 2 のステータス	はい	Normal	Normal	Normal	通常 (両方の電源装置が取り付けられている場合)	未サポート

NetScaler MPX アプライアンスでの Fortville NIC ファームウェアのアップグレード

January 25, 2024

注:

ファームウェアバージョン 8.70 は、ソフトウェアバージョン 13.1 以降でサポートされています。デフォルトのファームウェアバージョンは 7.00 です。ファームウェアバージョン 8.70 にアップグレードするには、次のコマンドを実行します。

```
1 shell
2 cd /netscaler
3 sh upgrade_fortville_nics.sh 8.70
4 <!--NeedCopy-->
```

<https://support.citrix.com/article/CTX263807>を修正するためにフォートビル NIC を含む NetScaler ADC MPX アプライアンスのファームウェアをアップグレードします。

前提条件

1. NIC ファームウェアをバージョン 7.00 にアップグレードする前に、NetScaler MPX アプライアンスを新しいファームウェアをサポートするソフトウェアバージョンにアップグレードする必要があります。次のバージョンは、ファームウェアバージョン 7.00 をサポートします。

- 11.1 ビルド 64.x 以降
- 12.1 ビルド 56.x 以降
- 13.0 ビルド 58.x 以降

重要: これらのビルドよりも前のビルドにソフトウェアバージョンをダウングレードしないでください。

2. 次のスクリプトが `/netscaler` ディレクトリに存在する必要があります。

`upgrade_fortville_nics.sh`

スクリプトが存在しない場合、インストールされている ADC ソフトウェアイメージはファームウェアのアップグレードをサポートしません。

3. `/var/tmp/Fortville_Silicom_Intel/` スクリプトディレクトリには、次のスクリプトが存在する必要があります。

- `fortville_fw_update`
- `fortville_fw_update_intel_1`
- `fortville_fw_update_silicom_1`
- `fortville_fw_update_state_machine`
- `fortville_fw_update_subr`

これらのスクリプトが存在しない場合は、コマンドプロンプトで `installns` を実行して、これらのファイルをインストールします。ファイルは、このファームウェア・アップグレードをサポートするすべての ADC ソフトウェアに含まれています。

サポートされるプラットフォーム

ファームウェアアップグレードスクリプトは、フォートビル NIC を含むすべての NetScaler ADC MPX プラットフォームでサポートされています。このスクリプトは、アプライアンスに Fortville NIC が含まれているかどうかを検証し、見つからない場合は終了します。

注: これらのファームウェアアップグレードスクリプトは、NetScaler SDX プラットフォームではサポートされていません。

次の MPX アプライアンスおよび対応するゼロ容量アプライアンスには、フォートビル NIC が含まれています。

- MPX 8900
- MPX 8900 FIPS 認定アプライアンス
- MPX 9100
- MPX 14000-40C
- MPX 14000-40S
- MPX 14000-40G
- MPX 15000
- MPX 15000-50G
- MPX 15000-50G FIPS 認定アプライアンス
- MPX 16000
- MPX 25000-40G
- MPX 25000T
- MPX 25000TA

- MPX 25000-40G
- MPX 26000
- MPX 26000-50S
- T1300
- T1310

ファームウェアのアップグレード

重要:

- アップグレードスクリプトにより、アプライアンスがネットワークから切断されます。オフライン NIC ファームウェアのアップグレードを完了するのにかかる時間は、プラットフォームによって異なります。たとえば、6つのフォートビル NIC を搭載した MPX 14000 プラットフォームでは、アップグレードにかかる合計時間は約 30 分です。
- ファームウェアを更新したら、アプライアンスのソフトウェアバージョンが新しいファームウェアをサポートしていることを確認します。

ファームウェアアップグレードスクリプトは、NIC ファームウェアをバージョン 7.00 にアップグレードします。このアップグレードは、シリコムまたはインテルが製造したフォートビル 10G および 40G NIC、およびシリコムが製造したフォートビル 25G NIC で実行されます。

注:

- NIC のファームウェアバージョンを 7.00 にアップデートした後、NIC を以前のバージョンにダウングレードすることはできません。
- フォートビル NIC のアップグレードには、複数回試行が必要になる場合があります。たとえば、一部の NIC をファームウェアバージョン 7.00 に更新すると、最大 3 回かかる場合があります。

ファームウェアをアップグレードするには、コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
1 > shell
2 root@ns# cd /netscaler
3 root@ns# sh upgrade_fortville_nics.sh
4 <!--NeedCopy-->
```

デフォルトでは、ファームウェアはバージョン 7.00 にアップグレードされます。

アップグレード後

`fortville_fw_update_state_machine`を実行した後、`/nsconfig/.developer`ファイルと `/nsconfig/rc.local`ファイルを削除して終了します。

- `/nsconfig/.developer`ファイルを削除すると、再起動時に NetScaler ADC ソフトウェアが起動します。

- `/nsconfig/rc.local` ファイルを削除すると、再起動時に `fortville_fw_update_state_machine` スクリプトが起動されません。

再起動後、NetScaler ADC ソフトウェアは起動し、ファームウェアのアップグレードプロセスが完了します。

ファームウェアのアップグレード後、`/var/log` ディレクトリ内の `upgrade_fortville_nic_fw.log` ログファイルには、ファームウェアアップグレードアクティビティの詳細な記録が含まれます。とりわけ、ファームウェアアップデートプロセスの期間を記録します。

また、ディレクトリ `/var/tmp/Fortville_Silicom_Intel/scripts` 内のファイル、`fortville_firmware_upgrade_parm_file` は削除されません。ファームウェアのアップグレードに関する情報を調べることができます。

`fortville_nic_info` スクリプトを起動すると、ホスト ADC アプライアンス内のフォートビル NIC に関する情報の要約を出力できます。情報はログファイルに記録されます。

スクリプトを実行するには、コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
1 > shell
2 root@ns# cd /var/tmp/Fortville_Silicom_Intel/scripts
3 root@ns# sh fortville_nic_info
4
5 <!--NeedCopy-->
```

NetScaler からデータを消去する

January 25, 2024

NetScaler からデータを消去する可能性があるシナリオは 2 つあります：

- NetScaler を廃止または返却する予定で、返品する前にすべての構成とファイルを削除したいと考えています。
- NetScaler を再展開していて、工場出荷時のデフォルト構成から始めたいと考えています。

構成消去スクリプトは、NetScaler からすべての顧客専有情報を削除します。

注意: これらのスクリプトの実行は危険です。実行中に問題が発生すると、NetScaler が起動できなくなり、ソフトウェアイメージを再インストールしなければならない場合があります。構成消去スクリプトは、ライセンス、構成、イメージ、スクリプトなど、ボックス内のすべてを削除し、有効なバックアップがないと構成は保存されません。結果を理解した後にのみ、これらのスクリプトを実行してください。NetScaler サポートに連絡し、サポートケースを開いて関連チームを関与させることをお勧めします。

注意事項

1. 新しい構成消去スクリプトは、公式の NetScaler ソフトウェアバンドルで配布されています。たとえば、14.1-4.42 の tar ファイル (build-14.1-4.42_nc_64.tgz) にはスクリプトが含まれています。
2. データを消去するコマンドを実行する前に、リカバリフォルダ (`/flash/.recovery`) 内のスクリプトをこれらのスクリプトに置き換える必要があります。

重要:

`/flash/.recovery` フォルダが存在しない場合は、SSD を交換する必要があります。

3. 設定ワイプスクリプトがビルド番号と一致していることを確認してください。たとえば、14.1-4.42 へのアップグレードを計画している場合は、このビルド用のスクリプトをダウンロードしてください。
4. スクリプト内の番号は日付であり、ソフトウェアのバージョンではありません。つまり、`config_wipe_01_10_23.tgz` は 2023 年 1 月 10 日を指します。インストールパッケージに複数のファイルがある場合は、新しい日付のファイルを使用してください。
5. 設定ワイプスクリプトは、対応するビルドにアップグレードした後にのみ実行してください。

サポートされるプラットフォーム

このスクリプトは、すべての NetScaler ADC MPX アプライアンスでサポートされています。このスクリプトは、NetScaler SDX アプライアンスではサポートされていません。

設定を消去するコマンド

1. ビルド用のフォルダを作成し、tarball をダウンロードして、このフォルダに内容を抽出します。次のコードサンプルは 14.1-4.42 ビルド用です。
コマンドラインで、次のように入力します:

```
1 > shell
2 root@ns# mkdir -p /var/nsinstall/14.1-4.42
3
4 root@ns# cd /var/nsinstall/14.1-4.42/
5
6 root@ns# pwd
7
8 /var/nsinstall/14.1-4.42
9
10 root@ns# tar xvzf /var/build-14.1-4.42_nc_64.tgz
11
12 x .ns.version
13
14 x OTP_tool.tgz
15
```

```
16 x installns
17
18 x invalid_config_check_files.tgz
19
20 x nsconfig
21
22 x skf
23
24 x schema.json
25
26 x licserververify
27
28 x reference_schema.json
29
30 x bootloader.tgz
31
32 x python.tgz
33 <!--NeedCopy-->
```

2. スクリプトが tar ボールの一部であることを確認します。

コマンドラインで、次のように入力します:

```
1 > shell
2 root@ns# ls -l config_wipe*
3
4 -rw-r--r-- 1 root 1001 136782 Jul 26 04:29 config_wipe_01_10_23
   .tgz
5 <!--NeedCopy-->
```

3. `installns`を実行して新規ビルドをインストールします。
4. NetScaler を再起動します。
5. `/flash/.recovery`フォルダに切り替えて、内容を抽出します。フォルダが存在しない場合は、SSD を交換する必要があります。

```
1 root@ns# cd /flash/.recovery
2
3 root@ns# tar xvzf /var/nsinstall/14.1-4.42/config_wipe_01_10_23.
   .tgz
4
5 x rc.conf_wipe_subr
6
7 x rc.disk_wipe_and_reset
8
9 x rc.flash_wipe_recover
10
11 x rc.local_disk_wipe_2
12
13 x rc.local_flash_wipe_1
14
15 x rc.main_disk_wipe
16
```

```
17 x rc.main_flash_wipe
18
19 x rc.system_wipe_and_reset
20
21 x loader
22
23 x .new_loader_version
24
25 root@ns#
26 <!--NeedCopy-->
```

6. 設定を消去します。コマンドラインで、次のように入力します:

```
1 sh rc.system_wipe_and_reset
2 <!--NeedCopy-->
```

フラッシュとディスクを 1 回以上ゼロにするために、オプションの 2 つのパラメータを使用できます。

```
1 sh rc.system_wipe_and_reset [num_flash_loops [num_disk_loops]]
2 <!--NeedCopy-->
```

パラメーター:

num_flash_loops -フラッシュをループし、すべてのセクタをゼロにする回数。デフォルトは 0 です。指定できる値は 0 ~16 です。

num_disk_loops -ハードドライブをループし、すべてのセクタをゼロにする回数。デフォルトは 0 です。指定できる値は 0 ~16 です。

注:

num_disk_loops を指定できるのは、num_flash_loop を指定した後だけです。フラッシュをゼロ化せずにディスクをゼロ化するには、flash パラメータを 0 に設定します。

例

次のコマンドを使用して、フラッシュを 1 回、ハードドライブを 2 回ゼロにします。

```
1 sh rc.system_wipe_and_reset 1 2
2 <!--NeedCopy-->
```

次のコマンドは、一度だけハードドライブをゼロするために使用されます。

```
1 sh rc.system_wipe_and_reset 0 1
2 <!--NeedCopy-->
```

次のコマンドのいずれかを使用して、フラッシュを 4 回ゼロにします。

```
1 sh rc.system_wipe_and_reset 4 0
2 <!--NeedCopy-->
```

または

```
1 sh rc.system_wipe_and_reset 4
2 <!--NeedCopy-->
```

スクリプトの実行時間

アプライアンスは 1 回以上再起動することがあります。一部の設定例でかかる時間は次のとおりです：

- パラメータを指定しないと、スクリプトは 5 分で完了します。つまり、ディスクは再フォーマットされ、ゼロにはされません。ゼロにすると、データがリカバリできないように、セキュリティが強化されます。
- フラッシュをゼロにすると：
 - 256 MB フラッシュを搭載したアプライアンスでは、パスごとに 1 分以上追加されます。
 - 4 GB フラッシュを搭載した MPX アプライアンスでは、パスごとに約 17 分が追加されます。
- ディスクをゼロにすると：
 - 80 GB ハードドライブを搭載したアプライアンスでは、パスごとに約 52 分が追加されます。
 - 250 GB ハードドライブを搭載した MPX アプライアンスでは、パスごとに約 163 分が追加されます。

1 つの SSD を搭載したアプライアンス

設定ワイブは、単一の SSD システムであるか、フラッシュとハードドライブが分離されたシステムであるかに関係なく、/flash パーティションと /var パーティションからすべてのデータを削除して再構築します。

単一の SSD システムでは、物理ストレージデバイスが 1 つだけです。したがって、デバイス全体を再フォーマットしたり、オプションでゼロにすることはできません。

フラッシュ全体を再フォーマットする代わりに、フラッシュパーティションだけが再フォーマットされます。フラッシュ全体をゼロにする代わりに、フラッシュパーティションだけがゼロになります。

物理ハードドライブの代わりにハードドライブパーティションがあるため、再フォーマットおよびオプションでゼロ化は、ハードドライブパーティションに限定されます。

NetScaler MPX アプライアンスのファイルシステム整合性を確認する方法

January 25, 2024

NetScaler MPX アプライアンスのファイルシステムの整合性を検証するには、以下の手順を実行します。

1. ADC アプライアンスのシリアル・コンソールにコンソール・ケーブルを接続します (9600 ボー、8 ビット、1 ストップ・ビット、パリティなし)。

2. アプライアンスを再起動します。
3. 次のメッセージが表示されたら、**Ctrl+C**キーを同時に押します。Booting [/ns-12.1-60.19] counting down from 2 to 1 second OK プロンプトで、?と入力して使用可能なコマンドを表示します。

```

BTX loader 1.00  BTX version is 1.01
Booting [/ns-12.1-60.19] in 1 second...

Type '?' for a list of commands, 'help' for more detailed help.
OK ?
Available commands:
  heap          show heap usage
  reboot        reboot the system
  bcachestat    get disk block cache stats
  autoboot      boot automatically after a delay
  boot          boot a file or loaded kernel
  lsdev         list all devices
  more          show contents of a file
  read          read input from the terminal
  echo          echo arguments
  unset         unset a variable
  set           set a variable
  show          show variable(s)
  ?            list commands
  help          detailed help
  include       read commands from a file
  ls            list files
  lsmod         list loaded modules
  unload        unload all modules
  load          load a kernel or module
  pnpscan       scan for PnP devices
  snap         show BIOS SMAP
  boot-conf     load kernel and modules, then autoboot
  read-conf     read a configuration file
  enable-module enable loading of a module
  disable-module disable loading of a module
  toggle-module toggle loading of a module
  show-module   show module load data
OK ?

```

4. シングルクユーザーモードでカーネルを起動するには、**boot -s**と入力します。

```

OK boot -s
GDB: debug ports: uart
GDB: current port: uart
KDB: debugger backends: ddb gdb
KDB: current backend: ddb
SMAP type=01 base=0000000000000000 len=000000000009b000
SMAP type=02 base=000000000009b000 len=000000000005000
SMAP type=02 base=00000000000e0000 len=0000000000020000
SMAP type=01 base=0000000000100000 len=00000000078e93000
SMAP type=02 base=0000000078f93000 len=000000000091b000
SMAP type=04 base=00000000798ae000 len=000000000049f000
SMAP type=02 base=0000000079d4d000 len=000000000022b3000
SMAP type=01 base=0000000100000000 len=00000000f80000000
SMAP type=02 base=000000007c000000 len=00000000014000000
SMAP type=02 base=00000000fed1c000 len=00000000000029000
SMAP type=02 base=00000000ff000000 len=00000000001000000
Copyright (c) 1992-2013 The FreeBSD Project.

```

5. 次のメッセージが表示されたら、**Enter** キーを押します:
Enter full pathname of shell or RETURN for /bin/sh.

Note: The prompt of the appliance changes to `\u@`.

6. `fsck_ufs -y /dev/ad0s1a`を入力して、`/flash`パーティションのディスクの一貫性を検証します。

```
\u@fsck_ufs -y /dev/ad0s1a
** /dev/ad0s1a
** Last Mounted on /flash
** Phase 1 - Check Blocks and Sizes
** Phase 2 - Check Pathnames
** Phase 3 - Check Connectivity
** Phase 4 - Check Reference Counts
** Phase 5 - Check Cyl groups
304 files, 391432 used, 8240223 free (63 frags, 1030020 blocks, 0.0% fragmentation)
***** FILE SYSTEM IS CLEAN *****
\u@
```

7. `df`を入力すると、現在マウントされているパーティションが表示されます。

```
\u@df
Filesystem 1K-blocks  Used Avail Capacity  Mounted on
/dev/md0      422318 395666 18206    96%  /
devfs          1         1     0    100%  /dev
\u@
```

8. デバイス名`s1a`がマウントされていない場合は、ディスク名`s1a`を`/flash`パーティションにマウントするために`/sbin/mount /dev/ad0s1a /flash`と入力します。更新したパーティションを表示するには、「`df`」と入力します。

```
\u@/sbin/mount /dev/ad0s1a /flash
\u@df
Filesystem 1K-blocks  Used    Avail Capacity  Mounted on
/dev/md0      422318 395666   18206    96%  /
devfs          1         1     0    100%  /dev
/dev/ad0s1a  17263310 782864 15099382    5%  /flash
\u@
```

9. `/var`パーティションのディスクの一貫性を検証するには、`fsck_ufs -y /dev/ad0s1e`と入力します。

```
\u@fsck_ufs -y /dev/ad0s1e
** /dev/ad0s1e
** Last Mounted on /var
** Phase 1 - Check Blocks and Sizes
** Phase 2 - Check Pathnames
** Phase 3 - Check Connectivity
** Phase 4 - Check Reference Counts
** Phase 5 - Check Cyl groups
109777 files, 8193132 used, 65433941 free (957 frags, 8179123 blocks, 0.0% fragmentation)
***** FILE SYSTEM IS CLEAN *****
\u@
```

10. デバイス名`s1e`がマウントされていない場合は、`/sbin/mount /dev/ad0s1e /var`と入力してディスクドライブを`/var`パーティションにマウントします。`df`を入力してマウントされたパーティションを表示します。


```

\u0@/sbin/mount /dev/ad0s1e /var
\u0df
Filesystem      1K-blocks      Used      Avail Capacity  Mounted on
/dev/nd0        422318         395666    18206      96%      /
devfs           1              1          0         100%     /dev
/dev/ad0s1a    17263310      782864    15099382   5%       /flash
/dev/ad0s1e   147254146    16386264  119087552  12%      /var
\u0@

```

出力が正常でないように見えるか、エラーが表示された場合は、ハードディスクドライブをリセットし、手順をもう一度繰り返します。エラーが再び表示される場合は、NetScaler サポートに連絡して詳しい調査を依頼してください。

既存の NetScaler ADC アプライアンスの構成を別の NetScaler ADC アプライアンスに移行する

January 25, 2024

新しいアプライアンスに移行する前に、構成を新しいアプライアンスにコピーする前に、古いアプライアンスの構成に何らかの変更を加える必要があります。

注: 次の手順は、NetScaler FIPS アプライアンスには適用されません。

構成を移行する

1. 古いアプライアンスで、構成ファイル (ns.conf) のバックアップコピーを作成します。
2. vi エディタを使用して、バックアップした構成ファイルを編集します。たとえば、ユーザー名、ホスト名、パスワードを変更できます。
注: `set interface`、`bind vlan`、`add channel`、`bind channel`、`set channel` など、インターフェイス関連の設定をすべて削除します。
3. 古いアプライアンスをシャットダウンします。
4. 新しいアプライアンスで初期設定を実行します。シリアルコンソールに接続し、コマンドプロンプトで **config ns** と入力して NetScaler ADC 構成スクリプトを実行します。NetScaler IP アドレス (NSIP) やサブネットマスクなどのパラメータ値を入力します。構成ユーティリティ (GUI) または LCD キーパッドを使用して初期構成を実行する方法については、「[初期構成](#)」を参照してください。
5. 新しいアプライアンスを再起動します。
6. 新しいアプライアンスにルートを追加します。コマンドプロンプトで、次のように入力します。`add route <network> <netmask> <gateway>`
7. 編集した構成ファイルを新しいアプライアンスにコピーします。
8. ブックマーク、SSL 証明書、CRL、Web App Firewall プロファイル、ログインスキーマ、ポータルテーマなど、その他の関連ファイルを新しいアプライアンスにコピーします。Web App Firewall プロフ

ファイルのエクスポートの詳細については、「Web App Firewall プロファイルのエクスポートとインポート」を参照してください。ログインスキーマを追加した場合は、設定ファイルをコピーする前に、それらを `/nsconfig/loginschema/*.xml` から新しいアプライアンスにコピーします。構成ファイルを適用した後、`/var/netscaler/logon/themes/` および `/var/netscaler/logon/LogonPoint/custom` フォルダからポータルテーマファイルを新しいアプライアンスにコピーします。機能ライセンスを Citrix ライセンスポータルに戻し、新しいアプライアンスに再割り当てします。

注: プラットフォームライセンスは、新しいアプライアンスでは異なります。

9. 新しいアプライアンスを再起動します。
10. 新しいアプライアンス、スイッチ、およびルータに固有のインターフェイス関連の設定を追加し、設定を保存します。

高可用性セットアップの場合は、両方のノードで上記の手順を実行する必要があります。

FIPS アプライアンスの構成を移行する

次の手順では、アプライアンス A がソースアプライアンス、アプライアンス B がターゲットアプライアンスです。

1. アプライアンス B の FIPS カードを初期化します。コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```

1  reset fips
2  Done
3
4  reboot
5
6  set fips -initHSM Level-2 so12345 so12345 user123 -hsmLabel NSFIPS
7
8  This command will erase all data on the FIPS card. You must save
   the configuration (saveconfig) after executing this command. Do
   you want to continue?(Y/N)y
9
10 Done
11 <!--NeedCopy-->
```

注: `set fips` コマンドを実行すると、次のメッセージが表示されます。

```

1  This command will erase all data on the FIPS card. You must save
   the configuration (saveconfig) after executing this command. [
   Note: On MPX/SDX 14xxx FIPS platform, the FIPS security is at
   Level-3 by default, and the -initHSM Level-2 option is
   internally converted to Level-3] Do you want to continue?(Y/N)
   y
2
3  saveconfig
4  Done
5
6  reboot
7
8  reboot
```

```
9 <!--NeedCopy-->
```

2. アプライアンス **A** で、PuTTY などの SSH クライアントを使用してアプライアンスへの SSH 接続を開きます。
3. 管理者の資格情報を使用して、アプライアンスにログオンします。
4. アプライアンス **A** をソースアプライアンスとして初期化します。コマンドプロンプトで入力します:

```
1 init ssl fipsSIMsource <certFile>
2 <!--NeedCopy-->
```

例:

```
init fipsSIMsource /nsconfig/ssl/nodeA.cert
```

5. この<certFile>ファイルをアプライアンス **B** の /nsconfig/ssl フォルダにコピーします。

例:

```
scp /nsconfig/ssl/nodeA.cert nsroot@198.51.100.10:/nsconfig/ssl
```

6. アプライアンス **B** で、PuTTY などの SSH クライアントを使用してアプライアンスへの SSH 接続を開きます。
7. 管理者の資格情報を使用して、アプライアンスにログオンします。
8. アプライアンス **B** をターゲットアプライアンスとして初期化します。コマンドプロンプトで入力します:

```
1 init ssl fipsSIMtarget <certFile> <keyVector> <targetSecret>
2 <!--NeedCopy-->
```

例:

```
init fipsSIMtarget /nsconfig/ssl/nodeA.cert /nsconfig/ssl/nodeB.
key /nsconfig/ssl/nodeB.secret
```

9. この<targetSecret>ファイルをアプライアンス **A** にコピーします。

例:

```
scp /nsconfig/ssl/fipslbdal0801b.secret nsroot@198.51.100.20:/
nsconfig/ssl
```

10. アプライアンス **A** で、アプライアンス **A** をソースアプライアンスとして有効にします。コマンドプロンプトで入力します:

```
1 enable ssl fipsSIMsource <targetSecret> <sourceSecret>
2 <!--NeedCopy-->
```

例:

```
enable fipsSIMsource /nsconfig/ssl/nodeB.secret /nsconfig/ssl/
nodeA.secret
```

11. この<sourceSecret>ファイルをアプライアンス **B** にコピーします。

例:

```
scp /nsconfig/ssl/fipslbdal0801b.secret nsroot@198.51.100.10:/nsconfig/ssl
```

12. アプライアンス **B** で、アプライアンス B をターゲットアプライアンスとして有効にします。コマンドプロンプトで入力します:

```
1 enable ssl fipsSIMtarget <keyVector> <sourceSecret>
2 <!--NeedCopy-->
```

例:

```
enable fipsSIMtarget /nsconfig/ssl/nodeB.key /nsconfig/ssl/nodeA.secret
```

13. アプライアンス A の FIPS キーをエクスポートします。

例:

```
export fipskey Key-FIPS-1 -key Key-FIPS-1.key
```

14. /nconfig/sslフォルダ内のアプライアンス B にキーファイルをコピーします。

例:

```
scp /nsconfig/ssl/nodeA.key nsroot@198.51.100.10:/nsconfig/ssl
```

15. アプライアンス B で FIPS キーをインポートします。

例:

```
import fipskey Key-FIPS-2 -key Key-FIPS-2.key -inform SIM -exponent F4
```

16. /nconfig/sslフォルダ内のアプライアンス B に証明書ファイルをコピーします。

例:

```
scp /nsconfig/ssl/nodeA.cert nsroot@198.51.100.10:/nsconfig/ssl
```

17. アプライアンス A からアプライアンス B に残りの構成をコピーします。

トラブルシューティング

January 25, 2024

再起動後、**NetScaler ADC** アプライアンスにアクセスできません。**NetScaler IP** アドレス (**NSIP**) にアクセスできず、**ping** 要求に応答しない

NetScaler MPX 8005/8015/8200/8400/8400/8800、MPX 11500/13500/14500/16500/20500、MPX 11515/11520/11530/11540/11542、MPX 17550/19550/20550/21550、MPX 22040/22040/22060/22100/22120、MPX 24100/24150、MPX 25100T/25160T、T1010、T1100、T1200、T1300、T1310 アプライアンスは LOM をサポートしている。LOM 構成の状態に応じて、次の手順のいずれかの手順から開始します。LOM ポートを構成するには、「[NetScaler ADC アプライアンスのライトアウト管理ポート](#)」を参照してください。

1. LOM ポートが設定されていて、以前に動作していたことが分かっている場合は、LOM GUI にログインし、次の手順を実行します。
 - a) [リモートコントロール] > [コンソールリダイレクト] に移動し、[コンソールの起動] をクリックします。
 - b) Java iKVM Viewer 画面で、VGA コンソールウィンドウで、ブートメディア（ブートドライブ/コンパクトフラッシュカード）の不良または欠落などの起動エラーがないかどうかを確認します。接続されていないブートメディアをすべて抜き差しします。アプライアンスが起動した場合は、ログオンし、Citrix ADC コマンドラインから `show techsupport` コマンドを実行します。サポートバンドルファイルの転送先となる作業用インタフェースを検索するには、「ネットワークインタフェースの確認」の手順を実行します。
 - c) [システムヘルス] > [センサーの読み取り値] の順に選択し、ハードウェアコンポーネントのステータス（CPU 温度、システム温度、電源装置ステータスなど）を確認します。下にスクロールする必要があるかもしれません。緑は、ハードウェアコンポーネントが正常に機能していることを示します。赤は障害が発生したことを示します。赤いインジケータが表示されたら、NetScaler サポートに連絡してください。
 - d) [その他] > [ポストスヌーピング] に移動し、BIOS POST 初期化コードを確認します。ポストスヌーピングの値が「00」または「AC」で、AC 電源装置の LED ライトが緑色の場合は、BIOS が正常に起動しました。そうでない場合は、Java iKVM Viewer 画面をチェックして、BIOS POST の初期化中にアプライアンスが応答しなくなったかどうかを確認します。ステップ 2 のサブステップ a ~ f を実行して、アプライアンスをリカバリします。これらの手順が失敗した場合は、NetScaler サポートに連絡してください。
2. LOM ポートが設定されていて、LOM GUI にアクセスできない場合は、LOM IP アドレスに ping を送信してみます。ベースボード管理コントローラ (BMC、LOM とも呼ばれます) はスタンバイ電源で動作します。電源ボタンを押してアプライアンスの電源を切った場合でも、BMC は引き続き動作しています。LOM IP アドレスに ping を実行できない場合は、シリアルケーブルを使用して COM1 コンソールポートに接続します。NetScaler IP アドレス (NSIP) に ping を実行することもできます。シリアル・ケーブルは、リモート・アクセス用にネットワーク・シリアル・ターミナル/コンソール・サーバーに接続できます。アプライアンスで、次の操作を行います。
 - a) アプライアンスに電力が供給されていることを確認します。
 - b) アプライアンスに電力が供給されていない場合は、電源ケーブルを交換し、ケーブルを別のソケットに接続します。

- c) PSU が PSU スロットに正しく取り付けられていることを確認します。
 - d) すべての AC 電源コードを 30 秒間取り外し、アプライアンスの電源を完全に取り外します。
 - e) AC PSU コードを挿入し直し、AC PSU のステータスを示す LED を確認します。電源装置 LED がグリーンでない場合は、電源装置をトラブルシューティングします。
 - f) LOM IP をもう一度 ping してみてください。成功した場合は、手順 1 に進みます。
3. アプライアンスが LOM ポートをサポートしていないか、LOM ポートが設定されていない場合は、次の手順を実行します。
- a) シリアル・コンソール・ケーブルをアプライアンスに接続します。
 - b) ステップ 2 の a から e までのサブステップを実行します。
 - c) シリアルコンソールポートウィンドウで、ブートメディア（ブートドライブ/コンパクトフラッシュカード）の不良または欠落など、ブート障害エラーがないかどうかを確認します。接続されていないブートメディアをすべて抜き差しします。アプライアンスが起動した場合は、ログオンし、Citrix ADC コマンドラインから `show techsupport` コマンドを実行します。サポートバンドルファイルの転送先となる作業用インタフェースを検索するには、「ネットワークインタフェースの確認」の手順を実行します。

ネットワークインタフェースの確認

1. 管理インタフェース 0/1 が動作していない場合は、前述した Java iKVM Viewer を使用して管理インタフェース 0/2 を設定し、ネットワークケーブルをポート 0/2 に接続します。LOM ポートをサポートしないアプライアンスの場合は、シリアル・コンソール・ポートを使用します。
2. すべてのインタフェースで LED ポートステータスインジケータがグリーンになっていることを確認します。[LED ポートステータスインジケータの詳細については、「ポート」の「LED ポートステータスインジケータ」を参照してください。](#)
3. NetScaler が、使用している SFP/SFP+/XFP トランシーバーをサポートしていることを確認してください。

ハードウェアに関するよくある質問

January 25, 2024

トランシーバー

- トランシーバはアプライアンスに同梱されていますか。

なしトランシーバは別途購入可能です。アプライアンス用のトランシーバーを購入するには、NetScaler の営業担当者にお問い合わせください。

- 10G SFP+ トランシーバが 1G 速度に自動ネゴシエーションするのはなぜですか。

自動ネゴシエーションは、10G SFP+ トランシーバを挿入する 10G SFP+ ポートでデフォルトで有効になっています。ポートとネットワークの間にリンクが確立されると、速度は自動ネゴシエーションされます。たとえば、ポートを 1G ネットワークに接続すると、速度は 1G に自動ネゴシエーションされます。

- 1G トランシーバを 10G スロットに挿入できますか？
 - 銅トランシーバをサポートするのは、MPX 14000 および MPX 25000 アプライアンスのみです。
 - 10G スロットは、銅線 1G トランシーバをサポートしています。このトランシーバは、10 Gbps スロットで最大 1 Gbps で動作します。

注: **10G** トランシーバは、**1G** スロットではサポートされていません。

次の表に、NetScaler ADC アプライアンスで使用可能なトランシーバとポートの互換性マトリックスを示します。

ポート/トランシーバ	10G トランシーバ	1G ファイバートランシーバ	
		バ	1G 銅トランシーバ
10G ポート	サポート対象	例外付きでサポート (注を参照)	サポート対象
1G ファイバポート	サポートされていません	サポート対象	サポートされていません
1G 銅ポート	サポートされていません	サポートされていません	サポート対象

注:

次のアプライアンスは、10G ポートの 1G ファイバートランシーバをサポートしていません。

- MPX/SDX 89xx
- MPX/SDX 89xxT
- MPX/SDX 15xxx-50G
- MPX/SDX 14xxX-40G
- MPX/SDX 14xxX-40s
- MPX/SDX 25xxX-40G

回避策: 10G/1G デュアルスピードトランシーバを使用して、1G 速度を取得します。

ポートごとにサポートされるトランシーバの詳細については、「[25G、40G、50G、および 100G ポート](#)」を参照してください。

ポート

- QSFP+ って何ですか?

QSFP+ は Quad Small Form Factor Pluggable の略で、データデバイスを接続するための小型ホットプラグ可能なトランシーバです。このトランシーバは 40G インターフェイスに使用されます。

QSFP+ ~4 つの SFP+ 銅線ブレイクアウトケーブル: これらのケーブルは、一方の端の ADC アプライアンスの 4 つの SFP+ 10GE ポート、もう一方の端の Cisco スイッチの QSFP+ 40G ポートに接続します。

40G 接続のサポート: 少なくとも **4** つの **10G SFP+** ポートを持つ NetScaler ADC モデルは、10G SFP+ ポートのうち 4 つを集約して 40G リンク集約チャンネルを形成することにより、Cisco 40G インターフェイスに接続します。QSFP から 4 ポート SFP+ 銅線ブレイクアウトケーブル **QSFP-4SFP10G-CU3M (L45593-D178-C30)** としてレポート) が使用されます。逆はサポートされていません。つまり、NetScaler ADC アプライアンス上の 40G ポートとピアスイッチの 4x10G ポートからの接続はサポートされていません。

- **QSFP-4SFP10G-CU3M (L45593-D178-C30)** とレポート) ブレイクアウトケーブルをサポートしている **NetScaler ADC** アプライアンスはどれですか？

少なくとも 4 つの 10G SFP+ ポートを持つ NetScaler ADC アプライアンスは、QSFP ブレイクアウトケーブルをサポートします。

- QSFP28 って何ですか

QSFP28 は、100G データレート用に設計されたホットプラグ可能なトランシーバモジュールです。QSFP28 は 4 つの送信チャンネルと 4 つの受信チャンネルを統合します。「28」は、各レーンが最大 28G のデータレートを伝送することを意味します。QSFP28 は、使用するトランシーバに応じて、4x25G ブレイクアウト接続、2x50G ブレイクアウト、または 1x100G を行うことができます。

電源装置

- NetScaler MPX 5500 および MPX 5550/5650 アプライアンスの電源は、フィールドで交換可能ですか。

なし NetScaler ADC MPX 5500 および MPX 5550/5650 アプライアンスの電源は固定されています。

- MPX 8005、8015、8200、8400、8600、8800、および T1010 アプライアンスには、2 つの電源装置が搭載されていますか。

なし MPX 8005、8015、8200、8400、8600、8800、および T1010 アプライアンスは、デュアル電源をサポートしますが、1 つの電源装置を搭載しています。NetScaler の営業担当者に連絡して、2 つ目の電源を注文してください。

- 各プラットフォームに同梱されている電源はいくつですか。

プラットフォームによっては、2 つの電源をサポートし、4 つの電源をサポートするプラットフォームもあります。アプライアンスに同梱されている電源の数が、サポートされる電源の数より少ない場合があります。より多くの電源が購入可能です。

- 電源はホットスワップ可能ですか。

はい。アプライアンスに電源装置が 2 つある場合は、もう一方の電源装置が動作していれば、アプライアンスをシャットダウンせずに 1 つの電源装置を交換できます。

ラックとレール

- 1U と 2U アプライアンスに異なるレールキットがありますか？

なしすべての MPX アプライアンスと SDX アプライアンスは、同じレールキットを使用します。このキットには、1U と 2U アプライアンス用の異なる長さの 2 組のスライドレールが含まれています。

- どのレールキットを購入する必要がありますか？

このアプライアンスには、28 ～38 インチのラックに適合する標準の 4 支柱レールキットが付属しています。

23 ～33 インチラック用のコンパクトな 4 支柱レールキット、または 2 ポストラック用の 2 支柱レールキットは、別途購入する必要があります。NetScaler の営業担当に連絡して、適切なキットを注文してください。

- 外側のラックレールの最大長と最小長はどれくらいですか。

標準の外側ラックレールの長さは 28 インチから 38 インチです。短い外側ラックレールの長さは 23 インチから 33 インチです。

- ラックのフロントポストと背面支柱の間に必要なスペースはどれくらいですか。

標準ラックでは、前面と背面支柱の間には 28～38 インチが必要です。短いラックには、23 インチから 33 インチの範囲が必要です。

- ラックの前面支柱からアプライアンスを延長できる距離はどれくらいですか。

シャーシは、すべての NetScaler ADC MPX および SDX アプライアンスのフロントポストから最大 1.25 インチまで延長できます。

- アプライアンスの前面と背面領域を維持するために必要なスペースはどれくらいですか。

すべての NetScaler ADC アプライアンスのメンテナンスには、前面領域が 36 インチ、背面領域が 24 インチの最小クリアランス領域が必要です。

管理 (LOM) ポートが点灯します

- NetScaler MPX アプライアンスでサポートされる LOM 機能はどれですか

一部のプラットフォームでは、アプライアンスの前面パネルにインテリジェントプラットフォーム管理インターフェイス (IPMI) (ライトアウト管理 (LOM) ポートとも呼ばれます) があります。これらのプラットフォームでは、次の 3 つの LOM 機能がサポートされています。

- LOM ポートの設定
- アプライアンスの電源を入れ直します
- コアダンプを実行する

- TCP ポート 5900 で、暗号化された仮想ネットワークコンピュータ (VNC) セッションのみを受け入れるように LOM インターフェイスを構成できますか。

はい。LOM インターフェイスでトランスポート層セキュリティ (TLS) を有効にするお客様は、TLS 経由で VNC 接続も配信されます。

LOM セキュリティガイドラインの詳細については、「[NetScaler MPX、VPX、および SDX アプライアンスの安全な展開ガイド](#)」を参照してください。

- LOM インターフェイスで使用されている SSH のバージョンはアップグレードできますか。パッチはありますか？

LOM の個々のコンポーネントを個別にアップグレードすることはできません。LOM ファームウェア全体をパッケージとしてアップグレードする必要があります。MPX アプライアンスでは、LOM アップグレードは、`upgrade_bmc.sh` シェルに移動してスクリプトを実行することによって明示的に実行されます。

- サードパーティ証明書または自己署名の SSL 証明書を LOM インターフェイスに追加することは可能ですか。

はい。88XX モデルを除き、サードパーティ証明書および自己署名の SSL 証明書の最新バイナリで SSL を有効にできます。これらのモデルでは、現在の LOM リリースはサードパーティ証明書をサポートしていません。

一般

- 推奨される端末エミュレータは何ですか？

PuTTY

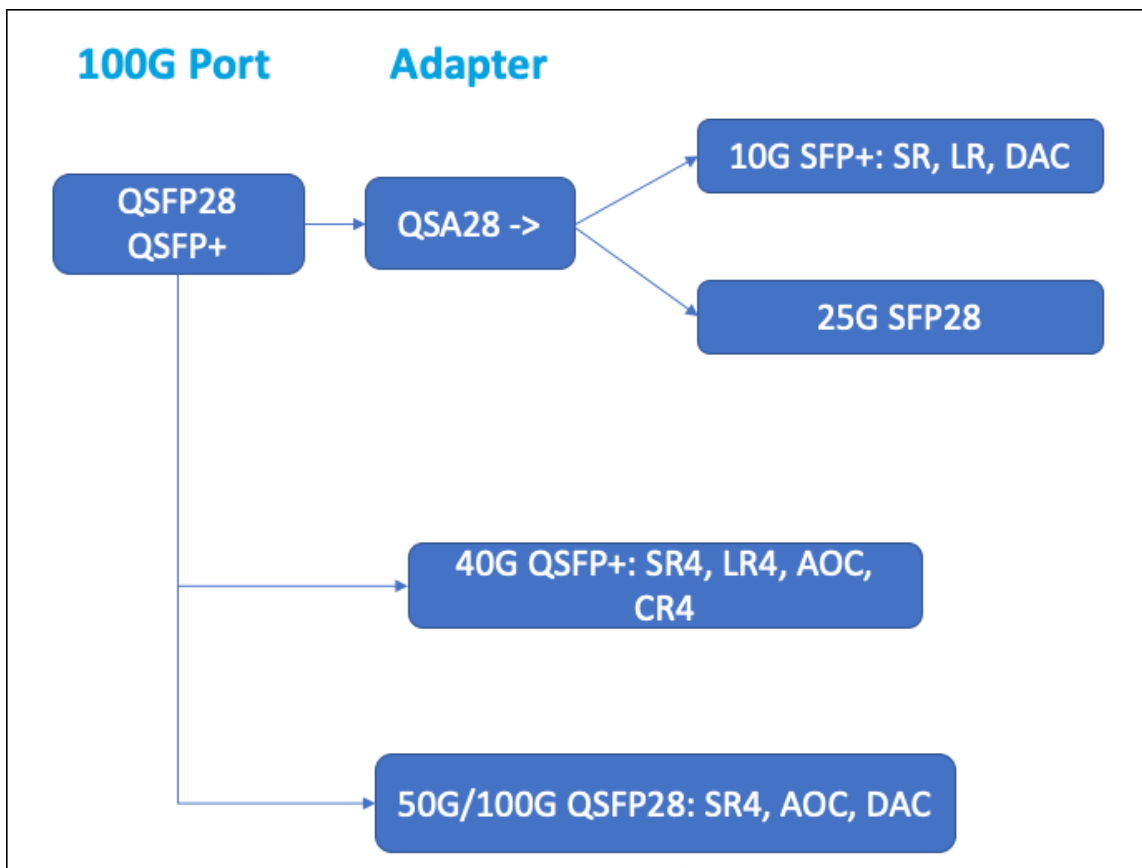
- 成長に応じた従量制ライセンスをサポートしているプラットフォームはどれですか？

拡張課金ライセンスをサポートするプラットフォームの最新リストについては、NetScaler ADC のデータシートを確認してください。

成長に応じた購入ライセンスをサポートするプラットフォームの一部を以下に示します。

- MPX 5550 から MPX 5650
- MPX 5901 から MPX 5905 から MPX 5910
- MPX 8005 から MPX 8015
- MPX 8905 から MPX 8910 から MPX 8920 から MPX 8930
- MPX 14020 から MPX 14030 MPX 14040 MPX 14060 MPX 14060 MPX 14080 MPX 14100
- MPX 14020-40G から MPX 14030-40G MPX 14040-40G MPX 14060-40G MPX 14080-40G MPX 14100-40G MPX 14100-40G
- MPX 14040-40S MPX 14060-40S MPX 14080-40S MPX 14100-40S
- MPX 14030 FIPS から 14060 FIPS へ 14080 FIPS
- MPX 15020~MPX 15030~MPX 15040~MPX 15060~MPX 15080~MPX 15100
- MPX 15020-50G~MPX 15030-50G~MPX 15040-50G~MPX 15060-50G~MPX 15080-50G~MPX 15100-50G
- MPX 22040 から MPX 22060 から MPX 22080 へ MPX 22100 から MPX 22120
- MPX 25100-40G~MPX 25160-40G~MPX 25200-40G
- T シリーズプラットフォーム

- NetScaler ADC アプライアンスは直接接続ケーブル（DAC）をサポートしていますか？
はい。リリース 10.5 以降では、NetScaler ADC アプライアンスはパッシブ DAC をサポートします。
- DAC をどのポートに挿入する必要がありますか？
DAC は、アプライアンスの 10G ポートに挿入されます。
- 1G ポートは DAC をサポートしていますか？
なし DAC は 1G ポートに収まる場合がありますが、サポートされていません。
- DAC を注文するにはどうすればよいですか？
DAC を注文するには、NetScaler の営業担当者にお問い合わせください。
- 同じアプライアンスに DAC とファイバトランシーバを混在させることはできますか？
はい。DAC トランシーバとファイバトランシーバを同じアプライアンスに混在させることができます。各 10G ポートは両方のオプションをサポートします。
- 同じリンクアグリゲーションチャネルの一部であるポートに SFP+ ファイバと DAC を混在させることはできますか？
なし同じリンク集約チャネル内のすべての要素間に対称性が存在する必要があります。
- MPO タイプのコネクタを使用するトランシーバはどれですか？
MPO タイプのコネクタを使用するのは、40G QSFP+ SR4 トランシーバと 100G QSFP28 SR4 トランシーバだけです。その他の光ファイバトランシーバはすべて、LC タイプのコネクタを使用します。
- 25G、50G、100G ポートには特別なアダプタが必要ですか？
100G ポートは、10G、25G、40G、50G、100G の 5 速度をサポートできる。100G ポートでは 1G 速度はサポートされない。50G ポートと 100G ポートは同じトランシーバを使用する。ポートではなく、アプライアンスが速度を決定します。
QSFP28 インターフェイスで直接使用できるのは、50G/100G (QSFP28) および 40G (QSFP+) トランシーバのみです。10G (SFP+) および 25G (SFP28) トランシーバを使用するには、QSFP28 インターフェイスで QSA28 アダプタを使用します。
次の図は、トランシーバの互換性を示しています。



- 40G SR4 QSFP (別名 BidI) トランシーバはサポートされていますか。

はい。次のプラットフォームは、BiDI トランシーバをサポートしています。

- MPX/SDX 14000 40C
- MPX/SDX 14000 40S
- MPX/SDX 14000 40G
- MPX/SDX 15000 50G
- MPX 15041T 50G
- MPX 15081T 50G
- MPX 25000TA
- MPX/SDX 25000 40G
- MPX/SDX 26000
- MPX/SDX 26000 50S
- MPX/SDX 26000 100G



© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).
